看護学部 2025 年度　開講科目シラバス

〈教養教育科目〉 1
仏教学Ⅰ 1
哲学 3
生命倫理学 5
ｽﾎﾟｰﾂ科学 7
心理学 9
文化人類学 11
文学 13
仏教学Ⅱ 15
芸術論 17
社会学 20
生活科学 22
法学･日本国憲法 24
教育学 26
行動科学 28
人権論 30
言語表現法Ⅰ 32
言語表現法Ⅱ 34
ｽﾍﾟｲﾝ語 36
韓国語 38
ﾄﾞｲﾂ語 40
中国語 42
基礎ｾﾞﾐⅠ 44
基礎ｾﾞﾐⅠ 47
基礎ｾﾞﾐⅠ 50
基礎ｾﾞﾐⅠ 53
基礎ｾﾞﾐⅠ 56
基礎ｾﾞﾐⅠ 59
基礎ｾﾞﾐⅠ 62
基礎ｾﾞﾐⅠ 65
基礎ｾﾞﾐⅠ 68
基礎ｾﾞﾐⅠ 71
基礎ｾﾞﾐⅠ 74
基礎ｾﾞﾐⅠ 77
基礎ｾﾞﾐⅡ 80
基礎ｾﾞﾐⅡ 82
基礎ｾﾞﾐⅡ 84
基礎ｾﾞﾐⅡ 86
基礎ｾﾞﾐⅡ 88

基礎ｾﾞﾐⅡ 90
基礎ｾﾞﾐⅡ 92
基礎ｾﾞﾐⅡ 94
基礎ｾﾞﾐⅡ 96
基礎ｾﾞﾐⅡ 98
基礎ｾﾞﾐⅡ 100
基礎ｾﾞﾐⅡ 102
情報処理 104
統計学 106
人間工学 108
〈専門基礎科目〉 110
人体の構造と機能Ⅰ 110
人体の構造と機能Ⅱ 112
感染防御学 114
栄養学 117
薬理学 119
病態生理学 121
疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患) 123
疾病と治療Ⅱ(外科総論・臓器別疾患) 125
疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患) 127
疾病と治療Ⅳ(母性・小児) 129
疾病と治療Ⅴ(精神) 132
医療概論 134
生涯発達学 136
人間関係論 138
看護関係法規 140
公衆衛生学 142
社会福祉学 144
疫学(保健統計Ⅰ) 146
疫学(保健統計Ⅱ) 148
ｾｸｼｭｱﾘﾃｨ論 150
臨床心理学 152
健康教育学 154
〈専門科目〉 156
看護学概論 156
看護理論 159
基礎看護方法Ⅰ(生活行動の援助技術) 161
基礎看護方法Ⅱ(ﾍﾙｽｱｾｽﾒﾝﾄ) 164
基礎看護方法Ⅲ(診療の援助技術) 167
看護過程の基礎 170
地域ふれあい実習 173
基礎看護学実習Ⅰ 174

基礎看護学実習Ⅱ 176
地域･在宅看護学概論 178
地域包括ｹｱ概論 180
地域･在宅看護学方法論 182
地域･在宅看護学実習 185
在宅看護学実習 187
成人看護学概論 189
成人看護学方法論Ⅰ(急性期) 192
成人看護学方法論Ⅱ(慢性期) 195
成人看護学実習Ⅰ(急性期) 197
成人看護学急性期実習 199
成人看護学実習Ⅱ(慢性期) 201
成人看護学慢性期実習 203
老年看護学概論 206
老年看護学方法論 208
老年看護学実習Ⅰ 210
老年看護学実習Ⅱ 212
老年看護学実習Ⅱ 214
小児看護学概論 216
小児看護学方法論 218
小児看護学実習 221
母性看護学概論 223
母性看護学方法論 225
母性看護学実習 227
精神看護学概論 229
精神看護学方法論 231
精神看護学実習 234
緩和ｹｱ論 236
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ看護論 238
外来看護論 240
救急看護学 242
公衆衛生看護学概論 244
公衆衛生看護学概論 246
ﾍﾙｽﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ活動論 248
保健医療福祉行政論 250
公衆衛生看護活動論Ⅰ(対象別) 252
公衆衛生看護方法論 254
公衆衛生看護活動論Ⅱ(応用) 256
公衆衛生看護管理論 259
公衆衛生看護学実習 261
医療安全学 263
医療安全 265

ﾁｰﾑ医療 267
多職種連携論 269
看護研究Ⅰ 271
看護研究Ⅱ 273
看護管理学 275
災害看護学 277
総合看護演習 279
看護学統合実習 281
看護学統合実習 285
家族看護学 288
家族看護学 290
国際看護学 292
国際保健 294
看護教育学 296

仏教学Ⅰ

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-111　(J)	科目分類（～2024 年入学者）	310-110-11 (J)	授業コード	H00010
科目名称	仏教学Ⅰ			単位数	2.00 単位
英文名称	Buddhism Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	山本　元隆			必修・選択	必修
担当教員	山本　元隆			開講時期	1 年前期
オフィスアワー	前期　月曜日 14:40～16:10　金曜日 09:00～10:30 後期　月曜日 14:40～16:10　金曜日 09:00～10:30			研究室	10-506
授業概要	本講義では、駒沢女子大学の建学の精神「行学一如」「正念」の基底となる仏教（釈尊）および禅（道元）の生き方・考え方について概説する。慈悲の心による「生命尊重」が仏教の基本であることを踏まえ、人間が生きる上で逃れ得ない「生老病死」（四苦）とどう向き合い、自他の生命（いのち）とどのように関わり合うか、仏教学と看護学の接点を視座に入れながら授業をすすめる。本講義の学びを通じて今後の人生の指針となる教養を身につけるとともに、仏教および禅の観点から「人間」「生命」をより深く理解する契機とする。授業では課題解決型学習を行う。				
到達目標	１．仏教（釈尊）と禅（道元）の考え方について理解し、日々の生活で活かす視座を身に付けることができる。 ２．「いのち」に対する仏教や禅の教えを理解し、仏教学と看護学の関連性について説明することができる。 ３．建学の精神「行学一如」「正念」を自らの駒沢女子大学での学びの原点として捉え、自分の言葉で説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	建学の精神 本学の仏教行事 山本　元隆	1. ガイダンス　授業の進め方 2. 「仏教看護学」概論 3. 建学の精神「正念」「行学一如」	予習　：仏教と看護学の接点について調べておく 復習　：建学の精神をこれからの学生生活に照らし合わせ、レポートにまとめる
2	宗教学概説 釈尊の誕生 花まつり 山本　元隆	1. 宗教学と死生学 2. 仏教学と死生学 3. 釈尊誕生と生命尊重	予習　：教科書（12-18 頁）を読み、「花まつり」について調べておく 復習　：釈尊誕生と生命尊重についてレポートにまとめておく
3	「生老病死」（四苦） 「中道」の教え 山本　元隆	1. 釈尊青年期の苦悩「生老病死」（四苦） 2. 釈尊の出家と修行（苦行） 3. 「中道」の教え	予習　：教科書（19-20 頁.28-29 頁）を読み、「生老病死」（四苦）について調べておく 復習　：「中道」の教えとその要点についてレポートにまとめる
4	坐禅実習 山本　元隆	1. 「正念」と「坐禅」 2. 身体と心の関連性「身心一如」 3. 坐禅の三つの心得（調身・調息・調心）	予習　：教科書（64-74 頁）を読み、坐禅の作法について調べておく 復習　：建学の精神「正念」を体験して感じたことをレポートにまとめる
5	釈尊の悟り（成道）と「縁起」 初転法輪と「四諦八正道」 山本　元隆	1. 菩提樹下での「降魔成道」 2. 釈尊の気づきと「縁起」の教え 3. 初転法輪と「四諦八正道」の教え	予習　：教科書（21-22 頁.29-31 頁）を読み、「縁起」の教えについて調べておく 復習　：「生老病死」等の苦悩を超克する「四諦（苦集滅道）」の教えについてレポートにまとめる
6	４５年の伝道 釈尊の入滅（涅槃） 山本　元隆	1. 「応病与薬」の教え 2. 釈尊の入滅（涅槃） 3. 釈尊滅後の仏教	予習　：教科書（23-24 頁.38-39 頁）を読み、「涅槃」について調べておく 復習　：「応病与薬」の教えの要点についてレポートにまとめる
7	仏教の人間観 山本　元隆	1. 仏教の人間観 2. 仏教の教えと生命尊重 3. 現代に活かす「仏教的視点」	予習　：教科書（32-35 頁）を読み、「諸行無常」について調べておく 復習　：仏教の人間観についてレポートにまとめる 課題解決型授業
8	道元禅師の誕生 山本　元隆	1. 日本仏教の流れ 2. 禅宗の教え（考え方）の特色 3. 道元禅師の誕生と出家	予習　：教科書（46-51 頁.56 頁）を読み、鎌倉仏教の特色について調べておく 復習　：道元禅師が示した「禅的な学び」（行学一如）についてレポートにまとめる
9	坐禅実習 山本　元隆	1. 坐禅とマインドフルネス（心理療法） 2. 「只管打坐」と「正念」 3. 道元禅師の坐禅修道観	予習　：「マインドフルネス」について調べておく 復習　：坐禅を通して感じた「只管打坐」と身心の関係についてレポートにまとめる
１０	道元の入宋求法 『典座教訓』の教え 山本　元隆	1. 比叡山での修行 2. 禅の修行と入宋求法 3. 典座との出会い（『典座教訓』の教え）	予習　：教科書（56-58 頁）を読み、「天台本覚法門」について調べておく 復習　：典座の教え（「喜心」「老心」「大心」）の要点をレポートにまとめる
１１	道元禅師の大悟 帰朝後の教化	1. 正師（如浄禅師）との出会い 2. 「身心脱落」の教え	予習　：教科書（58-59 頁）を読み、如浄禅師の禅について調べておく

	山本　元隆	3．道元の帰朝と禅の敷衍・教化	復習：道元禅師の気づき「身心脱落」についてレポートにまとめる
１２	永平寺の創建 道元禅師の示寂 山本　元隆	1．永平寺創建 2．道元禅師の示寂 3．道元禅師の教えと実践	予習　：教科書（59 頁.60-61 頁）を読み、永平寺と本学の関係について調べる 復習　：道元禅師が重んじた菩薩利他行の実践（四摂法）についてレポートにまとめる
１３	禅の人間観 山本　元隆	1．禅の人間観 2．禅の教えと生命尊重 3．現代に活かす「禅的視点」	予習　：身のまわりにある「禅の文化」について調べておく 復習　：禅の人間観についてレポートにまとめる
１４	仏教の「いのち」の教え 山本　元隆	1．仏教の生命観 2．仏教の死生観 3．仏教学と看護学の関連	予習　：生命に対する仏教の基本的な考え方について調べたことをレポートにまとめておく 復習　：「いのち」に対する仏教の教えの要点をレポートにまとめる 課題解決型授業
１５	仏教学と看護学 山本　元隆	1．仏教（釈尊）の人間観 2．禅（道元）の人間観 3．「仏教看護学」の意義	予習　：仏教学Ｉで学んだことの要点を振り返り、不明瞭な点や疑問点をレポートにまとめておく 復習　：仏教学と看護学の関連性についてレポートにまとめる

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	授業の提出物（課題・テスト等）がある場合、次回の授業で総評する。また、必要に応じて個別にフィードバックする。
テキスト・教材	『仏教学』（駒沢女子大学教科書）を基礎テキストとする。その他、必要に応じて資料を配付する。
参考書	『英文対訳　道元禅師の典座教訓』（駒沢学園）　その他、必要に応じて紹介する。
評価の基準と方法	授業での提出物（30%）とテスト・レポート（70%）で総合的に評価する。

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 60 時間
実務経験を活かした教育内容	曹洞宗の僧侶としての実務経験有り。経験を通して仏教と禅の思想と文化について講じる。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-111	科目分類（～2024 年入学者）	310-110-11	授業コード	H00085
科目名称	哲学			単位数	1.00 単位
英文名称	Philosophy			授業区分	講義
科目責任者	中村　涼			必修・選択	必修
担当教員	中村　涼			開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	人間とはどのような存在なのかを考える手がかりを得るために、古代から現代までの代表的な哲学者たちの思想を学び、この学びを通して人間の存在意義や人間存在の本質について考える。また、人間に関する身近なことがら（死とは、知とは、他者とは、生きる意味とは、価値とは、道徳とは、愛とは、自由とは　等）についての本質を探究するという体験を通して、人間のあり方に対する考えを深めるとともに物事の根源を考えるさいに必要となる哲学的な思考法についても学ぶ。				
到達目標	1．西洋哲学の基礎を理解する。 2．個別の倫理的テーマに関し、自らの思考/現代の通念と同じとは限らない様々な考え方・価値観があることを理解したうえで、自分の見解を整理できるようにする。 3．その見解を論理的に記述できるようにする。				
アクティブ・ラーニング型授業	無				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	オリエンテーション	・哲学という学について理解する。 ・講義の進め方と評価方法について確認する。	講義 予習：シラバスを読んでおく。 復習：不明な点は自分で調べておく。
2	古代から中世の哲学	・西洋古代と中世の哲学史と代表的な思想を学修する。	講義 予習：前回までの資料を読んでおく。 復習：不明な点は自分で調べておく。
3	近世から近代の哲学	・西洋近世と近代の哲学史と代表的な思想を学修する。	講義 予習：前回までの資料を読んでおく。 復習：不明な点は自分で調べておく。
4	善悪とはなにか	・倫理学という学について理解し、私たちの道徳意識の根拠を考える。	講義 予習：前回までの資料を読んでおく。 復習：不明な点は自分で調べておく。
5	自由とはなにか	・自由や自律という概念の哲学的な意義を学修する。 ・フェミニズムの思想について理解し、私たちが生きる社会の構造を問い直す。	講義 予習：前回までの資料を読んでおく。 復習：不明な点は自分で調べておく。
6	応用倫理の諸相 1	・生命倫理学という学について理解し、生命の価値について考える。	講義 予習：前回までの資料を読んでおく。 復習：不明な点は自分で調べておく。
7	応用倫理の諸相 2	・動物倫理学という学について理解し、人間以外の生命体に対する道徳を考える。	講義 予習：前回までの資料を読んでおく。 復習：不明な点は自分で調べておく。
8	応用倫理の諸相 3	・環境倫理学という学について理解し、人間を取り巻く環境の価値とこれに対する道徳を考える。	講義 予習：前回までの資料を読んでおく。 復習：不明な点は自分で調べておく。

授業開始前学習	1.指定された予習を行い、講義内容については各自でノート等にまとめておけるようにしておく（リアクションシート・理解度の確認のためのテストに必要）。 2.リアクションシートについては、授業内に指示をする。
授業内課題のフィードバックの方法	講義内で提示する課題に対しリアクションシートを執筆してもらい、回収後、後の講義において講評を行う。
テキスト・教材	特に指定しない。毎回レジュメを配布する。
参考書	今道友信『西洋哲学史』講談社、1987 年。 木田元・須田朗編著『基礎講座　哲学』筑摩書房、2016 年。 その他、各回の講義で必要に応じて提示する。
評価の基準と方法	講義全 8 回中、5 回以上の出席を成績評価の条件とする。成績評価の内訳は、以下の通りとする。 理解度の確認のための試験（80%）、リアクションシート（20%）

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△		△		
関連科目	生命倫理学							
その他	授業計画は進度や受講生の理解度等に応じて変更する可能性がある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-111	科目分類（～2024 年入学者）	310-110-11	授業コード	H00970
科目名称	生命倫理学			単位数	1.00 単位
英文名称	Bioethics			授業区分	講義
科目責任者	齋藤　有紀子			必修・選択	必修
担当教員	齋藤　有紀子			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	倫理的側面から「生と死」という人間存在の根源的な課題について考える手がかりを得るために、現代の医療における生命倫理上の問題（安楽死、尊厳死、脳死、臓器移植、人工妊娠中絶、生殖医療、インフォームド・コンセント 等）について考察する。また、生命倫理学上の諸概念、様々な倫理原則などについて学び、生命の尊厳や生きる意味についても理解を深めることで、生命倫理上の問題に対して倫理的判断を行うさいの多面的な考え方を身に付ける。				
到達目標	1.生命倫理学の諸問題について、論点を整理し、考察することができる。（知識・理解） 2.医療における自律・人権尊重の重要性を説明できる。（知識・理解） 3.異なる意見に耳を傾け、他者をリスペクトし、多様な価値観を尊重することができる。（態度）				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
第 1 回 10/31 （金） 4 限	オリエンテーション からだの自律①	テーマに関するさまざまな意見にふれ、論点を整理し、自身の価値観をふりかえる。	授業方法：講義・映像鑑賞・意見交換 ４～５限で１セットの展開とする。 予習：関連の時事問題を考えておく
第 2 回 10/31 （金） 5 限	からだの自律②	からだの自律をめぐる倫理問題について。考察と探求	授業方法：講義・映像鑑賞・意見交換 復習課題：学びをリアペにまとめる
第 3 回 11/21 （金） 4 限	誕生をめぐる倫理①	テーマに関するさまざまな意見にふれ、論点を整理し、自身の価値観をふりかえる。	授業方法：講義・映像鑑賞・意見交換 ４～５限で１セットの展開とする。 予習：関連の時事問題を考えておく
第 4 回 11/21 （金） 5 限	誕生をめぐる倫理②	誕生をめぐる倫理問題について。 考察と探求	授業方法：講義・映像鑑賞・意見交換 復習課題：学びをリアペにまとめる
第 5 回 12/5 （金） 4 限	病気・障害をめぐる倫理①	テーマに関するさまざまな意見にふれ、論点を整理し、自身の価値観をふりかえる。	授業方法：講義・映像鑑賞・意見交換 ３～４限で１セットの展開とする。 予習：関連の時事問題を考えておく
第 6 回 12/5 （金） 5 限	病気・障害をめぐる倫理②	病気・障害をめぐる倫理問題について。考察と探求	授業方法：講義・映像鑑賞・意見交換 復習課題：学びをリアペにまとめる
第 7 回 12/12 （金） 4 限	人生の最終段階をめぐる倫理①	テーマに関するさまざまな意見にふれ、論点を整理し、自身の価値観をふりかえる。	授業方法：講義・映像鑑賞・意見交換 ４～５限で１セットの展開とする。 予習：関連の時事問題を考えておく
第 8 回 12/12 （金） 5 限	人生の最終段階をめぐる倫理②	人生の最終段階をめぐる倫理問題について。考察と探求	授業方法：講義・映像鑑賞・意見交換 復習課題：学びをリアペにまとめる レポート：期末レポートを仕上げる

授業開始前学習	医療をめぐる時事問題に関心・問題意識をもつ。自身の違和感を大切にして考察する。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で前回授業について適宜解説・コメントし、質問事項に回答する。
テキスト・教材	特になし。
参考書	特になし。

評価の基準と方法	授業後のリアクションペーパー（日常点）50%、期末レポート 50%							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△	△			
関連科目	哲学							
その他	1.受講者は関心をもって講義に臨み、積極的に質問・発言してください。 2.受講者の理解度や関心などに応じて講義内容や順序を変更することがあります。							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	310-120-11	授業コード	H00980
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ科学			単位数	2.00 単位
英文名称	Physical Education Science			授業区分	講義
科目責任者	小澤　多賀子			必修・選択	選択
担当教員	小澤　多賀子			開講時期	1 年前期
オフィスアワー	前期　金曜日 13:00～16:10 後期　金曜日 09:00～12:10			研究室	16-103
授業概要	少子高齢化を迎えたわが国では、国民の健康寿命の延伸と生活の質の向上を図るために、「健康日本 21」をはじめとした施策がおこなわれ、健康に寄与する運動・スポーツ（運動）への期待も大きい。そこで、本授業では、看護師が運動を健康増進活動等に役立てていく力を養うために、運動が健康に及ぼす影響についての基礎的知識を学ぶ。また、スポーツに親しむ体験を通して、生涯スポーツや運動習慣の重要性について理解を深めていく。さらに、運動と疾患という観点から、生活習慣病の予防・改善や加齢にともなう生活機能低下の抑制における運動の有効性を学ぶ。				
到達目標	・習慣的な運動・スポーツが体力や健康に与える効果を理解する。 ・バレーボールとバドミントンの基本技術を習得する。 ・習慣的な運動・スポーツの重要性を認識し、自立して体力づくり・健康づくりを実践する意識を高める。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	運動・スポーツ実践の意義と効果 小澤多賀子	・運動・スポーツ実践の意義と運動・スポーツが体力や健康に与える効果について学習する。 ・自分の運動・スポーツの実践状況と健康状態を振り返り、運動の習慣化について考える（アンケート１回目）。 ・本授業でのスポーツ実践にふさわしい服装と運動靴を理解する。 ・課題「運動・スポーツの習慣化に向けた運動プログラムの作成と実践」を理解する。	講義 予習：運動・スポーツと健康（生活習慣病の予防・改善および生活機能の低下抑制を含めて）との関係の下調べ 復習：運動・スポーツ実践の意義、および体力や健康に与える効果の整理
2	バレーボール（１）：ボールに慣れる 小澤多賀子	・用具・コートの準備および片付けの方法とゲームルールを理解する。 ・ボールの扱いに慣れる。	実習：グループワーク 予習：バレーボールの実践にふさわしい服装と室内運動靴の準備、バレーボールのゲームルールの下調べ 復習：用具・コートの準備および片付けの方法とゲームルールの確認
3	バレーボール（２）：パスの種類の理解と実践 小澤多賀子	・パスの種類を理解し、実践する（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス）。	実習：グループワーク 予習：パスの種類と方法の下調べ 復習：パスの種類と実践方法の整理
4	バレーボール（３）：サーブ、レシーブの実践 小澤多賀子	・サーブとレシーブの種類を理解し、実践する。	実習：グループワーク 予習：サーブ、レシーブの方法の下調べ 復習：サーブとレシーブの実践方法の整理
5	バレーボール（４）：体力テスト（１回目）、アンケート（２回目） 小澤多賀子	・運動・スポーツの実践や健康の維持・向上に必要な体力を理解した上で自分の体力レベルを評価する。 ・アンケートを行い、これまでの授業を振り返る。	実習 予習：バレーボールの実践や健康の維持・向上に必要な体力レベルの下調べ 復習：自分の体力レベルの確認
6	バレーボール（５）：アタックの実践 小澤多賀子	・サーブ～レシーブ～パス～アタックの一連の流れを実践する。	実習：グループワーク 予習：アタックの方法の下調べ 復習：アタックの実践方法の整理
7	バレーボール（６）：ゲームを楽しむ① 小澤多賀子	・ゲーム（リーグ戦）を実践し、チームワークの大切さを理解するとともにコミュニケーション能力を養う。	実習：グループワーク 予習：ゲームルールの再確認 復習：ゲームの良かった点と改善点について個人とチームでの振り返り
8	バレーボール（７）：ゲームを楽しむ② 小澤多賀子	・ゲーム（リーグ戦）の実践にて、勝利するための戦略を考え、チームとして実行できるように協力し合う。	実習：グループワーク 予習：前回のゲームを踏まえて改善すべき点の確認 復習：ゲームの良かった点と改善点について個人とチームでの振り返り
9	バドミントン（１）：ラケットとシャトルに慣れる 小澤多賀子	・用具・コートの準備および片付けの方法とゲームルールを理解する。 ・ラケットとシャトルの扱いに慣れる。	実習：グループワーク 予習：バドミントンのゲームルールの下調べ 復習：用具・コートの準備および片付けの方法とゲームルールの確認

１０	バドミントン（２）：ストロークの種類の理解と実践 小澤多賀子	・ストロークの種類を理解し、その基本を実践する。	実習：グループワーク 予習：ストロークの方法の下調べ 復習：ストロークの実践方法の整理
１１	バドミントン（３）：サービスとスマッシュの理解と実践 小澤多賀子	・サービスとスマッシュの基本を理解し、実践する。	実習：グループワーク 予習：サービスとスマッシュの方法の下調べ 復習：サービスとスマッシュの実践方法の整理
１２	バドミントン（４）：体力テスト（２回目）、アンケート（３回目） 小澤多賀子	・運動・スポーツの実践や健康の維持・向上に必要な体力を理解した上で自分の体力レベルを評価する。 ・１回目に評価した体力と比較して、向上が認められたかを確認する。 ・アンケートを行い、これまでの授業を振り返る。	実習 予習：評価結果（１回目）の振り返り 復習：１回目と２回目との体力レベルの比較
１３	バドミントン（５）：ゲームを楽しむ① 小澤多賀子	・ダブルスのゲーム（団体戦）を実践し、チームワークの大切さを理解するとともにコミュニケーション力を養う。	実習：グループワーク 予習：ゲームルールの再確認 復習：ゲームの良かった点と改善点について個人とチームでの振り返り
１４	バドミントン（６）：ゲームを楽しむ② 小澤多賀子	・ダブルスのゲーム（団体戦）の実践にて勝利するための戦略を考え、チームとして実行できるように協力し合う。	実習：グループワーク 予習：前回のゲームを踏まえて改善すべき点の確認 復習：ゲームの良かった点と改善点について個人とチームでの振り返り
１５	総括：授業の振り返り 小澤多賀子	・運動・スポーツの実践で得たものを整理し、「自立して体力づくり・健康づくりを実践する意識が高まったかどうか」と「習慣的な運動・スポーツが体力や健康に与える効果」についてレポートにまとめる。 ・課題「運動・スポーツの習慣化に向けた運動プログラムの作成と実践」を提出する。	講義 予習：これまでの授業の振り返りと整理、運動・スポーツが体力や健康に与える効果の整理 復習：授業を通して成長した点をまとめ、これからの生活や活動にて活かす

授業開始前学習	・運動・スポーツと健康（生活習慣病の予防・改善および生活機能の低下抑制を含めて）との関係について事前学習をしておく。 ・バレーボールとバドミントンのゲームルールを調べ、理解しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	体力評価などの授業内課題の結果は、授業時に個別返却して総評を伝える。
テキスト・教材	該当なし
参考書	１．森田淳悟著：『わかりやすいバレーボールのルール』（成美堂出版）２０１１年 ２．阿部一佳、渡辺雅弘著：『基本レッスン　バドミントン』（大修館書店）２００２年 ３．田中喜代次、大月直美、小澤多賀子編：『健幸華齢のためのスマートライフ』（サンライフ企画）２０１９年
評価の基準と方法	成績評価：体力の評価１５％、試合の戦績１５％、課題の評価１５％、到達目標に関するレポート１５％、および授業に対する姿勢や態度４０％（チームキャプテンなどの役割１０％、コートや用具の準備と片付け１５％、試合の運営１５％）

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	△	○				

関連科目	
その他	◇学習目標 運動やスポーツは一定量を習慣的に実践することで、体力の向上や健康の維持・改善の効果が期待できる。本授業では、バレーボールやバドミントンなどのスポーツやエクササイズを通じて楽しみながら体力づくり・健康づくりを実践していくことで、運動・スポーツが体力や健康（生活習慣病の予防・改善および生活機能の低下抑制を含めて）に与える効果を理解することを目標とする。また、自らの生活習慣を客観的に見直すことで、自立して習慣的に体力づくり・健康づくりを実践できる意識を高める。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 60 時間
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	310-120-11	授業コード	H00045
科目名称	心理学			単位数	1.00 単位
英文名称	Psychology			授業区分	講義
科目責任者	倉住　友恵			必修・選択	選択
担当教員	倉住　友恵			開講時期	1 年前期
オフィスアワー	前期　月曜日 10:40～12:10　金曜日 16:20～17:50 後期　月曜日 10:40～12:10　金曜日 16:20～17:50			研究室	10-618
授業概要	人間とはどのような存在なのかを考える手がかりを得るために、人間の心理や行動についての一般的な法則性を学ぶ。具体的には、認知心理学・学習心理学・教育心理学・社会心理学・パーソナリティ心理学・臨床心理学など各心理学分野の概要を扱い、心とは何か、人間の知覚や認知、記憶、思考、学習、動機づけ、行動、態度に関する基本的な事項について理解を深めていく。				
到達目標	到達目標は以下の通りである。 １．心理学の代表的な理論について理解し、自らの言葉で説明できる。 ２．学修した心理学の知識を自身の生活や看護に活用することができる。 ３．自己への理解を深め、ストレスを発散する適切な方法を述べることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
第 1 回	ガイダンス・心理学と看護	・授業ガイダンス ・心理学とは ・心理学と看護の結びつき	予習：心理学とは何か調べる。 復習：提出課題に取り組む。
第 2 回	教育心理学	・動機づけ ・学習性無力感 ・欲求階層説	グループワークを実施する。 予習：動機づけとは何か調べる。 復習：授業資料に目を通し復習する。
第 3 回	知覚心理学・認知心理学	・記憶の発達と衰退 ・記憶法 ・化粧の心理学	グループワークを実施する。 予習：今まで使用してきた記憶法を書き出す。 復習：授業資料に目を通し復習する。
第 4 回	学習心理学	・古典的条件づけ ・オペラント条件づけ ・観察学習	グループワークを実施する。 予習：学習とは何か調べる。 復習：授業資料に目を通し復習する。
第 5 回	社会心理学	・恋愛心理学 ・バランス理論 ・認知的不協和理論	講義 予習：誰かと親しくなる要因、仲が悪くなる要因について考える。 復習：授業資料に目を通し復習する。
第 6 回	集団心理学	・社会的手抜き ・リーダーシップ ・同調	グループワークを実施する。 予習：集団およびチームワークとは何か調べる。 復習：授業資料に目を通し復習する。
第 7 回	パーソナリティ心理学	・性格とは ・類型論と持性論 ・性格検査	講義 予習：性格とは何か調べる。 復習：授業資料に目を通し復習する。
第 8 回	臨床心理学・健康心理学	・ストレス ・ストレスコーピング ・レジリエンス ・ポジティブ・リフレーミング	グループワークを実施する。 予習：どのようなことに最もストレスを感じるか考える。 復習：授業資料に目を通し復習する。

授業開始前学習	心理学に関する書籍、入門書を読んでおくと、授業の理解がしやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	課題の提出を求めた際には、その授業回または次回にてフィードバックおよび講評を行う。
テキスト・教材	特に指定しない。
参考書	青木智子　編著『医療と福祉のための心理学改訂版―対人援助とチームアプローチ』（北樹出版） 藤田主一・山﨑晴美　編著『新　医療と看護のための心理学』（福村出版） 野口普子　編著『看護師・コメディカルのための医療心理学入門』（金剛出版）
評価の基準と方法	授業への取り組み（提出課題を含む）60%、学期末レポート 40%により評価する。

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	△	△				△
関連科目	発達心理学、臨床心理学							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	310-120-11	授業コード	H00105
科目名称	文化人類学			単位数	1.00 単位
英文名称	Anthropology			授業区分	講義
科目責任者	今尾　佳生			必修・選択	選択
担当教員	今尾　佳生			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	文化という側面から人間とはどのような存在なのかを考える手がかりを得るために、人間の多様性の背景にある要因について学ぶことを通して、自己と異なるものの見方・考え方に関心をもち、自己の固定観念にとらわれずにものごとを考えていく姿勢、自己の固定観念を問い直す姿勢を養う。また、日常の生活において出会う人々の行為や認識を人間の多様性の背景にある要因という観点から理解することで、他者に対する理解や異文化に対する理解を深め、自己と異なるものの見方や考え方を尊重する姿勢を養う。				
到達目標	1. 文化人類学の学問的特性と、主要概念について端的に説明できる。 2. 他文化／社会状況と比較することによって、現代日本社会の文化／社会状況を相対化できる。 3. 医療・福祉分野についての諸事象を文化人類学的な視点から解釈し、説明できる。 4. 文化人類学の研究方法としてのフィールドワークやインタビューに関する基礎的な部分を説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	文化人類学は何を問うのか 今尾　佳生	・文化とは何か ・文化の相対性 ・文化人類学の成立 ・人類学と民俗学 ・人種と民族 ・民族と言葉	授業方法：講義 予習：事前配布資料を一読し、自分の異文化体験をノートにまとめておくこと。指定された小レポートを執筆し、Google Classroom にアップしておくこと。 復習：講義ノートをまとめつつ、次回までに小レポートを仕上げておくこと。
2	生活の糧を得る営み 今尾　佳生	・狩猟採集 ・牧畜 ・農耕 ・食文化	授業方法：講義 予習：事前配布資料を一読し、自分が興味のある国の食文化について調べておくこと。指定された小レポートを執筆し、Google Classroom にアップしておくこと。 復習：講義ノートをまとめつつ、次回までに小レポートを仕上げておくこと。
3	性と結婚 今尾　佳生	・性と生殖のコントロール ・婚姻のルール ・ジェンダーとセックス ・性の多様性と多面性	授業方法：講義 予習：事前配布資料を一読し、自分の結婚観と結婚後の生活イメージについてまとめておくこと。指定された小レポートを執筆し、Google Classroom にアップしておくこと。 復習：講義ノートをまとめつつ、次回までに小レポートを仕上げておくこと。
4	家族・親族と家系 今尾　佳生	・家族のかたちと居住空間 ・身内の分類と距離感覚 ・出自と祖先 ・現代社会と家族・親族	授業方法：講義 予習：事前配布資料を一読し、自分の家の間取りをノートに図解しておくこと。指定された小レポートを執筆し、Google Classroom にアップしておくこと。 復習：講義ノートをまとめつつ、次回までに小レポートを仕上げておくこと。
5	霊魂と宗教 今尾　佳生	・葬送儀礼と霊魂観 ・祭りと地域社会 ・精霊とアニミズム ・憑依とシャーマニズム	授業方法：講義 予習：事前配布資料を一読し、現代の映画や漫画などに出てくる魔法や呪術について調べておくこと。指定された小レポートを執筆し、Google Classroom にアップしておくこと。 復習：講義ノートをまとめつつ、次回までに小レポートを仕上げておくこと。
6	人の一生と通過儀礼 今尾　佳生	・誕生と成人 ・結婚と産育 ・境界領域 ・穢れとタブー	授業方法：講義 予習：事前配布資料を一読し、自分の誕生～現在までに経験した節目の儀礼についてまとめておくこと。指定された小レポートを執筆し、Google Classroom にアップしておくこと。 復習：講義ノートをまとめつつ、次回までに小レポートを仕上げておくこと。

7	医療と看護 今尾　佳生	・環境と人間の関係性 ・身体と人間関係 ・社会と身体の関係性 ・呪医と魔女	授業方法：講義 予習：事前配布資料を一読し、日本の民間療法や「身体にいい」とされることについて調べておくこと。指定された小レポートを執筆し、Google Classroom にアップしておくこと。 復習：講義ノートをまとめつつ、次回までに小レポートを仕上げておくこと。
8	文化人類学の実践 今尾　佳生	・参与観察 ・インタビュー ・フィールドノート ・ 調査の倫理 ・ 民族誌と文化の表象 ・ カルチュラル・スタディーズ	授業方法：講義 予習：事前配布資料を一読し、自分のアルバイト先や部活・サークル活動内の人間観察をしておくこと。指定された小レポートを執筆し、Google Classroom にアップしておくこと。 復習：講義ノートをまとめつつ、期限までに最終レポートを仕上げておくこと。

授業開始前学習	1．毎回の講義で内容に関わる資料を、事前に Google Classroom で配信するので、必ず一読しておくこと。 2．授業開始前までに、小レポートを必ず仕上げておくこと。 3．講義内容と自分自身のこれまでの人生において経験してきたこととを関連づけ、疑問に思った出来事を思い返し、その概要をノートにまとめておくようにすること。 4．毎回の講義内容をノートにしっかりまとめておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	＊Google Classroom に提出されたレポートに対してコメントを添えて返します。							
テキスト・教材	＊特に指定しませんが、毎回資料を配布、または配信します。							
参考書	＊授業中に適宜紹介します。							
評価の基準と方法	毎回の小レポート（60%）及び最終レポート（40%）の結果により総合的に評価します。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	△	△	△			△
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 60 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	310-120-11	授業コード	H00095
科目名称	文学			単位数	1.00 単位
英文名称	Literature			授業区分	講義
科目責任者	松山　響子			必修・選択	選択
担当教員	木内・松村・松山・山本			開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	人間とはどのような存在なのか、を考える手がかりを得るために、人間とその営みを描いたさまざまな文学作品に触れることを通して、人間と生命に対する理解を深める。具体的には、文学作品に表象された人間と生命の活動に触れることで、人間及び生命の尊厳に対する感性を育み、人間に対する想像力・共感力を高めることで、人間に対する理解を深める。また、さまざまなジャンルの文学作品に触れることを通して、哲学的な思考を深めること、価値観の幅を広げること、さらには豊富な語彙に触れることでの語彙力、さまざまな文章に触れることでの表現力・論理構成力・文章力を身につけることも目的とする。				
到達目標	１．さまざまなジャンルの文学とその特質について説明できる。 ２．取り上げた作品の作者、背景とテーマを説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	授業担当者：松村良 日本の近代小説（１） 横光利一「春は馬車に乗って」を読む１	明治以降の日本の近代小説の流れと、横光利一という作家について説明し、「春は馬車に乗って」の内容を紹介する。	予習：インターネットの青空文庫（https://www.aozora.gr.jp/）を検索し、横光利一の作品 ID：904「春は馬車に乗って」を読んでくること。 復習：日本の近代小説の流れを理解する。「春は馬車に乗って」の夫婦の会話について考える。 キーワード：日本の近代小説、新感覚派、結核
2	授業担当者：松村良 日本の近代小説（２） 横光利一「春は馬車に乗って」を読む２	「春は馬車に乗って」の夫婦の会話と、語り手の「私」の比喩表現、結末のイメージについて解説する。	予習：「春は馬車に乗って」を読み返すこと。 復習：小説に描かれた夫婦像や、結末のイメージについて自分なりに考えてみる。 キーワード：語り手、比喩表現、生と死
3	授業担当者：松山響子 イギリス初期近代の演劇（１） ウィリアム・シェイクスピアと現代英語圏演劇への影響	イギリス初期近代を代表する劇作家ウィリアム・シェイクスピアと英語圏における影響について紹介する。	予習：「ウィリアム・シェイクスピア」について、予習をしておくこと。 復習：配布したプリントを使用して、シェイクスピアとその影響力について考えてみること。 キーワード：初期近代、戯曲、演劇作品の上演
4	授業担当者：松山響子 イギリス初期近代の演劇（２） ウィリアム・シェイクスピアの『タイタス・アンドロニカス』について	ウィリアム・シェイクスピアの悲劇『タイタス・アンドロニカス』について内容紹介と歴史について話す。	予習：『タイタス・アンドロニカス』について予習しておくこと。 復習：配布プリントを読み返して、悲劇を観る効果、実生活では経験できないことを観る意味について考えること。 キーワード：悲劇、カタルシス
5	授業担当者：木内英実 近現代の日本文学に表れた生命観（１） 中勘助「銀の匙」・「母の死」・「妹の死」	蚕の一生と家族の見取りを描いた文学作品の読解を通して、中勘助による生物の生命の捉え方について学ぶ。	予習：中勘助『銀の匙』・「母の死」・「妹の死」（事前配付プリント）を読んでおくこと。 復習：中勘助の文学に表出された生命観を確認すること。 キーワード：生命の循環、平等観、自伝的小説・随筆。
6	授業担当者：木内英実 近現代の日本文学に表れた生命観（2） 中勘助の童話体詩における仏教学・インド学の影響	中勘助の仏教学・インド学資料受容の結果、創作された童話体詩の読解を通して、中勘助の生命観に対する仏教学・インド学の影響を学ぶ。	予習：中勘助の童話体詩（事前配付プリント）を読んでおくこと。 復習：中勘助の生命観に対する仏教学・インド学の影響を確認すること。 キーワード：ジャータカ、彌蘭陀王問経、中勘助と山上曹源。

7	授業担当者：山本元隆 仏教文学に見られる生命観（1） ー中世の仏教文学に見られる「いのち」の諸相ー	1.「仏教文学」概論 2.中世の仏教文学作品を読み「いのち」がどのように捉えられていたかを学ぶ。	予習：「仏教文学」について調べ、配布プリントを読んでおく。 復習：中世の仏教文学作品に描かれた「いのち」についてまとめておく。 キーワード：『源氏物語』・萩のうわ露・『正法眼蔵随聞記』・露命
8	授業担当者：山本元隆 仏教文学に見られる生命観（2） ー近世・近現代の仏教文学に見られる「いのち」の諸相ー	１.近世および現代の仏教文学作品を読み、「いのち」がどのように捉えられていたかを学ぶ。 2.「文学」と生命観の総括	予習：配布プリントを精読しておく。本科の学修を振り返っておく。 復習：種々の文学作品に描かれた「いのち」をみずからの「いのち」に照らしあわせ、自身の理解と考えをまとめておく。 キーワード：『続沙石集』・諸行無常・石川達三『生きている兵隊』・生死

授業開始前学習	１．　講義時に取り上げる作品や事前配付資料を予め読んでおくこと。 ２．　講義時に取り上げる他の作品を合わせて通時的・共時的に理解すること。							
授業内課題のフィードバックの方法	各授業担当者が担当する初回授業時に提示する。							
テキスト・教材	プリントを授業時及び GWEClassroom（事前・事後）を通して配布する。							
参考書	各授業担当者が担当する授業時に提示する。							
評価の基準と方法	各授業担当者が指示する方法によって課題やレポートを提出する。 それらの評価を総合して評価する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				△
関連科目								
その他	オムニバス授業。							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-121 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-120-11 （J）	授業コード	H00025
科目名称	仏教学Ⅱ			単位数	1.00 単位
英文名称	BuddhismⅡ			授業区分	講義
科目責任者	安藤　嘉則			必修・選択	選択
担当教員	安藤　嘉則			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	仏教は日本の文化に大きな影響を及ぼしており、とりわけ道元禅師をはじめとする禅宗の人々の教えは茶道や華道、あるいは武道といった日本の文化に大きな影響を及ぼしている。そこで、本科目では、こうした日本の文化に大きな影響を及ぼしている禅宗の教えをはじめ、浄土思想や密教思想などを取り込んでの日本の仏教文化について学ぶ。また、仏教の教えは日本人の自然観や死生観にも影響を及ぼしているため、こうした日本人の精神文化についても学ぶ。さらには、実際に坐禅を行い、日常の礼儀作法を身につけるとともに仏教という観点から人間理解を深める契機とする。				
到達目標	1.浄土思想・法華思想など、日本仏教の基本思想を理解し説明することができる。 2.日本人の死生観と日本仏教のことについて理解を深め説明することができる。 3.日本人の宗教観と日本文化の特質を理解し説明することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	日本仏教の歴史的展開 1 安藤　嘉則	ガイダンス 1．日本への仏教伝来 2．飛鳥・奈良時代の仏教 3．最澄の天台宗とその法華思想 4．空海の真言宗と密教思想	予習：教科書 44～47 頁を読み、古代日本の仏教寺院や僧がどのような役割を果たしたか、レポートにまとめておく 復習：平安仏教の天台思想と密教思想の内容と仏教史における意義についてレポートにまとめる
2	日本仏教の歴史的展開 2 安藤　嘉則	1．浄土教から浄土宗の成立 2．親鸞の浄土真宗とその浄土思想 3．日蓮の日蓮宗とその思想 4．栄西の臨済宗とその禅思想	予習：教科書 47～48 頁を読み、法然と親鸞の浄土思想の特徴を把握し両者の相違点についてレポートにまとめておく 復習：栄西の禅思想の特徴を把握し禅宗文化が日本文化にもたらした影響についてレポートにまとめる
3	坐禅実習 安藤　嘉則	1．坐禅の三つの心得 2．坐禅（結跏趺坐）の坐り方 3．「正念」と「身心一如」	予習　：教科書（64-74 頁）を読み、坐禅の心得（調身・調息・調心）についてレポートにまとめておく 復習　：「正念」と「身心一如」の関係についてレポートにまとめる
4	日本仏教文化の特質 1 安藤　嘉則	1．仏教と神道の融合と分離 2．日本人の宗教的シンクレティシズム（宗教混合）の諸相	予習：教科書 44 頁を読み、「本地垂迹」の思想についてレポートにまとめておく 復習：　仏教と神道の歴史的な関係についてレポートにまとめる
5	日本仏教文化の特質 2 安藤　嘉則	1．仏教と日本人の自然観 2．「山川草木悉皆成仏」の成立	予習：日本人の自然観について調べたことをレポートにまとめておく 復習：日本仏教特有の山や川が成仏するという思想はどのようなものか、レポートにまとめる
6	仏教と現代 1 安藤　嘉則	1．仏教における心のケアの諸相 2．マインドフルネスと仏教 3．日本仏教におけるグリーフ・ケア	予習：「マインドフルネス」と「グリーフ・ケア」について調べたことをレポートにまとめておく 復習：現代における心のケアについて仏教が果たす事例と役割についてレポートにまとめる 課題解決型授業
7	仏教と現代 2 安藤　嘉則	1．日本の文学に見る仏教的素材と仏教 2．仏教の救済思想 3．叡尊と忍性の救済事業	予習：川端康成の「美しい日本の私」を読み、道元禅師の禅思想との関連をレポートにまとめておく 復習：仏教の救済思想と叡尊等による救済事業の歴史と成果についてレポートにまとめる
8	日本仏教と日本文化 安藤　嘉則	1．日本仏教の特殊性 2．仏教が日本文化にもたらした影響	予習：仏教学Ⅱで学んだことの要点を振り返り、不明瞭な点や疑問点をレポートにまとめておく 復習：仏教や禅の教えが多種多様な日本の文化を形成した理由についてレポートにまとめる

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	授業で課した提出物（レポート等）については、次回の授業で全体で講評する。また、必要に応じて個別にフィードバックする。
テキスト・教材	『仏教学』（駒沢女子大学教科書）を基礎テキストとする。その他、必要に応じて資料を配布する。

参考書	『英文対訳　道元禅師の典座教訓』（駒沢学園）　その他、必要に応じて指示する。							
評価の基準と方法	毎回の提出物（課題等）50%、レポート 50%で総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				
関連科目	仏教学Ⅰ							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容	曹洞宗の僧侶としての実務経験有り。その経験を生かして仏教の思想・文化等を講じる。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	310-120-11	授業コード	H00990
科目名称	芸術論			単位数	1.00 単位
英文名称	Theory of Fine Arts			授業区分	講義
科目責任者	郭　在祐			必修・選択	選択
担当教員	郭　在祐			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	芸術という側面から人間としての感性を養う手かがりを得るために、芸術論を目で見るもの、耳で聞くものを通して、芸術作品への創作者の思いや芸術作品の表現から自分の心の中でどのような感覚や雰囲気を感じ、かつ自ら表現ができるかを学ぶ。具体的には、美術鑑賞や音楽・ダンス鑑賞を通して、芸術作品に込められた創作者の思いを超えた自身の思い（メッセージ）を表現し、芸術のもたらす情緒豊かな感性やゆとりある時間を持つことの意味を考え、日常生活に活かす手がかりを得る。				
到達目標	韓国について、韓国美術について、韓国の歴史について興味を持ち参考文献などを調べ読むこと。そして、授業中のたくさんの韓国と日本の芸術作品(絵画・建築)を通して隣国同士の日・韓美術を学び、理解し、比較文化というのを考える。そして、この授業を受講する以前と以降どのように意識が変わったのをしっかり語れるようにしてもらいたい。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	郭　在祐	ガイダンス 1．授業の進め方 2．授業内容のオリエンテーション	講義 予習:事前学習課題の提出、本授業目標の確認をしておく。 復習:学習内容を整理し、疑問点を解決する。
2	郭　在祐	韓国美術の時代別特性を考える。	講義 予習:韓国の歴史や美術に関する文献を調べ把握しておく。 復習:学習した内容を整理し、疑問点を解決しておく。
3	郭　在祐	韓国の美意識－庭園－(陰陽五行説)	講義 予習:韓国の庭園と日本の庭園に関する文献を調べてくる。 復習:学習した内容を整理し、韓国と日本の庭園の相違点を見付けなが疑問点を解決しておく。
4	郭　在祐	韓国の朝鮮王朝時代絵画中の女性	講義 予習:韓国の 18・19 世紀絵画中の人物画について調べて予習をする。 復習:学習した絵画の中の女性像を時代と政治的観点から改めて考えてみる。
5	郭　在祐	子犬の絵画史	講義 予習:犬を愛してきた歴史と日本の子犬の絵を探して。 復習:絵画にみられた韓国と日本の子犬の絵を比較そして、学習した内容を整理し疑問点を解決しておく。
6	郭　在祐	静物画を描くそして、好きな曲を聴き、イメージを描いてみよう-絵と看護-	講義 予習:静物をよく観察し、好きな曲を聴いてくる。 復習:描いてみた静物画と好きな曲のイメージを描いたのを［看護とアート」の関係性と結び付け整理し、疑問点を解決しておく。
7	郭　在祐	看護と芸術(美術)との関係について考えてみる。	講義 予習:看護と美術とどんな関連性がある事前に考えてくる。 復習:学習した内容を整理し、疑問点を解決しておくと共に生かせるようにする。
8	郭　在祐	総括両国の美を考えながらディスカッションする。	講義 予習:今までと現在の両国の美意識を復習し、日本と韓国の美について共通点と相違点考え整理する。

授業開始前学習	・参考文図書・文献を読んで授業に臨むこと。 ・どうしてこの授業を履修したのかを認識しながらそれを土台に授業に臨むこと。
授業内課題のフィードバックの方法	講義時に提出されたレポートは、翌週の授業時に返却する。他疑問や質問も受ける。
テキスト・教材	特にありません。授業中に必要な資料を配布します。

参考書	安 輝濬著　藤本幸夫・吉田宏志訳 『韓国絵画史』 吉川弘文館 1985 年第 1 版 李 進熙 『日本文化と朝鮮』NHK ブックス　1995 年 第 1 版 辻 恒雄監修『日本美術史』美術出版社　1991 年 第 1 版 小野健吉 『日本庭園-空間の美の歴史-』 岩波新書　2009.2.20							
評価の基準と方法	授業に関するレポート(30%)　授業参加度=公次による欠席以外、一切欠席理由書は受け取らない=(70%)							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	○					
関連科目								
その他	・学習目標 この講義を通し美術とは何か、日本と韓国の美について改めて考えてみる。							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	310-120-11	授業コード	H00065
科目名称	社会学			単位数	1.00 単位
英文名称	Sociology			授業区分	講義
科目責任者	今尾　佳生			必修・選択	選択
担当教員	今尾　佳生			開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	社会と人間の関係を理解するために、社会学の基礎的な概念、社会の構造が人間に及ぼす影響について学ぶ。また、社会学的なものの見方・捉え方ができるために、社会現象の根底にある構造を明らかにするさいに有益な社会現象について、既に明らかになっている知見を再考する方法・まだ明らかになっていない社会現象についての知見を得る方法としての社会調査や社会研究の概要についても学ぶ。				
到達目標	1．マス・メディアによって報道される社会事象を社会学的な視点から解釈し、説明できる。 2．自分自身の過去・現在・未来にわたる人生に関わる諸事象を社会学的な視点から解釈し、説明できる。 3．医療・福祉分野についての諸事象を社会学的な視点から解釈し、説明できる。 4．社会学の学問的特性と、主要概念について端的に説明できる。 5．社会学の研究方法として量的及び質的なアプローチの基礎的な部分を説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	社会学の学問的特徴と方法 今尾　佳生	・授業概要：本講の目的・目標と授業展開、成績評価方法 ・社会学とはどのような学問か：その対象と視点 ・社会調査の量的／質的アプローチ ・データの蒐集と解釈 ・主な社会調査の方法	授業方法：講義 予習：教科書第 1 、2 章を一読し、要点をノートにまとめておくこと。指定された小レポートを執筆し、Google Classroom にアップしておくこと。 復習：講義内容をノートにまとめてくこと。
2	社会的に作られる「私」 今尾　佳生	・主我と客我：自我の社会性／関係としての「私」 ・社会的期待と役割取得 ・社会化と社会集団	授業方法：講義 予習：教科書第 3 章を一読し、要点をノートにまとめておくこと。指定された小レポートを執筆し、Google Classroom にアップしておくこと。 復習：講義ノートをまとめつつ、学んだことをもとに自分の生い立ちを解釈してみること。
3	変わりゆく「家族」のかたち 今尾　佳生	・「家族」の歴史的・文化的多様性 ・大家族性と核家族 ・少子高齢化社会の諸問題 ・就業形態と家族	授業方法：講義 予習：教科書第 4 章を一読し、要点をノートにまとめておくこと。指定された小レポートを執筆し、Google Classroom にアップしておくこと。 復習：講義ノートをまとめつつ、学んだことをもとに自分の家族のあり方を解釈してみること。
4	「格差」と「医療」 今尾　佳生	・「階級」と「階層」 ・階層帰属意識 ・新自由主義経済と新しい格差社会 ・医療と社会構造／社会階層 ・「患者」とは誰か ・日常生活の医療化	授業方法：講義 予習：教科書第 8 、11 章を一読し、要点をノートにまとめておくこと。指定された小レポートを執筆し、Google Classroom にアップしておくこと。 復習：講義ノートをまとめつつ、現代社会の格差／貧困問題、及び医療や看護・介護をめぐる社会的な問題を解釈してみること。
5	「逸脱」と社会問題 今尾　佳生	・「逸脱者」とは誰か ・逸脱と社会構造 ・社会問題の構築とラベリング	授業方法：講義 予習：教科書第 10 章を一読し、要点をノートにまとめておくこと。指定された小レポートを執筆し、Google Classroom にアップしておくこと。 復習：講義ノートをまとめつつ、非行やいじめなどの問題を解釈してみること。
6	「ローカル社会」と「グローバル社会」 今尾　佳生	・社会集団　－都市型社会と村型社会－ ・近代化と都市脱地域化と再地域化 ・グローバル化とは何か ・「共同体としての国家」とエスニシティ ・日本の民族問題	授業方法：講義 予習：教科書第 12、13 章を一読し、要点をノートにまとめておくこと。指定された小レポートを執筆し、Google Classroom にアップしておくこと。 復習：講義ノートをまとめつつ、自分の居住地域の問題点、及び自分が実感しているグローバル化現象を解釈してみること。
7	「宗教」からみる社会 今尾　佳生	・宗教と社会体制 ・「聖」と「俗」をめぐる社会行動 ・近代化のエネルギーとしての宗教	授業方法：講義 予習：教科書第 14 章を一読し、要点をノートにまとめておくこと。指定された小レポートを執筆し、Google Classroom にアップしておくこと。 復習：講義ノートをまとめつつ、自分の身の回りの「宗教的」問題を解釈してみること。

8	「メディア」と「国家」権力／「社会運動」 今尾　佳生	・メディアとコミュニケーション ・近代国家の誕生とマスメディア ・政治と行政機構 ・国家統治のための社会装置 ・国家の限界と社会運動の勃興	授業方法：講義 予習：教科書第 15、16 章を一読し、要点をノートにまとめておくこと。指定された小レポートを執筆し、Google Classroom にアップしておくこと。 復習：講義ノートをまとめつつ、現代のメディア環境にかかわる問題を解釈し、現代社会における NPO 活動の可能性を考察してみること。

授業開始前学習	＊ テキストの指定箇所に必ず目を通して要点をノートに整理しておくこと。 ＊ 毎回の小レポートを授業開始前に仕上げて提出しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	＊Google Classroom に提出されたレポートに対してコメントを添えて返します。							
テキスト・教材	＊篠原清夫・栗田真樹編著『大学生のための社会学入門』、晃光書房、2016 年　ISBN:　978-4771027176 ＊その他適宜講義資料を配布または配信します。							
参考書	＊授業テーマに即して適宜紹介します。							
評価の基準と方法	小レポート（50%）及び最終課題レポート（50%）の結果より総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△		○				
関連科目								
その他	◇学習目標 社会学におけるものごとの見方・考え方を事象に即して理解するとともに、社会学的な研究方法論の基礎に関する知識を修得する。							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	310-120-11	授業コード	H01000
科目名称	生活科学			単位数	1.00 単位
英文名称	Life Science			授業区分	講義
科目責任者	大矢　幸江			必修・選択	選択
担当教員	大矢　幸江			開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	社会におけるより快適な人間の生活を理解するために、生活の概念、衣・食・住という生活環境が生活者としての人間に及ぼす影響、家族という人間関係が生活者としての人間に及ぼす影響、家族と地域のかかわりが生活者としての人間に及ぼす影響などについて学ぶ。また、実践的な学習として体験的学びを通して、人間の生活についての理解を深めるとともに、自立した社会人としての自覚を促す。				
到達目標	１．人間の体をつくる日常食を振り返り、現代の食生活の課題を理解し、健康な体を維持するための献立作りができる。 ２．快適な家庭生活を送るための住環境の重要性を理解し、安全で健康に住まうことや持続可能な住まいを説明できる。 ３．衣服の機能や素材について理解し、環境に配慮した衣生活の実践と日本の伝統的な衣服を現代の生活に活かせる。 ４．地域社会でお互いが支え合って生活することの重要性を知り、個人としてまた地域社会の一員として防災対策を実践できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	現代日本の食生活の課題	ガイダンス 日本における食生活の問題点 生活習慣病と食習慣の関係	講義 予習：シラバスから授業内容を概観しておく 復習：食生活の問題点と食習慣について理解を深める
2	理想の献立作り	食生活の振り返りと理想の献立	講義、グループワーク 予習：自分の食事を振り返り記録する 復習：バランスの良い理想の献立を完成させる
3	日本の食と世界の食	日本と世界の食文化と郷土料理	講義、実習：食事マナー 予習：日本の郷土料理を調べる 復習：日本の食文化や郷土料理への理解を深める
4	安全で健康な住生活	災害から身を守り健康で安全な住まいの工夫	講義、実習：理想の平面図 予習：自分の住まいの特徴を調べる 復習：安全で健康な住まいについて理解を深める
5	住生活と防災	伝統的な日本と世界の住居とこれからの住まい	講義 予習：自分の住まいの危険を見つける 復習：自然災害への対策を考え防災意識を深める
6	浴衣の着装とお辞儀	日本の伝統的衣装、着物の一つである浴衣の着装	講義、実習 予習：浴衣の着装動画を視聴する 復習：浴衣の着装やお辞儀を復習し理解を深める
7	和服の伝統とこれから	日本の伝統的な衣服と伝統技術、日本人の知恵や工夫	講義 予習：これまでの和服の経験を振り返る 復習：和服の特徴について理解を深め次世代に伝えたいことを考える
8	衣服の機能と素材	衣服の機能と素材の特徴を活かす衣服の選択と手入れ	講義、実習 予習：手持ちの衣服をチェックする 復習：衣服の選択や管理について実習を考察し理解を深める

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	授業で提出したレポートは、翌週の授業時に返却する
テキスト・教材	随時プリントを配布する
参考書	『生活プロデュース入門』：「生活プロデュース入門」編集委員会（青山社）
評価の基準と方法	レポート 60%、授業内課題 40%

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		○	△	△		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	310-120-11	授業コード	H01010
科目名称	法学･日本国憲法			単位数	2.00 単位
英文名称	Law and Japanese Constitution			授業区分	講義
科目責任者	武田　朋起			必修･選択	選択
担当教員	武田　朋起			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	市民社会において、法は社会をよりよく営むためのルールとしての役割を担っている。特に、日本国憲法とは、日本のあり方を定めた基本法かつ最高法規である。これは一人ひとりの国民を人格の担い手として尊重するという、例外を許さない決意の下に作られた。なぜ、第二次世界大戦後にこの憲法は新しく制定されたのか。なぜ「基本的人権の尊重」「国民主権」「平和主義」という 3 つの柱が立てられたのか。授業では、法の役割を理解した上で、憲法の基本的な仕組みを歴史的背景も含めて検証する。その上で、第 1 の柱である「基本的人権の尊重」について、急がずに事例を踏まえつつ理解を深めていく。				
到達目標	1. 日本国における基本法である「日本国憲法」の役割を説明できる。 2. 異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題について説明できる。				
アクティブ･ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目･担当者	学修内容	授業方法（アクティブ･ラーニング）･予習･復習･レポートなどの課題
1	武田　朋起	「日本国憲法」とは：授業の目的･内容･学習方法について【テキスト　目次 1～11 頁】	予習　：本科目シラバスおよびテキスト目次 1～11 頁の講読 復習　：テキスト目次 1～11 頁の再読、第 1 回授業ノートおよび配布プリントの整理
2	武田　朋起	市民社会と法：法の役割と憲法の意義　　【テキスト　3 頁】	予習　：テキスト 3 頁の講読およびキーワードの確認 復習　：テキスト 3 頁の再読、第 2 回授業ノートおよび配布プリントの整理
3	武田　朋起	日本国憲法の背景：立憲主義と個人の尊厳【テキスト　13～16 頁】	予習　：テキスト　13～16 頁の講読およびキーワードの確認 復習　：テキスト　13～16 頁の再読、第 3 回授業ノートおよび配布プリントの整理
4	武田　朋起	日本国憲法の背景：戦後憲法制定の背景【テキスト　17～26 頁】	予習　：テキスト　17～26 頁の講読およびキーワードの確認 復習　：テキスト　17～26 頁の再読、第 4 回授業ノートおよび配布プリントの整理
5	武田　朋起	憲法の目的と趣旨：日本国憲法前文の意味【テキスト　27～31 頁】	予習　：テキスト　27～31 頁の講読およびキーワードの確認 復習　：テキスト　27～31 頁の再読、第 5 回授業ノートおよび配布プリントの整理
6	武田　朋起	憲法の目的と趣旨：平和主義原理と平和的生存権　　【テキスト　32～43 頁】	予習　：テキスト　32～43 頁の講読およびキーワードの確認 復習　：テキスト　32～43 頁の再読、第 6 回授業ノートおよび配布プリントの整理
7	武田　朋起	授業　：憲法の目的と趣旨：基本的人権尊重原理と人権の類型　　【テキスト　15、29、53 頁】	予習　：テキスト　15、29、53 頁の講読およびキーワードの確認 復習　：テキスト　15、29、53 頁の再読、第 7 回授業ノートおよび配布プリントの整理
8	武田　朋起	人権の基本：包括的基本権としての幸福追求権　　【テキスト 73～81 頁】	予習　：テキスト 73～81 頁の講読およびキーワードの確認 復習　：テキスト 73～81 頁の再読、第 8 回授業ノートおよび配布プリントの整理
9	武田　朋起	授業　：人権の基本：法の下の平等　　【テキスト 81～88 頁】	予習　：テキスト 81～88 頁の講読およびキーワードの確認 復習　：テキスト 81～88 頁の再読、第 9 回授業ノートおよび配布プリントの整理
10	武田　朋起	これまでの授業の総括と発展学習の学修の手引：授業全体の体系的整理と論証に向けて（課題解決型学習）【テキスト全学習頁】	予習　：第 2 回～9 回までのテキスト全学習頁の講読およびキーワードの確認 復習　：テキスト全学習頁の再読、【第 10 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
11	武田　朋起	社会権：福祉国家思想と社会権　　【テキスト　161～168 頁】	予習　：テキスト　161～168 頁の講読およびキーワードの確認 復習　：テキスト　161～168 頁の再読、第 12 回授業ノートおよび配布プリントの整理

12	武田　朋起	社会権：生存権　　【テキスト 162～168 頁】	予習　：テキスト 162～168 頁の講読およびキーワードの確認 復習　：テキスト 162～168 頁の再読、第 13 回授業ノートおよび配布プリントの整理
13	武田　朋起	社会権：社会保障法学から見る生存権【テキスト 161～168 頁】	予習：テキスト 161～168 頁の講読およびキーワードの確認 復習　：161～168 頁の再読、第 14 回授業ノートおよび配布プリントの整理
14	武田　朋起	社会権：人権と動物の権利	復習：第 14 回授業ノートおよび配布プリントの整理
15	武田　朋起	「法学・日本国憲法」発展学習の手引き：授業全体の体系的整理と論証に向けて（課題解決型学習）【テキスト全学習頁】	予習　：テキスト目次 1～11 頁の講読およびキーワードの確認 復習　：テキスト全学習頁の再読、第 15 回授業ノートおよび配布プリントの整理

授業開始前学習	テレビや新聞の社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもってほしい。これは、必ずどこかで授業理解の助けとなる。
授業内課題のフィードバックの方法	適宜次回の授業冒頭において、課題レポートに対する講評と質問への回答を述べる。また第 10 回および第 15 回目において、レポート全般に関する講評と個々の問題解決に向けた助言を行う。
テキスト・教材	古野豊秋・畑尻剛編『新・スタンダード憲法（第 4 版補訂版）』（尚学社、2016 年）
参考書	授業を通じて適宜紹介する。
評価の基準と方法	・15 回のレポートの総合点で 100%評価する（10 点×15 回＝150 点を 100 点満点に換算）。 ・単位取得の前提として、すべての授業回数のうち授業出席を前提とした 10 回（約 70%）以上の提出が必要である。

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		○				

関連科目	
その他	◇学習目標 初めに六法を用いて市民社会における法の役割と日本体系を理解する。次に、テキストを用いて日本国憲法の歴史的背景と基本構造を理解する。これらを基礎として、特に人権保障を中心とした具体的な憲法問題および裁判例につき関連資料を通じて分析していくことを目標とする。 ◇学習上の留意点 テレビや新聞などを通じて授業に関連する報道に接すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 60 時間
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	310-120-11	授業コード	H00055
科目名称	教育学			単位数	1.00 単位
英文名称	Education			授業区分	講義
科目責任者	吉野　華恵			必修・選択	選択
担当教員	吉野　華恵			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	人間が生きてゆくためには「教育」が必要不可欠であることを理解し、自己の学習能力を高め、生涯にわたり学ぶ姿勢を養うことを目的とする。「人間における教育の意味」「教育の本質と目的」「教育の基盤としての家庭教育」などの学習内容をもとに、家族や学校における「教育」の実際と役割について考察する。さらに、西洋や日本の歴史の中で展開されてきた「教育」の実際を知ることにより、自らの生涯教育、キャリア教育をも含めた多様な「教育のあり方」について考える手がかりとし、専門職として自己成長するための方法を学ぶ。				
到達目標	1．人間にとっての教育の必要性について論述することができる。 2．近年の教育をめぐる諸問題について論述することができる。 3．　教育学の知見を看護の現場でどのように応用したいか論述することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	人間における教育の意味	・授業概要 ・教育は必要か、何が課題か～自身の教育経験を振り返って ・教育と看護に共通するケアの概念	（予習）課題文献：木村元（2021）「社会のなかの教育と看護」『系統看護学講座　基礎分野　教育学』第 1 章、医学書院 （復習）リアクションペーパー
2	教育の本質と目的	・教育とはなにか ・近代における子どもの発見：ルソー『エミール』より ・権利主体としての子ども	（予習）課題文献：木村元（2021）「教育とはなにか―『教育』の概念」『系統看護学講座　基礎分野　教育学』第 2 章、医学書院 （復習）リアクションペーパー
3	近代学校教育の展開	・近代学校教育とは ・近代学校教育の問題性：フーコーの権力概念 ・知識と教師の役割の問い直し：フレイレによる「銀行型教育」批判	（予習）課題文献：木村元（2021）「教授―人を教えるということ」『系統看護学講座　基礎分野　教育学』第 6 章、医学書院 （復習）リアクションペーパー
4	21 世紀型の学校づくり	・変化する社会 ・21 世紀型スキルとは ・「学びの共同体」としての学校	（予習）課題文献：佐藤学（2023）「21 世紀の社会の学びと学校―学びのイノベーションへ」『新版 学校を改革する－学びの共同の構想と実践』第 1 章、岩波ブックレット （復習）リアクションペーパー
5	教育の基盤としての家庭教育	・学びの場＝学校か ・家族にとっての学校の意味 ・「学校に行かない子ども」をどう考えるか	（予習）課題文献：山田哲也（2021）「学びの場―家庭と学校」『系統看護学講座　基礎分野　教育学』第 10 章、医学書院 （復習）リアクションペーパー
6	移民の子どもと学校教育	・日本社会の多文化化 ・移民の子どもが学校で経験する困難 ・学校や地域での移民の子どものサポート	（予習）課題文献：坪田光平（2019）「学校―子どもの生きにくさから考える」『移民から教育を考える―子どもたちをとりまくグローバル時代の課題』第 6 章、ナカニシヤ出版 （復習）リアクションペーパー
7	教育の公平性と質的課題	・Education for All（EFA）設定の背景 ・EFA の成果と課題：開発途上国の事例より ・質の高い教育とは何か	（予習）課題文献：澤村信英（2009）「マラウイの初等教育無償化後の現実―学校レベルの質的改善」『国際教育協力論集』第 12 巻 第 2 号, pp. 203-209. （復習）リアクションペーパー
8	看護師と生涯学習	・生涯学習の意味 ・成人はどこでどのように学ぶのか ・看護師にとっての生涯学習	（予習）課題文献：太田美幸「生涯学習」（2021）『系統看護学講座　基礎分野　教育学』第 18 章、医学書院 （復習）リアクションペーパー

授業開始前学習	課題文献を読んで、感想・意見・疑問点をまとめてくる。
授業内課題のフィードバックの方法	1．予習課題等の発表内容について議論する。 2．レポートの記述内容によって理解度を確認する。 3．対話応答型の授業を重視し、考察の深化を図る。

テキスト・教材	一冊のテキストを指定することはしない。講義資料を配布し、さらに必要な資料については、授業中に紹介する。							
参考書	木村元編（2021）『系統看護学講座　基礎分野　教育学』（第８版）医学書院							
評価の基準と方法	リアクションペーパー（20%）、口頭発表（30%）、期末レポート（50%）等を総合して最終評価とする。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△		△	○			
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 60 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	310-120-11	授業コード	H01020
科目名称	行動科学			単位数	1.00 単位
英文名称	Behavioral Science			授業区分	講義
科目責任者	後藤　晶			必修・選択	選択
担当教員	後藤　晶			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	社会的存在としての人間の行動を理解し、社会生活において、行動科学・行動経済学の知見を活用できるようになるために、人間の行動と社会的な要因の関係について学ぶ。具体的には、行動科学とは何か、人間の行動に影響を及ぼす要因、人間の行動を決定する要因、人間の行動変容を促す要因などについて学ぶ。また、日常生活における行動科学の知見の適用例を知ることにより、行動科学についての理解を深める。				
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 1．行動科学・行動経済学の基礎的な考え方を理解することができる。 2．自身の意思決定に存在するバイアスを理解し，日頃から気をつけることができる。 3．行動経済学の考え方を踏まえて，自身の興味のある社会問題や人間行動の分析・理解ができるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	イントロダクション/直感と理性	この講義の概要いついて紹介します。さらに，行動経済学の前提となる人間像である「二重過程理論」についても紹介します。	講義 予習：特に必要としない 復習：講義内容を整理し，疑問点を確認する。
2	フレーミング効果	表現に影響を受ける人間の意思決定について学びます。	講義 予習：前回の講義資料を確認する。 復習：講義内容を整理し，疑問点を確認する。
3	判断・意思決定におけるバイアス①	直感的な意思決定を検討するために，利用可能性ヒューリスティックおよび，代表性ヒューリスティクスを紹介します。	講義 予習：前回の講義資料を確認する。 復習：講義内容を整理し，疑問点を確認する。
4	判断・意思決定におけるバイアス②	引き続き，直感的な意思決定を検討するために，アンカリング効果を紹介します。	講義 予習：前回の講義資料を確認する。 復習：講義内容を整理し，疑問点を確認する。
5	プロスペクト理論	ゲーム理論の考え方について学びます。	講義 予習：前回の講義資料を確認する。 復習：講義内容を整理し，疑問点を確認する。
6	ゲーム実験①	ゲーム理論について実験を行いながら実践的に考え方を学びます。	講義 予習：前回の講義資料を確認する。 復習：講義内容を整理し，疑問点を確認する。
7	ゲーム実験②/行動経済学の応用①	ナッジの考え方について学びます。	講義 予習：前回の講義資料を確認する。 復習：講義内容を整理し，疑問点を確認する。
8	行動経済学の応用②	ナッジの応用事例について学びます。	講義 予習：前回の講義資料を確認する。 復習：講義内容を整理し，疑問点を確認する。

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	翌週の授業時に全体に向けてコメントをフィードバックします。
テキスト・教材	教員が資料を用意します。
参考書	友野典男，2006，『行動経済学　経済は「感情」で動いている』，光文社新書 ダニエル・カーネマン（著）村井章子（訳）友野典男（監修），2014，『ファスト&スロー』（上下巻），早川書房 ダニエル・カーネマン，オリヴィエ・シボニー，キャス・サンスティーン（著）村井章子（訳），2021，『NOISE:組織はなぜ判断を誤るのか?』（上下巻），早川書房 その他適宜紹介する
評価の基準と方法	平常点 20%，知識確認テスト 40%，定期試験 40% 平常点：授業評価アンケート，その他授業中に行う調査等の回答状況などの授業への積極性を評価する。 知識確認テスト：知識確認のための簡単な課題を課す。 定期試験：学期末試験時に実施する。

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			△	○	△		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	310-120-11	授業コード	H01030
科目名称	人権論			単位数	1.00 単位
英文名称	Human Rights Studies			授業区分	講義
科目責任者	下村　沙季マリン			必修・選択	選択
担当教員	下村　沙季マリン			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	社会における人権尊重の重要性・必要性についての理解を深め、自らの生活や生き方に繋げるために、人権について、法学を中心としつつ様々な視点から学ぶ。具体的には、人権とは何か、また、人権を尊重する必要性について学び、この学びを受けて、人権が保障されていない状況や侵害されていると思われる状況を取りあげ、人権問題の存在についての認識を深めていく。そしてそれを通じ、同時に人権尊重の重要性についての理解も深める。さらには、ここでの学びを、制度の知識と制度を取り巻く多様な価値観を踏まえ、自ら考えて論理的に結論を下していくことができるようにする。				
到達目標	1．人権とは何かについて理解する。 2．ジェンダーやセクシュアリティを中心とした現代の諸問題に対し、人権の理論からアプローチする方法を知り、考えを整理できるようにする。 3．その考えを論理的に説明できるようにする。				
アクティブ・ラーニング型授業	無				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	人権総論 下村　沙季マリン	・ガイダンス ・人権とは何か ・人権とジェンダーの視座	予習：「人権」についての自分のイメージを固めておく 復習：レジュメや資料、授業のノートなどを保管・管理し、よく復習する。
2	SOGIESC と人権 下村　沙季マリン	・SOGIESC（Sexual Orientation／Gender Identity／Gender Expression／Sexual Characteristics）とは何か ・SOGIESC を理由とした差別と暴力	予習：前回の講義で予習を指示された場合には、それに従って十分に準備する。 復習：レジュメや資料、授業のノートなどを保管・管理し、よく復習する。
3	結婚・家族と人権 下村　沙季マリン	・結婚や家族、親子関係をめぐる人権問題（選択的夫婦別姓制度／事実婚／同性婚／生殖補助医療／嫡出子と非嫡出子など）	予習：前回の講義で予習を指示された場合には、それに従って十分に準備する。 復習：レジュメや資料、授業のノートなどを保管・管理し、よく復習する。
4	身体と人権①―セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス／ライツ 下村　沙季マリン	・性と生殖に関する健康・権利 ・意に反する断種 ・避妊へのアクセス ・人工妊娠中絶をめぐる自己決定権	予習：前回の講義で予習を指示された場合には、それに従って十分に準備する。 復習：レジュメや資料、授業のノートなどを保管・管理し、よく復習する。
5	身体と人権②―性暴力 下村　沙季マリン	・性暴力 ・刑法の性犯罪の規定について ・性暴力をめぐる市民活動 ・性暴力の防止・根絶に関する国際人権基準	予習：前回の講義で予習を指示された場合には、それに従って十分に準備する。 復習：レジュメや資料、授業のノートなどを保管・管理し、よく復習する。
6	身体と人権③―トランスジェンダーの権利 下村　沙季マリン	・ジェンダーアイデンティティ（性自認）に関する権利 ・性同一性障害者特例法をめぐる議論と判例	予習：前回の講義で予習を指示された場合には、それに従って十分に準備する。 復習：レジュメや資料、授業のノートなどを保管・管理し、よく復習する。
7	身体と人権④―インターセックスの権利 下村　沙季マリン	・「正常化」手術の実態 ・スポーツにおけるインターセックスの排除の問題	予習：前回の講義で予習を指示された場合には、それに従って十分に準備する。 復習：レジュメや資料、授業のノートなどを保管・管理し、よく復習する。
8	外国にルーツを持つ人と人権 下村　沙季マリン	・外国にルーツを持つ人の多様性 ・外国にルーツを持つ人たちを取り巻く人権問題（難民申請、技能実習生制度、二重国籍、レイシャルプロファイリングなど）	予習：前回の講義で予習を指示された場合には、それに従って十分に準備する。 復習：レジュメや資料、授業のノートなどを保管・管理し、よく復習する。

授業開始前学習	授業項目や学修内容に関連する情報をあらかじめ調べてみて、自身の関心や疑問について確認し、自分なりの意見を整理しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	各回の終わりに、短いリアクションシートを提出してもらう。回収した次回の講義で、フィードバックを行う。
テキスト・教材	特に指定しない／毎回レジュメを配布する。
参考書	各回の講義で必要に応じて提示する。

評価の基準と方法	試験（60%）、各回の終わりに提出するリアクションシート（40%）							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△		△		
関連科目	法学・日本国憲法							
その他	◇学習目標 人権とは何か、また人権をめぐる現代の諸問題について知り、自らの考えを論理的に構成できるようにすること。 ◇配慮等について 配慮事項等がある場合は、忌憚なく担当教員（下村）までご相談ください（直接言いづらい場合や第一回より前に伝えたい場合は、学生支援課にご連絡いただいても結構です）。							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	310-110-21	授業コード	H00715
科目名称	言語表現法Ⅰ			単位数	2.00 単位
英文名称	Japanese Representation Methods Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	橋本　衆宝			必修・選択	必修
担当教員	橋本　衆宝			開講時期	1 年前期
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～16:00 後期　火曜日 13:00～16:00			研究室	10-616
授業概要	思考を明言化（言語化）する力を獲得するために、日本語の基本的構造を理解することを通して、自分の思いや考えを適切に伝えるための論理構成の仕方、自分の思いや考えを論理的かつ明確に伝えるための表現の仕方について学ぶ。また、語彙力や文章理解力を高め、正しい日本語を用いて正確に表現できる力を育成することも目的とする。				
到達目標	・自分の思いや考えを論理的かつ明確に伝えるための表現の仕方を身につける。 ・語彙力や文章理解力を高め、正しい日本語を用いて正確に表現できるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	授業の進め方 敬語の種類と使い分け 橋本　衆宝	前期の授業の進め方について説明する。教科書 a の「敬語の種類と使い分け」（12～14 頁）について説明する。	講義 予習　：教科書 2 冊（a と b）を準備して目を通す。教科書 a の 12～14 頁を読んでおく。 復習　：教科書 a の 12～14 頁を復習する。
2	敬語の種類と使い分け 注意すべき敬語 橋本　衆宝	教科書 a の「敬語の種類と使い分け」練習・応用問題（15～17 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「注意すべき敬語」（18～20 頁）について説明する。	課題解決型学習・講義 予習　：教科書 a の 15～17 頁の練習・応用問題を予習し、18～20 頁を読んでおく。 復習　：教科書 a の 15～20 頁を復習する。
3	注意すべき敬語 配慮を示す言葉 橋本　衆宝	教科書 a の「注意すべき敬語」練習・応用問題（21～23 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「配慮を示す言葉」（24～26 頁）について説明する。	課題解決型学習・講義 予習　：教科書 a の 21～23 頁の練習・応用問題を予習し、24～26 頁を読んでおく。 復習　：教科書 a の 21～26 頁を復習する
4	配慮を示す言葉 手紙を書こう 橋本　衆宝	教科書 a の「配慮を示す言葉」練習・応用問題（27～29 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。教科書 b の「手紙を書こう」（39～46 頁）について説明する。	課題解決型学習・講義 予習　：教科書 a の 27～29 頁の練習・応用問題を予習する。教科書 b の 39～46 頁を読んでおく。 復習　：教科書 a の 27～29 頁と、教科書 b の 39～46 頁を復習する。
5	授業内テスト（手紙を書こう） 作文課題 1 を書く 橋本　衆宝	教科書 b の「手紙を書こう」（39～46 頁）の知識が身に付いているかをテストで確認する。作文課題 1（手紙文）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。	授業内テスト・課題解決型学習 予習　：教科書 b の 39～46 頁を読み直す。 復習　：手紙文の書き方を復習する。
6	作文課題 1 解説 ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉 橋本　衆宝	作文課題 1 を返却し、解説する。教科書 a の「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」（38～40 頁）について説明する。	講義 予習　：教科書 a の 38～40 頁を読んでおく。 復習　：教科書 a の 38～40 頁を復習する。
7	ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉 文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文 橋本　衆宝	教科書 a の「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」練習・応用問題（41～43 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」（44～46 頁）について説明する。	課題解決型学習・講義 予習　：教科書 a の 41～43 頁の練習・応用問題を予習し、44～46 頁を読んでおく。 復習　：教科書 a の 41～46 頁を復習する。
8	文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文 まずは書いてみよう 橋本　衆宝	教科書 a の「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」練習・応用問題（47～49 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。教科書 b の「まずは書いてみよう」（5～10 頁）について説明する。	課題解決型学習・講義 予習　：教科書 a の 47～49 頁の練習・応用問題を予習する。教科書 b の 5～10 頁を読んでおく。 復習　：教科書 a の 47～49 頁と、教科書 b の 5～10 頁を復習する。
9	効果的な文書作成 作文課題 2（エントリーシート）を書く 橋本　衆宝	教科書 b の「効果的な文書作成」（53～57 頁）について説明してから、作文課題 2（エントリーシート）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。	講義・課題解決型学習 予習　：教科書 b の 53～57 頁を読んでおく。 復習　：エントリーシートの書き方を復習する。
1 0	授業内テスト（まずは書いてみよう・効果的な文書作成） 作文課題 2 解説 動詞の自他・視点 橋本　衆宝	教科書 b の「まずは書いてみよう」（5～10 頁）と「効果的な文書作成」（53～57 頁）の知識が身に付いているかをテストで確認する。作文課題 2 を返却し、解説する。教科書 a の「動詞の自他・視点」（64～66 頁）について説明する。	授業内テスト・講義 予習　：教科書 b の 5～10 頁と 53～57 頁を読み返す。教科書 a の 64～66 頁を読んでおく。 復習　：教科書 a の 64～66 頁を復習する。

１１	動詞の自他・視点 コロケーション 橋本　衆宝	教科書ａの「動詞の自他・視点」練習・応用問題（67～69 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「コロケーション」（76～79 頁）について説明する。	課題解決型学習・講義 予習　：教科書ａの 67～69 頁の練習・応用問題を予習し、76～78 頁を読んでおく。 復習　：教科書ａの 67～69 頁と 76～78 頁を復習する。
１２	コロケーション 仮名遣い・送り仮名 橋本　衆宝	教科書ａの「コロケーション」練習・応用問題（79～81 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「仮名遣い・送り仮名」（90～92 頁）について説明する。	課題解決型学習・講義 予習　：教科書ａの 79～81 頁の練習・応用問題を予習し、90～92 頁を読んでおく。 復習　：教科書ａの 79～81 頁と、90～92 頁を復習する。
１３	仮名遣い・送り仮名 よい文章を書くために 橋本　衆宝	教科書ａの「仮名遣い・送り仮名」練習・応用問題（93～95 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。教科書ｂの「よい文章を書くために」（11～18 頁）について説明する。	課題解決型学習・講義 予習　：教科書ａの 93～95 頁の練習・応用問題を予習する。教科書ｂの 11～18 頁を読んでおく。 復習　：教科書ａの 93～95 頁と、教科書ｂの 11～18 頁を復習する。
１４	さあ文章を書いてみよう 作文課題３（論理的な文章）を書く 橋本　衆宝	教科書ｂ「さあ文章を書いてみよう」（19～21 頁）を説明してから、作文課題３（論理的な文章）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。	講義・課題解決型学習 予習　：教科書ｂの 19～21 頁を読んでおく。 復習　：論理的な文章について復習する。
１５	授業内テスト（よい文章を書くために・さあ文章を書いてみよう） 作文課題３解説 前期で学んだこと（教科書ａ・ｂ） 橋本　衆宝	教科書ｂの「よい文章を書くために」（11～18 頁）と「さあ文章を書いてみよう」（19～21 頁）の知識が身に付いているかをテストで確認する。作文課題３を返却し、解説する。教科書ａ・ｂで学んだ前期の授業内容を振り返る。	授業内テスト・講義 予習　：教科書ｂの 11～18 頁と 19～21 頁を読み直す。 復習　：教科書ｂの 11～18 頁と 19～21 頁を復習する。前期の授業で学んだことを復習する。

授業開始前学習	教科書に目を通して、どんなことを学ぶのか内容を確認しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	日本語についての基礎的な問題や、作文課題、授業内テストを実施する。課題は返却後講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	a『スキルアップ！ 日本語力』（名古屋大学日本語研究会 GK７著　東京書籍） b『日本語表現法　新訂版』（庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴著　翰林書房） 教科書は必ず２冊とも買うこと。							
参考書								
評価の基準と方法	定期試験（60%）と作文課題・授業内テスト（40%）で評価する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		○					△
関連科目								
その他	毎回、国語辞典（電子辞書可）を持ってくること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 60 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-122	科目分類（～2024 年入学者）	310-120-21	授業コード	H00725
科目名称	言語表現法Ⅱ			単位数	1.00 単位
英文名称	Japanese Representation Methods Ⅱ			授業区分	演習
科目責任者	橋本　衆宝			必修・選択	選択
担当教員	橋本　衆宝			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～16:00 後期　火曜日 13:00～16:00			研究室	10-616
授業概要	言語表現法Ⅰを受けて、自分の考えを明確に表現できる力を強化するために、自分の意見を他者に発表することを通して、テーマに関する自分の考えを論理的にまとめる方法、自分の考えを他人に的確に伝えるための方法を学ぶ。また、この過程で明らかになった話して伝えるさいの自分の課題・書いて伝えるさいの自分の課題に対する方策を考えることを通して、よりいっそうの言語能力の向上を図ることも目的とする。				
到達目標	・自分の考えを論理的にまとめ、他人に的確に伝える能力を身につける。 ・発表を通して自分の話し方・書き方の課題を見つけ、言語能力の向上を図る。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	授業の進め方 発表順序を決める テーマの選び方、調査方法、参考文献の探し方（プレゼンテーションをより効果的に） 橋本　衆宝	後期の授業の進め方について説明し、発表順序を決める。教科書の「プレゼンテーションをより効果的に」（29～31 頁）について説明し、テーマの選び方、調査方法、参考文献の探し方をアドバイスする。	講義 予習　：教科書の 29～31 頁を読んでおく。 復習　：教科書の 29～31 頁を復習する。発表テーマを考える。
2	発表テーマの決定 発表資料の作成 橋本　衆宝	自分の発表するテーマを決めて、発表資料を作成する。	発表準備 予習　：口頭発表のための資料の作成の準備を行う。 復習　：発表資料の作成と発表用原稿の準備をする。
3	発表と質疑応答 橋本　衆宝	学生が発表し、その内容についての質疑応答を行う。	発表・グループディスカッション 予習　：発表担当者は発表資料を作成し、他の受講生は自分の発表するテーマに関する調査を行う。 復習　：発表内容を振り返り、質問やアドバイスをまとめたメモを作成する。
4	発表と質疑応答 橋本　衆宝	学生が発表し、その内容についての質疑応答を行う。	発表・グループディスカッション 予習　：発表担当者は発表資料を作成し、他の受講生は自分の発表するテーマに関する調査を行う。 復習　：発表内容を振り返り、質問やアドバイスをまとめたメモを作成する。
5	発表と質疑応答 橋本　衆宝	学生が発表し、その内容についての質疑応答を行う。	発表・グループディスカッション 予習　：発表担当者は発表資料を作成し、他の受講生は自分の発表するテーマに関する調査を行う。 復習　：発表内容を振り返り、質問やアドバイスをまとめたメモを作成する。
6	発表と質疑応答 橋本　衆宝	学生が発表し、その内容についての質疑応答を行う。	発表・グループディスカッション 予習　：発表担当者は発表資料を作成し、他の受講生は自分の発表するテーマに関する調査を行う。 復習　：発表内容を振り返り、質問やアドバイスをまとめたメモを作成する。
7	発表と質疑応答 橋本　衆宝	学生が発表し、その内容についての質疑応答を行う。	発表・グループディスカッション 予習　：発表担当者は発表資料を作成し、他の受講生は自分の発表するテーマに関する調査を行う。 復習　：発表内容を振り返り、質問やアドバイスをまとめたメモを作成する。
8	発表内容の振り返り レポートのまとめ方（よい文章を書くために・さあ文章を書いてみよう） 橋本　衆宝	発表内容の振り返りと、教科書の「よい文章を書くために」（11～18 頁）と「さあ文章を書いてみよう」（19～21 頁）をもとに、レポートのまとめ方を説明する。	講義 予習　：教科書の 11～21 頁をもとに、発表内容のまとめ方を考える。 復習　：発表内容をレポートにまとめる。

授業開始前学習	自分の発表テーマを考えておく。関連する文献を読んでおく。

授業内課題のフィードバックの方法	発表者の発表内容については、授業時に適宜指導を行う。発表に関する質問には適宜回答する。							
テキスト・教材	『日本語表現法　新訂版』（庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴著　翰林書房）							
参考書								
評価の基準と方法	口頭発表や質疑応答の仕方、発表資料の内容等（40%）と、学期末レポート（60 %）とで評価する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		○					
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-222	科目分類（～2024 年入学者）	310-120-22	授業コード	H01040
科目名称	ｽﾍﾟｲﾝ語			単位数	1.00 単位
英文名称	Spanish			授業区分	演習
科目責任者	久々湊　直子			必修・選択	選択
担当教員	久々湊　直子			開講時期	2 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	スペインとアメリカ大陸の広い地域、カリブ海諸国、そしてアフリカの国を含む 20 ヵ国以上の公用語であるスペイン語。その入門科目として初歩を学ぶ講座である。英語に次いで広範囲な社会で活用できる言語であるスペイン語とその背景にある文化・歴史を通して、英語圏とはまた違った角度から国際交流／異文化交流の足掛かりをつけることを目的にしている。一方、新型コロナの影響で遠のいていた外国人観光客やビジネス客、外国人労働者の日本滞在が爆発的に増加している現在、医療現場の国際化も一気に進み、患者としてのスペイン語話者の比率も増加することが予想される。切迫した医療現場では英語だけで対応できない場面も予想される。一般的な文法と会話の知識の他に、医療現場で必要な単語や言い回しを学び、よりユーティリティの高い社会人・医療関係者としてのスキルを身につける機会となることも期待して開講される。				
到達目標	1.基本的な挨拶や初歩文法と会話の知識を身につける 2.スペイン語の発声の特徴に慣れ、相手とのコミュニケーションに向け意欲と自信を身につける 3.医療現場で必要なスペイン語の単語について身につけたり調べたりする能力を身につける 4.身の回りのスペイン語圏文化に興味を持ち、異文化についての知識習得と理解に積極的になる 5.相手の文化や行動、生活環境を想像できる人間になる				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	ガイダンス 久々湊直子	・授業内容・評価・教科書・辞書・アクティブ・ラーニングのやり方等の説明 ・スペイン語圏について知る ・PBL 自己決定型学習「スペ活」についての説明 ・スペイン語の文字の打ち方を学ぶ ・挨拶と自己紹介を学ぶ	授業中・後にワークシートにスペイン語圏とはどこなのか調べて国名を書き出してみる （ワークシートは毎回提出）
2	アルファベットと発音 久々湊　直子	★スペ活共有（フィードバック） Introducción 教科書 p.2-3 ・日本語と近い発音を持ったスペイン語の発声の法則を知り、単語を見て音読できるようになる ・さまざまな挨拶でコミュニケーションできるようになる	・習った読み方（音読）について、教科書とワークシートで実際に発声をし、文字の並びを見て発声できるように練習する ★単語帳やアプリを使用して自立学習する習慣をつける（以後継続） ★スペ活：身の回りのスペイン語圏のことについて一つ報告する（以後毎週）
3	名詞の特徴 久々湊　直子	★スペ活共有（フィードバック） Lección 1 教科書 p.4-5 ・名詞の性と数、人称代名詞、ものを頼む表現について学ぶ ・「〇〇をお願いします」と言えるようになる	・教科書とワークシートで名詞の性を見分け、正しい冠詞や形容詞をつけられるように練習する ・人称代名詞を覚える。特に医療現場で必要な単語に気をつけるようになる ★スペ活
4	名詞を使った会話 久々湊　直子	★スペ活共有（フィードバック） Lección 1 教科書 p.6-7 シチュエーションで会話 Diálogo 1 「飲み物は？」「水をお願いします」	・ワークシートで Ejercicios 1 の内容を復習する ★スペ活
5	ser 動詞と所有形容詞 久々湊　直子	★スペ活共有（フィードバック） Lección 2 教科書 p.8-9 ・Ser 動詞について学び、活用できるようになる 所有形容詞の前置形を学ぶ 「私は～です」「これは～です」を言えるようになる	・ワークシートで人称代名詞と合わせて活用させた作文をつくれるようになる。 ・人物の正確や容貌を表す単語を単語帳に登録して言えるようになるまで復習する ★スペ活
6	ser 動詞を使った会話 久々湊　直子	★スペ活共有（フィードバック） Lección 2 教科書 p.10-11 シチュエーションで会話 Diálogo 2 「はじめまして」「私は～出身です」	ワークシートで Ejercicios 2 の内容を復習する ★スペ活
7	一般動詞現在形と前置詞 久々湊　直子	★スペ活共有（フィードバック） Lección 3 教科書 p.12-13 ar 動詞、er 動詞、ir 動詞の 3 タイプを学ぶ。不規則動詞 ir を学ぶ。前置詞を学ぶ 「〇〇は話す」「食べる」「住む」…を言えるようになる。	ワークシートで一般動詞の活用で作文できるようになる ・規則動詞を単語帳にまとめて登録して随時復習する ★スペ活
8	一般動詞を使った会話 久々湊　直子	★スペ活共有（フィードバック） Lección 3 教科書 p.14-15 シチュエーションで会話 Diálogo 3 「コーヒーを飲みに行こうよ」「もちろん」	ワークシートで Ejercicios3 の内容を復習する ★スペ活

9	estar 動詞と Hay 久々湊　直子	★スペ活共有（フィードバック） Lección 4 教科書 p.16-17 ser 動詞、estar 動詞、hay の使い方の違いを学ぶ 「～です」「～がある・いる」を言えるようになる。	ワークシートで ser 動詞、estar 動詞、hay の区別を復習する ・建物や施設に関する単語を登録して随時復習する ★スペ活
10	ser,estar,hay を使った会話 久々湊　直子	★スペ活共有（フィードバック） Lección 4 教科書 p.18-19 シチュエーションで会話 Diálogo 4 「〇〇はどこにいるの？」「〇〇はある？」	ワークシートで Ejercicios4 の内容を復習する ★スペ活
11	不規則動詞の種類 ①語根母音変化久々湊　直子	★スペ活共有（フィードバック） Lección　5 教科書 p.20-21 語根が変化する不規則動詞を学ぶ 「～がほしい・したい」「できる」などの不規則動詞を活用できるようになる	教科書に第 5 課出てきた 5 つの不規則動詞をマスターする（小テストあり） ・単語帳登録と習得は必須 スペ活
12	不規則動詞を使った会話 久々湊　直子	★スペ活共有（フィードバック） Lección　5 教科書 p.22-23 シチュエーションで会話 Diálogo 5 「いつもは外科にいるけど救急の患者にも対応するよ」「氷入りの方がいい？」	ワークシートで Ejercicios5 の復習を行う ・5 課～6 課の医療関係単語を登録して随時復習する ★スペ活
13	不規則動詞の種類② 1人称単数不規則動詞 久々湊　直子	★スペ活共有（フィードバック） Lección 6 教科書 p.24―25 1人称単数が変化する不規則動詞を学ぶ	教科書に第 6 課出てきた 7 つの不規則動詞をマスターする（小テストあり） ・単語帳登録と習得は必須 ★スペ活
14	gustar　型動詞 久々湊　直子	★スペ活共有（フィードバック） Lección 7 教科書 p.28－29 「痛い」と「好きだ」の表現を理解し言えるようになる	テスト対策プリントで本格的なテスト勉強を行う ★スペ活
15	まとめ 久々湊　直子	テストに向けた質疑応答、学習方法指導	授業を受けてテスト勉強する

授業開始前学習	・授業外でワークシートに取り組み、授業内容の復習や PBL 自己解決型学習「スペ活」（身の回りのスペイン語圏のもの、映画、料理、V-log、お店、イベントなどを見つける活動）の報告を行う 単語帳アプリを活用して、前回までの単語や表現を復習する
授業内課題のフィードバックの方法	・毎回の授業の最初に前回のワークシートについての講評や学習アドバイスを行う。 ・とくに「スペ活」については皆で共有しあう。
テキスト・教材	高橋覚二、糸魚川美樹、福地恭子、リディア・サラ・カハ著 『¿Qué te pasa?(ケ・テ・パサ？) ―初級スペイン語、看護・医療系語彙を中心に―』 朝日出版　ISBN978-4-255-55030-5 C1087
参考書	辞書：『西和中辞典』（小学館）、『新スペイン語辞典』（研究社） 『現代スペイン語辞典』（白水社） 『プログレッシブ・スペイン語辞典』（小学館） 『和西辞典』（白水社）その他中辞典レベルの辞書を推奨
評価の基準と方法	毎回のワークシート・小テストの提出と評価（50%）、学期末試験（50%）

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	◎	○	○				◎

関連科目	
その他	PLB（自己決定型学習）「スペ活」は現状ではユニークなものだと思われます。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間+予習・復習時間 15 時間
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-222	科目分類（～2024 年入学者）	310-120-22	授業コード	H01051
科目名称	韓国語			単位数	1.00 単位
英文名称	Korean			授業区分	演習
科目責任者	郭　在祐			必修・選択	選択
担当教員	郭　在祐			開講時期	2 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	韓国語入門の科目であり、韓国語の基礎について学ぶ。将来、日本人のみならず、韓国語を使用する人々とコミュニケーションを図り、異文化交流することで多様な価値観（ものの見方・考え方）に触れ、異文化に関心をもつこと、他者を理解する力を高めること、人間性を高めることを期待する。特に同じアジア圏であり、近隣国であるため、本科目を通して簡単な会話ができるスキルを身につける。				
到達目標	1 韓国語の読み・書き方を学んだ上で、必要な文法・会話を身に着ける。 2.基礎知識を習得し、短い文章の読み書きもできるようになる。 3.言葉と関連して、韓国の文化を知る。 4.挨拶や簡単な会話ができること。 5.韓国語の読む・書く・聞く・話すことができるための基礎作りができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	ガイダンス 郭　在祐	・授業のテ-マや到達目標及び授業方法について説明。	予習：シラバスを事前に確認し、授業全体の流れを把握する。 復習：授業の方法及び中事項について確認する。
2	文字と発音① 郭　在祐	・基本の母音と子音の読み方	予習：母音と子音の読み方を事前に練習してくる。 復習：学んだ内容を把握と復習する。
3	文字と発音② 郭　在祐	・合成母音や濃音と激音とバッチム	予習：濃音と激音の読み方を事前に練習してくる。 復習：学んだ内容を把握と復習する。
4	文字と発音③ 郭　在祐	・人称代名詞と主格助詞	予習：韓国と日本の相違点を考えてくる。 復習：学んだ内容を把握と復習する。
5	文字と発音④ 郭　在祐	・指示代名詞や事物・所有格	予習：韓国と日本の相違点を考えてくる。 復習：学んだ内容を把握と復習する。
6	文字と発音⑤ 郭　在祐	・感謝の表現について	予習：感謝の表現について韓国と日本の相違点を考えてくる。 復習：学んだ内容を把握と復習する。
7	文字と発音⑥ 郭　在祐	・事物の位置を説明する	予習：位置 復習：学んだ内容を把握と復習する。
8	助詞について 郭　在祐	・目的語と動詞で表現する	予習：「～を」と「～に」ついて事前に把握する。 復習：学んだ内容を把握と復習する。
9	数字(漢数詞・固有数詞) 郭　在祐	・電話番号・日にち・価格・ものを数える	予習：数字 復習：学んだ内容を把握と復習する。
10	疑問形 郭　在祐	・「～です」と「～ですか」の表現	予習：「～です」と「～ですか」の表現について事前に内容を把握する。 復習：学んだ内容を把握と復習する。
11	存在に関する表現 郭　在祐	・「場所」「位置」「住所」	予習：「います」と「あります」の表現について事前に把握する。 復習：学んだ内容を把握と復習する。
12	過去形の表現 郭　在祐	・「いました」と「ありました」の表現	予習：「いました」と「ありました」の表現について事前に把握する。 復習：学んだ内容を把握と復習する。
13	尊敬語について 郭　在祐	・尊敬語の表現	予習：尊敬語の表現について事前に把握する。 復習：学んだ内容を把握と復習する。
14	自己紹介 郭　在祐	・簡単な自己紹介などをスピーチする	予習：自己紹介が出来るように練習をしてくる。 復習：学んだ内容を把握と復習する。
15	文字と発音⑦ 郭　在祐	文法・会話の全体について復習をしてまとめる。	予習：これまで学習した文法・会話について確認する。 復習：これまで学んだ全体の内容を復習する。
授業開始前学習			

授業内課題のフィードバックの方法	授業中、口頭で練習した問題などをレポート用紙に書いてくる宿題を出します。 宿題をチェックし、質問などに答えします。							
テキスト・教材	テキストは特にありません。毎回次回の授業内容を配布する。							
参考書	必要によって韓国語辞書は各自持参する。							
評価の基準と方法	・授業内テスト：小テストを 2,3 回程実施して評価する(50%)。 ・授業への積極的な参加度(出席)と 2,3 回程発表(50%)。 ・試験はありません。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		○	○				
関連科目								
その他	挨拶や簡単な会話ができ、短い文章の読み書も出来るようになることを目標にし、韓国の文化や歴史を理解しながら韓国人との会話が出来るようにする							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間+予習・復習時間 15 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-222	科目分類（～2024 年入学者）	310-120-22	授業コード	H00515
科目名称	ﾄﾞｲﾂ語			単位数	1.00 単位
英文名称	German			授業区分	演習
科目責任者	岡野　史			必修・選択	選択
担当教員	岡野　史			開講時期	2 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	ドイツ語入門の科目であり、ドイツ語の基礎について学ぶ。ドイツ語の発音の基本、日常での平易な表現を身につけることを目標とする。将来、日本人のみならず、ドイツ語を使用する人々とコミュニケーションを図り、異文化交流することで多様な価値観（ものの見方・考え方）に触れ、異文化に関心をもつこと、他者を理解する力を高めること、人間性を高めることを期待する。				
到達目標	基本的なドイツ語の読み方、発音ができるようになることをはじめ、ドイツ語学習の基礎となる人称代名詞の変化、動詞の現在形、冠詞の格変化や語順のルールなどを理解し、簡単な文章読解、ドイツ語作文のなかで用いることができるようになることを目標とする。また基本的な挨拶や自己紹介などの会話表現を学び、短くともドイツ語でコミュニケーションをとることができるようになる。同時に、第二外国語としてドイツ語を学ぶ意義や目標を各々が見つけられるよう、ドイツ語圏への文化理解を深めていく。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	岡野史	ガイダンス・ドイツ語とは：ヨーロッパにおけるドイツ語圏。アルファベート	講義 予習：シラバスの内容を確認。ドイツ語圏の国々、文化について確認。 復習：授業計画の内容確認。配布資料の確認。
2	岡野史	アルファベート、つづりと発音①【テキスト p.1-3】	予習：テキスト p.1-3「アルファベート」「つづりと発音」の予習。前回の授業での配布資料を確認。 復習：テキスト p.1-3 までの範囲で不明点を再チェック。配布資料の確認。
3	岡野史	アルファベート、つづりと発音、簡単な挨拶と数字【テキスト p.1-3, 4-5, 9】	予習：テキスト p.1-3「アルファベート」「つづりと発音」の確認。テキスト p.4-5「あいさつ」p.9「数字」の確認。前回の授業での配布資料を確認。 復習 ： テキスト p.1-3, 4-5, 9 までの内容を確認。配布資料の確認。
4	岡野史	Lektion1： 主語になる人称代名詞、動詞の現在人称変化（規則変化）【テキスト p.10-11】	予習：テキスト p.10「主語になる人称代名詞、動詞の現在人称変化」の確認。 復習：テキスト p.10-11 の文法事項と単語を確認すること。配布資料の確認。
5	岡野史	Lektion1： 自己紹介【テキスト p.12-15】	予習：テキスト p.12-15 の確認。 復習：テキスト p.12-15 の表現と単語の確認、確認テストの準備。
6	岡野史	確認テスト（Lektion1）、p.80: Freut mich!、Lektion2：名詞の性・冠詞	予習：確認テスト（Lektion1）の準備。p.80: Freut mich!の確認。 復習：テキスト p.80 の文法事項と単語の確認をすること。
7	岡野史	Lektion2： 名詞の性・冠詞、名詞の格変化【テキスト p.16-17】	予習：テキスト p.16-17「名詞の性・冠詞、名詞の格変化」の予習。 復習：テキスト p. 16-17 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。
8	岡野史	Lektion2: 疑問代名詞の格変化、並列の接続詞【テキスト p.18-19】	予習：テキスト p.18-19「疑問代名詞の格変化、並列の接続詞」の予習。 復習：テキスト p.18-19 の表現と単語の確認、確認テストの準備。
9	職業、読解②	確認テスト（Lektion2）、職業、p.80: Werner Adam, Fotograf【テキスト p.20-21, 80】	予習：確認テスト（Lektion2）の準備。p.80: Werner Adam, Fotograf の確認。 復習：テキスト p.20-23, 80 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。
10	岡野史	Lektion3： 動詞の現在人称変化２、命令形【テキスト p.27-p.29】	予習：テキスト p.24「動詞の現在人称変化２、命令形」の予習。 復習：テキスト p.24-25 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。
11	岡野史	Lektion3： 名詞の複数形、人称代名詞の３・４格、語順【テキスト p.26-27】	予習：テキスト p.26「名詞の複数形、人称代名詞の３・４格、語順」の予習。 復習：テキスト p.26-27 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。

12	岡野史	授業：趣味、 p.81: Pierre in Köln【p.28-29, p.81】	予習：テキスト p.28-29, p.81: Pierre in Köln の確認。 復習：テキスト p.28-29, p.81 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。
13	岡野史	Lektion4 :冠詞類【テキスト p.30-31】	予習：テキスト p.30「冠詞類」の予習。 復習：テキスト p.30-31 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。
14	岡野史	Lektion4 :Lektion4: 否定冠詞、否定疑問文、非人称の es	予習：テキスト p.32「kein と nicht の使い方、否定疑問文の答え方」の予習 復習：テキスト p.32-34、Lektion4 まで全体の復習。
15	岡野史	Lektion4: 買い物、p.81「Anna und Familie Müller」、扱った文法事項の全体確認	予習：テキスト p.34 単語の意味を調べておく。ここまでに扱った内容について、不明点がないか確認。全体の復習。 復習：テキスト p .34,p.81 の表現と単語の確認、確認テストの準備。

授業開始前学習	ドイツ語がどのような言語であるのかを知るために、教科書などに目を通しておくこと。 ドイツ文学、映画、音楽などにふれ、ドイツ語文化圏への理解を深めておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で確認小テストを行う。次週までに返却し、解説を行う。							
テキスト・教材	小野寿美子、中川明博『アー・ツェット　楽しく学ぶドイツ語　改訂版』(朝日出版社)							
参考書	授業内で適宜紹介							
評価の基準と方法	平常点（授業内での課題への取り組み、確認テスト）50%、期末試験 50%							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		○	○				
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間+予習・復習時間 15 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-222	科目分類（～2024 年入学者）	310-120-22	授業コード	H01060
科目名称	中国語			単位数	1.00 単位
英文名称	Chinese			授業区分	演習
科目責任者	保坂　律子			必修・選択	選択
担当教員	保坂　律子			開講時期	2 年後期
オフィスアワー	前期　水曜日 10:00～13:00 後期　水曜日 10:00～13:00			研究室	10-709
授業概要	中国語入門の科目であり、中国語の基礎について学ぶ。将来、日本人のみならず、中国語を使用する人々とコミュニケーションを図り、異文化交流することで多様な価値観（ものの見方・考え方）に触れ、異文化に関心をもつこと、他者を理解する力を高めること、人間性を高めることを期待する。特に同じアジア圏であり、近隣国であるため、本科目を通して簡単な会話ができるようスキルを身につける。				
到達目標	初対面の中国人と中国語で簡単な挨拶ができ、日本での買い物や観光スポット、交通手段を説明するのに必要なキーワードを中国語で説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	発音第 1 課 保坂律子	4 つの声調、単母音、複母音、練習問題（ペアワーク）	教員による解説＋（ペアワーク） 予習　：テキスト 1 頁～13　頁の講読 復習　：声調、単母音、複母音の発音練習
2	発音第 2 課 保坂律子	声母表,無気音,有気音、そり舌音（ペアワーク）	教員による解説＋（ペアワーク） 予習：テキスト 20 頁～25 頁の講読 復習：声母,無気音,有気音、そり舌音の発音練習
3	発音第 3 課 保坂律子	鼻音を伴う母音、e のバリエーション、同じ i でも異なる音（ペアワーク）	教員による解説＋（ペアワーク） 予習：テキスト 26 頁～31 頁の購読 復習：鼻音を伴う母音の発音練習
4	発音第 4 課 保坂律子	声調変化、軽音、声調の組み合わせ、隔音記号（ペアワーク）	教員による解説＋（ペアワーク） 予習：テキスト 32 頁～41 頁の講読 復習:声調変化の発音練習
5	第 5 課　日本到着ー成田空港 保坂律子	人称代名詞、「～は～です」、「～の」、動詞述語文（ペアワーク）	教員による解説＋（ペアワーク） 予習:テキスト 42 頁～47 頁の講読 復習：第 5 課の音読、練習問題
6	第 6 課　ホテルチェックイン 保坂律子	「～したい」、名前の言い方、動詞「ある、いる」、中国語の「こそあど」（ペアワーク）	教員による解説＋（ペアワーク） 予習：テキスト 48 頁～53 頁の講読 復習：第 6 課の音読、練習問題
7	第 7 課　夜景が綺麗 保坂律子	疑問詞の“多”、数の数え方、「～したことがある」、形容詞述語文）（ペアワーク）	教員による解説＋（ペアワーク） 予習：テキスト 54　頁～59 頁の講読 復習：第 7 課の音読、練習問題
8	第 8 課　電車で 保坂律子	連動文、量詞、有”、時間量の言い方（ペアワーク）	教員による解説＋（ペアワーク） 予習：テキスト 60 頁～67 頁の講読 復習：第 8 課の音読、練習問題
9	中間テスト 第 9 課　化粧品売り場で 保坂律子	疑問詞、中国のお金の単位、“二”と“両”（ペアワーク）	教員による解説＋（ペアワーク） 予習：教科書 67 頁までの単語、構文の復習 復習：テストの解き直し
10	第 10 課　花火大会 保坂律子	年月日、曜日の言い方、「どうして～？」、年齢の言い方（ペアワーク）	教員による解説＋（ペアワーク） 予習：テキスト 74　頁～79 頁の講読 復習：第 10 課の音読、練習問題
11	第 11 課　日本の雑貨 保坂律子	「～も」、実現の言い方、2 つの否定方式、前置詞「～で」（ペアワーク）	教員による解説＋（ペアワーク） 予習：テキスト 80 頁～85 頁の講読 復習：第 11 課の音読、練習問題
12	第 12 課　おいしい和牛をどうぞ 保坂律子	時刻の言い方、完了の言い方、反復疑問文、動詞の重ね型（ペアワーク）	教員による解説＋（ペアワーク） 予習：テキスト 86 頁～93 頁の講読 復習：第 12 課の音読、練習問題
13	第 13 課　日本人の人気デザート 保坂律子	進行の表し方、選択疑問文、「～が好き」（ペアワーク）	教員による解説＋（ペアワーク） 予習：テキスト 94 頁～99 頁の講読 復習：第 13 課の音読、練習問題
14	第 14 課　着物体験 保坂律子	持続の表現、方位詞、「～できる」の表し方 3 種（ペアワーク）	教員による解説＋（ペアワーク） 予習：テキスト 100 頁～105 頁の購読 復習：第 14 課の音読、練習問題
15	第 15 課　温泉に入る 保坂律子	結果補語、方向補語、「～しなければならない」（ペアワーク）	教員による解説＋（ペアワーク） 予習：テキスト 106 頁～105 頁の購読 復習：単語、重要後文の確認

授業開始前学習	中国に関するニュースに注意を払うように心がける。身近にみられる中国語表記に注意を払うようにする。街で中国語圏からの観光客をみかけたら、思い切って声をかけてみる。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業内に実施する中間テスト、小テストは返却時に全体の講評を行い、弱点補強とステップアップのための復習ポイントを提示する。							
テキスト・教材	『ニーハオ！ニッポン　ふりむけば中国語』(朝日出版社)							
参考書	辞書も含め授業内で適宜紹介する。							
評価の基準と方法	中間テスト 40% 小テスト 30% 平常点 30%（課題提出・授業態度）							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		○	○				
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間+予習・復習時間 15 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-112 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-110-21 （J）	授業コード	HK0911
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.00 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	天野　雅美			必修・選択	必修
担当教員	淺賀・天野・髙山			開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	主体的に学ぶ姿勢を身につけるために、大学生活を始めるにあたり大学で学ぶことの意義、主体的に学問を探究していくための基本的な技術について学ぶ。少人数グループのゼミ形式とし、共通課題について討議する場を積極的に設け、多様な視点の気づきから思考を広げ・深めていく方法を学ぶ。さらには、個人またはグループで関心のある課題をとりあげ、その課題について調べ、まとめ、発表し討議することを通して、主体的に学問を探求していく体験を行うとともに能動的に学ぶことの面白さを体験する。				
到達目標	1.駒沢女子大学で学ぶことの意味を考え表現することができる。 2.主体的な学習態度について理解し実践することができる。 3.自由な意見交換の中から価値観の違いに気づき、相互に協力して課題に取り組み、学びを表現することができる。 4.自分で学習課題を見つけ、調べ、まとめた成果を他者にわかりやすく発表することができる。 5.発表内容を振り返り、学習課題をレポートとして記述できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	・基礎ゼミについて全体オリエンテーション 基礎ゼミ担当教員	・基礎ゼミを実施する意義 ・グループメンバーおよび教員との顔合わせ ・基礎ゼミⅠの進め方 プレゼンテーション・討議・使用テキスト ・図書館の利用 ・メールの送受信のマナー	授業方法：講義・演習 予習：テキストの目次の確認及び「１学問の世界へようこそ」P1～7 を精読 復習：オリエンテーションを振り返り「学問とは」について整理する。
2	・駒沢女子大学看護学部の特徴の理解 基礎ゼミ担当教員	・自分をみつめる活動（坐禅） ・他者を知る活動 ・駒沢女子大学の環境を知る活動 ・学園内見学ツアー	授業方法：アクティブ・ラーニング 予習：坐禅とは、その作法について調べる 復習：課題レポート（自己をみつめる活動、他者を知る活動、駒沢女子大学の環境を知る活動について気づいたこと） 提出期限：4 月 21 日（月）9：00 提出先：各 Classroom
3	・駒沢女子大学看護学部の特徴の理解 基礎ゼミ担当教員	・自分をみつめる活動（坐禅） ・他者を知る活動 ・駒沢女子大学の環境を知る活動 ・学園内見学ツアー	授業方法：アクティブ・ラーニング 予習：坐禅とは、その作法について調べる 復習：レポート（自己をみつめる活動、他者を知る活動、駒沢女子大学の環境を知る活動について気づいたこと） 提出期限：4 月 21 日（月）9：00 提出先：各 Classroom
4	・テキスト「２論理的な考え方を学ぶ」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容を討議 ・Work2.1「オリジナルな問いを考える」を実施 グループ内で 2 人 1 組になり、他のグループメンバーにインタビューをする	授業方法：グループワーク、インタビュー 予習：テキスト「２論理的な考え方を学ぶ」P９～24 を精読 復習：ディスカッションを振り返り、「論理的考え方とは」について整理する。
5	・テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」① 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容を討議 ・Work３.1「作文とレポートの違い」を実施	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」P25~39 を精読 復習：ディスカッションを振り返り、「作文とレポートの違い」を P123~124 に整理する。 グループで Work３.2（p32）または 3.3（P45）の宿題のいずれかを選択し、P125～または P127～に整理する。
6	・テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」② 基礎ゼミ担当教員	・5 回の宿題内容の確認 ・テキストに沿って、予習内容を討議 ・ビジュランクラウド：看護情報学 Vol.3「大丈夫？あなたのレポート・論文の作り方」を視聴・討議	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」P40~59 を精読 復習：Work３.４（P58）を P129～130 に整理
7	・文献検索の方法 ・論証型レポートの例 基礎ゼミ担当教員	・6 回の宿題内容の確認 ・ビジュランクラウド：看護情報学 Vol.3「大丈夫？あなたのレポート・論文の作り方」を視聴・討議 ・論証型レポートの例と評価を討議	授業方法：演習、グループワーク 予習：文献検索の方法の確認およびテキスト P60～65 を精読 復習：これまでの内容を振り返りレポートの書き方および引用文献の標記（文中、文末）を整理する。

8	・テキスト「４学びをプランニングする」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容および Work4.1 を討議（KJ 法を用いて整理する）	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「4 学びをプランニングする」P67～82 を精読し、Work4.1（P71）を P131～132 に整理 復習：Work4.5（P80）を P136 に整理
9	・テキスト「5 キャリアをデザインする」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容および Work5.1 を討議	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「5 キャリアをデザインする」P83～101 を精読し、Work5.1（P86）を P137 に整理 復習：討議内容を振り返り自己のキャリアを P138 に整理する。
10	・「自己の問い」の明確化 基礎ゼミ担当教員	・プレゼンテーションに関する動画視聴（15 分） ・グループ内で自己の問いを周知 ・プレゼンテーションに向けた準備	授業方法：グループワーク・個人ワーク 予習：自己の「問い」について文献検索を行い、批判的に文献を読む 復習：他者の意見が得られるように内容を整理する
11	・「大学生のマナー」 基礎ゼミ担当教員	・成人との挨拶や会話、振る舞いなど グループワークをし 2 グループで発表会後に質疑応答	授業方法：グループワーク 予習：社会人としての立ち居振る舞いについて、基本的な態度を調べてくる 復習：他者の意見を理解できるように内容を整理する
12	・プレゼンテーションの準備 基礎ゼミ担当教員	個人ワーク	授業方法：個人ワーク 予習：自己の「問い」について文献を批判的に読み整理する 復習：他者の意見が得られるように内容を整理する
13	・プレゼンテーション 基礎ゼミ担当教員	2 グループで発表会を行い討議	授業方法：プレゼンテーション 予習：自己の「問い」について他者に伝わるように整理する 復習：他者の意見を踏まえ内容を見直す
14	・プレゼンテーション 基礎ゼミ担当教員	2 グループで発表会を行い討議	授業方法：プレゼンテーション 予習：自己の「問い」について他者に伝わるように整理する 復習：他者の意見を踏まえ内容を見直す
15	・まとめ 基礎ゼミ担当教員	授業の総括	授業方法：グループワーク 予習：今までの学びを整理する 復習：課題「プレゼンテーションのテーマ」についてレポートを作成 提出期限：8 月 1 日（金）23：59 提出先：各ゼミの Classroom

授業開始前学習	テキストの全体構成を確認し、内容を把握しておく							
授業内課題のフィードバックの方法	授業内でフィードバックする。最後のレポートは、評価後返却する。							
テキスト・教材	井下千以子著『大学の学び入門 第 2 版 理論的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』（慶応義塾大学出版会,2020）							
参考書	必要時、参考文献を紹介する。							
評価の基準と方法	①グループワークの参加度（60%） ②プレゼンテーション内容・態度・質疑応答（20%） ③課題・レポート（20%）							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	○	△				
関連科目	なし							
その他	学習上の留意点 ・積極的な態度で参加すること。 ・グループワークでは、他者の意見を傾聴できること、自分の意見を述べ、考えを整理すること。 ・プレゼンテーションでは、他者にわかりやすく伝える技術および他者の意見を聞き取ることを学ぶ。 ・グループワークの進度に合わせて学習内容を相談し、予習・復習は調整すること。 ・動画「ライティングのための言語トレーニング講座」を各クラスで視聴し、ディスカッションする。講座の課題提出は任意とし、評価には反映しない。視聴する授業回数は変更する場合がある。							

予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 15 時間
実務経験を活かした 教育内容	本科目は、教育および研究実績が豊富な教員が担当している。大学において主体的に考え学んでいくための最初の科目である。複数の教員と共に、グループワークを通して、大学では何を学ぶのかに気づき、自らの「問い」をもち、探究する姿勢を培うことを目指す。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-112 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-110-21 （J）	授業コード	HK0912
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.00 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	天野　雅美			必修・選択	必修
担当教員	武田・水野			開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	主体的に学ぶ姿勢を身につけるために、大学生活を始めるにあたり大学で学ぶことの意義、主体的に学問を探究していくための基本的な技術について学ぶ。少人数グループのゼミ形式とし、共通課題について討議する場を積極的に設け、多様な視点の気づきから思考を広げ・深めていく方法を学ぶ。さらには、個人またはグループで関心のある課題をとりあげ、その課題について調べ、まとめ、発表し討議することを通して、主体的に学問を探求していく体験を行うとともに能動的に学ぶことの面白さを体験する。				
到達目標	1.駒沢女子大学で学ぶことの意味を考え表現することができる。 2.主体的な学習態度について理解し実践することができる。 3.自由な意見交換の中から価値観の違いに気づき、相互に協力して課題に取り組み、学びを表現することができる。 4.自分で学習課題を見つけ、調べ、まとめた成果を他者にわかりやすく発表することができる。 5.発表内容を振り返り、学習課題をレポートとして記述できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	・基礎ゼミについて全体オリエンテーション 基礎ゼミ担当教員	・基礎ゼミを実施する意義 ・グループメンバーおよび教員との顔合わせ ・基礎ゼミⅠの進め方 プレゼンテーション・討議・使用テキスト ・図書館の利用 ・メールの送受信のマナー	授業方法：講義・演習 予習：テキストの目次の確認及び「１学問の世界へようこそ」P1～7 を精読 復習：オリエンテーションを振り返り「学問とは」について整理する。
2	・駒沢女子大学看護学部の特徴の理解 基礎ゼミ担当教員	・自分をみつめる活動（坐禅） ・他者を知る活動 ・駒沢女子大学の環境を知る活動 ・学園内見学ツアー	授業方法：アクティブ・ラーニング 予習：坐禅とは、その作法について調べる 復習：課題レポート（自己をみつめる活動、他者を知る活動、駒沢女子大学の環境を知る活動について気づいたこと） 提出期限：4 月 21 日（月）9：00 提出先：各 Classroom
3	・駒沢女子大学看護学部の特徴の理解 基礎ゼミ担当教員	・自分をみつめる活動（坐禅） ・他者を知る活動 ・駒沢女子大学の環境を知る活動 ・学園内見学ツアー	授業方法：アクティブ・ラーニング 予習：坐禅とは、その作法について調べる 復習：レポート（自己をみつめる活動、他者を知る活動、駒沢女子大学の環境を知る活動について気づいたこと） 提出期限：4 月 21 日（月）9：00 提出先：各 Classroom
4	・テキスト「２論理的な考え方を学ぶ」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容を討議 ・Work2.1「オリジナルな問いを考える」を実施 グループ内で 2 人 1 組になり、他のグループメンバーにインタビューをする	授業方法：グループワーク、インタビュー 予習：テキスト「２論理的な考え方を学ぶ」P９～24 を精読 復習：ディスカッションを振り返り、「論理的考え方とは」について整理する。
5	・テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」① 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容を討議 ・Work３.1「作文とレポートの違い」を実施	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」P25~39 を精読 復習：ディスカッションを振り返り、「作文とレポートの違い」を P123~124 に整理する。 グループで Work３.2（p32）または 3.3（P45）の宿題のいずれかを選択し、P125～または P127～に整理する。
6	・テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」② 基礎ゼミ担当教員	・5 回の宿題内容の確認 ・テキストに沿って、予習内容を討議 ・ビジュランクラウド：看護情報学 Vol.3「大丈夫？あなたのレポート・論文の作り方」を視聴・討議	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」P40~59 を精読 復習：Work３.４（P58）を P129～130 に整理
7	・文献検索の方法 ・論証型レポートの例 基礎ゼミ担当教員	・6 回の宿題内容の確認 ・ビジュランクラウド：看護情報学 Vol.3「大丈夫？あなたのレポート・論文の作り方」を視聴・討議 ・論証型レポートの例と評価を討議	授業方法：演習、グループワーク 予習：文献検索の方法の確認およびテキスト P60～65 を精読 復習：これまでの内容を振り返りレポートの書き方および引用文献の標記（文中、文末）を整理する。

8	・テキスト「４学びをプランニングする」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容および Work4.1 を討議（KJ 法を用いて整理する）	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「4 学びをプランニングする」P67～82 を精読し、Work4.1（P71）を P131～132 に整理 復習：Work4.5（P80）を P136 に整理
9	・テキスト「5 キャリアをデザインする」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容および Work5.1 を討議	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「5 キャリアをデザインする」P83～101 を精読し、Work5.1（P86）を P137 に整理 復習：討議内容を振り返り自己のキャリアを P138 に整理する。
10	・「自己の問い」の明確化 基礎ゼミ担当教員	・プレゼンテーションに関する動画視聴（15 分） ・グループ内で自己の問いを周知 ・プレゼンテーションに向けた準備	授業方法：グループワーク・個人ワーク 予習：自己の「問い」について文献検索を行い、批判的に文献を読む 復習：他者の意見が得られるように内容を整理する
11	・「大学生のマナー」 基礎ゼミ担当教員	・成人との挨拶や会話、振る舞いなど グループワークをし 2 グループで発表会後に質疑応答	授業方法：グループワーク 予習：社会人としての立ち居振る舞いについて、基本的な態度を調べてくる 復習：他者の意見を理解できるように内容を整理する
12	・プレゼンテーションの準備 基礎ゼミ担当教員	個人ワーク	授業方法：個人ワーク 予習：自己の「問い」について文献を批判的に読み整理する 復習：他者の意見が得られるように内容を整理する
13	・プレゼンテーション 基礎ゼミ担当教員	2 グループで発表会を行い討議	授業方法：プレゼンテーション 予習：自己の「問い」について他者に伝わるように整理する 復習：他者の意見を踏まえ内容を見直す
14	・プレゼンテーション 基礎ゼミ担当教員	2 グループで発表会を行い討議	授業方法：プレゼンテーション 予習：自己の「問い」について他者に伝わるように整理する 復習：他者の意見を踏まえ内容を見直す
15	・まとめ 基礎ゼミ担当教員	授業の総括	授業方法：グループワーク 予習：今までの学びを整理する 復習：課題「プレゼンテーションのテーマ」についてレポートを作成 提出期限：8 月 1 日（金）23：59 提出先：各ゼミの Classroom

授業開始前学習	テキストの全体構成を確認し、内容を把握しておく
授業内課題のフィードバックの方法	授業内でフィードバックする。最後のレポートは、評価後返却する。
テキスト・教材	井下千以子著『大学の学び入門 第 2 版 理論的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』（慶応義塾大学出版会,2020）
参考書	必要時、参考文献を紹介する。
評価の基準と方法	①グループワークの参加度（60%） ②プレゼンテーション内容・態度・質疑応答（20%） ③課題・レポート（20%）

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	○	△				

関連科目	なし
その他	学習上の留意点 ・積極的な態度で参加すること。 ・グループワークでは、他者の意見を傾聴できること、自分の意見を述べ、考えを整理すること。 ・プレゼンテーションでは、他者にわかりやすく伝える技術および他者の意見を聞き取ることを学ぶ。 ・グループワークの進度に合わせて学習内容を相談し、予習・復習は調整すること。 ・動画「ライティングのための言語トレーニング講座」を各クラスで視聴し、ディスカッションする。講座の課題提出は任意とし、評価には反映しない。視聴する授業回数は変更する場合がある。

予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 15 時間
実務経験を活かした 教育内容	本科目は、教育および研究実績が豊富な教員が担当している。大学において主体的に考え学んでいくための最初の科目である。複数の教員と共に、グループワークを通して、大学では何を学ぶのかに気づき、自らの「問い」をもち、探究する姿勢を培うことを目指す。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-112 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-110-21 （J）	授業コード	HK0913
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.00 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	天野　雅美			必修・選択	必修
担当教員	室井・吉野			開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	主体的に学ぶ姿勢を身につけるために、大学生活を始めるにあたり大学で学ぶことの意義、主体的に学問を探究していくための基本的な技術について学ぶ。少人数グループのゼミ形式とし、共通課題について討議する場を積極的に設け、多様な視点の気づきから思考を広げ・深めていく方法を学ぶ。さらには、個人またはグループで関心のある課題をとりあげ、その課題について調べ、まとめ、発表し討議することを通して、主体的に学問を探求していく体験を行うとともに能動的に学ぶことの面白さを体験する。				
到達目標	1.駒沢女子大学で学ぶことの意味を考え表現することができる。 2.主体的な学習態度について理解し実践することができる。 3.自由な意見交換の中から価値観の違いに気づき、相互に協力して課題に取り組み、学びを表現することができる。 4.自分で学習課題を見つけ、調べ、まとめた成果を他者にわかりやすく発表することができる。 5.発表内容を振り返り、学習課題をレポートとして記述できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	・基礎ゼミについて全体オリエンテーション 基礎ゼミ担当教員	・基礎ゼミを実施する意義 ・グループメンバーおよび教員との顔合わせ ・基礎ゼミⅠの進め方 プレゼンテーション・討議・使用テキスト ・図書館の利用 ・メールの送受信のマナー	授業方法：講義・演習 予習：テキストの目次の確認及び「１学問の世界へようこそ」P1～7 を精読 復習：オリエンテーションを振り返り「学問とは」について整理する。
2	・駒沢女子大学看護学部の特徴の理解 基礎ゼミ担当教員	・自分をみつめる活動（坐禅） ・他者を知る活動 ・駒沢女子大学の環境を知る活動 ・学園内見学ツアー	授業方法：アクティブ・ラーニング 予習：坐禅とは、その作法について調べる 復習：課題レポート（自己をみつめる活動、他者を知る活動、駒沢女子大学の環境を知る活動について気づいたこと） 提出期限：4 月 21 日（月）9：00 提出先：各 Classroom
3	・駒沢女子大学看護学部の特徴の理解 基礎ゼミ担当教員	・自分をみつめる活動（坐禅） ・他者を知る活動 ・駒沢女子大学の環境を知る活動 ・学園内見学ツアー	授業方法：アクティブ・ラーニング 予習：坐禅とは、その作法について調べる 復習：レポート（自己をみつめる活動、他者を知る活動、駒沢女子大学の環境を知る活動について気づいたこと） 提出期限：4 月 21 日（月）9：00 提出先：各 Classroom
4	・テキスト「２論理的な考え方を学ぶ」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容を討議 ・Work2.1「オリジナルな問いを考える」を実施 グループ内で 2 人 1 組になり、他のグループメンバーにインタビューをする	授業方法：グループワーク、インタビュー 予習：テキスト「２論理的な考え方を学ぶ」P９～24 を精読 復習：ディスカッションを振り返り、「論理的考え方とは」について整理する。
5	・テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」① 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容を討議 ・Work３.1「作文とレポートの違い」を実施	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」P25~39 を精読 復習：ディスカッションを振り返り、「作文とレポートの違い」を P123~124 に整理する。 グループで Work３.2（p32）または 3.3（P45）の宿題のいずれかを選択し、P125～または P127～に整理する。
6	・テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」② 基礎ゼミ担当教員	・5 回の宿題内容の確認 ・テキストに沿って、予習内容を討議 ・ビジュランクラウド：看護情報学 Vol.3「大丈夫？あなたのレポート・論文の作り方」を視聴・討議	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」P40~59 を精読 復習：Work３.４（P58）を P129～130 に整理
7	・文献検索の方法 ・論証型レポートの例 基礎ゼミ担当教員	・6 回の宿題内容の確認 ・ビジュランクラウド：看護情報学 Vol.3「大丈夫？あなたのレポート・論文の作り方」を視聴・討議 ・論証型レポートの例と評価を討議	授業方法：演習、グループワーク 予習：文献検索の方法の確認およびテキスト P60～65 を精読 復習：これまでの内容を振り返りレポートの書き方および引用文献の標記（文中、文末）を整理する。

8	・テキスト「４学びをプランニングする」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容および Work4.1 を討議（KJ 法を用いて整理する）	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「4 学びをプランニングする」P67～82 を精読し、Work4.1（P71）を P131～132 に整理 復習：Work4.5（P80）を P136 に整理
9	・テキスト「5 キャリアをデザインする」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容および Work5.1 を討議	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「5 キャリアをデザインする」P83～101 を精読し、Work5.1（P86）を P137 に整理 復習：討議内容を振り返り自己のキャリアを P138 に整理する。
10	・「自己の問い」の明確化 基礎ゼミ担当教員	・プレゼンテーションに関する動画視聴（15 分） ・グループ内で自己の問いを周知 ・プレゼンテーションに向けた準備	授業方法：グループワーク・個人ワーク 予習：自己の「問い」について文献検索を行い、批判的に文献を読む 復習：他者の意見が得られるように内容を整理する
11	・「大学生のマナー」 基礎ゼミ担当教員	・成人との挨拶や会話、振る舞いなど グループワークをし 2 グループで発表会後に質疑応答	授業方法：グループワーク 予習：社会人としての立ち居振る舞いについて、基本的な態度を調べてくる 復習：他者の意見を理解できるように内容を整理する
12	・プレゼンテーションの準備 基礎ゼミ担当教員	個人ワーク	授業方法：個人ワーク 予習：自己の「問い」について文献を批判的に読み整理する 復習：他者の意見が得られるように内容を整理する
13	・プレゼンテーション 基礎ゼミ担当教員	2 グループで発表会を行い討議	授業方法：プレゼンテーション 予習：自己の「問い」について他者に伝わるように整理する 復習：他者の意見を踏まえ内容を見直す
14	・プレゼンテーション 基礎ゼミ担当教員	2 グループで発表会を行い討議	授業方法：プレゼンテーション 予習：自己の「問い」について他者に伝わるように整理する 復習：他者の意見を踏まえ内容を見直す
15	・まとめ 基礎ゼミ担当教員	授業の総括	授業方法：グループワーク 予習：今までの学びを整理する 復習：課題「プレゼンテーションのテーマ」についてレポートを作成 提出期限：8 月 1 日（金）23：59 提出先：各ゼミの Classroom

授業開始前学習	テキストの全体構成を確認し、内容を把握しておく							
授業内課題のフィードバックの方法	授業内でフィードバックする。最後のレポートは、評価後返却する。							
テキスト・教材	井下千以子著『大学の学び入門 第 2 版 理論的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』（慶応義塾大学出版会,2020）							
参考書	必要時、参考文献を紹介する。							
評価の基準と方法	①グループワークの参加度（60%） ②プレゼンテーション内容・態度・質疑応答（20%） ③課題・レポート（20%）							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	○	△				
関連科目	なし							
その他	学習上の留意点 ・積極的な態度で参加すること。 ・グループワークでは、他者の意見を傾聴できること、自分の意見を述べ、考えを整理すること。 ・プレゼンテーションでは、他者にわかりやすく伝える技術および他者の意見を聞き取ることを学ぶ。 ・グループワークの進度に合わせて学習内容を相談し、予習・復習は調整すること。 ・動画「ライティングのための言語トレーニング講座」を各クラスで視聴し、ディスカッションする。講座の課題提出は任意とし、評価には反映しない。視聴する授業回数は変更する場合がある。							

予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 15 時間
実務経験を活かした 教育内容	本科目は、教育および研究実績が豊富な教員が担当している。大学において主体的に考え学んでいくための最初の科目である。複数の教員と共に、グループワークを通して、大学では何を学ぶのかに気づき、自らの「問い」をもち、探究する姿勢を培うことを目指す。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-112 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-110-21 （J）	授業コード	HK0914
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.00 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	天野　雅美			必修・選択	必修
担当教員	門脇・橋浦			開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	主体的に学ぶ姿勢を身につけるために、大学生活を始めるにあたり大学で学ぶことの意義、主体的に学問を探究していくための基本的な技術について学ぶ。少人数グループのゼミ形式とし、共通課題について討議する場を積極的に設け、多様な視点の気づきから思考を広げ・深めていく方法を学ぶ。さらには、個人またはグループで関心のある課題をとりあげ、その課題について調べ、まとめ、発表し討議することを通して、主体的に学問を探求していく体験を行うとともに能動的に学ぶことの面白さを体験する。				
到達目標	1.駒沢女子大学で学ぶことの意味を考え表現することができる。 2.主体的な学習態度について理解し実践することができる。 3.自由な意見交換の中から価値観の違いに気づき、相互に協力して課題に取り組み、学びを表現することができる。 4.自分で学習課題を見つけ、調べ、まとめた成果を他者にわかりやすく発表することができる。 5.発表内容を振り返り、学習課題をレポートとして記述できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	・基礎ゼミについて全体オリエンテーション 基礎ゼミ担当教員	・基礎ゼミを実施する意義 ・グループメンバーおよび教員との顔合わせ ・基礎ゼミⅠの進め方 プレゼンテーション・討議・使用テキスト ・図書館の利用 ・メールの送受信のマナー	授業方法：講義・演習 予習：テキストの目次の確認及び「１学問の世界へようこそ」P1～7 を精読 復習：オリエンテーションを振り返り「学問とは」について整理する。
2	・駒沢女子大学看護学部の特徴の理解 基礎ゼミ担当教員	・自分をみつめる活動（坐禅） ・他者を知る活動 ・駒沢女子大学の環境を知る活動 ・学園内見学ツアー	授業方法：アクティブ・ラーニング 予習：坐禅とは、その作法について調べる 復習：課題レポート（自己をみつめる活動、他者を知る活動、駒沢女子大学の環境を知る活動について気づいたこと） 提出期限：4 月 21 日（月）9：00 提出先：各 Classroom
3	・駒沢女子大学看護学部の特徴の理解 基礎ゼミ担当教員	・自分をみつめる活動（坐禅） ・他者を知る活動 ・駒沢女子大学の環境を知る活動 ・学園内見学ツアー	授業方法：アクティブ・ラーニング 予習：坐禅とは、その作法について調べる 復習：レポート（自己をみつめる活動、他者を知る活動、駒沢女子大学の環境を知る活動について気づいたこと） 提出期限：4 月 21 日（月）9：00 提出先：各 Classroom
4	・テキスト「２論理的な考え方を学ぶ」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容を討議 ・Work2.1「オリジナルな問いを考える」を実施 グループ内で 2 人 1 組になり、他のグループメンバーにインタビューをする	授業方法：グループワーク、インタビュー 予習：テキスト「２論理的な考え方を学ぶ」P９～24 を精読 復習：ディスカッションを振り返り、「論理的考え方とは」について整理する。
5	・テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」① 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容を討議 ・Work３.1「作文とレポートの違い」を実施	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」P25~39 を精読 復習：ディスカッションを振り返り、「作文とレポートの違い」を P123~124 に整理する。 グループで Work３.2（p32）または 3.3（P45）の宿題のいずれかを選択し、P125～または P127～に整理する。
6	・テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」② 基礎ゼミ担当教員	・5 回の宿題内容の確認 ・テキストに沿って、予習内容を討議 ・ビジュランクラウド：看護情報学 Vol.3「大丈夫？あなたのレポート・論文の作り方」を視聴・討議	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」P40~59 を精読 復習：Work３.４（P58）を P129～130 に整理
7	・文献検索の方法 ・論証型レポートの例 基礎ゼミ担当教員	・6 回の宿題内容の確認 ・ビジュランクラウド：看護情報学 Vol.3「大丈夫？あなたのレポート・論文の作り方」を視聴・討議 ・論証型レポートの例と評価を討議	授業方法：演習、グループワーク 予習：文献検索の方法の確認およびテキスト P60～65 を精読 復習：これまでの内容を振り返りレポートの書き方および引用文献の標記（文中、文末）を整理する。

8	・テキスト「４学びをプランニングする」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容および Work4.1 を討議（KJ 法を用いて整理する）	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「4 学びをプランニングする」P67～82 を精読し、Work4.1（P71）を P131～132 に整理 復習：Work4.5（P80）を P136 に整理
9	・テキスト「5 キャリアをデザインする」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容および Work5.1 を討議	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「5 キャリアをデザインする」P83～101 を精読し、Work5.1（P86）を P137 に整理 復習：討議内容を振り返り自己のキャリアを P138 に整理する。
10	・「自己の問い」の明確化 基礎ゼミ担当教員	・プレゼンテーションに関する動画視聴（15 分） ・グループ内で自己の問いを周知 ・プレゼンテーションに向けた準備	授業方法：グループワーク・個人ワーク 予習：自己の「問い」について文献検索を行い、批判的に文献を読む 復習：他者の意見が得られるように内容を整理する
11	・「大学生のマナー」 基礎ゼミ担当教員	・成人との挨拶や会話、振る舞いなど グループワークをし 2 グループで発表会後に質疑応答	授業方法：グループワーク 予習：社会人としての立ち居振る舞いについて、基本的な態度を調べてくる 復習：他者の意見を理解できるように内容を整理する
12	・プレゼンテーションの準備 基礎ゼミ担当教員	個人ワーク	授業方法：個人ワーク 予習：自己の「問い」について文献を批判的に読み整理する 復習：他者の意見が得られるように内容を整理する
13	・プレゼンテーション 基礎ゼミ担当教員	2 グループで発表会を行い討議	授業方法：プレゼンテーション 予習：自己の「問い」について他者に伝わるように整理する 復習：他者の意見を踏まえ内容を見直す
14	・プレゼンテーション 基礎ゼミ担当教員	2 グループで発表会を行い討議	授業方法：プレゼンテーション 予習：自己の「問い」について他者に伝わるように整理する 復習：他者の意見を踏まえ内容を見直す
15	・まとめ 基礎ゼミ担当教員	授業の総括	授業方法：グループワーク 予習：今までの学びを整理する 復習：課題「プレゼンテーションのテーマ」についてレポートを作成 提出期限：8 月 1 日（金）23：59 提出先：各ゼミの Classroom

授業開始前学習	テキストの全体構成を確認し、内容を把握しておく
授業内課題のフィードバックの方法	授業内でフィードバックする。最後のレポートは、評価後返却する。
テキスト・教材	井下千以子著『大学の学び入門 第 2 版 理論的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』（慶応義塾大学出版会,2020）
参考書	必要時、参考文献を紹介する。
評価の基準と方法	①グループワークの参加度（60%） ②プレゼンテーション内容・態度・質疑応答（20%） ③課題・レポート（20%）
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成 他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成 チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成 多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	○	△				

関連科目	なし
その他	学習上の留意点 ・積極的な態度で参加すること。 ・グループワークでは、他者の意見を傾聴できること、自分の意見を述べ、考えを整理すること。 ・プレゼンテーションでは、他者にわかりやすく伝える技術および他者の意見を聞き取ることを学ぶ。 ・グループワークの進度に合わせて学習内容を相談し、予習・復習は調整すること。 ・動画「ライティングのための言語トレーニング講座」を各クラスで視聴し、ディスカッションする。講座の課題提出は任意とし、評価には反映しない。視聴する授業回数は変更する場合がある。

予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 15 時間
実務経験を活かした 教育内容	本科目は、教育および研究実績が豊富な教員が担当している。大学において主体的に考え学んでいくための最初の科目である。複数の教員と共に、グループワークを通して、大学では何を学ぶのかに気づき、自らの「問い」をもち、探究する姿勢を培うことを目指す。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-112 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-110-21 （J）	授業コード	HK0915
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.00 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	天野　雅美			必修・選択	必修
担当教員	岡・菊地			開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	主体的に学ぶ姿勢を身につけるために、大学生活を始めるにあたり大学で学ぶことの意義、主体的に学問を探究していくための基本的な技術について学ぶ。少人数グループのゼミ形式とし、共通課題について討議する場を積極的に設け、多様な視点の気づきから思考を広げ・深めていく方法を学ぶ。さらには、個人またはグループで関心のある課題をとりあげ、その課題について調べ、まとめ、発表し討議することを通して、主体的に学問を探求していく体験を行うとともに能動的に学ぶことの面白さを体験する。				
到達目標	1.駒沢女子大学で学ぶことの意味を考え表現することができる。 2.主体的な学習態度について理解し実践することができる。 3.自由な意見交換の中から価値観の違いに気づき、相互に協力して課題に取り組み、学びを表現することができる。 4.自分で学習課題を見つけ、調べ、まとめた成果を他者にわかりやすく発表することができる。 5.発表内容を振り返り、学習課題をレポートとして記述できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	・基礎ゼミについて全体オリエンテーション 基礎ゼミ担当教員	・基礎ゼミを実施する意義 ・グループメンバーおよび教員との顔合わせ ・基礎ゼミⅠの進め方 プレゼンテーション・討議・使用テキスト ・図書館の利用 ・メールの送受信のマナー	授業方法：講義・演習 予習：テキストの目次の確認及び「１学問の世界へようこそ」P1～7 を精読 復習：オリエンテーションを振り返り「学問とは」について整理する。
2	・駒沢女子大学看護学部の特徴の理解 基礎ゼミ担当教員	・自分をみつめる活動（坐禅） ・他者を知る活動 ・駒沢女子大学の環境を知る活動 ・学園内見学ツアー	授業方法：アクティブ・ラーニング 予習：坐禅とは、その作法について調べる 復習：課題レポート（自己をみつめる活動、他者を知る活動、駒沢女子大学の環境を知る活動について気づいたこと） 提出期限：4 月 21 日（月）9：00 提出先：各 Classroom
3	・駒沢女子大学看護学部の特徴の理解 基礎ゼミ担当教員	・自分をみつめる活動（坐禅） ・他者を知る活動 ・駒沢女子大学の環境を知る活動 ・学園内見学ツアー	授業方法：アクティブ・ラーニング 予習：坐禅とは、その作法について調べる 復習：レポート（自己をみつめる活動、他者を知る活動、駒沢女子大学の環境を知る活動について気づいたこと） 提出期限：4 月 21 日（月）9：00 提出先：各 Classroom
4	・テキスト「２論理的な考え方を学ぶ」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容を討議 ・Work2.1「オリジナルな問いを考える」を実施 グループ内で 2 人 1 組になり、他のグループメンバーにインタビューをする	授業方法：グループワーク、インタビュー 予習：テキスト「２論理的な考え方を学ぶ」P９～24 を精読 復習：ディスカッションを振り返り、「論理的考え方とは」について整理する。
5	・テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」① 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容を討議 ・Work３.1「作文とレポートの違い」を実施	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」P25~39 を精読 復習：ディスカッションを振り返り、「作文とレポートの違い」を P123~124 に整理する。 グループで Work３.2（p32）または 3.3（P45）の宿題のいずれかを選択し、P125～または P127～に整理する。
6	・テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」② 基礎ゼミ担当教員	・5 回の宿題内容の確認 ・テキストに沿って、予習内容を討議 ・ビジュランクラウド：看護情報学 Vol.3「大丈夫？あなたのレポート・論文の作り方」を視聴・討議	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」P40~59 を精読 復習：Work３.４（P58）を P129～130 に整理
7	・文献検索の方法 ・論証型レポートの例 基礎ゼミ担当教員	・6 回の宿題内容の確認 ・ビジュランクラウド：看護情報学 Vol.3「大丈夫？あなたのレポート・論文の作り方」を視聴・討議 ・論証型レポートの例と評価を討議	授業方法：演習、グループワーク 予習：文献検索の方法の確認およびテキスト P60～65 を精読 復習：これまでの内容を振り返りレポートの書き方および引用文献の標記（文中、文末）を整理する。

8	・テキスト「４学びをプランニングする」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容および Work4.1 を討議（KJ 法を用いて整理する）	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「4 学びをプランニングする」P67～82 を精読し、Work4.1（P71）を P131～132 に整理 復習：Work4.5（P80）を P136 に整理
9	・テキスト「5 キャリアをデザインする」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容および Work5.1 を討議	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「5 キャリアをデザインする」P83～101 を精読し、Work5.1（P86）を P137 に整理 復習：討議内容を振り返り自己のキャリアを P138 に整理する。
10	・「自己の問い」の明確化 基礎ゼミ担当教員	・プレゼンテーションに関する動画視聴（15 分） ・グループ内で自己の問いを周知 ・プレゼンテーションに向けた準備	授業方法：グループワーク・個人ワーク 予習：自己の「問い」について文献検索を行い、批判的に文献を読む 復習：他者の意見が得られるように内容を整理する
11	・「大学生のマナー」 基礎ゼミ担当教員	・成人との挨拶や会話、振る舞いなど グループワークをし 2 グループで発表会後に質疑応答	授業方法：グループワーク 予習：社会人としての立ち居振る舞いについて、基本的な態度を調べてくる 復習：他者の意見を理解できるように内容を整理する
12	・プレゼンテーションの準備 基礎ゼミ担当教員	個人ワーク	授業方法：個人ワーク 予習：自己の「問い」について文献を批判的に読み整理する 復習：他者の意見が得られるように内容を整理する
13	・プレゼンテーション 基礎ゼミ担当教員	2 グループで発表会を行い討議	授業方法：プレゼンテーション 予習：自己の「問い」について他者に伝わるように整理する 復習：他者の意見を踏まえ内容を見直す
14	・プレゼンテーション 基礎ゼミ担当教員	2 グループで発表会を行い討議	授業方法：プレゼンテーション 予習：自己の「問い」について他者に伝わるように整理する 復習：他者の意見を踏まえ内容を見直す
15	・まとめ 基礎ゼミ担当教員	授業の総括	授業方法：グループワーク 予習：今までの学びを整理する 復習：課題「プレゼンテーションのテーマ」についてレポートを作成 提出期限：8 月 1 日（金）23：59 提出先：各ゼミの Classroom

授業開始前学習	テキストの全体構成を確認し、内容を把握しておく
授業内課題のフィードバックの方法	授業内でフィードバックする。最後のレポートは、評価後返却する。
テキスト・教材	井下千以子著『大学の学び入門 第 2 版 理論的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』（慶応義塾大学出版会,2020）
参考書	必要時、参考文献を紹介する。
評価の基準と方法	①グループワークの参加度（60%） ②プレゼンテーション内容・態度・質疑応答（20%） ③課題・レポート（20%）

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	○	△				

関連科目	なし
その他	学習上の留意点 ・積極的な態度で参加すること。 ・グループワークでは、他者の意見を傾聴できること、自分の意見を述べ、考えを整理すること。 ・プレゼンテーションでは、他者にわかりやすく伝える技術および他者の意見を聞き取ることを学ぶ。 ・グループワークの進度に合わせて学習内容を相談し、予習・復習は調整すること。 ・動画「ライティングのための言語トレーニング講座」を各クラスで視聴し、ディスカッションする。講座の課題提出は任意とし、評価には反映しない。視聴する授業回数は変更する場合がある。

予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 15 時間
実務経験を活かした 教育内容	本科目は、教育および研究実績が豊富な教員が担当している。大学において主体的に考え学んでいくための最初の科目である。複数の教員と共に、グループワークを通して、大学では何を学ぶのかに気づき、自らの「問い」をもち、探究する姿勢を培うことを目指す。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-112 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-110-21 （J）	授業コード	HK0916
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.00 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	天野　雅美			必修・選択	必修
担当教員	佐川・富塚			開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	主体的に学ぶ姿勢を身につけるために、大学生活を始めるにあたり大学で学ぶことの意義、主体的に学問を探究していくための基本的な技術について学ぶ。少人数グループのゼミ形式とし、共通課題について討議する場を積極的に設け、多様な視点の気づきから思考を広げ・深めていく方法を学ぶ。さらには、個人またはグループで関心のある課題をとりあげ、その課題について調べ、まとめ、発表し討議することを通して、主体的に学問を探求していく体験を行うとともに能動的に学ぶことの面白さを体験する。				
到達目標	1.駒沢女子大学で学ぶことの意味を考え表現することができる。 2.主体的な学習態度について理解し実践することができる。 3.自由な意見交換の中から価値観の違いに気づき、相互に協力して課題に取り組み、学びを表現することができる。 4.自分で学習課題を見つけ、調べ、まとめた成果を他者にわかりやすく発表することができる。 5.発表内容を振り返り、学習課題をレポートとして記述できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	・基礎ゼミについて全体オリエンテーション 基礎ゼミ担当教員	・基礎ゼミを実施する意義 ・グループメンバーおよび教員との顔合わせ ・基礎ゼミⅠの進め方 プレゼンテーション・討議・使用テキスト ・図書館の利用 ・メールの送受信のマナー	授業方法：講義・演習 予習：テキストの目次の確認及び「１学問の世界へようこそ」P1～7 を精読 復習：オリエンテーションを振り返り「学問とは」について整理する。
2	・駒沢女子大学看護学部の特徴の理解 基礎ゼミ担当教員	・自分をみつめる活動（坐禅） ・他者を知る活動 ・駒沢女子大学の環境を知る活動 ・学園内見学ツアー	授業方法：アクティブ・ラーニング 予習：坐禅とは、その作法について調べる 復習：課題レポート（自己をみつめる活動、他者を知る活動、駒沢女子大学の環境を知る活動について気づいたこと） 提出期限：4 月 21 日（月）9：00 提出先：各 Classroom
3	・駒沢女子大学看護学部の特徴の理解 基礎ゼミ担当教員	・自分をみつめる活動（坐禅） ・他者を知る活動 ・駒沢女子大学の環境を知る活動 ・学園内見学ツアー	授業方法：アクティブ・ラーニング 予習：坐禅とは、その作法について調べる 復習：レポート（自己をみつめる活動、他者を知る活動、駒沢女子大学の環境を知る活動について気づいたこと） 提出期限：4 月 21 日（月）9：00 提出先：各 Classroom
4	・テキスト「２論理的な考え方を学ぶ」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容を討議 ・Work2.1「オリジナルな問いを考える」を実施 グループ内で 2 人 1 組になり、他のグループメンバーにインタビューをする	授業方法：グループワーク、インタビュー 予習：テキスト「２論理的な考え方を学ぶ」P９～24 を精読 復習：ディスカッションを振り返り、「論理的考え方とは」について整理する。
5	・テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」① 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容を討議 ・Work３.1「作文とレポートの違い」を実施	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」P25~39 を精読 復習：ディスカッションを振り返り、「作文とレポートの違い」を P123~124 に整理する。 グループで Work３.2（p32）または 3.3（P45）の宿題のいずれかを選択し、P125～または P127～に整理する。
6	・テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」② 基礎ゼミ担当教員	・5 回の宿題内容の確認 ・テキストに沿って、予習内容を討議 ・ビジュランクラウド：看護情報学 Vol.3「大丈夫？あなたのレポート・論文の作り方」を視聴・討議	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」P40~59 を精読 復習：Work３.４（P58）を P129～130 に整理
7	・文献検索の方法 ・論証型レポートの例 基礎ゼミ担当教員	・6 回の宿題内容の確認 ・ビジュランクラウド：看護情報学 Vol.3「大丈夫？あなたのレポート・論文の作り方」を視聴・討議 ・論証型レポートの例と評価を討議	授業方法：演習、グループワーク 予習：文献検索の方法の確認およびテキスト P60～65 を精読 復習：これまでの内容を振り返りレポートの書き方および引用文献の標記（文中、文末）を整理する。

8	・テキスト「４学びをプランニングする」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容および Work4.1 を討議（KJ 法を用いて整理する）	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「4 学びをプランニングする」P67～82 を精読し、Work4.1（P71）を P131～132 に整理 復習：Work4.5（P80）を P136 に整理
9	・テキスト「5 キャリアをデザインする」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容および Work5.1 を討議	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「5 キャリアをデザインする」P83～101 を精読し、Work5.1（P86）を P137 に整理 復習：討議内容を振り返り自己のキャリアを P138 に整理する。
10	・「自己の問い」の明確化 基礎ゼミ担当教員	・プレゼンテーションに関する動画視聴（15 分） ・グループ内で自己の問いを周知 ・プレゼンテーションに向けた準備	授業方法：グループワーク・個人ワーク 予習：自己の「問い」について文献検索を行い、批判的に文献を読む 復習：他者の意見が得られるように内容を整理する
11	・「大学生のマナー」 基礎ゼミ担当教員	・成人との挨拶や会話、振る舞いなど グループワークをし 2 グループで発表会後に質疑応答	授業方法：グループワーク 予習：社会人としての立ち居振る舞いについて、基本的な態度を調べてくる 復習：他者の意見を理解できるように内容を整理する
12	・プレゼンテーションの準備 基礎ゼミ担当教員	個人ワーク	授業方法：個人ワーク 予習：自己の「問い」について文献を批判的に読み整理する 復習：他者の意見が得られるように内容を整理する
13	・プレゼンテーション 基礎ゼミ担当教員	2 グループで発表会を行い討議	授業方法：プレゼンテーション 予習：自己の「問い」について他者に伝わるように整理する 復習：他者の意見を踏まえ内容を見直す
14	・プレゼンテーション 基礎ゼミ担当教員	2 グループで発表会を行い討議	授業方法：プレゼンテーション 予習：自己の「問い」について他者に伝わるように整理する 復習：他者の意見を踏まえ内容を見直す
15	・まとめ 基礎ゼミ担当教員	授業の総括	授業方法：グループワーク 予習：今までの学びを整理する 復習：課題「プレゼンテーションのテーマ」についてレポートを作成 提出期限：8 月 1 日（金）23：59 提出先：各ゼミの Classroom

授業開始前学習	テキストの全体構成を確認し、内容を把握しておく
授業内課題のフィードバックの方法	授業内でフィードバックする。最後のレポートは、評価後返却する。
テキスト・教材	井下千以子著『大学の学び入門 第 2 版 理論的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』（慶応義塾大学出版会,2020）
参考書	必要時、参考文献を紹介する。
評価の基準と方法	①グループワークの参加度（60%） ②プレゼンテーション内容・態度・質疑応答（20%） ③課題・レポート（20%）

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	○	△				

関連科目	なし
その他	学習上の留意点 ・積極的な態度で参加すること。 ・グループワークでは、他者の意見を傾聴できること、自分の意見を述べ、考えを整理すること。 ・プレゼンテーションでは、他者にわかりやすく伝える技術および他者の意見を聞き取ることを学ぶ。 ・グループワークの進度に合わせて学習内容を相談し、予習・復習は調整すること。 ・動画「ライティングのための言語トレーニング講座」を各クラスで視聴し、ディスカッションする。講座の課題提出は任意とし、評価には反映しない。視聴する授業回数は変更する場合がある。

予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 15 時間
実務経験を活かした 教育内容	本科目は、教育および研究実績が豊富な教員が担当している。大学において主体的に考え学んでいくための最初の科目である。複数の教員と共に、グループワークを通して、大学では何を学ぶのかに気づき、自らの「問い」をもち、探究する姿勢を培うことを目指す。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-112 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-110-21 （J）	授業コード	HK0917
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.00 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	天野　雅美			必修・選択	必修
担当教員	小沢・樋口			開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	主体的に学ぶ姿勢を身につけるために、大学生活を始めるにあたり大学で学ぶことの意義、主体的に学問を探究していくための基本的な技術について学ぶ。少人数グループのゼミ形式とし、共通課題について討議する場を積極的に設け、多様な視点の気づきから思考を広げ・深めていく方法を学ぶ。さらには、個人またはグループで関心のある課題をとりあげ、その課題について調べ、まとめ、発表し討議することを通して、主体的に学問を探求していく体験を行うとともに能動的に学ぶことの面白さを体験する。				
到達目標	1.駒沢女子大学で学ぶことの意味を考え表現することができる。 2.主体的な学習態度について理解し実践することができる。 3.自由な意見交換の中から価値観の違いに気づき、相互に協力して課題に取り組み、学びを表現することができる。 4.自分で学習課題を見つけ、調べ、まとめた成果を他者にわかりやすく発表することができる。 5.発表内容を振り返り、学習課題をレポートとして記述できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	・基礎ゼミについて全体オリエンテーション 基礎ゼミ担当教員	・基礎ゼミを実施する意義 ・グループメンバーおよび教員との顔合わせ ・基礎ゼミⅠの進め方 プレゼンテーション・討議・使用テキスト ・図書館の利用 ・メールの送受信のマナー	授業方法：講義・演習 予習：テキストの目次の確認及び「１学問の世界へようこそ」P1～7 を精読 復習：オリエンテーションを振り返り「学問とは」について整理する。
2	・駒沢女子大学看護学部の特徴の理解 基礎ゼミ担当教員	・自分をみつめる活動（坐禅） ・他者を知る活動 ・駒沢女子大学の環境を知る活動 ・学園内見学ツアー	授業方法：アクティブ・ラーニング 予習：坐禅とは、その作法について調べる 復習：課題レポート（自己をみつめる活動、他者を知る活動、駒沢女子大学の環境を知る活動について気づいたこと） 提出期限：4 月 21 日（月）9：00 提出先：各 Classroom
3	・駒沢女子大学看護学部の特徴の理解 基礎ゼミ担当教員	・自分をみつめる活動（坐禅） ・他者を知る活動 ・駒沢女子大学の環境を知る活動 ・学園内見学ツアー	授業方法：アクティブ・ラーニング 予習：坐禅とは、その作法について調べる 復習：レポート（自己をみつめる活動、他者を知る活動、駒沢女子大学の環境を知る活動について気づいたこと） 提出期限：4 月 21 日（月）9：00 提出先：各 Classroom
4	・テキスト「２論理的な考え方を学ぶ」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容を討議 ・Work2.1「オリジナルな問いを考える」を実施 グループ内で 2 人 1 組になり、他のグループメンバーにインタビューをする	授業方法：グループワーク、インタビュー 予習：テキスト「２論理的な考え方を学ぶ」P９～24 を精読 復習：ディスカッションを振り返り、「論理的考え方とは」について整理する。
5	・テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」① 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容を討議 ・Work３.1「作文とレポートの違い」を実施	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」P25~39 を精読 復習：ディスカッションを振り返り、「作文とレポートの違い」を P123~124 に整理する。 グループで Work３.2（p32）または 3.3（P45）の宿題のいずれかを選択し、P125～または P127～に整理する。
6	・テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」② 基礎ゼミ担当教員	・5 回の宿題内容の確認 ・テキストに沿って、予習内容を討議 ・ビジュランクラウド：看護情報学 Vol.3「大丈夫？あなたのレポート・論文の作り方」を視聴・討議	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」P40~59 を精読 復習：Work３.４（P58）を P129～130 に整理
7	・文献検索の方法 ・論証型レポートの例 基礎ゼミ担当教員	・6 回の宿題内容の確認 ・ビジュランクラウド：看護情報学 Vol.3「大丈夫？あなたのレポート・論文の作り方」を視聴・討議 ・論証型レポートの例と評価を討議	授業方法：演習、グループワーク 予習：文献検索の方法の確認およびテキスト P60～65 を精読 復習：これまでの内容を振り返りレポートの書き方および引用文献の標記（文中、文末）を整理する。

8	・テキスト「４学びをプランニングする」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容および Work4.1 を討議（KJ 法を用いて整理する）	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「4 学びをプランニングする」P67～82 を精読し、Work4.1（P71）を P131～132 に整理 復習：Work4.5（P80）を P136 に整理
9	・テキスト「5 キャリアをデザインする」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容および Work5.1 を討議	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「5 キャリアをデザインする」P83～101 を精読し、Work5.1（P86）を P137 に整理 復習：討議内容を振り返り自己のキャリアを P138 に整理する。
10	・「自己の問い」の明確化 基礎ゼミ担当教員	・プレゼンテーションに関する動画視聴（15 分） ・グループ内で自己の問いを周知 ・プレゼンテーションに向けた準備	授業方法：グループワーク・個人ワーク 予習：自己の「問い」について文献検索を行い、批判的に文献を読む 復習：他者の意見が得られるように内容を整理する
11	・「大学生のマナー」 基礎ゼミ担当教員	・成人との挨拶や会話、振る舞いなど グループワークをし 2 グループで発表会後に質疑応答	授業方法：グループワーク 予習：社会人としての立ち居振る舞いについて、基本的な態度を調べてくる 復習：他者の意見を理解できるように内容を整理する
12	・プレゼンテーションの準備 基礎ゼミ担当教員	個人ワーク	授業方法：個人ワーク 予習：自己の「問い」について文献を批判的に読み整理する 復習：他者の意見が得られるように内容を整理する
13	・プレゼンテーション 基礎ゼミ担当教員	2 グループで発表会を行い討議	授業方法：プレゼンテーション 予習：自己の「問い」について他者に伝わるように整理する 復習：他者の意見を踏まえ内容を見直す
14	・プレゼンテーション 基礎ゼミ担当教員	2 グループで発表会を行い討議	授業方法：プレゼンテーション 予習：自己の「問い」について他者に伝わるように整理する 復習：他者の意見を踏まえ内容を見直す
15	・まとめ 基礎ゼミ担当教員	授業の総括	授業方法：グループワーク 予習：今までの学びを整理する 復習：課題「プレゼンテーションのテーマ」についてレポートを作成 提出期限：8 月 1 日（金）23：59 提出先：各ゼミの Classroom

授業開始前学習	テキストの全体構成を確認し、内容を把握しておく
授業内課題のフィードバックの方法	授業内でフィードバックする。最後のレポートは、評価後返却する。
テキスト・教材	井下千以子著『大学の学び入門 第 2 版 理論的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』（慶応義塾大学出版会,2020）
参考書	必要時、参考文献を紹介する。
評価の基準と方法	①グループワークの参加度（60%） ②プレゼンテーション内容・態度・質疑応答（20%） ③課題・レポート（20%）

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	○	△				

関連科目	なし
その他	学習上の留意点 ・積極的な態度で参加すること。 ・グループワークでは、他者の意見を傾聴できること、自分の意見を述べ、考えを整理すること。 ・プレゼンテーションでは、他者にわかりやすく伝える技術および他者の意見を聞き取ることを学ぶ。 ・グループワークの進度に合わせて学習内容を相談し、予習・復習は調整すること。 ・動画「ライティングのための言語トレーニング講座」を各クラスで視聴し、ディスカッションする。講座の課題提出は任意とし、評価には反映しない。視聴する授業回数は変更する場合がある。

予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 15 時間
実務経験を活かした 教育内容	本科目は、教育および研究実績が豊富な教員が担当している。大学において主体的に考え学んでいくための最初の科目である。複数の教員と共に、グループワークを通して、大学では何を学ぶのかに気づき、自らの「問い」をもち、探究する姿勢を培うことを目指す。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-112 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-110-21 （J）	授業コード	HK0918
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.00 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	天野　雅美			必修・選択	必修
担当教員	長嶋・西村			開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	主体的に学ぶ姿勢を身につけるために、大学生活を始めるにあたり大学で学ぶことの意義、主体的に学問を探究していくための基本的な技術について学ぶ。少人数グループのゼミ形式とし、共通課題について討議する場を積極的に設け、多様な視点の気づきから思考を広げ・深めていく方法を学ぶ。さらには、個人またはグループで関心のある課題をとりあげ、その課題について調べ、まとめ、発表し討議することを通して、主体的に学問を探求していく体験を行うとともに能動的に学ぶことの面白さを体験する。				
到達目標	1.駒沢女子大学で学ぶことの意味を考え表現することができる。 2.主体的な学習態度について理解し実践することができる。 3.自由な意見交換の中から価値観の違いに気づき、相互に協力して課題に取り組み、学びを表現することができる。 4.自分で学習課題を見つけ、調べ、まとめた成果を他者にわかりやすく発表することができる。 5.発表内容を振り返り、学習課題をレポートとして記述できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	・基礎ゼミについて全体オリエンテーション 基礎ゼミ担当教員	・基礎ゼミを実施する意義 ・グループメンバーおよび教員との顔合わせ ・基礎ゼミⅠの進め方 プレゼンテーション・討議・使用テキスト ・図書館の利用 ・メールの送受信のマナー	授業方法：講義・演習 予習：テキストの目次の確認及び「１学問の世界へようこそ」P1～7 を精読 復習：オリエンテーションを振り返り「学問とは」について整理する。
2	・駒沢女子大学看護学部の特徴の理解 基礎ゼミ担当教員	・自分をみつめる活動（坐禅） ・他者を知る活動 ・駒沢女子大学の環境を知る活動 ・学園内見学ツアー	授業方法：アクティブ・ラーニング 予習：坐禅とは、その作法について調べる 復習：課題レポート（自己をみつめる活動、他者を知る活動、駒沢女子大学の環境を知る活動について気づいたこと） 提出期限：4 月 21 日（月）9：00 提出先：各 Classroom
3	・駒沢女子大学看護学部の特徴の理解 基礎ゼミ担当教員	・自分をみつめる活動（坐禅） ・他者を知る活動 ・駒沢女子大学の環境を知る活動 ・学園内見学ツアー	授業方法：アクティブ・ラーニング 予習：坐禅とは、その作法について調べる 復習：レポート（自己をみつめる活動、他者を知る活動、駒沢女子大学の環境を知る活動について気づいたこと） 提出期限：4 月 21 日（月）9：00 提出先：各 Classroom
4	・テキスト「２論理的な考え方を学ぶ」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容を討議 ・Work2.1「オリジナルな問いを考える」を実施 グループ内で 2 人 1 組になり、他のグループメンバーにインタビューをする	授業方法：グループワーク、インタビュー 予習：テキスト「２論理的な考え方を学ぶ」P９～24 を精読 復習：ディスカッションを振り返り、「論理的考え方とは」について整理する。
5	・テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」① 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容を討議 ・Work３.1「作文とレポートの違い」を実施	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」P25~39 を精読 復習：ディスカッションを振り返り、「作文とレポートの違い」を P123~124 に整理する。 グループで Work３.2（p32）または 3.3（P45）の宿題のいずれかを選択し、P125～または P127～に整理する。
6	・テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」② 基礎ゼミ担当教員	・5 回の宿題内容の確認 ・テキストに沿って、予習内容を討議 ・ビジュランクラウド：看護情報学 Vol.3「大丈夫？あなたのレポート・論文の作り方」を視聴・討議	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」P40~59 を精読 復習：Work３.４（P58）を P129～130 に整理
7	・文献検索の方法 ・論証型レポートの例 基礎ゼミ担当教員	・6 回の宿題内容の確認 ・ビジュランクラウド：看護情報学 Vol.3「大丈夫？あなたのレポート・論文の作り方」を視聴・討議 ・論証型レポートの例と評価を討議	授業方法：演習、グループワーク 予習：文献検索の方法の確認およびテキスト P60～65 を精読 復習：これまでの内容を振り返りレポートの書き方および引用文献の標記（文中、文末）を整理する。

8	・テキスト「４学びをプランニングする」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容および Work4.1 を討議（KJ 法を用いて整理する）	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「4 学びをプランニングする」P67～82 を精読し、Work4.1（P71）を P131～132 に整理 復習：Work4.5（P80）を P136 に整理
9	・テキスト「5 キャリアをデザインする」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容および Work5.1 を討議	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「5 キャリアをデザインする」P83～101 を精読し、Work5.1（P86）を P137 に整理 復習：討議内容を振り返り自己のキャリアを P138 に整理する。
10	・「自己の問い」の明確化 基礎ゼミ担当教員	・プレゼンテーションに関する動画視聴（15 分） ・グループ内で自己の問いを周知 ・プレゼンテーションに向けた準備	授業方法：グループワーク・個人ワーク 予習：自己の「問い」について文献検索を行い、批判的に文献を読む 復習：他者の意見が得られるように内容を整理する
11	・「大学生のマナー」 基礎ゼミ担当教員	・成人との挨拶や会話、振る舞いなど グループワークをし 2 グループで発表会後に質疑応答	授業方法：グループワーク 予習：社会人としての立ち居振る舞いについて、基本的な態度を調べてくる 復習：他者の意見を理解できるように内容を整理する
12	・プレゼンテーションの準備 基礎ゼミ担当教員	個人ワーク	授業方法：個人ワーク 予習：自己の「問い」について文献を批判的に読み整理する 復習：他者の意見が得られるように内容を整理する
13	・プレゼンテーション 基礎ゼミ担当教員	2 グループで発表会を行い討議	授業方法：プレゼンテーション 予習：自己の「問い」について他者に伝わるように整理する 復習：他者の意見を踏まえ内容を見直す
14	・プレゼンテーション 基礎ゼミ担当教員	2 グループで発表会を行い討議	授業方法：プレゼンテーション 予習：自己の「問い」について他者に伝わるように整理する 復習：他者の意見を踏まえ内容を見直す
15	・まとめ 基礎ゼミ担当教員	授業の総括	授業方法：グループワーク 予習：今までの学びを整理する 復習：課題「プレゼンテーションのテーマ」についてレポートを作成 提出期限：8 月 1 日（金）23：59 提出先：各ゼミの Classroom

授業開始前学習	テキストの全体構成を確認し、内容を把握しておく
授業内課題のフィードバックの方法	授業内でフィードバックする。最後のレポートは、評価後返却する。
テキスト・教材	井下千以子著『大学の学び入門 第 2 版 理論的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』（慶応義塾大学出版会,2020）
参考書	必要時、参考文献を紹介する。
評価の基準と方法	①グループワークの参加度（60%） ②プレゼンテーション内容・態度・質疑応答（20%） ③課題・レポート（20%）
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成 他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成 チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成 多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	○	△				

関連科目	なし
その他	学習上の留意点 ・積極的な態度で参加すること。 ・グループワークでは、他者の意見を傾聴できること、自分の意見を述べ、考えを整理すること。 ・プレゼンテーションでは、他者にわかりやすく伝える技術および他者の意見を聞き取ることを学ぶ。 ・グループワークの進度に合わせて学習内容を相談し、予習・復習は調整すること。 ・動画「ライティングのための言語トレーニング講座」を各クラスで視聴し、ディスカッションする。講座の課題提出は任意とし、評価には反映しない。視聴する授業回数は変更する場合がある。

予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 15 時間
実務経験を活かした 教育内容	本科目は、教育および研究実績が豊富な教員が担当している。大学において主体的に考え学んでいくための最初の科目である。複数の教員と共に、グループワークを通して、大学では何を学ぶのかに気づき、自らの「問い」をもち、探究する姿勢を培うことを目指す。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-112 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-110-21 （J）	授業コード	HK0919
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.00 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	天野　雅美			必修・選択	必修
担当教員	中田・北條・松戸			開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	主体的に学ぶ姿勢を身につけるために、大学生活を始めるにあたり大学で学ぶことの意義、主体的に学問を探究していくための基本的な技術について学ぶ。少人数グループのゼミ形式とし、共通課題について討議する場を積極的に設け、多様な視点の気づきから思考を広げ・深めていく方法を学ぶ。さらには、個人またはグループで関心のある課題をとりあげ、その課題について調べ、まとめ、発表し討議することを通して、主体的に学問を探求していく体験を行うとともに能動的に学ぶことの面白さを体験する。				
到達目標	1.駒沢女子大学で学ぶことの意味を考え表現することができる。 2.主体的な学習態度について理解し実践することができる。 3.自由な意見交換の中から価値観の違いに気づき、相互に協力して課題に取り組み、学びを表現することができる。 4.自分で学習課題を見つけ、調べ、まとめた成果を他者にわかりやすく発表することができる。 5.発表内容を振り返り、学習課題をレポートとして記述できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	・基礎ゼミについて全体オリエンテーション 基礎ゼミ担当教員	・基礎ゼミを実施する意義 ・グループメンバーおよび教員との顔合わせ ・基礎ゼミⅠの進め方 プレゼンテーション・討議・使用テキスト ・図書館の利用 ・メールの送受信のマナー	授業方法：講義・演習 予習：テキストの目次の確認及び「１学問の世界へようこそ」P1～7 を精読 復習：オリエンテーションを振り返り「学問とは」について整理する。
2	・駒沢女子大学看護学部の特徴の理解 基礎ゼミ担当教員	・自分をみつめる活動（坐禅） ・他者を知る活動 ・駒沢女子大学の環境を知る活動 ・学園内見学ツアー	授業方法：アクティブ・ラーニング 予習：坐禅とは、その作法について調べる 復習：課題レポート（自己をみつめる活動、他者を知る活動、駒沢女子大学の環境を知る活動について気づいたこと） 提出期限：4 月 21 日（月）9：00 提出先：各 Classroom
3	・駒沢女子大学看護学部の特徴の理解 基礎ゼミ担当教員	・自分をみつめる活動（坐禅） ・他者を知る活動 ・駒沢女子大学の環境を知る活動 ・学園内見学ツアー	授業方法：アクティブ・ラーニング 予習：坐禅とは、その作法について調べる 復習：レポート（自己をみつめる活動、他者を知る活動、駒沢女子大学の環境を知る活動について気づいたこと） 提出期限：4 月 21 日（月）9：00 提出先：各 Classroom
4	・テキスト「２論理的な考え方を学ぶ」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容を討議 ・Work2.1「オリジナルな問いを考える」を実施 グループ内で 2 人 1 組になり、他のグループメンバーにインタビューをする	授業方法：グループワーク、インタビュー 予習：テキスト「２論理的な考え方を学ぶ」P９～24 を精読 復習：ディスカッションを振り返り、「論理的考え方とは」について整理する。
5	・テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」① 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容を討議 ・Work３.1「作文とレポートの違い」を実施	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」P25~39 を精読 復習：ディスカッションを振り返り、「作文とレポートの違い」を P123~124 に整理する。 グループで Work３.2（p32）または 3.3（P45）の宿題のいずれかを選択し、P125～または P127～に整理する。
6	・テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」② 基礎ゼミ担当教員	・5 回の宿題内容の確認 ・テキストに沿って、予習内容を討議 ・ビジュランクラウド：看護情報学 Vol.3「大丈夫？あなたのレポート・論文の作り方」を視聴・討議	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」P40~59 を精読 復習：Work３.４（P58）を P129～130 に整理
7	・文献検索の方法 ・論証型レポートの例 基礎ゼミ担当教員	・6 回の宿題内容の確認 ・ビジュランクラウド：看護情報学 Vol.3「大丈夫？あなたのレポート・論文の作り方」を視聴・討議 ・論証型レポートの例と評価を討議	授業方法：演習、グループワーク 予習：文献検索の方法の確認およびテキスト P60～65 を精読 復習：これまでの内容を振り返りレポートの書き方および引用文献の標記（文中、文末）を整理する。

8	・テキスト「４学びをプランニングする」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容および Work4.1 を討議（KJ 法を用いて整理する）	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「4 学びをプランニングする」P67～82 を精読し、Work4.1（P71）を P131～132 に整理 復習：Work4.5（P80）を P136 に整理
9	・テキスト「5 キャリアをデザインする」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容および Work5.1 を討議	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「5 キャリアをデザインする」P83～101 を精読し、Work5.1（P86）を P137 に整理 復習：討議内容を振り返り自己のキャリアを P138 に整理する。
10	・「自己の問い」の明確化 基礎ゼミ担当教員	・プレゼンテーションに関する動画視聴（15 分） ・グループ内で自己の問いを周知 ・プレゼンテーションに向けた準備	授業方法：グループワーク・個人ワーク 予習：自己の「問い」について文献検索を行い、批判的に文献を読む 復習：他者の意見が得られるように内容を整理する
11	・「大学生のマナー」 基礎ゼミ担当教員	・成人との挨拶や会話、振る舞いなど グループワークをし 2 グループで発表会後に質疑応答	授業方法：グループワーク 予習：社会人としての立ち居振る舞いについて、基本的な態度を調べてくる 復習：他者の意見を理解できるように内容を整理する
12	・プレゼンテーションの準備 基礎ゼミ担当教員	個人ワーク	授業方法：個人ワーク 予習：自己の「問い」について文献を批判的に読み整理する 復習：他者の意見が得られるように内容を整理する
13	・プレゼンテーション 基礎ゼミ担当教員	2 グループで発表会を行い討議	授業方法：プレゼンテーション 予習：自己の「問い」について他者に伝わるように整理する 復習：他者の意見を踏まえ内容を見直す
14	・プレゼンテーション 基礎ゼミ担当教員	2 グループで発表会を行い討議	授業方法：プレゼンテーション 予習：自己の「問い」について他者に伝わるように整理する 復習：他者の意見を踏まえ内容を見直す
15	・まとめ 基礎ゼミ担当教員	授業の総括	授業方法：グループワーク 予習：今までの学びを整理する 復習：課題「プレゼンテーションのテーマ」についてレポートを作成 提出期限：8 月 1 日（金）23：59 提出先：各ゼミの Classroom

授業開始前学習	テキストの全体構成を確認し、内容を把握しておく
授業内課題のフィードバックの方法	授業内でフィードバックする。最後のレポートは、評価後返却する。
テキスト・教材	井下千以子著『大学の学び入門 第 2 版 理論的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』（慶応義塾大学出版会,2020）
参考書	必要時、参考文献を紹介する。
評価の基準と方法	①グループワークの参加度（60%） ②プレゼンテーション内容・態度・質疑応答（20%） ③課題・レポート（20%）
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成 他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成 チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成 多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	○	△				

関連科目	なし
その他	学習上の留意点 ・積極的な態度で参加すること。 ・グループワークでは、他者の意見を傾聴できること、自分の意見を述べ、考えを整理すること。 ・プレゼンテーションでは、他者にわかりやすく伝える技術および他者の意見を聞き取ることを学ぶ。 ・グループワークの進度に合わせて学習内容を相談し、予習・復習は調整すること。 ・動画「ライティングのための言語トレーニング講座」を各クラスで視聴し、ディスカッションする。講座の課題提出は任意とし、評価には反映しない。視聴する授業回数は変更する場合がある。

予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 15 時間
実務経験を活かした 教育内容	本科目は、教育および研究実績が豊富な教員が担当している。大学において主体的に考え学んでいくための最初の科目である。複数の教員と共に、グループワークを通して、大学では何を学ぶのかに気づき、自らの「問い」をもち、探究する姿勢を培うことを目指す。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-112 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-110-21 （J）	授業コード	HK0920
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.00 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	天野　雅美			必修・選択	必修
担当教員	秋田・成瀬			開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	主体的に学ぶ姿勢を身につけるために、大学生活を始めるにあたり大学で学ぶことの意義、主体的に学問を探究していくための基本的な技術について学ぶ。少人数グループのゼミ形式とし、共通課題について討議する場を積極的に設け、多様な視点の気づきから思考を広げ・深めていく方法を学ぶ。さらには、個人またはグループで関心のある課題をとりあげ、その課題について調べ、まとめ、発表し討議することを通して、主体的に学問を探求していく体験を行うとともに能動的に学ぶことの面白さを体験する。				
到達目標	1.駒沢女子大学で学ぶことの意味を考え表現することができる。 2.主体的な学習態度について理解し実践することができる。 3.自由な意見交換の中から価値観の違いに気づき、相互に協力して課題に取り組み、学びを表現することができる。 4.自分で学習課題を見つけ、調べ、まとめた成果を他者にわかりやすく発表することができる。 5.発表内容を振り返り、学習課題をレポートとして記述できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	・基礎ゼミについて全体オリエンテーション 基礎ゼミ担当教員	・基礎ゼミを実施する意義 ・グループメンバーおよび教員との顔合わせ ・基礎ゼミⅠの進め方 プレゼンテーション・討議・使用テキスト ・図書館の利用 ・メールの送受信のマナー	授業方法：講義・演習 予習：テキストの目次の確認及び「１学問の世界へようこそ」P1～7 を精読 復習：オリエンテーションを振り返り「学問とは」について整理する。
2	・駒沢女子大学看護学部の特徴の理解 基礎ゼミ担当教員	・自分をみつめる活動（坐禅） ・他者を知る活動 ・駒沢女子大学の環境を知る活動 ・学園内見学ツアー	授業方法：アクティブ・ラーニング 予習：坐禅とは、その作法について調べる 復習：課題レポート（自己をみつめる活動、他者を知る活動、駒沢女子大学の環境を知る活動について気づいたこと） 提出期限：4 月 21 日（月）9：00 提出先：各 Classroom
3	・駒沢女子大学看護学部の特徴の理解 基礎ゼミ担当教員	・自分をみつめる活動（坐禅） ・他者を知る活動 ・駒沢女子大学の環境を知る活動 ・学園内見学ツアー	授業方法：アクティブ・ラーニング 予習：坐禅とは、その作法について調べる 復習：レポート（自己をみつめる活動、他者を知る活動、駒沢女子大学の環境を知る活動について気づいたこと） 提出期限：4 月 21 日（月）9：00 提出先：各 Classroom
4	・テキスト「２論理的な考え方を学ぶ」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容を討議 ・Work2.1「オリジナルな問いを考える」を実施 グループ内で 2 人 1 組になり、他のグループメンバーにインタビューをする	授業方法：グループワーク、インタビュー 予習：テキスト「２論理的な考え方を学ぶ」P９～24 を精読 復習：ディスカッションを振り返り、「論理的考え方とは」について整理する。
5	・テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」① 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容を討議 ・Work３.1「作文とレポートの違い」を実施	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」P25~39 を精読 復習：ディスカッションを振り返り、「作文とレポートの違い」を P123~124 に整理する。 グループで Work３.2（p32）または 3.3（P45）の宿題のいずれかを選択し、P125～または P127～に整理する。
6	・テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」② 基礎ゼミ担当教員	・5 回の宿題内容の確認 ・テキストに沿って、予習内容を討議 ・ビジュランクラウド：看護情報学 Vol.3「大丈夫？あなたのレポート・論文の作り方」を視聴・討議	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」P40~59 を精読 復習：Work３.４（P58）を P129～130 に整理
7	・文献検索の方法 ・論証型レポートの例 基礎ゼミ担当教員	・6 回の宿題内容の確認 ・ビジュランクラウド：看護情報学 Vol.3「大丈夫？あなたのレポート・論文の作り方」を視聴・討議 ・論証型レポートの例と評価を討議	授業方法：演習、グループワーク 予習：文献検索の方法の確認およびテキスト P60～65 を精読 復習：これまでの内容を振り返りレポートの書き方および引用文献の標記（文中、文末）を整理する。

8	・テキスト「４学びをプランニングする」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容および Work4.1 を討議（KJ 法を用いて整理する）	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「4 学びをプランニングする」P67～82 を精読し、Work4.1（P71）を P131～132 に整理 復習：Work4.5（P80）を P136 に整理
9	・テキスト「5 キャリアをデザインする」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容および Work5.1 を討議	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「5 キャリアをデザインする」P83～101 を精読し、Work5.1（P86）を P137 に整理 復習：討議内容を振り返り自己のキャリアを P138 に整理する。
10	・「自己の問い」の明確化 基礎ゼミ担当教員	・プレゼンテーションに関する動画視聴（15 分） ・グループ内で自己の問いを周知 ・プレゼンテーションに向けた準備	授業方法：グループワーク・個人ワーク 予習：自己の「問い」について文献検索を行い、批判的に文献を読む 復習：他者の意見が得られるように内容を整理する
11	・「大学生のマナー」 基礎ゼミ担当教員	・成人との挨拶や会話、振る舞いなど グループワークをし 2 グループで発表会後に質疑応答	授業方法：グループワーク 予習：社会人としての立ち居振る舞いについて、基本的な態度を調べてくる 復習：他者の意見を理解できるように内容を整理する
12	・プレゼンテーションの準備 基礎ゼミ担当教員	個人ワーク	授業方法：個人ワーク 予習：自己の「問い」について文献を批判的に読み整理する 復習：他者の意見が得られるように内容を整理する
13	・プレゼンテーション 基礎ゼミ担当教員	2 グループで発表会を行い討議	授業方法：プレゼンテーション 予習：自己の「問い」について他者に伝わるように整理する 復習：他者の意見を踏まえ内容を見直す
14	・プレゼンテーション 基礎ゼミ担当教員	2 グループで発表会を行い討議	授業方法：プレゼンテーション 予習：自己の「問い」について他者に伝わるように整理する 復習：他者の意見を踏まえ内容を見直す
15	・まとめ 基礎ゼミ担当教員	授業の総括	授業方法：グループワーク 予習：今までの学びを整理する 復習：課題「プレゼンテーションのテーマ」についてレポートを作成 提出期限：8 月 1 日（金）23：59 提出先：各ゼミの Classroom

授業開始前学習	テキストの全体構成を確認し、内容を把握しておく
授業内課題のフィードバックの方法	授業内でフィードバックする。最後のレポートは、評価後返却する。
テキスト・教材	井下千以子著『大学の学び入門 第 2 版 理論的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』（慶応義塾大学出版会,2020）
参考書	必要時、参考文献を紹介する。
評価の基準と方法	①グループワークの参加度（60%） ②プレゼンテーション内容・態度・質疑応答（20%） ③課題・レポート（20%）

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	○	△				

関連科目	なし
その他	学習上の留意点 ・積極的な態度で参加すること。 ・グループワークでは、他者の意見を傾聴できること、自分の意見を述べ、考えを整理すること。 ・プレゼンテーションでは、他者にわかりやすく伝える技術および他者の意見を聞き取ることを学ぶ。 ・グループワークの進度に合わせて学習内容を相談し、予習・復習は調整すること。 ・動画「ライティングのための言語トレーニング講座」を各クラスで視聴し、ディスカッションする。講座の課題提出は任意とし、評価には反映しない。視聴する授業回数は変更する場合がある。

予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 15 時間
実務経験を活かした 教育内容	本科目は、教育および研究実績が豊富な教員が担当している。大学において主体的に考え学んでいくための最初の科目である。複数の教員と共に、グループワークを通して、大学では何を学ぶのかに気づき、自らの「問い」をもち、探究する姿勢を培うことを目指す。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-112 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-110-21 （J）	授業コード	HK0921
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.00 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	天野　雅美			必修・選択	必修
担当教員	大久保・髙田			開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	主体的に学ぶ姿勢を身につけるために、大学生活を始めるにあたり大学で学ぶことの意義、主体的に学問を探究していくための基本的な技術について学ぶ。少人数グループのゼミ形式とし、共通課題について討議する場を積極的に設け、多様な視点の気づきから思考を広げ・深めていく方法を学ぶ。さらには、個人またはグループで関心のある課題をとりあげ、その課題について調べ、まとめ、発表し討議することを通して、主体的に学問を探求していく体験を行うとともに能動的に学ぶことの面白さを体験する。				
到達目標	1.駒沢女子大学で学ぶことの意味を考え表現することができる。 2.主体的な学習態度について理解し実践することができる。 3.自由な意見交換の中から価値観の違いに気づき、相互に協力して課題に取り組み、学びを表現することができる。 4.自分で学習課題を見つけ、調べ、まとめた成果を他者にわかりやすく発表することができる。 5.発表内容を振り返り、学習課題をレポートとして記述できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	・基礎ゼミについて全体オリエンテーション 基礎ゼミ担当教員	・基礎ゼミを実施する意義 ・グループメンバーおよび教員との顔合わせ ・基礎ゼミⅠの進め方 プレゼンテーション・討議・使用テキスト ・図書館の利用 ・メールの送受信のマナー	授業方法：講義・演習 予習：テキストの目次の確認及び「１学問の世界へようこそ」P1～7 を精読 復習：オリエンテーションを振り返り「学問とは」について整理する。
2	・駒沢女子大学看護学部の特徴の理解 基礎ゼミ担当教員	・自分をみつめる活動（坐禅） ・他者を知る活動 ・駒沢女子大学の環境を知る活動 ・学園内見学ツアー	授業方法：アクティブ・ラーニング 予習：坐禅とは、その作法について調べる 復習：課題レポート（自己をみつめる活動、他者を知る活動、駒沢女子大学の環境を知る活動について気づいたこと） 提出期限：4 月 21 日（月）9：00 提出先：各 Classroom
3	・駒沢女子大学看護学部の特徴の理解 基礎ゼミ担当教員	・自分をみつめる活動（坐禅） ・他者を知る活動 ・駒沢女子大学の環境を知る活動 ・学園内見学ツアー	授業方法：アクティブ・ラーニング 予習：坐禅とは、その作法について調べる 復習：レポート（自己をみつめる活動、他者を知る活動、駒沢女子大学の環境を知る活動について気づいたこと） 提出期限：4 月 21 日（月）9：00 提出先：各 Classroom
4	・テキスト「２論理的な考え方を学ぶ」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容を討議 ・Work2.1「オリジナルな問いを考える」を実施 グループ内で 2 人 1 組になり、他のグループメンバーにインタビューをする	授業方法：グループワーク、インタビュー 予習：テキスト「２論理的な考え方を学ぶ」P９～24 を精読 復習：ディスカッションを振り返り、「論理的考え方とは」について整理する。
5	・テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」① 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容を討議 ・Work３.1「作文とレポートの違い」を実施	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」P25~39 を精読 復習：ディスカッションを振り返り、「作文とレポートの違い」を P123~124 に整理する。 グループで Work３.2（p32）または 3.3（P45）の宿題のいずれかを選択し、P125～または P127～に整理する。
6	・テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」② 基礎ゼミ担当教員	・5 回の宿題内容の確認 ・テキストに沿って、予習内容を討議 ・ビジュランクラウド：看護情報学 Vol.3「大丈夫？あなたのレポート・論文の作り方」を視聴・討議	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」P40~59 を精読 復習：Work３.４（P58）を P129～130 に整理
7	・文献検索の方法 ・論証型レポートの例 基礎ゼミ担当教員	・6 回の宿題内容の確認 ・ビジュランクラウド：看護情報学 Vol.3「大丈夫？あなたのレポート・論文の作り方」を視聴・討議 ・論証型レポートの例と評価を討議	授業方法：演習、グループワーク 予習：文献検索の方法の確認およびテキスト P60～65 を精読 復習：これまでの内容を振り返りレポートの書き方および引用文献の標記（文中、文末）を整理する。

8	・テキスト「４学びをプランニングする」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容および Work4.1 を討議（KJ 法を用いて整理する）	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「4 学びをプランニングする」P67～82 を精読し、Work4.1（P71）を P131～132 に整理 復習：Work4.5（P80）を P136 に整理
9	・テキスト「5 キャリアをデザインする」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容および Work5.1 を討議	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「5 キャリアをデザインする」P83～101 を精読し、Work5.1（P86）を P137 に整理 復習：討議内容を振り返り自己のキャリアを P138 に整理する。
10	・「自己の問い」の明確化 基礎ゼミ担当教員	・プレゼンテーションに関する動画視聴（15 分） ・グループ内で自己の問いを周知 ・プレゼンテーションに向けた準備	授業方法：グループワーク・個人ワーク 予習：自己の「問い」について文献検索を行い、批判的に文献を読む 復習：他者の意見が得られるように内容を整理する
11	・「大学生のマナー」 基礎ゼミ担当教員	・成人との挨拶や会話、振る舞いなど グループワークをし 2 グループで発表会後に質疑応答	授業方法：グループワーク 予習：社会人としての立ち居振る舞いについて、基本的な態度を調べてくる 復習：他者の意見を理解できるように内容を整理する
12	・プレゼンテーションの準備 基礎ゼミ担当教員	個人ワーク	授業方法：個人ワーク 予習：自己の「問い」について文献を批判的に読み整理する 復習：他者の意見が得られるように内容を整理する
13	・プレゼンテーション 基礎ゼミ担当教員	2 グループで発表会を行い討議	授業方法：プレゼンテーション 予習：自己の「問い」について他者に伝わるように整理する 復習：他者の意見を踏まえ内容を見直す
14	・プレゼンテーション 基礎ゼミ担当教員	2 グループで発表会を行い討議	授業方法：プレゼンテーション 予習：自己の「問い」について他者に伝わるように整理する 復習：他者の意見を踏まえ内容を見直す
15	・まとめ 基礎ゼミ担当教員	授業の総括	授業方法：グループワーク 予習：今までの学びを整理する 復習：課題「プレゼンテーションのテーマ」についてレポートを作成 提出期限：8 月 1 日（金）23：59 提出先：各ゼミの Classroom

授業開始前学習	テキストの全体構成を確認し、内容を把握しておく
授業内課題のフィードバックの方法	授業内でフィードバックする。最後のレポートは、評価後返却する。
テキスト・教材	井下千以子著『大学の学び入門 第 2 版 理論的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』（慶応義塾大学出版会,2020）
参考書	必要時、参考文献を紹介する。
評価の基準と方法	①グループワークの参加度（60%） ②プレゼンテーション内容・態度・質疑応答（20%） ③課題・レポート（20%）

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	○	△				

関連科目	なし
その他	学習上の留意点 ・積極的な態度で参加すること。 ・グループワークでは、他者の意見を傾聴できること、自分の意見を述べ、考えを整理すること。 ・プレゼンテーションでは、他者にわかりやすく伝える技術および他者の意見を聞き取ることを学ぶ。 ・グループワークの進度に合わせて学習内容を相談し、予習・復習は調整すること。 ・動画「ライティングのための言語トレーニング講座」を各クラスで視聴し、ディスカッションする。講座の課題提出は任意とし、評価には反映しない。視聴する授業回数は変更する場合がある。

予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 15 時間
実務経験を活かした 教育内容	本科目は、教育および研究実績が豊富な教員が担当している。大学において主体的に考え学んでいくための最初の科目である。複数の教員と共に、グループワークを通して、大学では何を学ぶのかに気づき、自らの「問い」をもち、探究する姿勢を培うことを目指す。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-112 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-110-21 （J）	授業コード	HK0922
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.00 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	天野　雅美			必修・選択	必修
担当教員	那須野・野村			開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	主体的に学ぶ姿勢を身につけるために、大学生活を始めるにあたり大学で学ぶことの意義、主体的に学問を探究していくための基本的な技術について学ぶ。少人数グループのゼミ形式とし、共通課題について討議する場を積極的に設け、多様な視点の気づきから思考を広げ・深めていく方法を学ぶ。さらには、個人またはグループで関心のある課題をとりあげ、その課題について調べ、まとめ、発表し討議することを通して、主体的に学問を探求していく体験を行うとともに能動的に学ぶことの面白さを体験する。				
到達目標	1.駒沢女子大学で学ぶことの意味を考え表現することができる。 2.主体的な学習態度について理解し実践することができる。 3.自由な意見交換の中から価値観の違いに気づき、相互に協力して課題に取り組み、学びを表現することができる。 4.自分で学習課題を見つけ、調べ、まとめた成果を他者にわかりやすく発表することができる。 5.発表内容を振り返り、学習課題をレポートとして記述できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	・基礎ゼミについて全体オリエンテーション 基礎ゼミ担当教員	・基礎ゼミを実施する意義 ・グループメンバーおよび教員との顔合わせ ・基礎ゼミⅠの進め方 プレゼンテーション・討議・使用テキスト ・図書館の利用 ・メールの送受信のマナー	授業方法：講義・演習 予習：テキストの目次の確認及び「１学問の世界へようこそ」P1～7 を精読 復習：オリエンテーションを振り返り「学問とは」について整理する。
2	・駒沢女子大学看護学部の特徴の理解 基礎ゼミ担当教員	・自分をみつめる活動（坐禅） ・他者を知る活動 ・駒沢女子大学の環境を知る活動 ・学園内見学ツアー	授業方法：アクティブ・ラーニング 予習：坐禅とは、その作法について調べる 復習：課題レポート（自己をみつめる活動、他者を知る活動、駒沢女子大学の環境を知る活動について気づいたこと） 提出期限：4 月 21 日（月）9：00 提出先：各 Classroom
3	・駒沢女子大学看護学部の特徴の理解 基礎ゼミ担当教員	・自分をみつめる活動（坐禅） ・他者を知る活動 ・駒沢女子大学の環境を知る活動 ・学園内見学ツアー	授業方法：アクティブ・ラーニング 予習：坐禅とは、その作法について調べる 復習：レポート（自己をみつめる活動、他者を知る活動、駒沢女子大学の環境を知る活動について気づいたこと） 提出期限：4 月 21 日（月）9：00 提出先：各 Classroom
4	・テキスト「２論理的な考え方を学ぶ」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容を討議 ・Work2.1「オリジナルな問いを考える」を実施 グループ内で 2 人 1 組になり、他のグループメンバーにインタビューをする	授業方法：グループワーク、インタビュー 予習：テキスト「２論理的な考え方を学ぶ」P９～24 を精読 復習：ディスカッションを振り返り、「論理的考え方とは」について整理する。
5	・テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」① 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容を討議 ・Work３.1「作文とレポートの違い」を実施	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」P25~39 を精読 復習：ディスカッションを振り返り、「作文とレポートの違い」を P123~124 に整理する。 グループで Work３.2（p32）または 3.3（P45）の宿題のいずれかを選択し、P125～または P127～に整理する。
6	・テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」② 基礎ゼミ担当教員	・5 回の宿題内容の確認 ・テキストに沿って、予習内容を討議 ・ビジュランクラウド：看護情報学 Vol.3「大丈夫？あなたのレポート・論文の作り方」を視聴・討議	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「３レポートの書き方の基本を学ぶ」P40~59 を精読 復習：Work３.４（P58）を P129～130 に整理
7	・文献検索の方法 ・論証型レポートの例 基礎ゼミ担当教員	・6 回の宿題内容の確認 ・ビジュランクラウド：看護情報学 Vol.3「大丈夫？あなたのレポート・論文の作り方」を視聴・討議 ・論証型レポートの例と評価を討議	授業方法：演習、グループワーク 予習：文献検索の方法の確認およびテキスト P60～65 を精読 復習：これまでの内容を振り返りレポートの書き方および引用文献の標記（文中、文末）を整理する。

8	・テキスト「４学びをプランニングする」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容および Work4.1 を討議（KJ 法を用いて整理する）	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「4 学びをプランニングする」P67～82 を精読し、Work4.1（P71）を P131～132 に整理 復習：Work4.5（P80）を P136 に整理
9	・テキスト「5 キャリアをデザインする」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容および Work5.1 を討議	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「5 キャリアをデザインする」P83～101 を精読し、Work5.1（P86）を P137 に整理 復習：討議内容を振り返り自己のキャリアを P138 に整理する。
10	・「自己の問い」の明確化 基礎ゼミ担当教員	・プレゼンテーションに関する動画視聴（15 分） ・グループ内で自己の問いを周知 ・プレゼンテーションに向けた準備	授業方法：グループワーク・個人ワーク 予習：自己の「問い」について文献検索を行い、批判的に文献を読む 復習：他者の意見が得られるように内容を整理する
11	・「大学生のマナー」 基礎ゼミ担当教員	・成人との挨拶や会話、振る舞いなど グループワークをし 2 グループで発表会後に質疑応答	授業方法：グループワーク 予習：社会人としての立ち居振る舞いについて、基本的な態度を調べてくる 復習：他者の意見を理解できるように内容を整理する
12	・プレゼンテーションの準備 基礎ゼミ担当教員	個人ワーク	授業方法：個人ワーク 予習：自己の「問い」について文献を批判的に読み整理する 復習：他者の意見が得られるように内容を整理する
13	・プレゼンテーション 基礎ゼミ担当教員	2 グループで発表会を行い討議	授業方法：プレゼンテーション 予習：自己の「問い」について他者に伝わるように整理する 復習：他者の意見を踏まえ内容を見直す
14	・プレゼンテーション 基礎ゼミ担当教員	2 グループで発表会を行い討議	授業方法：プレゼンテーション 予習：自己の「問い」について他者に伝わるように整理する 復習：他者の意見を踏まえ内容を見直す
15	・まとめ 基礎ゼミ担当教員	授業の総括	授業方法：グループワーク 予習：今までの学びを整理する 復習：課題「プレゼンテーションのテーマ」についてレポートを作成 提出期限：8 月 1 日（金）23：59 提出先：各ゼミの Classroom

授業開始前学習	テキストの全体構成を確認し、内容を把握しておく
授業内課題のフィードバックの方法	授業内でフィードバックする。最後のレポートは、評価後返却する。
テキスト・教材	井下千以子著『大学の学び入門 第 2 版 理論的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』（慶応義塾大学出版会,2020）
参考書	必要時、参考文献を紹介する。
評価の基準と方法	①グループワークの参加度（60%） ②プレゼンテーション内容・態度・質疑応答（20%） ③課題・レポート（20%）

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	○	△				

関連科目	なし
その他	学習上の留意点 ・積極的な態度で参加すること。 ・グループワークでは、他者の意見を傾聴できること、自分の意見を述べ、考えを整理すること。 ・プレゼンテーションでは、他者にわかりやすく伝える技術および他者の意見を聞き取ることを学ぶ。 ・グループワークの進度に合わせて学習内容を相談し、予習・復習は調整すること。 ・動画「ライティングのための言語トレーニング講座」を各クラスで視聴し、ディスカッションする。講座の課題提出は任意とし、評価には反映しない。視聴する授業回数は変更する場合がある。

予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 15 時間
実務経験を活かした 教育内容	本科目は、教育および研究実績が豊富な教員が担当している。大学において主体的に考え学んでいくための最初の科目である。複数の教員と共に、グループワークを通して、大学では何を学ぶのかに気づき、自らの「問い」をもち、探究する姿勢を培うことを目指す。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-112 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-110-21 （J）	授業コード	HK0961
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.00 単位
英文名称	Freshmen SeminarⅡ			授業区分	演習
科目責任者	天野　雅美			必修･選択	必修
担当教員	淺賀･天野･髙山			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	基礎ゼミⅠでの学びを受けて、主体的に学ぶ姿勢を身につけるために、基礎ゼミⅡでは、学生が主体となって大学での学びを充実させるための技術と姿勢を学ぶ。具体的には、基礎ゼミⅠで学んだ学問の探求方法を活用して、「個人の関心のあるテーマを設定する」「そのテーマについての文献検索を行って文献を熟読する」「熟読した結果わかったことを小論文としてまとめる」「まとめたことを発表し、討議する」という体験をする。この体験を通して、基礎ゼミⅠで体験した主体的に学問を探求し、能動的に学ぶことの面白さをよりいっそう体得する。				
到達目標	1. 日常生活において、様々な場面で興味･関心をもち、疑問をもつことができる。 2. 看護研究計画発表会に参加した気づきを活かし、課題図書の中から興味･関心･疑問について問いを立てることができる。 3. 自ら立てた「問い」について、能動的に調べることができる。 4. 調べた内容を整理･分析し、プレゼンテーションすることができる。 5. プレゼンテーションに対して討議し、再考することができる。 6. グループメンバーと協力して課題に取り組み、自己の考えを表現することができる。 7. グループメンバーとの				
アクティブ･ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目･担当者	学修内容	授業方法（アクティブ･ラーニング）･予習･復習･レポートなどの課題
1	･基礎ゼミⅡオリエンテーション 基礎ゼミⅡ担当教員	･基礎ゼミⅡ　全体オリエンテーション ･4 年生看護研究発表会への参加について ･担当教員と課題図書の検討、役割分担	授業方法：講義･グループワーク 予習：基礎ゼミⅠの見直し 前期で大学生として学んだこと 復習：課題図書の準備
2	･課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議①	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の概要把握 復習：課題図書に関連した資料収集
3	･課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議②	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べ資料を準備する 復習：課題図書に関連した資料収集と整理
4	･課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議③	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べ資料を準備する 復習：課題図書に関連した資料収集と整理
5	･看護研究発表会への参加：10 月 11 日(土) (午前：1～6G) 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅠでの学びと実際の照合	授業方法：研究発表会への参加 予習：看護研究計画書について調べる 復習：看護研究発表会に参加しての振り返り 提出課題：「看護研究発表会に参加しての気づき」 締切：10 月 17 日（金） 23：59 提出先：各ゼミの Classroom
6	看護研究発表会への参加 (午後：7～12G) 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅠでの学びと実際の照合	授業方法：研究発表会への参加 予習：看護研究計画書について調べる 復習：看護研究発表会に参加しての振り返り 提出課題：「看護研究発表会に参加しての気づき」 締切：10 月 17 日（金） 23：59 提出先：各ゼミの Classroom
7	住空間デザイン学生と健康栄養学科学生との協同学習① 基礎ゼミⅡ担当教員	テーマ（健康と環境と食）について討議･まとめ	授業方法：グループワーク･中間発表 予習：健康と環境と食の共通点や関連性を調べる 復習：GW の振り返り
8	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議④	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べプレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
9	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議⑤	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べプレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく

10	住空間デザイン学生と健康栄養学科学生との協同学習② 基礎ゼミⅡ担当教員	テーマ（健康と環境と食）について討議・まとめ	授業方法：グループワーク・発表 予習： 第 7 回目の協同学修の振り返り 復習：GW の振り返り 提出課題 ：7・10 回の他学部学生との協同学習を通しての学び 締切：1 1 月 14 日（金）23：59 提出先：各ゼミの Classroom
11	課題図書の討議	プレゼンテーション・討議⑥	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
12	課題図書の討議	プレゼンテーション・討議⑦	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
13	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議⑧	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
14	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議⑨	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
15	基礎ゼミⅡまとめ 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅡの振り返り	授業方法：グループワーク 予習：基礎セミⅡの振り返り 復習：他者の意見も踏まえ「問い」の内容を見直す 小論文の提出期限：2025 年 1 月 16 日（金）23：59 提出先：Classroom

授業開始前学習	基礎ゼミⅠで使用したテキストおよび学びの内容を見直す。							
授業内課題のフィードバックの方法	その都度、返却する。小論文は評価後に返却する。							
テキスト・教材	・井下千以子著『大学の学び入門 第 2 版 理論的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』（慶応義塾大学出版会,2020) ・グループで決定した課題図書							
参考書	適宜、ゼミグループで検討する。							
評価の基準と方法	1 グループワークへの参加度（50%） 2 課題（課題図書プレゼンテーション・看護研究計画発表会・他学部との協同学習）（30%） 3 小論文（20%）							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	○	△				
関連科目	基礎ゼミⅠ							
その他	学習上の留意点 ・進め方については、到達目標の達成に向けてグループで検討してきめること。 ・りんどう祭にて開催される看護研究発表会への出席は、基礎ゼミⅡの授業 2 回分に該当するため、必ず出席すること。 ・他学部・学類の学生との協同学習の機会が、有益な学びの場となるように積極的に参加すること。 ・課外活動を取り入れる場合には、3 週間前に「学外活動届」の提出が必要なため 早めに計画を立てること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 15 時間							
実務経験を活かした教育内容	本科目は、教育および研究実績が豊富な教員が担当している。前期の基礎ゼミⅠに引き続いて、主体的に考え学びを深めるための科目である。あらたな「問い」を見つけ、知ること・わかることを楽しむとともに、他者に伝える技術と姿勢を培う。また、他学部・学類の学生と学びの場を共有することにより、視点の違いや共通点などを知ると共に、社会的ネットワーキングを拡げる機会とする。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-112 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-110-21 （J）	授業コード	HK0962
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.00 単位
英文名称	Freshmen SeminarⅡ			授業区分	演習
科目責任者	天野 雅美			必修・選択	必修
担当教員	武田・水野			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	基礎ゼミⅠでの学びを受けて、主体的に学ぶ姿勢を身につけるために、基礎ゼミⅡでは、学生が主体となって大学での学びを充実させるための技術と姿勢を学ぶ。具体的には、基礎ゼミⅠで学んだ学問の探求方法を活用して、「個人の関心のあるテーマを設定する」「そのテーマについての文献検索を行って文献を熟読する」「熟読した結果わかったことを小論文としてまとめる」「まとめたことを発表し、討議する」という体験をする。この体験を通して、基礎ゼミⅠで体験した主体的に学問を探求し、能動的に学ぶことの面白さをよりいっそう体得する。				
到達目標	1. 日常生活において、様々な場面で興味・関心をもち、疑問をもつことができる。 2. 看護研究計画発表会に参加した気づきを活かし、課題図書の中から興味・関心・疑問について問いを立てることができる。 3. 自ら立てた「問い」について、能動的に調べることができる。 4. 調べた内容を整理・分析し、プレゼンテーションすることができる。 5. プレゼンテーションに対して討議し、再考することができる。 6. グループメンバーと協力して課題に取り組み、自己の考えを表現することができる。 7. グループメンバーとの				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	・基礎ゼミⅡオリエンテーション 基礎ゼミⅡ担当教員	・基礎ゼミⅡ 全体オリエンテーション ・4 年生看護研究発表会への参加について ・担当教員と課題図書の検討、役割分担	授業方法：講義・グループワーク 予習：基礎ゼミⅠの見直し 前期で大学生として学んだこと 復習：課題図書の準備
2	・課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議①	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の概要把握 復習：課題図書に関連した資料収集
3	・課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議②	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べ資料を準備する 復習：課題図書に関連した資料収集と整理
4	・課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議③	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べ資料を準備する 復習：課題図書に関連した資料収集と整理
5	・看護研究発表会への参加：10 月 11 日(土) (午前：1～6G) 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅠでの学びと実際の照合	授業方法：研究発表会への参加 予習：看護研究計画書について調べる 復習：看護研究発表会に参加しての振り返り 提出課題：「看護研究発表会に参加しての気づき」 締切：10 月 17 日（金） 23：59 提出先：各ゼミの Classroom
6	看護研究発表会への参加 (午後：7～12G) 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅠでの学びと実際の照合	授業方法：研究発表会への参加 予習：看護研究計画書について調べる 復習：看護研究発表会に参加しての振り返り 提出課題：「看護研究発表会に参加しての気づき」 締切：10 月 17 日（金） 23：59 提出先：各ゼミの Classroom
7	住空間デザイン学生と健康栄養学科学生との協同学習① 基礎ゼミⅡ担当教員	テーマ（健康と環境と食）について討議・まとめ	授業方法：グループワーク・中間発表 予習：健康と環境と食の共通点や関連性を調べる 復習：GW の振り返り
8	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議④	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べプレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
9	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議⑤	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べプレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく

10	住空間デザイン学生と健康栄養学科学生との協同学習② 基礎ゼミⅡ担当教員	テーマ（健康と環境と食）について討議・まとめ	授業方法：グループワーク・発表 予習： 第７回目の協同学修の振り返り 復習：GW の振り返り 提出課題 ：７・10 回の他学部学生との協同学習を通しての学び 締切：１１月 14 日（金）23：59 提出先：各ゼミの Classroom
11	課題図書の討議	プレゼンテーション・討議⑥	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
12	課題図書の討議	プレゼンテーション・討議⑦	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
13	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議⑧	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
14	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議⑨	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
15	基礎ゼミⅡまとめ 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅡの振り返り	授業方法：グループワーク 予習：基礎セミⅡの振り返り 復習：他者の意見も踏まえ「問い」の内容を見直す 小論文の提出期限：2025 年 1 月 16 日（金）23：59 提出先：Classroom

授業開始前学習	基礎ゼミⅠで使用したテキストおよび学びの内容を見直す。							
授業内課題のフィードバックの方法	その都度、返却する。小論文は評価後に返却する。							
テキスト・教材	・井下千以子著『大学の学び入門 第 2 版 理論的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』（慶応義塾大学出版会,2020) ・グループで決定した課題図書							
参考書	適宜、ゼミグループで検討する。							
評価の基準と方法	1 グループワークへの参加度（50%） 2 課題（課題図書プレゼンテーション・看護研究計画発表会・他学部との協同学習）（30%） 3 小論文（20%）							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	○	△				
関連科目	基礎ゼミⅠ							
その他	学習上の留意点 ・進め方については、到達目標の達成に向けてグループで検討してきめること。 ・りんどう祭にて開催される看護研究発表会への出席は、基礎ゼミⅡの授業 2 回分に該当するため、必ず出席すること。 ・他学部・学類の学生との協同学習の機会が、有益な学びの場となるように積極的に参加すること。 ・課外活動を取り入れる場合には、3 週間前に「学外活動届」の提出が必要なため 早めに計画を立てること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 15 時間							
実務経験を活かした教育内容	本科目は、教育および研究実績が豊富な教員が担当している。前期の基礎ゼミⅠに引き続いて、主体的に考え学びを深めるための科目である。あらたな「問い」を見つけ、知ること・わかることを楽しむとともに、他者に伝える技術と姿勢を培う。また、他学部・学類の学生と学びの場を共有することにより、視点の違いや共通点などを知ると共に、社会的ネットワーキングを拡げる機会とする。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-112 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-110-21 （J）	授業コード	HK0963
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.00 単位
英文名称	Freshmen SeminarⅡ			授業区分	演習
科目責任者	天野 雅美			必修･選択	必修
担当教員	室井･吉野			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	基礎ゼミⅠでの学びを受けて、主体的に学ぶ姿勢を身につけるために、基礎ゼミⅡでは、学生が主体となって大学での学びを充実させるための技術と姿勢を学ぶ。具体的には、基礎ゼミⅠで学んだ学問の探求方法を活用して、「個人の関心のあるテーマを設定する」「そのテーマについての文献検索を行って文献を熟読する」「熟読した結果わかったことを小論文としてまとめる」「まとめたことを発表し、討議する」という体験をする。この体験を通して、基礎ゼミⅠで体験した主体的に学問を探求し、能動的に学ぶことの面白さをよりいっそう体得する。				
到達目標	1. 日常生活において、様々な場面で興味･関心をもち、疑問をもつことができる。 2. 看護研究計画発表会に参加した気づきを活かし、課題図書の中から興味･関心･疑問について問いを立てることができる。 3. 自ら立てた「問い」について、能動的に調べることができる。 4. 調べた内容を整理･分析し、プレゼンテーションすることができる。 5. プレゼンテーションに対して討議し、再考することができる。 6. グループメンバーと協力して課題に取り組み、自己の考えを表現することができる。 7. グループメンバーとの				
アクティブ･ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目･担当者	学修内容	授業方法（アクティブ･ラーニング）･予習･復習･レポートなどの課題
1	･基礎ゼミⅡオリエンテーション 基礎ゼミⅡ担当教員	･基礎ゼミⅡ 全体オリエンテーション ･4 年生看護研究発表会への参加について ･担当教員と課題図書の検討、役割分担	授業方法：講義･グループワーク 予習：基礎ゼミⅠの見直し 前期で大学生として学んだこと 復習：課題図書の準備
2	･課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議①	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の概要把握 復習：課題図書に関連した資料収集
3	･課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議②	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べ資料を準備する 復習：課題図書に関連した資料収集と整理
4	･課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議③	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べ資料を準備する 復習：課題図書に関連した資料収集と整理
5	･看護研究発表会への参加：10 月 11 日(土) (午前：1～6G) 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅠでの学びと実際の照合	授業方法：研究発表会への参加 予習：看護研究計画書について調べる 復習：看護研究発表会に参加しての振り返り 提出課題：「看護研究発表会に参加しての気づき」 締切：10 月 17 日（金） 23：59 提出先：各ゼミの Classroom
6	看護研究発表会への参加 (午後：7～12G) 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅠでの学びと実際の照合	授業方法：研究発表会への参加 予習：看護研究計画書について調べる 復習：看護研究発表会に参加しての振り返り 提出課題：「看護研究発表会に参加しての気づき」 締切：10 月 17 日（金） 23：59 提出先：各ゼミの Classroom
7	住空間デザイン学生と健康栄養学科学生との協同学習① 基礎ゼミⅡ担当教員	テーマ（健康と環境と食）について討議･まとめ	授業方法：グループワーク･中間発表 予習：健康と環境と食の共通点や関連性を調べる 復習：GW の振り返り
8	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議④	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べプレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
9	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議⑤	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べプレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく

10	住空間デザイン学生と健康栄養学科学生との協同学習② 基礎ゼミⅡ担当教員	テーマ（健康と環境と食）について討議・まとめ	授業方法：グループワーク・発表 予習： 第７回目の協同学修の振り返り 復習：GW の振り返り 提出課題 ：７・10 回の他学部学生との協同学習を通しての学び 締切：１１月 14 日（金）23：59 提出先：各ゼミの Classroom
11	課題図書の討議	プレゼンテーション・討議⑥	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
12	課題図書の討議	プレゼンテーション・討議⑦	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
13	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議⑧	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
14	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議⑨	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
15	基礎ゼミⅡまとめ 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅡの振り返り	授業方法：グループワーク 予習：基礎セミⅡの振り返り 復習：他者の意見も踏まえ「問い」の内容を見直す 小論文の提出期限：2025 年 1 月 16 日（金）23：59 提出先：Classroom

授業開始前学習	基礎ゼミⅠで使用したテキストおよび学びの内容を見直す。							
授業内課題のフィードバックの方法	その都度、返却する。小論文は評価後に返却する。							
テキスト・教材	・井下千以子著『大学の学び入門 第 2 版 理論的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』（慶応義塾大学出版会,2020) ・グループで決定した課題図書							
参考書	適宜、ゼミグループで検討する。							
評価の基準と方法	1 グループワークへの参加度（50%） 2 課題（課題図書プレゼンテーション・看護研究計画発表会・他学部との協同学習）（30%） 3 小論文（20%）							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	○	△				
関連科目	基礎ゼミⅠ							
その他	学習上の留意点 ・進め方については、到達目標の達成に向けてグループで検討してきめること。 ・りんどう祭にて開催される看護研究発表会への出席は、基礎ゼミⅡの授業 2 回分に該当するため、必ず出席すること。 ・他学部・学類の学生との協同学習の機会が、有益な学びの場となるように積極的に参加すること。 ・課外活動を取り入れる場合には、3 週間前に「学外活動届」の提出が必要なため 早めに計画を立てること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 15 時間							
実務経験を活かした教育内容	本科目は、教育および研究実績が豊富な教員が担当している。前期の基礎ゼミⅠに引き続いて、主体的に考え学びを深めるための科目である。あらたな「問い」を見つけ、知ること・わかることを楽しむとともに、他者に伝える技術と姿勢を培う。また、他学部・学類の学生と学びの場を共有することにより、視点の違いや共通点などを知ると共に、社会的ネットワーキングを拡げる機会とする。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-112 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-110-21 （J）	授業コード	HK0964
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.00 単位
英文名称	Freshmen SeminarⅡ			授業区分	演習
科目責任者	天野 雅美			必修・選択	必修
担当教員	門脇・橋浦			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	基礎ゼミⅠでの学びを受けて、主体的に学ぶ姿勢を身につけるために、基礎ゼミⅡでは、学生が主体となって大学での学びを充実させるための技術と姿勢を学ぶ。具体的には、基礎ゼミⅠで学んだ学問の探求方法を活用して、「個人の関心のあるテーマを設定する」「そのテーマについての文献検索を行って文献を熟読する」「熟読した結果わかったことを小論文としてまとめる」「まとめたことを発表し、討議する」という体験をする。この体験を通して、基礎ゼミⅠで体験した主体的に学問を探求し、能動的に学ぶことの面白さをよりいっそう体得する。				
到達目標	1. 日常生活において、様々な場面で興味・関心をもち、疑問をもつことができる。 2. 看護研究計画発表会に参加した気づきを活かし、課題図書の中から興味・関心・疑問について問いを立てることができる。 3. 自ら立てた「問い」について、能動的に調べることができる。 4. 調べた内容を整理・分析し、プレゼンテーションすることができる。 5. プレゼンテーションに対して討議し、再考することができる。 6. グループメンバーと協力して課題に取り組み、自己の考えを表現することができる。 7. グループメンバーとの				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	・基礎ゼミⅡオリエンテーション 基礎ゼミⅡ担当教員	・基礎ゼミⅡ 全体オリエンテーション ・4 年生看護研究発表会への参加について ・担当教員と課題図書の検討、役割分担	授業方法：講義・グループワーク 予習：基礎ゼミⅠの見直し 前期で大学生として学んだこと 復習：課題図書の準備
2	・課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議①	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の概要把握 復習：課題図書に関連した資料収集
3	・課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議②	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べ資料を準備する 復習：課題図書に関連した資料収集と整理
4	・課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議③	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べ資料を準備する 復習：課題図書に関連した資料収集と整理
5	・看護研究発表会への参加：10 月 11 日(土) (午前：1～6G) 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅠでの学びと実際の照合	授業方法：研究発表会への参加 予習：看護研究計画書について調べる 復習：看護研究発表会に参加しての振り返り 提出課題：「看護研究発表会に参加しての気づき」 締切：10 月 17 日（金） 23：59 提出先：各ゼミの Classroom
6	看護研究発表会への参加 (午後：7～12G) 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅠでの学びと実際の照合	授業方法：研究発表会への参加 予習：看護研究計画書について調べる 復習：看護研究発表会に参加しての振り返り 提出課題：「看護研究発表会に参加しての気づき」 締切：10 月 17 日（金） 23：59 提出先：各ゼミの Classroom
7	住空間デザイン学生と健康栄養学科学生との協同学習① 基礎ゼミⅡ担当教員	テーマ（健康と環境と食）について討議・まとめ	授業方法：グループワーク・中間発表 予習：健康と環境と食の共通点や関連性を調べる 復習：GW の振り返り
8	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議④	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べプレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
9	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議⑤	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べプレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく

10	住空間デザイン学生と健康栄養学科学生との協同学習② 基礎ゼミⅡ担当教員	テーマ（健康と環境と食）について討議・まとめ	授業方法：グループワーク・発表 予習： 第 7 回目の協同学修の振り返り 復習：GW の振り返り 提出課題 ：7・10 回の他学部学生との協同学習を通しての学び 締切：1 1 月 14 日（金）23：59 提出先：各ゼミの Classroom
11	課題図書の討議	プレゼンテーション・討議⑥	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
12	課題図書の討議	プレゼンテーション・討議⑦	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
13	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議⑧	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
14	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議⑨	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
15	基礎ゼミⅡまとめ 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅡの振り返り	授業方法：グループワーク 予習：基礎セミⅡの振り返り 復習：他者の意見も踏まえ「問い」の内容を見直す 小論文の提出期限：2025 年 1 月 16 日（金）23：59 提出先：Classroom

授業開始前学習	基礎ゼミⅠで使用したテキストおよび学びの内容を見直す。							
授業内課題のフィードバックの方法	その都度、返却する。小論文は評価後に返却する。							
テキスト・教材	・井下千以子著『大学の学び入門 第 2 版 理論的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』（慶応義塾大学出版会,2020) ・グループで決定した課題図書							
参考書	適宜、ゼミグループで検討する。							
評価の基準と方法	1 グループワークへの参加度（50%） 2 課題（課題図書プレゼンテーション・看護研究計画発表会・他学部との協同学習）（30%） 3 小論文（20%）							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	○	△				
関連科目	基礎ゼミⅠ							
その他	学習上の留意点 ・進め方については、到達目標の達成に向けてグループで検討してきめること。 ・りんどう祭にて開催される看護研究発表会への出席は、基礎ゼミⅡの授業 2 回分に該当するため、必ず出席すること。 ・他学部・学類の学生との協同学習の機会が、有益な学びの場となるように積極的に参加すること。 ・課外活動を取り入れる場合には、3 週間前に「学外活動届」の提出が必要なため 早めに計画を立てること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 15 時間							
実務経験を活かした教育内容	本科目は、教育および研究実績が豊富な教員が担当している。前期の基礎ゼミⅠに引き続いて、主体的に考え学びを深めるための科目である。あらたな「問い」を見つけ、知ること・わかることを楽しむとともに、他者に伝える技術と姿勢を培う。また、他学部・学類の学生と学びの場を共有することにより、視点の違いや共通点などを知ると共に、社会的ネットワーキングを拡げる機会とする。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-112 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-110-21 （J）	授業コード	HK0965
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.00 単位
英文名称	Freshmen SeminarⅡ			授業区分	演習
科目責任者	天野　雅美			必修･選択	必修
担当教員	岡･菊地			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	基礎ゼミⅠでの学びを受けて、主体的に学ぶ姿勢を身につけるために、基礎ゼミⅡでは、学生が主体となって大学での学びを充実させるための技術と姿勢を学ぶ。具体的には、基礎ゼミⅠで学んだ学問の探求方法を活用して、「個人の関心のあるテーマを設定する」「そのテーマについての文献検索を行って文献を熟読する」「熟読した結果わかったことを小論文としてまとめる」「まとめたことを発表し、討議する」という体験をする。この体験を通して、基礎ゼミⅠで体験した主体的に学問を探求し、能動的に学ぶことの面白さをよりいっそう体得する。				
到達目標	1. 日常生活において、様々な場面で興味･関心をもち、疑問をもつことができる。 2. 看護研究計画発表会に参加した気づきを活かし、課題図書の中から興味･関心･疑問について問いを立てることができる。 3. 自ら立てた「問い」について、能動的に調べることができる。 4. 調べた内容を整理･分析し、プレゼンテーションすることができる。 5. プレゼンテーションに対して討議し、再考することができる。 6. グループメンバーと協力して課題に取り組み、自己の考えを表現することができる。 7. グループメンバーとの				
アクティブ･ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目･担当者	学修内容	授業方法（アクティブ･ラーニング）･予習･復習･レポートなどの課題
1	･基礎ゼミⅡオリエンテーション 基礎ゼミⅡ担当教員	･基礎ゼミⅡ　全体オリエンテーション ･4 年生看護研究発表会への参加について ･担当教員と課題図書の検討、役割分担	授業方法：講義･グループワーク 予習：基礎ゼミⅠの見直し 前期で大学生として学んだこと 復習：課題図書の準備
2	･課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議①	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の概要把握 復習：課題図書に関連した資料収集
3	･課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議②	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べ資料を準備する 復習：課題図書に関連した資料収集と整理
4	･課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議③	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べ資料を準備する 復習：課題図書に関連した資料収集と整理
5	･看護研究発表会への参加：10 月 11 日(土) (午前：1～6G) 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅠでの学びと実際の照合	授業方法：研究発表会への参加 予習：看護研究計画書について調べる 復習：看護研究発表会に参加しての振り返り 提出課題：「看護研究発表会に参加しての気づき」 締切：10 月 17 日（金） 23：59 提出先：各ゼミの Classroom
6	看護研究発表会への参加 (午後：7～12G) 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅠでの学びと実際の照合	授業方法：研究発表会への参加 予習：看護研究計画書について調べる 復習：看護研究発表会に参加しての振り返り 提出課題：「看護研究発表会に参加しての気づき」 締切：10 月 17 日（金） 23：59 提出先：各ゼミの Classroom
7	住空間デザイン学生と健康栄養学科学生との協同学習① 基礎ゼミⅡ担当教員	テーマ（健康と環境と食）について討議･まとめ	授業方法：グループワーク･中間発表 予習：健康と環境と食の共通点や関連性を調べる 復習：GW の振り返り
8	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議④	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べプレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
9	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議⑤	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べプレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく

10	住空間デザイン学生と健康栄養学科学生との協同学習② 基礎ゼミⅡ担当教員	テーマ（健康と環境と食）について討議・まとめ	授業方法：グループワーク・発表 予習： 第 7 回目の協同学修の振り返り 復習：GW の振り返り 提出課題 ：7・10 回の他学部学生との協同学習を通しての学び 締切：1 1 月 14 日（金）23：59 提出先：各ゼミの Classroom
11	課題図書の討議	プレゼンテーション・討議⑥	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
12	課題図書の討議	プレゼンテーション・討議⑦	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
13	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議⑧	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
14	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議⑨	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
15	基礎ゼミⅡまとめ 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅡの振り返り	授業方法：グループワーク 予習：基礎セミⅡの振り返り 復習：他者の意見も踏まえ「問い」の内容を見直す 小論文の提出期限：2025 年 1 月 16 日（金）23：59 提出先：Classroom

授業開始前学習	基礎ゼミⅠで使用したテキストおよび学びの内容を見直す。							
授業内課題のフィードバックの方法	その都度、返却する。小論文は評価後に返却する。							
テキスト・教材	・井下千以子著『大学の学び入門 第 2 版 理論的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』（慶応義塾大学出版会,2020) ・グループで決定した課題図書							
参考書	適宜、ゼミグループで検討する。							
評価の基準と方法	1 グループワークへの参加度（50%） 2 課題（課題図書プレゼンテーション・看護研究計画発表会・他学部との協同学習）（30%） 3 小論文（20%）							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	○	△				
関連科目	基礎ゼミⅠ							
その他	学習上の留意点 ・進め方については、到達目標の達成に向けてグループで検討してきめること。 ・りんどう祭にて開催される看護研究発表会への出席は、基礎ゼミⅡの授業 2 回分に該当するため、必ず出席すること。 ・他学部・学類の学生との協同学習の機会が、有益な学びの場となるように積極的に参加すること。 ・課外活動を取り入れる場合には、3 週間前に「学外活動届」の提出が必要なため 早めに計画を立てること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 15 時間							
実務経験を活かした教育内容	本科目は、教育および研究実績が豊富な教員が担当している。前期の基礎ゼミⅠに引き続いて、主体的に考え学びを深めるための科目である。あらたな「問い」を見つけ、知ること・わかることを楽しむとともに、他者に伝える技術と姿勢を培う。また、他学部・学類の学生と学びの場を共有することにより、視点の違いや共通点などを知ると共に、社会的ネットワーキングを拡げる機会とする。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-112 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-110-21 （J）	授業コード	HK0966
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.00 単位
英文名称	Freshmen SeminarⅡ			授業区分	演習
科目責任者	天野 雅美			必修･選択	必修
担当教員	佐川･富塚			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	基礎ゼミⅠでの学びを受けて、主体的に学ぶ姿勢を身につけるために、基礎ゼミⅡでは、学生が主体となって大学での学びを充実させるための技術と姿勢を学ぶ。具体的には、基礎ゼミⅠで学んだ学問の探求方法を活用して、「個人の関心のあるテーマを設定する」「そのテーマについての文献検索を行って文献を熟読する」「熟読した結果わかったことを小論文としてまとめる」「まとめたことを発表し、討議する」という体験をする。この体験を通して、基礎ゼミⅠで体験した主体的に学問を探求し、能動的に学ぶことの面白さをよりいっそう体得する。				
到達目標	1. 日常生活において、様々な場面で興味･関心をもち、疑問をもつことができる。 2. 看護研究計画発表会に参加した気づきを活かし、課題図書の中から興味･関心･疑問について問いを立てることができる。 3. 自ら立てた「問い」について、能動的に調べることができる。 4. 調べた内容を整理･分析し、プレゼンテーションすることができる。 5. プレゼンテーションに対して討議し、再考することができる。 6. グループメンバーと協力して課題に取り組み、自己の考えを表現することができる。 7. グループメンバーとの				
アクティブ･ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目･担当者	学修内容	授業方法（アクティブ･ラーニング）･予習･復習･レポートなどの課題
1	･基礎ゼミⅡオリエンテーション 基礎ゼミⅡ担当教員	･基礎ゼミⅡ 全体オリエンテーション ･4 年生看護研究発表会への参加について ･担当教員と課題図書の検討、役割分担	授業方法：講義･グループワーク 予習：基礎ゼミⅠの見直し 前期で大学生として学んだこと 復習：課題図書の準備
2	･課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議①	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の概要把握 復習：課題図書に関連した資料収集
3	･課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議②	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べ資料を準備する 復習：課題図書に関連した資料収集と整理
4	･課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議③	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べ資料を準備する 復習：課題図書に関連した資料収集と整理
5	･看護研究発表会への参加：10 月 11 日(土) (午前：1～6G) 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅠでの学びと実際の照合	授業方法：研究発表会への参加 予習：看護研究計画書について調べる 復習：看護研究発表会に参加しての振り返り 提出課題：「看護研究発表会に参加しての気づき」 締切：10 月 17 日（金） 23：59 提出先：各ゼミの Classroom
6	看護研究発表会への参加 (午後：7～12G) 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅠでの学びと実際の照合	授業方法：研究発表会への参加 予習：看護研究計画書について調べる 復習：看護研究発表会に参加しての振り返り 提出課題：「看護研究発表会に参加しての気づき」 締切：10 月 17 日（金） 23：59 提出先：各ゼミの Classroom
7	住空間デザイン学生と健康栄養学科学生との協同学習① 基礎ゼミⅡ担当教員	テーマ（健康と環境と食）について討議･まとめ	授業方法：グループワーク･中間発表 予習：健康と環境と食の共通点や関連性を調べる 復習：GW の振り返り
8	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議④	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べプレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
9	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議⑤	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べプレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく

10	住空間デザイン学生と健康栄養学科学生との協同学習② 基礎ゼミⅡ担当教員	テーマ（健康と環境と食）について討議・まとめ	授業方法：グループワーク・発表 予習： 第 7 回目の協同学修の振り返り 復習：GW の振り返り 提出課題 ：7・10 回の他学部学生との協同学習を通しての学び 締切：1 1 月 14 日（金）23：59 提出先：各ゼミの Classroom
11	課題図書の討議	プレゼンテーション・討議⑥	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
12	課題図書の討議	プレゼンテーション・討議⑦	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
13	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議⑧	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
14	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議⑨	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
15	基礎ゼミⅡまとめ 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅡの振り返り	授業方法：グループワーク 予習：基礎セミⅡの振り返り 復習：他者の意見も踏まえ「問い」の内容を見直す 小論文の提出期限：2025 年 1 月 16 日（金）23：59 提出先：Classroom

授業開始前学習	基礎ゼミⅠで使用したテキストおよび学びの内容を見直す。
授業内課題のフィードバックの方法	その都度、返却する。小論文は評価後に返却する。
テキスト・教材	・井下千以子著『大学の学び入門 第 2 版 理論的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』（慶応義塾大学出版会,2020) ・グループで決定した課題図書
参考書	適宜、ゼミグループで検討する。
評価の基準と方法	1 グループワークへの参加度（50%） 2 課題（課題図書プレゼンテーション・看護研究計画発表会・他学部との協同学習）（30%） 3 小論文（20%）

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	○	△				

関連科目	基礎ゼミⅠ
その他	学習上の留意点 ・進め方については、到達目標の達成に向けてグループで検討してきめること。 ・りんどう祭にて開催される看護研究発表会への出席は、基礎ゼミⅡの授業 2 回分に該当するため、必ず出席すること。 ・他学部・学類の学生との協同学習の機会が、有益な学びの場となるように積極的に参加すること。 ・課外活動を取り入れる場合には、3 週間前に「学外活動届」の提出が必要なため 早めに計画を立てること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 15 時間
実務経験を活かした教育内容	本科目は、教育および研究実績が豊富な教員が担当している。前期の基礎ゼミⅠに引き続いて、主体的に考え学びを深めるための科目である。あらたな「問い」を見つけ、知ること・わかることを楽しむとともに、他者に伝える技術と姿勢を培う。また、他学部・学類の学生と学びの場を共有することにより、視点の違いや共通点などを知ると共に、社会的ネットワーキングを拡げる機会とする。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-112 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-110-21 （J）	授業コード	HK0967
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.00 単位
英文名称	Freshmen SeminarⅡ			授業区分	演習
科目責任者	天野 雅美			必修・選択	必修
担当教員	小沢・樋口			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	基礎ゼミⅠでの学びを受けて、主体的に学ぶ姿勢を身につけるために、基礎ゼミⅡでは、学生が主体となって大学での学びを充実させるための技術と姿勢を学ぶ。具体的には、基礎ゼミⅠで学んだ学問の探求方法を活用して、「個人の関心のあるテーマを設定する」「そのテーマについての文献検索を行って文献を熟読する」「熟読した結果わかったことを小論文としてまとめる」「まとめたことを発表し、討議する」という体験をする。この体験を通して、基礎ゼミⅠで体験した主体的に学問を探求し、能動的に学ぶことの面白さをよりいっそう体得する。				
到達目標	1. 日常生活において、様々な場面で興味・関心をもち、疑問をもつことができる。 2. 看護研究計画発表会に参加した気づきを活かし、課題図書の中から興味・関心・疑問について問いを立てることができる。 3. 自ら立てた「問い」について、能動的に調べることができる。 4. 調べた内容を整理・分析し、プレゼンテーションすることができる。 5. プレゼンテーションに対して討議し、再考することができる。 6. グループメンバーと協力して課題に取り組み、自己の考えを表現することができる。 7. グループメンバーとの				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	・基礎ゼミⅡオリエンテーション 基礎ゼミⅡ担当教員	・基礎ゼミⅡ 全体オリエンテーション ・4 年生看護研究発表会への参加について ・担当教員と課題図書の検討、役割分担	授業方法：講義・グループワーク 予習：基礎ゼミⅠの見直し 前期で大学生として学んだこと 復習：課題図書の準備
2	・課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議①	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の概要把握 復習：課題図書に関連した資料収集
3	・課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議②	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べ資料を準備する 復習：課題図書に関連した資料収集と整理
4	・課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議③	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べ資料を準備する 復習：課題図書に関連した資料収集と整理
5	・看護研究発表会への参加：10 月 11 日(土) (午前：1～6G) 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅠでの学びと実際の照合	授業方法：研究発表会への参加 予習：看護研究計画書について調べる 復習：看護研究発表会に参加しての振り返り 提出課題：「看護研究発表会に参加しての気づき」 締切：10 月 17 日（金） 23：59 提出先：各ゼミの Classroom
6	看護研究発表会への参加 (午後：7～12G) 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅠでの学びと実際の照合	授業方法：研究発表会への参加 予習：看護研究計画書について調べる 復習：看護研究発表会に参加しての振り返り 提出課題：「看護研究発表会に参加しての気づき」 締切：10 月 17 日（金） 23：59 提出先：各ゼミの Classroom
7	住空間デザイン学生と健康栄養学科学生との協同学習① 基礎ゼミⅡ担当教員	テーマ（健康と環境と食）について討議・まとめ	授業方法：グループワーク・中間発表 予習：健康と環境と食の共通点や関連性を調べる 復習：GW の振り返り
8	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議④	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べプレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
9	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議⑤	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べプレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく

10	住空間デザイン学生と健康栄養学科学生との協同学習② 基礎ゼミⅡ担当教員	テーマ（健康と環境と食）について討議・まとめ	授業方法：グループワーク・発表 予習： 第７回目の協同学修の振り返り 復習：GW の振り返り 提出課題 ：７・10 回の他学部学生との協同学習を通しての学び 締切：１１月 14 日（金）23：59 提出先：各ゼミの Classroom
11	課題図書の討議	プレゼンテーション・討議⑥	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
12	課題図書の討議	プレゼンテーション・討議⑦	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
13	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議⑧	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
14	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議⑨	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
15	基礎ゼミⅡまとめ 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅡの振り返り	授業方法：グループワーク 予習：基礎セミⅡの振り返り 復習：他者の意見も踏まえ「問い」の内容を見直す 小論文の提出期限：2025 年 1 月 16 日（金）23：59 提出先：Classroom

授業開始前学習	基礎ゼミⅠで使用したテキストおよび学びの内容を見直す。							
授業内課題のフィードバックの方法	その都度、返却する。小論文は評価後に返却する。							
テキスト・教材	・井下千以子著『大学の学び入門 第 2 版 理論的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』（慶応義塾大学出版会,2020) ・グループで決定した課題図書							
参考書	適宜、ゼミグループで検討する。							
評価の基準と方法	1 グループワークへの参加度（50%） 2 課題（課題図書プレゼンテーション・看護研究計画発表会・他学部との協同学習）（30%） 3 小論文（20%）							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	○	△				
関連科目	基礎ゼミⅠ							
その他	学習上の留意点 ・進め方については、到達目標の達成に向けてグループで検討してきめること。 ・りんどう祭にて開催される看護研究発表会への出席は、基礎ゼミⅡの授業 2 回分に該当するため、必ず出席すること。 ・他学部・学類の学生との協同学習の機会が、有益な学びの場となるように積極的に参加すること。 ・課外活動を取り入れる場合には、3 週間前に「学外活動届」の提出が必要なため 早めに計画を立てること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 15 時間							
実務経験を活かした教育内容	本科目は、教育および研究実績が豊富な教員が担当している。前期の基礎ゼミⅠに引き続いて、主体的に考え学びを深めるための科目である。あらたな「問い」を見つけ、知ること・わかることを楽しむとともに、他者に伝える技術と姿勢を培う。また、他学部・学類の学生と学びの場を共有することにより、視点の違いや共通点などを知ると共に、社会的ネットワーキングを拡げる機会とする。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-112 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-110-21 （J）	授業コード	HK0968
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.00 単位
英文名称	Freshmen SeminarⅡ			授業区分	演習
科目責任者	天野　雅美			必修･選択	必修
担当教員	長嶋･西村			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	基礎ゼミⅠでの学びを受けて、主体的に学ぶ姿勢を身につけるために、基礎ゼミⅡでは、学生が主体となって大学での学びを充実させるための技術と姿勢を学ぶ。具体的には、基礎ゼミⅠで学んだ学問の探求方法を活用して、「個人の関心のあるテーマを設定する」「そのテーマについての文献検索を行って文献を熟読する」「熟読した結果わかったことを小論文としてまとめる」「まとめたことを発表し、討議する」という体験をする。この体験を通して、基礎ゼミⅠで体験した主体的に学問を探求し、能動的に学ぶことの面白さをよりいっそう体得する。				
到達目標	1. 日常生活において、様々な場面で興味･関心をもち、疑問をもつことができる。 2. 看護研究計画発表会に参加した気づきを活かし、課題図書の中から興味･関心･疑問について問いを立てることができる。 3. 自ら立てた「問い」について、能動的に調べることができる。 4. 調べた内容を整理･分析し、プレゼンテーションすることができる。 5. プレゼンテーションに対して討議し、再考することができる。 6. グループメンバーと協力して課題に取り組み、自己の考えを表現することができる。 7. グループメンバーとの				
アクティブ･ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目･担当者	学修内容	授業方法（アクティブ･ラーニング）･予習･復習･レポートなどの課題
1	･基礎ゼミⅡオリエンテーション 基礎ゼミⅡ担当教員	･基礎ゼミⅡ　全体オリエンテーション ･4 年生看護研究発表会への参加について ･担当教員と課題図書の検討、役割分担	授業方法：講義･グループワーク 予習：基礎ゼミⅠの見直し 前期で大学生として学んだこと 復習：課題図書の準備
2	･課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議①	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の概要把握 復習：課題図書に関連した資料収集
3	･課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議②	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べ資料を準備する 復習：課題図書に関連した資料収集と整理
4	･課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議③	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べ資料を準備する 復習：課題図書に関連した資料収集と整理
5	･看護研究発表会への参加：10 月 11 日(土) (午前：1～6G) 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅠでの学びと実際の照合	授業方法：研究発表会への参加 予習：看護研究計画書について調べる 復習：看護研究発表会に参加しての振り返り 提出課題：「看護研究発表会に参加しての気づき」 締切：10 月 17 日（金） 23：59 提出先：各ゼミの Classroom
6	看護研究発表会への参加 (午後：7～12G) 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅠでの学びと実際の照合	授業方法：研究発表会への参加 予習：看護研究計画書について調べる 復習：看護研究発表会に参加しての振り返り 提出課題：「看護研究発表会に参加しての気づき」 締切：10 月 17 日（金） 23：59 提出先：各ゼミの Classroom
7	住空間デザイン学生と健康栄養学科学生との協同学習① 基礎ゼミⅡ担当教員	テーマ（健康と環境と食）について討議･まとめ	授業方法：グループワーク･中間発表 予習：健康と環境と食の共通点や関連性を調べる 復習：GW の振り返り
8	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議④	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べプレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
9	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議⑤	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べプレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく

10	住空間デザイン学生と健康栄養学科学生との協同学習② 基礎ゼミⅡ担当教員	テーマ（健康と環境と食）について討議・まとめ	授業方法：グループワーク・発表 予習： 第 7 回目の協同学修の振り返り 復習：GW の振り返り 提出課題 ：7・10 回の他学部学生との協同学習を通しての学び 締切：1 1 月 14 日（金）23：59 提出先：各ゼミの Classroom
11	課題図書の討議	プレゼンテーション・討議⑥	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
12	課題図書の討議	プレゼンテーション・討議⑦	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
13	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議⑧	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
14	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議⑨	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
15	基礎ゼミⅡまとめ 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅡの振り返り	授業方法：グループワーク 予習：基礎セミⅡの振り返り 復習：他者の意見も踏まえ「問い」の内容を見直す 小論文の提出期限：2025 年 1 月 16 日（金）23：59 提出先：Classroom

授業開始前学習	基礎ゼミⅠで使用したテキストおよび学びの内容を見直す。							
授業内課題のフィードバックの方法	その都度、返却する。小論文は評価後に返却する。							
テキスト・教材	・井下千以子著『大学の学び入門 第 2 版 理論的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』（慶応義塾大学出版会,2020) ・グループで決定した課題図書							
参考書	適宜、ゼミグループで検討する。							
評価の基準と方法	1 グループワークへの参加度（50%） 2 課題（課題図書プレゼンテーション・看護研究計画発表会・他学部との協同学習）（30%） 3 小論文（20%）							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	○	△				
関連科目	基礎ゼミⅠ							
その他	学習上の留意点 ・進め方については、到達目標の達成に向けてグループで検討してきめること。 ・りんどう祭にて開催される看護研究発表会への出席は、基礎ゼミⅡの授業 2 回分に該当するため、必ず出席すること。 ・他学部・学類の学生との協同学習の機会が、有益な学びの場となるように積極的に参加すること。 ・課外活動を取り入れる場合には、3 週間前に「学外活動届」の提出が必要なため 早めに計画を立てること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 15 時間							
実務経験を活かした教育内容	本科目は、教育および研究実績が豊富な教員が担当している。前期の基礎ゼミⅠに引き続いて、主体的に考え学びを深めるための科目である。あらたな「問い」を見つけ、知ること・わかることを楽しむとともに、他者に伝える技術と姿勢を培う。また、他学部・学類の学生と学びの場を共有することにより、視点の違いや共通点などを知ると共に、社会的ネットワーキングを拡げる機会とする。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-112 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-110-21 （J）	授業コード	HK0969
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.00 単位
英文名称	Freshmen SeminarⅡ			授業区分	演習
科目責任者	天野　雅美			必修･選択	必修
担当教員	中田･北條･松戸			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	基礎ゼミⅠでの学びを受けて、主体的に学ぶ姿勢を身につけるために、基礎ゼミⅡでは、学生が主体となって大学での学びを充実させるための技術と姿勢を学ぶ。具体的には、基礎ゼミⅠで学んだ学問の探求方法を活用して、「個人の関心のあるテーマを設定する」「そのテーマについての文献検索を行って文献を熟読する」「熟読した結果わかったことを小論文としてまとめる」「まとめたことを発表し、討議する」という体験をする。この体験を通して、基礎ゼミⅠで体験した主体的に学問を探求し、能動的に学ぶことの面白さをよりいっそう体得する。				
到達目標	1. 日常生活において、様々な場面で興味･関心をもち、疑問をもつことができる。 2. 看護研究計画発表会に参加した気づきを活かし、課題図書の中から興味･関心･疑問について問いを立てることができる。 3. 自ら立てた「問い」について、能動的に調べることができる。 4. 調べた内容を整理･分析し、プレゼンテーションすることができる。 5. プレゼンテーションに対して討議し、再考することができる。 6. グループメンバーと協力して課題に取り組み、自己の考えを表現することができる。 7. グループメンバーとの				
アクティブ･ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目･担当者	学修内容	授業方法（アクティブ･ラーニング）･予習･復習･レポートなどの課題
1	･基礎ゼミⅡオリエンテーション 基礎ゼミⅡ担当教員	･基礎ゼミⅡ　全体オリエンテーション ･4 年生看護研究発表会への参加について ･担当教員と課題図書の検討、役割分担	授業方法：講義･グループワーク 予習：基礎ゼミⅠの見直し 前期で大学生として学んだこと 復習：課題図書の準備
2	･課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議①	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の概要把握 復習：課題図書に関連した資料収集
3	･課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議②	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べ資料を準備する 復習：課題図書に関連した資料収集と整理
4	･課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議③	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べ資料を準備する 復習：課題図書に関連した資料収集と整理
5	･看護研究発表会への参加：10 月 11 日(土) (午前：1～6G) 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅠでの学びと実際の照合	授業方法：研究発表会への参加 予習：看護研究計画書について調べる 復習：看護研究発表会に参加しての振り返り 提出課題：「看護研究発表会に参加しての気づき」 締切：10 月 17 日（金） 23：59 提出先：各ゼミの Classroom
6	看護研究発表会への参加 (午後：7～12G) 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅠでの学びと実際の照合	授業方法：研究発表会への参加 予習：看護研究計画書について調べる 復習：看護研究発表会に参加しての振り返り 提出課題：「看護研究発表会に参加しての気づき」 締切：10 月 17 日（金） 23：59 提出先：各ゼミの Classroom
7	住空間デザイン学生と健康栄養学科学生との協同学習① 基礎ゼミⅡ担当教員	テーマ（健康と環境と食）について討議･まとめ	授業方法：グループワーク･中間発表 予習：健康と環境と食の共通点や関連性を調べる 復習：GW の振り返り
8	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議④	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べプレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
9	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議⑤	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べプレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく

10	住空間デザイン学生と健康栄養学科学生との協同学習② 基礎ゼミⅡ担当教員	テーマ（健康と環境と食）について討議・まとめ	授業方法：グループワーク・発表 予習： 第 7 回目の協同学修の振り返り 復習：GW の振り返り 提出課題 ：7・10 回の他学部学生との協同学習を通しての学び 締切：1 1 月 14 日（金）23：59 提出先：各ゼミの Classroom
11	課題図書の討議	プレゼンテーション・討議⑥	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
12	課題図書の討議	プレゼンテーション・討議⑦	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
13	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議⑧	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
14	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議⑨	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
15	基礎ゼミⅡまとめ 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅡの振り返り	授業方法：グループワーク 予習：基礎セミⅡの振り返り 復習：他者の意見も踏まえ「問い」の内容を見直す 小論文の提出期限：2025 年 1 月 16 日（金）23：59 提出先：Classroom

授業開始前学習	基礎ゼミⅠで使用したテキストおよび学びの内容を見直す。							
授業内課題のフィードバックの方法	その都度、返却する。小論文は評価後に返却する。							
テキスト・教材	・井下千以子著『大学の学び入門 第 2 版 理論的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』（慶応義塾大学出版会,2020) ・グループで決定した課題図書							
参考書	適宜、ゼミグループで検討する。							
評価の基準と方法	1 グループワークへの参加度（50%） 2 課題（課題図書プレゼンテーション・看護研究計画発表会・他学部との協同学習）（30%） 3 小論文（20%）							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	○	△				
関連科目	基礎ゼミⅠ							
その他	学習上の留意点 ・進め方については、到達目標の達成に向けてグループで検討してきめること。 ・りんどう祭にて開催される看護研究発表会への出席は、基礎ゼミⅡの授業 2 回分に該当するため、必ず出席すること。 ・他学部・学類の学生との協同学習の機会が、有益な学びの場となるように積極的に参加すること。 ・課外活動を取り入れる場合には、3 週間前に「学外活動届」の提出が必要なため 早めに計画を立てること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 15 時間							
実務経験を活かした教育内容	本科目は、教育および研究実績が豊富な教員が担当している。前期の基礎ゼミⅠに引き続いて、主体的に考え学びを深めるための科目である。あらたな「問い」を見つけ、知ること・わかることを楽しむとともに、他者に伝える技術と姿勢を培う。また、他学部・学類の学生と学びの場を共有することにより、視点の違いや共通点などを知ると共に、社会的ネットワーキングを拡げる機会とする。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-112 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-110-21 （J）	授業コード	HK0970
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.00 単位
英文名称	Freshmen SeminarⅡ			授業区分	演習
科目責任者	天野 雅美			必修・選択	必修
担当教員	秋田・成瀬			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	基礎ゼミⅠでの学びを受けて、主体的に学ぶ姿勢を身につけるために、基礎ゼミⅡでは、学生が主体となって大学での学びを充実させるための技術と姿勢を学ぶ。具体的には、基礎ゼミⅠで学んだ学問の探求方法を活用して、「個人の関心のあるテーマを設定する」「そのテーマについての文献検索を行って文献を熟読する」「熟読した結果わかったことを小論文としてまとめる」「まとめたことを発表し、討議する」という体験をする。この体験を通して、基礎ゼミⅠで体験した主体的に学問を探求し、能動的に学ぶことの面白さをよりいっそう体得する。				
到達目標	1. 日常生活において、様々な場面で興味・関心をもち、疑問をもつことができる。 2. 看護研究計画発表会に参加した気づきを活かし、課題図書の中から興味・関心・疑問について問いを立てることができる。 3. 自ら立てた「問い」について、能動的に調べることができる。 4. 調べた内容を整理・分析し、プレゼンテーションすることができる。 5. プレゼンテーションに対して討議し、再考することができる。 6. グループメンバーと協力して課題に取り組み、自己の考えを表現することができる。 7. グループメンバーとの				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	・基礎ゼミⅡオリエンテーション 基礎ゼミⅡ担当教員	・基礎ゼミⅡ 全体オリエンテーション ・4 年生看護研究発表会への参加について ・担当教員と課題図書の検討、役割分担	授業方法：講義・グループワーク 予習：基礎ゼミⅠの見直し 前期で大学生として学んだこと 復習：課題図書の準備
2	・課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議①	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の概要把握 復習：課題図書に関連した資料収集
3	・課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議②	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べ資料を準備する 復習：課題図書に関連した資料収集と整理
4	・課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議③	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べ資料を準備する 復習：課題図書に関連した資料収集と整理
5	・看護研究発表会への参加：10 月 11 日(土) (午前：1～6G) 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅠでの学びと実際の照合	授業方法：研究発表会への参加 予習：看護研究計画書について調べる 復習：看護研究発表会に参加しての振り返り 提出課題：「看護研究発表会に参加しての気づき」 締切：10 月 17 日（金） 23：59 提出先：各ゼミの Classroom
6	看護研究発表会への参加 (午後：7～12G) 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅠでの学びと実際の照合	授業方法：研究発表会への参加 予習：看護研究計画書について調べる 復習：看護研究発表会に参加しての振り返り 提出課題：「看護研究発表会に参加しての気づき」 締切：10 月 17 日（金） 23：59 提出先：各ゼミの Classroom
7	住空間デザイン学生と健康栄養学科学生との協同学習① 基礎ゼミⅡ担当教員	テーマ（健康と環境と食）について討議・まとめ	授業方法：グループワーク・中間発表 予習：健康と環境と食の共通点や関連性を調べる 復習：GW の振り返り
8	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議④	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べプレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
9	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議⑤	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べプレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく

10	住空間デザイン学生と健康栄養学科学生との協同学習② 基礎ゼミⅡ担当教員	テーマ（健康と環境と食）について討議・まとめ	授業方法：グループワーク・発表 予習： 第７回目の協同学修の振り返り 復習：GW の振り返り 提出課題 ：７・10 回の他学部学生との協同学習を通しての学び 締切：１１月 14 日（金）23：59 提出先：各ゼミの Classroom
11	課題図書の討議	プレゼンテーション・討議⑥	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
12	課題図書の討議	プレゼンテーション・討議⑦	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
13	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議⑧	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
14	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議⑨	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
15	基礎ゼミⅡまとめ 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅡの振り返り	授業方法：グループワーク 予習：基礎セミⅡの振り返り 復習：他者の意見も踏まえ「問い」の内容を見直す 小論文の提出期限：2025 年 1 月 16 日（金）23：59 提出先：Classroom

授業開始前学習	基礎ゼミⅠで使用したテキストおよび学びの内容を見直す。							
授業内課題のフィードバックの方法	その都度、返却する。小論文は評価後に返却する。							
テキスト・教材	・井下千以子著『大学の学び入門 第 2 版 理論的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』（慶応義塾大学出版会,2020) ・グループで決定した課題図書							
参考書	適宜、ゼミグループで検討する。							
評価の基準と方法	1 グループワークへの参加度（50%） 2 課題（課題図書プレゼンテーション・看護研究計画発表会・他学部との協同学習）（30%） 3 小論文（20%）							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	○	△				
関連科目	基礎ゼミⅠ							
その他	学習上の留意点 ・進め方については、到達目標の達成に向けてグループで検討してきめること。 ・りんどう祭にて開催される看護研究発表会への出席は、基礎ゼミⅡの授業 2 回分に該当するため、必ず出席すること。 ・他学部・学類の学生との協同学習の機会が、有益な学びの場となるように積極的に参加すること。 ・課外活動を取り入れる場合には、3 週間前に「学外活動届」の提出が必要なため 早めに計画を立てること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 15 時間							
実務経験を活かした教育内容	本科目は、教育および研究実績が豊富な教員が担当している。前期の基礎ゼミⅠに引き続いて、主体的に考え学びを深めるための科目である。あらたな「問い」を見つけ、知ること・わかることを楽しむとともに、他者に伝える技術と姿勢を培う。また、他学部・学類の学生と学びの場を共有することにより、視点の違いや共通点などを知ると共に、社会的ネットワーキングを拡げる機会とする。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-112 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-110-21 （J）	授業コード	HK0971
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.00 単位
英文名称	Freshmen SeminarⅡ			授業区分	演習
科目責任者	天野　雅美			必修･選択	必修
担当教員	大久保･髙田			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	基礎ゼミⅠでの学びを受けて、主体的に学ぶ姿勢を身につけるために、基礎ゼミⅡでは、学生が主体となって大学での学びを充実させるための技術と姿勢を学ぶ。具体的には、基礎ゼミⅠで学んだ学問の探求方法を活用して、「個人の関心のあるテーマを設定する」「そのテーマについての文献検索を行って文献を熟読する」「熟読した結果わかったことを小論文としてまとめる」「まとめたことを発表し、討議する」という体験をする。この体験を通して、基礎ゼミⅠで体験した主体的に学問を探求し、能動的に学ぶことの面白さをよりいっそう体得する。				
到達目標	1. 日常生活において、様々な場面で興味･関心をもち、疑問をもつことができる。 2. 看護研究計画発表会に参加した気づきを活かし、課題図書の中から興味･関心･疑問について問いを立てることができる。 3. 自ら立てた「問い」について、能動的に調べることができる。 4. 調べた内容を整理･分析し、プレゼンテーションすることができる。 5. プレゼンテーションに対して討議し、再考することができる。 6. グループメンバーと協力して課題に取り組み、自己の考えを表現することができる。 7. グループメンバーとの				
アクティブ･ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目･担当者	学修内容	授業方法（アクティブ･ラーニング）･予習･復習･レポートなどの課題
1	･基礎ゼミⅡオリエンテーション 基礎ゼミⅡ担当教員	･基礎ゼミⅡ　全体オリエンテーション ･4 年生看護研究発表会への参加について ･担当教員と課題図書の検討、役割分担	授業方法：講義･グループワーク 予習：基礎ゼミⅠの見直し 前期で大学生として学んだこと 復習：課題図書の準備
2	･課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議①	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の概要把握 復習：課題図書に関連した資料収集
3	･課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議②	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べ資料を準備する 復習：課題図書に関連した資料収集と整理
4	･課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議③	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べ資料を準備する 復習：課題図書に関連した資料収集と整理
5	･看護研究発表会への参加：10 月 11 日(土) (午前：1～6G) 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅠでの学びと実際の照合	授業方法：研究発表会への参加 予習：看護研究計画書について調べる 復習：看護研究発表会に参加しての振り返り 提出課題：「看護研究発表会に参加しての気づき」 締切：10 月 17 日（金） 23：59 提出先：各ゼミの Classroom
6	看護研究発表会への参加 (午後：7～12G) 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅠでの学びと実際の照合	授業方法：研究発表会への参加 予習：看護研究計画書について調べる 復習：看護研究発表会に参加しての振り返り 提出課題：「看護研究発表会に参加しての気づき」 締切：10 月 17 日（金） 23：59 提出先：各ゼミの Classroom
7	住空間デザイン学生と健康栄養学科学生との協同学習① 基礎ゼミⅡ担当教員	テーマ（健康と環境と食）について討議･まとめ	授業方法：グループワーク･中間発表 予習：健康と環境と食の共通点や関連性を調べる 復習：GW の振り返り
8	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議④	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べプレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
9	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議⑤	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べプレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく

10	住空間デザイン学生と健康栄養学科学生との協同学習② 基礎ゼミⅡ担当教員	テーマ（健康と環境と食）について討議・まとめ	授業方法：グループワーク・発表 予習： 第７回目の協同学修の振り返り 復習：GW の振り返り 提出課題 ：７・10 回の他学部学生との協同学習を通しての学び 締切：１１月 14 日（金）23：59 提出先：各ゼミの Classroom
11	課題図書の討議	プレゼンテーション・討議⑥	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
12	課題図書の討議	プレゼンテーション・討議⑦	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
13	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議⑧	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
14	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議⑨	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
15	基礎ゼミⅡまとめ 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅡの振り返り	授業方法：グループワーク 予習：基礎セミⅡの振り返り 復習：他者の意見も踏まえ「問い」の内容を見直す 小論文の提出期限：2025 年 1 月 16 日（金）23：59 提出先：Classroom

授業開始前学習	基礎ゼミⅠで使用したテキストおよび学びの内容を見直す。
授業内課題のフィードバックの方法	その都度、返却する。小論文は評価後に返却する。
テキスト・教材	・井下千以子著『大学の学び入門 第 2 版 理論的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』（慶応義塾大学出版会,2020) ・グループで決定した課題図書
参考書	適宜、ゼミグループで検討する。
評価の基準と方法	1 グループワークへの参加度（50%） 2 課題（課題図書プレゼンテーション・看護研究計画発表会・他学部との協同学習）（30%） 3 小論文（20%）

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	○	△				

関連科目	基礎ゼミⅠ
その他	学習上の留意点 ・進め方については、到達目標の達成に向けてグループで検討してきめること。 ・りんどう祭にて開催される看護研究発表会への出席は、基礎ゼミⅡの授業 2 回分に該当するため、必ず出席すること。 ・他学部・学類の学生との協同学習の機会が、有益な学びの場となるように積極的に参加すること。 ・課外活動を取り入れる場合には、3 週間前に「学外活動届」の提出が必要なため 早めに計画を立てること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 15 時間
実務経験を活かした教育内容	本科目は、教育および研究実績が豊富な教員が担当している。前期の基礎ゼミⅠに引き続いて、主体的に考え学びを深めるための科目である。あらたな「問い」を見つけ、知ること・わかることを楽しむとともに、他者に伝える技術と姿勢を培う。また、他学部・学類の学生と学びの場を共有することにより、視点の違いや共通点などを知ると共に、社会的ネットワーキングを拡げる機会とする。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-112 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-110-21 （J）	授業コード	HK0972
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.00 単位
英文名称	Freshmen SeminarⅡ			授業区分	演習
科目責任者	天野　雅美			必修･選択	必修
担当教員	那須野･野村			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	基礎ゼミⅠでの学びを受けて、主体的に学ぶ姿勢を身につけるために、基礎ゼミⅡでは、学生が主体となって大学での学びを充実させるための技術と姿勢を学ぶ。具体的には、基礎ゼミⅠで学んだ学問の探求方法を活用して、「個人の関心のあるテーマを設定する」「そのテーマについての文献検索を行って文献を熟読する」「熟読した結果わかったことを小論文としてまとめる」「まとめたことを発表し、討議する」という体験をする。この体験を通して、基礎ゼミⅠで体験した主体的に学問を探求し、能動的に学ぶことの面白さをよりいっそう体得する。				
到達目標	1. 日常生活において、様々な場面で興味･関心をもち、疑問をもつことができる。 2. 看護研究計画発表会に参加した気づきを活かし、課題図書の中から興味･関心･疑問について問いを立てることができる。 3. 自ら立てた「問い」について、能動的に調べることができる。 4. 調べた内容を整理･分析し、プレゼンテーションすることができる。 5. プレゼンテーションに対して討議し、再考することができる。 6. グループメンバーと協力して課題に取り組み、自己の考えを表現することができる。 7. グループメンバーとの				
アクティブ･ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目･担当者	学修内容	授業方法（アクティブ･ラーニング）･予習･復習･レポートなどの課題
1	･基礎ゼミⅡオリエンテーション 基礎ゼミⅡ担当教員	･基礎ゼミⅡ　全体オリエンテーション ･4 年生看護研究発表会への参加について ･担当教員と課題図書の検討、役割分担	授業方法：講義･グループワーク 予習：基礎ゼミⅠの見直し 前期で大学生として学んだこと 復習：課題図書の準備
2	･課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議①	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の概要把握 復習：課題図書に関連した資料収集
3	･課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議②	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べ資料を準備する 復習：課題図書に関連した資料収集と整理
4	･課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議③	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べ資料を準備する 復習：課題図書に関連した資料収集と整理
5	･看護研究発表会への参加：10 月 11 日(土) (午前：1～6G) 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅠでの学びと実際の照合	授業方法：研究発表会への参加 予習：看護研究計画書について調べる 復習：看護研究発表会に参加しての振り返り 提出課題：「看護研究発表会に参加しての気づき」 締切：10 月 17 日（金） 23：59 提出先：各ゼミの Classroom
6	看護研究発表会への参加 (午後：7～12G) 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅠでの学びと実際の照合	授業方法：研究発表会への参加 予習：看護研究計画書について調べる 復習：看護研究発表会に参加しての振り返り 提出課題：「看護研究発表会に参加しての気づき」 締切：10 月 17 日（金） 23：59 提出先：各ゼミの Classroom
7	住空間デザイン学生と健康栄養学科学生との協同学習① 基礎ゼミⅡ担当教員	テーマ（健康と環境と食）について討議･まとめ	授業方法：グループワーク･中間発表 予習：健康と環境と食の共通点や関連性を調べる 復習：GW の振り返り
8	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議④	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べプレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
9	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション･討議⑤	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べプレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく

10	住空間デザイン学生と健康栄養学科学生との協同学習② 基礎ゼミⅡ担当教員	テーマ（健康と環境と食）について討議・まとめ	授業方法：グループワーク・発表 予習： 第 7 回目の協同学修の振り返り 復習：GW の振り返り 提出課題 ：7・10 回の他学部学生との協同学習を通しての学び 締切：1 1 月 14 日（金）23：59 提出先：各ゼミの Classroom
11	課題図書の討議	プレゼンテーション・討議⑥	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
12	課題図書の討議	プレゼンテーション・討議⑦	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
13	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議⑧	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
14	課題図書の討議 基礎ゼミⅡ担当教員	プレゼンテーション・討議⑨	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べレゼンテーション資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
15	基礎ゼミⅡまとめ 基礎ゼミⅡ担当教員	基礎ゼミⅡの振り返り	授業方法：グループワーク 予習：基礎セミⅡの振り返り 復習：他者の意見も踏まえ「問い」の内容を見直す 小論文の提出期限：2025 年 1 月 16 日（金）23：59 提出先：Classroom

授業開始前学習	基礎ゼミⅠで使用したテキストおよび学びの内容を見直す。							
授業内課題のフィードバックの方法	その都度、返却する。小論文は評価後に返却する。							
テキスト・教材	・井下千以子著『大学の学び入門 第 2 版 理論的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』（慶応義塾大学出版会,2020) ・グループで決定した課題図書							
参考書	適宜、ゼミグループで検討する。							
評価の基準と方法	1 グループワークへの参加度（50%） 2 課題（課題図書プレゼンテーション・看護研究計画発表会・他学部との協同学習）（30%） 3 小論文（20%）							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	○	△				
関連科目	基礎ゼミⅠ							
その他	学習上の留意点 ・進め方については、到達目標の達成に向けてグループで検討してきめること。 ・りんどう祭にて開催される看護研究発表会への出席は、基礎ゼミⅡの授業 2 回分に該当するため、必ず出席すること。 ・他学部・学類の学生との協同学習の機会が、有益な学びの場となるように積極的に参加すること。 ・課外活動を取り入れる場合には、3 週間前に「学外活動届」の提出が必要なため 早めに計画を立てること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 15 時間							
実務経験を活かした教育内容	本科目は、教育および研究実績が豊富な教員が担当している。前期の基礎ゼミⅠに引き続いて、主体的に考え学びを深めるための科目である。あらたな「問い」を見つけ、知ること・わかることを楽しむとともに、他者に伝える技術と姿勢を培う。また、他学部・学類の学生と学びの場を共有することにより、視点の違いや共通点などを知ると共に、社会的ネットワーキングを拡げる機会とする。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-122 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-120-21 （J）	授業コード	H00615
科目名称	情報処理			単位数	1.00 単位
英文名称	Information Processing			授業区分	演習
科目責任者	須藤　眞由美			必修・選択	選択
担当教員	松木　秀明			開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	情報化社会における ICT（Information and Communication Technology）の活用スキルを獲得することを目的に、コンピュータの仕組み、エクセル・ワード・パワーポイントそれぞれの知識と基本操作を理解する。そのうえで、医療情報や看護情報を適切に活用できるよう、情報の収集・情報の整理・情報の分析・情報の提示の方法を学ぶ。また情報を扱う上で理解しておくべき、知的財産権・個人情報保護などの法律や、情報セキュリティーなどの情報倫理を学ぶ。				
到達目標	1．コンピュータの基礎を記述できる。 2．情報の危険性と情報にまつわる法律について関連付けることができる。 3．情報の社会での活用について述べることができる。 4．アンケート調査の方法とまとめかたを実施できる。 5．統計の基礎をまとめ、応用できる。 6．自力でデータの処理と分析及び発表ができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	情報科学概論	情報科学概論 コンピュータの操作	授業方法は、講義と演習（実習） 予習：教科書第 6 章を読んでくる 復習：授業内容を復習する
2	コンピュータの構成	OS とハードウェア WORD	授業方法は、講義と演習（実習） 予習：教科書第 1 章を読んでくる 復習：授業内容を復習する
3	情報倫理Ⅰ	ネットの利用上の注意 WORD	授業方法は、講義と演習（実習） 予習：教科書第 2 章を読んでくる 復習：授業内容を復習する
4	情報倫理Ⅱ	情報セキュリティー WORD	授業方法は、講義と演習（実習） 予習：教科書第 2 章を読んでくる 復習：授業内容を復習する
5	情報倫理Ⅲ	知的財産権 POWER POINT	授業方法は、講義と演習（実習） 予習：教科書第 3 章を読んでくる 復習：授業内容を復習する
6	ユビキタス社会	情報の伝達・ユビキタス社会 POWER POINT	授業方法は、講義と演習（プレゼンテーション） 予習：講義プリントを配布。教科書第 3 章を読んでくる 復習：授業内容を復習する
7	医療の情報化	医療・介護・健康分野の ICT の活用 EXCEL	授業方法は、講義と演習（実習） 予習：講義プリントを配布。教科書第 4 章を読んでくる 復習：授業内容を復習する
8	情報倫理Ⅳ	個人情報保護法 EXCEL	授業方法は、講義と演習（実習） 予習：教科書第 4 章を読んでくる 復習：授業内容を復習する
9	データの収集・整理	アンケート・データ収集の注意点 EXCEL	授業方法は、講義と演習（実習） 予習：教科書第 4 章を読んでくる 復習：授業内容を復習する
10	記述統計学	尺度と基本統計量 EXCEL	授業方法は、講義と演習（実習） 予習：教科書第 5 章を読んでくる 復習：授業内容を復習する
11	データの視覚的表現	グラフの作成と活用 EXCEL	授業方法は、講義と演習（実習） 予習：教科書第 4 章を読んでくる 復習：授業内容を復習する
12	データの解析Ⅰ	検定の概念 EXCEL	授業方法は、講義と演習（実習） 予習：教科書第 5 章を読んでくる 復習：授業内容を復習する
13	データの解析Ⅱ	t 検定 EXCEL	授業方法は、講義と演習（実習） 予習：教科書第 5 章を読んでくる 復習：授業内容を復習する

14	データの解析Ⅲ	χ2 検定 EXCEL	授業方法は、講義と演習（課題解決型学習） 予習：教科書第 5 章を読んでくる 復習：授業内容を復習する
15	データの解析Ⅳ	相関と回帰 EXCEL	授業方法は、講義と演習（課題解決型学習） 予習：教科書第 5 章を読んでくる 復習：授業内容を復習する

授業開始前学習	１．講義の予定範囲を教科書や講義プリントであらかじめ一読し、授業後に教科書、講義プリントなどを復習する。特に統計は積み重ねであることを理解し、毎回の講義内容を理解していくこと。 ２．演習では、授業後に必ず復習をして毎回の内容を十分身につけておくこと。（授業以外でもコンピュータ自習室などで、できるだけパソコンに触れて学習する。）
授業内課題のフィードバックの方法	授業 13 回目の小試験は翌週に返却、回答する。 授業 15 回目に提出する課題は提出時に個別に講評する。
テキスト・教材	松木秀明・須藤真由美・松木勇樹 「医療・看護系のための情報リテラシー」 東京図書
参考書	松木秀明・須藤真由美・松木勇樹 「医療統計学」 東海大学出版会
評価の基準と方法	期末試験（80%）及び課題レポート（20%）の結果より総合的に評価する。

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎					△	△	

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間+予習・復習時間 15 時間
実務経験を活かした教育内容	SE の実務経験あり。統計を含めたコンピュータの活用全般について講義・演習を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	310-120-11	授業コード	H00130
科目名称	統計学			単位数	1.00 単位
英文名称	Statistics			授業区分	講義
科目責任者	大久保　茂子			必修・選択	選択
担当教員	大久保　茂子			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	前期　木曜日 10:00～13:00 後期　木曜日 10:00～13:00			研究室	1-312
授業概要	数理的な思考法を理解するために、統計の基礎的な概念、日常的に遭遇する問題を解決に導くための適切なデータ収集の方法とデータ分析の方法、データの正確な解釈の方法について学ぶ。また、多種多様な情報を正確に理解するための統計結果の活用の方法についても学ぶ。これらの学びを通して、統計を扱うための正しい知識、実社会の事象に対する論理的・客観的な分析力を身につける。				
到達目標	1．統計学と医療および看護の関わりについて説明できる。 2．データの種類とまとめ方を説明できる。 3．確率と分布の概念について説明できる。 4．　統計的仮設検定の意味を理解し、結果の解釈ができる。 5．母集団・標本の概念および推定について説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	統計学概論	統計の歴史 記述統計と推測統計	講義形式で実施。指定テキストの該当部分を熟読する/授業で学んだことの復習を行う。
2	記述統計学	データの種類 代表値とデータ散布	講義形式で実施。講義後に小テストを実施する。指定テキストの該当部分を熟読する/授業で学んだことの復習を行う。
3	確率と分布の概念	正規分布と各種分布	講義形式で実施。講義後に小テストを実施する。指定テキストの該当部分を熟読する/授業で学んだことの復習を行う。
4	データに合わせた統計解析手法①	仮設検定 検定方法①	講義形式で実施。講義後に小テストを実施する。指定テキストの該当部分を熟読する/授業で学んだことの復習を行う。
5	データに合わせた統計解析手法②	検定方法② 相関	講義形式で実施。講義後に小テストを実施する。指定テキストの該当部分を熟読する/授業で学んだことの復習を行う。
6	母集団と標本の概念①	母集団・標本の概念 点推定	講義形式で実施。講義後に小テストを実施する。指定テキストの該当部分を熟読する/授業で学んだことの復習を行う。
7	母集団と標本の概念②	母集団・標本の概念 区間推定	講義形式で実施。講義後に小テストを実施する。指定テキストの該当部分を熟読する/授業で学んだことの復習を行う。
8	まとめ	第 1-7 回までの講義内容の総まとめ	講義形式で実施。本科目のこれまでの資料全てを持参すること。授業で学んだことの復習を行う。

授業開始前学習	指定テキストに目を通しておくこと。			
授業内課題のフィードバックの方法	初回講義時に説明する。			
テキスト・教材	浅野嘉延著：楽しく学べる　看護学生のための疫学・保健統計，南山堂			
参考書	高木晴良著：系統看護学講座-基礎分野　統計学,医学書院 内田治・嵜山陽二郎著：JMP による医療系のための多変量データ分析,東京図書			
評価の基準と方法	定期試験（100%）			
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○			
関連科目	情報処理，疫学（保健統計学Ⅰ），疫学（保健統計学Ⅱ）							
その他	◇学習上の留意点 授業終了後は、理解できなかった箇所を整理し、次回の授業で質問する。							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間＋予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	NU-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	310-120-11	授業コード	H01070
科目名称	人間工学			単位数	1.00 単位
英文名称	Ergonomics			授業区分	講義
科目責任者	大瀧　保明			必修・選択	選択
担当教員	大瀧　保明			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	人間の行為や作業における安全性・安楽性・効率性について理解するための人間工学の概念、特にボディメカニクスの原理について学ぶ。また、人間工学の概念を受けて、日常生活や看護における行為や所作、手順、また機器や設備の設計に人間工学の考え方が取り入れられていることに気づくことを通して、技能に対する理解を深め、それらを安全に安楽に、そして効率的に行うための知識的な素地をつくる。				
到達目標	1．看護領域における人間工学の適用と、その有用性について説明できる。 2．行為（作業）の安全性、安楽性、効率性についてボディメカニクスの観点から説明できる。 3．人間特性への配慮にもとづき、環境や機器、行為を改善する人間中心設計を説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	人間工学とは何か	人間工学の概念、それを構成する要素、関係する学問や知識、身の回り事例から人間工学の意義、考え方を紹介する。本科目で学ぶ内容と目標を確認する。授業準備や講義ガイダンスを含む。	講義 予習：本講義の概要と目標について確認しておく。 復習：講義内容を整理し、教科書の該当ページを確認する。
2	身体の諸特性と機能、身体適合性	身体の仕組みと物理的に捉えた性質を学ぶ。さらに姿勢や動作の特徴から、作業しやすい環境、姿勢によって生ずる作業範囲の違いを理解する。身体特性をふまえた道具の形状や作業空間の適切さ、配慮について学ぶ。	講義 予習：教科書の該当ページを一読し、関連知識を確認する。 復習：講義内容を整理し、演習問題や映像資料で理解を確認する。
3	作業姿勢と動作の負担、効率	身体動作を力学的に分析する方法、ボディメカニクスの考え方を学ぶ。動作の安定性や身体への力学的負担を評価する方法を学び、ボディメカニクスの基本的な原理を理解する。	講義（アクティブ・ラーニング、簡単な作図や計算などワーク） 予習：教科書の該当ページを一読し、疑問点を挙げておく。 復習：講義内容を整理し、演習問題で理解を確認する。
4	身体の姿勢と重心、安定性	身体の姿勢や動作を分析するための力学モデルについて理解する。簡単なワークにより身体の構成や部分の重さなど、評価上の前提について理解し、ボディメカニクスによる動作分析のアプローチを学ぶ。	講義（アクティブ・ラーニング、簡単な作図や計算などワーク） 予習：体に負担のかかる姿勢を想起し、要因をまとめておく。 復習：講義内容から、ワークで取り上げた作業課題を再考する。
5	看護技能・作業のボディメカニクス	看護作業、介助などを事例に、ボディメカニクスによる分析をとおして、行為の安全性、安楽性、効率性、技能に見られる工夫について検討する。動作や姿勢に関わる問題の捉え方、適正化について学ぶ。	講義 予習：資料を一読し、疑問点を挙げておく。 復習：講義内容を整理し、演習問題で理解を確認する。
6	ボディメカニクスの適応による姿勢と動作の誘導	看護技能における道具の活用や力の伝達における工夫、手順や設備環境による姿勢と動作の適切な誘導についてボディメカニクスの観点から検討する。	講義 予習：ボディメカニクスの 8 原則について復習する。日常生活で身の回りの道具や家具、設備に見られる適応を考える。 復習：講義内容から、予習で取り上げた問題を再考する。
7	使いやすさ・わかりやすさ	ユーザビリティやヒューマンエラーの考え方を学び、日常や医療における様々な機器・器具に適用される安全設計を理解する。道具や作業の適正化、改善における人間中心設計のプロセスを知る。	講義 予習：資料を一読し、疑問点を挙げておく。 復習：身の回りの製品、機器が有する安全配慮を整理する。
8	医療機器の人間工学/人間中心設計	医療機器、医療環境における人間工学の適応と機器や器具に見られる工夫、ユーザビリティーの改善について学ぶ。講義を総括し、看護、医療における人間工学のこれからを展望する。	講義 予習：これまでの学習内容を振り返り、疑問点を挙げておく。 復習：講義内容を整理し、演習問題で理解を確認する。
授業開始前学習			

授業内課題のフィードバックの方法	提出された課題は、翌週の授業時に返却する。演習（クイズ）の出題と回収、返却は GoogleClass より行う。							
テキスト・教材	小川 鑛一 著：『イラストで学ぶ看護人間工学』（東京電機大学出版局）							
参考書	岡田明他編著：『初めて学ぶ人間工学』（理工図書） 勝平純司他著：『介助にいかすバイオメカニクス』（医学書院） ユニバーサルデザイン研究会編：『人間工学とユニバーサルデザイン新潮流』（日本工業出版）							
評価の基準と方法	定期試験（筆記）70%、 課題および演習（提出物）30%							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○		△	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-111 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-211-11 （J）	授業コード	HA0215
科目名称	人体の構造と機能Ⅰ			単位数	2.00 単位
英文名称	Human Anatomy and Physiology Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	柴田 昌和			必修・選択	必修
担当教員	柴田 昌和			開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	人体の正常な構造と機能を理解するために、解剖学の学問領域である「人体の構造」と生理学の学問領域である「人体を構成する各器官の機能」を融合させて身体の各臓器や器官の構造と機能について学ぶ。また、身体の各臓器や器官の機能は相互に関連していることを理解する目的で、臓器や器官相互の関連についても学ぶ。Ⅰでは、「解剖生理の基礎知識（人体と細胞、ホメオスタシス）」「骨格系・筋系・神経系」「循環器系」「呼吸器系」「消化器系」などについて学ぶ。				
到達目標	1．細胞・組織・器官・器官系、人体の基礎的な構造と機能の説明ができる。 2．骨の基本的な構造と働きを理解し、全身骨格についての説明ができる。 3．中枢神経と末梢神経および自律神経を理解し、説明ができる。 4．心臓の構造と機能および全身をめぐる脈管の名称と走行を説明ができる。 5．肺の構造と機能およびガス交換システムの説明ができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	解剖生理学のための基礎知識	形からみた人体、人体に関する用語につて解説	予習：教科書 8P～26P を予習する。 ビジュランクラウド Vol.15 を視聴する。 復習：教科書 54P「復習と課題」①～⑥を解き、講義内容を復習する。
2	細胞・組織	細胞の構造とはたらきと 4 つの組織につて解説	予習：教科書 25P～54P を予習する。 ビジュランクラウド Vol.15 を視聴する。 復習：教科書 54P「復習と課題」⑦～⑯を解き、講義内容を理解する。
3	身体の支持と運動(骨の形態と関節)	人体骨格の形態と関節についての解説	予習：教科書 282P～293P を予習する。 ビジュランクラウド Vol.8 を視聴する。 復習：354P「復習と課題」①～⑧を解き、講義内容を理解する。前回小試験の復習。
4	身体の支持と運動（全身骨格）	頭蓋骨、脊柱、上肢、下肢の骨の解説	予習：教科書 296P～337P を予習する。 ビジュランクラウド Vol.9 を視聴する。 復習：355P「復習と課題」⑨～⑭を解き、講義内容を理解する。前回小試験の復習。
5	身体の支持と運動（筋収縮のメカニズム）	筋収縮のメカニズムと頭頸部の筋の解説	予習：教科書 332 P～351 P を予習する。 ビジュランクラウド Vol.8,9 を視聴する。 復習：354P-355P「復習と課題」21～25 を解き、講義内容を理解する。前回小試験の復習。
6	身体の支持と運動（全身の筋）	腹側、背側、上肢、および下肢にある筋の解説。	予習：教科書 292P～332P を予習する。 ビジュランクラウド Vol.8,9 を視聴する。 復習：教科書 354P-355P「復習と課題」⑪～⑳を解き、講義内容を理解する。前回小試験の復習。
7	情報の受容と処理	神経の構造と機能の解説。 ニューロンとグリア細胞の解説。	予習：教科書 359P～368P を予習する。 ビジュランクラウド Vol.1 を視聴する。 復習：教科書 432P「復習と課題」①～⑦を解き、講義内容を理解する。前回小試験の復習。
8	情報の受容と処理	中枢神経系：脊髄の構造と機能および脳（脳幹・小脳）の構造と機能の解説。	予習：教科書 368P～374P を予習する。 ビジュランクラウド Vol.1 を視聴する。 復習：教科書 432P「復習と課題」⑧～⑩を解き、講義内容を理解する。前回小試験の復習。
9	情報の受容と処理	中枢神経系：脳（間脳・大脳）の構造と機能の解説。	予習：教科書 374P～382P を予習する。 ビジュランクラウド Vol.1 を視聴する。 復習：教科書 432P「復習と課題」⑪～⑭を解き、講義内容を理解する。前回小試験の復習。
10	情報の受容と処理	末梢神経系：脳神経の構造と機能および脊髄神経構造と機能の解説。	予習：教科書 383P～252P を予習する。 ビジュランクラウド Vol.2 を視聴する。 復習：教科書 432P「復習と課題」⑮～⑰を解き、講義

			内容を理解する。前回小試験の復習。
11	情報の受容と処理	自律神経系：自律神経（交感神経・副交感神経）の機能の解説。	予習：教科書 241P～249P を予習する。 ビジュランクラウド Vol.7 を視聴する。 復習：教科書 280P「復習と課題」①～③を解き、講義内容を理解する。前回小試験の復習。
12	循環系とその調節	循環器系：循環器の構成と心臓の構造と機能の解説。	予習：教科書 150P～174P を予習する。 ビジュランクラウド Vol.3 を視聴する。 復習：教科書 208P「復習と課題」①～③を解き、講義内容を理解する。前回小試験の復習。
13	循環系とその調節	循環器系：心電図の解説。 末梢循環系：血管の構造と走行（動脈、静脈）の解説。	予習：175P～199P を予習する。 ビジュランクラウド Vol.4 を視聴する。 復習：教科書 208P「復習と課題」④～⑩を解き、講義内容を理解する。前回小試験の復習。
14	循環系とその調節	循環器系：血圧測定の原理とリンパ系の構造と機能の解説。	予習：教科書 206P～208P を予習する。 ビジュランクラウドを Vol.4 視聴する。 復習：教科書 208P「復習と課題」⑪～⑫を解き、講義内容を理解する。前回小試験の復習。
15	呼吸系のはたらき	呼吸器系の構造と機能についての解説。	予習：教科書 97P～125P を予習する。 ビジュランクラウド Vol.6 を視聴する。 復習：教科書 148P「復習と課題」①～⑬を解き、講義内容を理解する。前回小試験の復習。

授業開始前学習	１．講義の予定範囲を教科書や講義プリントであらかじめ一読し、講義の後に必ず復習をして十分理解しておく。 ２．知識を断片的に覚えるのではなく、他の事柄とも関連付けて理解すること。 ３．ビデオ教材（ビジュランクラウド）を通して人体の臓器の形、大きさ、位置関係を確認し、人体の構造への理解を深める。 ※視聴するビジュランクラウドは「目で見る解剖と生理」Vol.1-15 から指定したものである。
授業内課題のフィードバックの方法	各講義開始前に、前週の講義内容の小試験を行うので、小試験内容を復習する。
テキスト・教材	講義プリントを事前配布する。 系統看護学講座　専門基礎分野　「解剖生理・人体の構造と機能１」　医学書院
参考書	イラストでまなぶ人体のしくみとはたらき　田中越郎著　第３版　医学書院 イラスト解剖学　第 10 版　松村譲兒　著　中外医学社
評価の基準と方法	定期試験（配点 100 点）により評価する。

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△			◎	△		

関連科目	人体の構造と機能Ⅱ、薬理学、
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間+予習・復習時間 60 時間
実務経験を活かした教育内容	死体解剖資格を有し、肉眼解剖の経験と通して、人体の構造と機能について分かりやすい講義を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-111 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-211-11 （J）	授業コード	HA0220
科目名称	人体の構造と機能Ⅱ			単位数	2.00 単位
英文名称	Human Anatomy and Physiology Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	柴田　昌和			必修・選択	必修
担当教員	柴田　昌和			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	人体の正常な構造と機能を理解するために、解剖学の学問領域である「人体の構造」と生理学の学問領域である「人体を構成する各器官の機能」を融合させて身体の各臓器や器官の構造と機能について学ぶ。また、身体の各臓器や器官の機能は相互に関連していることを理解するために、臓器や器官相互の関連についても学ぶ。Ⅱでは、「泌尿器系」「内分泌系」「生殖器系」「感覚器系」「その他（免疫系、老化のしくみ、胎児の血液循環）」などについて学ぶ。				
到達目標	1．口腔から直腸までの構造と機能および消化と吸収を理解し、説明できる。 2．泌尿器の構造・機能について理解し、説明できる。 3．各臓器から分泌されるホルモンの名称と機能を理解し、説明できる。 4．女性・男性生殖器の構造と機能の理解と性周期を説明できる。 5．身体の防御機構を理解し、説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
第 1 回	栄養の消化と吸収	口・咽頭・食道・胃の構造と機能の解説	予習　：教科書 58P-65P を予習する。 ビジュランクラウド Vol.10 を視聴する。 復習　：教科書 93P「復習と課題」①～⑤を解き、講義内容の復習をする。
第 2 回	栄養の消化と吸収	胃・小腸・大腸・直腸の構造と機能の解説	予習　：教科書 67P-84P を予習する。 ビジュランクラウド Vol.10 を視聴する。 復習　：教科書 93P「復習と課題」⑥～⑨を解き、講義内容の復習をする。
第 3 回	栄養の消化と吸収	肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能の解説	予習　：教科書 211P-221P を予習する。 ビジュランクラウド Vol.11 を視聴する。 復習　：教科書 277P「復習と課題」⑩～⑮を解き、講義内容の復習をする。前回小試験の復習。
第 4 回	泌尿器系（腎臓の構造・尿の生成）	腎臓の構造と機能および尿生成のメカニズムの解説 （レニン・アンギオテンシン・アルドステロン系）	予習　：教科書 222P-225P を予習する。 ビジュランクラウド Vol.12 を視聴する。 復習　：教科書 277P「復習と課題」④⑤⑥解き、講義内容の復習をする。前回小試験の復習。
第 5 回	泌尿器系（排尿路）	排尿路（尿管・膀胱・尿道）の解説	予習　：教科書 255P-229P を予習する。 ビジュランクラウド Vol.12 を視聴する。 復習　：教科書 277P「復習と課題」⑦⑧を解き、講義内容の復習をする。前回小試験の復習。
第 6 回	泌尿器系（体液）	体液の調節についての解説 アしドーシズ・アルカローシスにつて解説	予習　：教科書 222P-225P を予習する。 ビジュランクラウド Vol.12 を視聴する。 復習　：教科書 277P「復習と課題」⑨⑩を解き、講義内容の復習をする。前回小試験の復習。
第 7 回	内分泌系	自律神経機能につて解説 内分泌系の働きの解説	予習　：教科書 241P-253P を予習する。 ビジュランクラウド Vol.7 を視聴する。 復習　：教科書 280P「復習と課題」①～⑤を解き、講義内容の復習をする。前回小試験の復習。
第 8 回	内分泌系（下垂体）	視床下部・下垂体・甲状腺・上皮小体（副甲状腺）のホルモンの作用の解説	予習　：教科書 254P-265P を予習する。 ビジュランクラウド Vol.7 を視聴する。 復習　：教科書 280P「復習と課題」⑥～⑨を解き、講義内容の復習をする。前回小試験の復習。
第 9 回	内分泌系（その他）	副腎・胸腺・膵臓・腎臓・胃・精巣・卵巣松果体のホルモンの作用の解説	予習　：教科書 265P-280P を予習する。 ビジュランクラウド Vol.7 を視聴する。 復習　：教科書「280P 復習と課題」⑩⑪⑫を解き、講義内容の復習をする。
第 10 回	生殖器系（男性）	男性生殖器の解説	予習　：教科書 461P-466P を予習する。 ビジュランクラウド Vol.13 を視聴する。 復習　：教科書 499P「復習と課題」①②③を解き、講義内容の復習をする。前回小試験の復習。

第 11 回	生殖器系（女性）	女性生殖器系の解説	予習　：教科書 466P-474P を予習する。 ビジュランクラウド Vol.12 を視聴する。 復習　：教科書 499P「復習と課題」⑤～⑧を解き、講義内容の復習をする。
第 12 回	生殖器系（性周期）	卵巣周期・月経周期とホルモンと作用の関係を解説	予習　：教科書 475P-487P を予習する。 ビジュランクラウド Vol.12 を視聴する。 復習　：教科書 499P「復習と課題」⑨～⑫を解き、講義内容の復習をする。前回小試験の復習。
第 13 回	感覚器系	視覚器の解説	予習　：教科書 393P-407P を予習する。 ビジュランクラウド Vol.2 を視聴する。 復習　：教科書 432P「復習と課題」⑱⑲を解き、講義内容の復習をする。前回小試験の復習。
第 14 回	感覚器系	聴覚器・味覚器・嗅覚器の解説	予習　：教科書 408P-432P を予習する。 ビジュランクラウド Vol.2 を視聴する。 復習　：教科書 432P「復習と課題」⑳～㉓を解き、講義内容の復習をする。前回小試験の復習。
第 15 回	代謝と免疫	運動の代謝と免疫（身体の防御）につて解説	予習　：教科書 351P-354P、439P-447P を予習する。 ビジュランクラウド Vol.14 を視聴する。 復習　：教科書 457P「復習と課題」①～⑤を解き、講義内容の復習をする。前回小試験の復習。

授業開始前学習	１．「人体の構造と機能Ⅰ」で学んだ人体の構造について、各講義の項目範囲を復習しておく。各講義の項目に相当する範囲について、参考文献を読むことで理解が深まる。 ２．知識を断片的に覚えるのではなく、他の事柄とも関連付けて理解すること。 ３．ビデオ教材（ビジュランクラウド）を通して人体の臓器の形、大きさ、位置関係を確認し、人体の構造への理解を深める。 ※視聴するビジュランクラウドは「目で見る解と生理」Vol.1-15 から指定したものである。
授業内課題のフィードバックの方法	各講義開始前に、前週の講義内容の小試験をおこなうので、小試験内容の復習をする。
テキスト・教材	講義プリントを事前配布する。 系統看護学講座　専門基礎分野　「解剖生理・人体の構造と機能１」　医学書院
参考書	イラストでまなぶ人体のしくみとはたらき　田中越郎著　第 3 版　医学書院 イラスト解剖学　第 10 版　松村譲兒 著　中外医学社
評価の基準と方法	定期試験(配点 100 点）により評価する。

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△			◎	△		

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ　、薬理学
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間+予習・復習時間 60 時間
実務経験を活かした教育内容	死体解剖資格を有し、肉眼解剖の経験を通して、人体の構造と機能につて分かりやすい講義を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-112 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-211-21 （J）	授業コード	HA0340
科目名称	感染防御学			単位数	1.00 単位
英文名称	Infection Control			授業区分	演習
科目責任者	近藤 陽子			必修･選択	必修
担当教員	近藤 陽子			開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	病原体と感染症の基本概念，生体防御機能を担う免疫機構および感染予防策に関する基礎知識を学習する。各種病原体（細菌，ウイルス，真菌，原虫･蠕虫，プリオン）の一般的性状を整理し，病原体全般の概念を習得した後，感染と発症，感染の経過，感染が成立するための要因（感染源，感染経路，易感染性宿主），日和見感染や医療関連感染について学ぶ。また，感染に対する防御の仕組みおよび標準予防策，滅菌･消毒などの感染症に対する予防に関して理解を深める。さらに，感染症の診断法，検査材料の採取法や保存法，治療法などに関して学習する。				
到達目標	1．微生物の特徴を知り、細菌･ウイルス･真菌･原虫の違いが説明できる 2．感染成立の輪の概念と各種病原体による感染経路の違いが説明できる。 3．主な感染症の検査法の特徴を理解し、検体採取の注意点が言える。 4．感染症治療の基本を理解し、抗菌薬投与における注意点が言える。 5．常在菌の体内への侵入防止方法および自然免疫、獲得免疫など免疫システムについて理解する。 6．Spaulding 分類に基づいた、医療･看護物品の取扱い法が説明できる。 7．医療施設、長期療養施設、在宅の感染対策の特徴と違いが				
アクティブ･ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目･担当者	学修内容	授業方法（アクティブ･ラーニング）･予習･復習･レポートなどの課題
第 1 回 4/10 （木） 3 限	授業ガイダンス 感染と看護	･感染とは何か ･感染の定義および汚染、保菌 ･感染成立の 3 因子 ･感染成立の輪（Chain of Infection） ･感染予防の基本概念 ･看護における感染予防 ･Nightingale の実践した感染予防 ･看護技術における感染予防の重要性 ･感染管理認定看護師/感染症看護専門看護師 ･感染制御チーム（ICT） ･なぜ、いま感染対策か ･感染対策の基本	予習：これまでに経験した感染症および感染関する疑問をまとめて（形式自由）、授業に参加する。 復習：授業内容の復習 ＊毎回の授業開始時に 5 分間のミニテストを行う）
第 2 回 4/17 （木） 3 限	感染症の歴史 微生物と感染成立の基本知識	･世界における感染症の歴史 ･日本における感染症の歴史 ･新興感染症と再興感染症 ･微生物学の発展の歴史 ･薬剤耐性菌の出現 ･微生物の基本知識 ･微生物の種類（細菌/ウイルス/真菌/原虫/寄生虫 ほか） ･各微生物の構造と性質と増殖方法 ･病院でよく見る病原微生物	予習：授業内容の復習 復習：微生物の基礎知識の課題①
第 3 回 4/24 （木） 3 限	常在菌と免疫	･人間の防御機構と微生物の感染様式 ･人の常在菌と防御機能 ･免疫と微生物 ･免疫の基礎知識 ･自然免疫と獲得免疫 ･ワクチンによる免疫獲得	予習：人の免疫について 基礎知識をまとめる 復習：免疫と常在菌に関する課題②
第 4 回 5/1 （木） 3 限	病原微生物と感染症 ① 細菌 1	･細菌による感染症、検査と治療 ･大腸菌/コレラ菌/百日咳菌など ･食中毒の原因菌	予習：身近な細菌を調べる 復習：細菌の基礎知識に関する課題③
第 5 回 5/8 （木） 3 限	病原微生物と感染症 ① 細菌 2	･細菌による感染症、検査と治療 ･結核菌/黄色ブドウ球菌/レンサ球菌/ヘリコバクターピロリ など	予習：細菌の基礎知識に関する課題④ 復習：授業内容をまとめる

第 6 回 5/15 （木） 3 限	病原微生物と感染症 ③ ウイルス 1	ウイルスによる感染症、検査と治療 ・インフルエンザ ・新型コロナウイルス感染症 ・ノロウイルス感染症　など	予習：ウイルスと細菌の違いを復習する 復習：ウイルスの基礎知識に関する課題⑤
第 7 回 5/22 （木） 3 限	病原微生物と感染症 ④ ウイルス 2	・ウイルスによる感染症、検査と治療 ・RS ウイルス、アデノウイルス、小児流行性ウイルス感染症（水痘・麻疹・風疹・ムンプス） ・肝炎（A 型、B 型、C 型） ・HIV　ほか	予習：インフルエンザの感染対策についてまとめる 復習：ウイルスの基礎知識に関する課題⑥
第 8 回 5/29 （木） 3 限	病原微生物と感染症 ⑤ 真菌、原虫	・真菌、原虫等による感染症、検査と治療 ・カンジダ症/アスペルギルス症/クリプトコッカス/白癬など ・マラリア/赤痢アメーバ/トリコモナス/クリプトスポリジウム/トキソプラズマ　など	予習：真菌を見たことがある場所について、調べておく 復習：ウイルスの基礎知識に関する課題⑦
第 9 回 6/5 （木） 3 限	感染予防技術①	標準予防策（Standard precaution） ・標準予防策に含まれるもの ・経路別予防策 ・接触感染 ・飛沫感染 ・空気感染 ・エアロゾル感染	予習：COVID19 の時に行った感染対策 復習：授業内容をまとめる
第 10 回 6/23 （月） 1 限	感染予防技術② ・Spaulding 分類	・Spaulding の分類に基づいた物品処理 ・Spaulding 分類の概念 ・洗浄、消毒、滅菌 ・ファシリティマネジメント ・日和見感染症と医療関連感染 ・人工呼吸器関連肺炎予防 ・尿路感染予防 ・血流感染予防 ・手術部位感染予防 ・職業感染予防 ・針刺し事故 ・血液媒介感染症 ・結核 ・予防接種、集団免疫	予習：使ったことのある消毒薬について薬品名を調べておく 復習：授業内容をまとめる
第 11 回 6/23 （月） 2 限	・医療関連感染 ・職業感染予防 ・環境培養調査	・日和見感染症と医療関連感染 ・人工呼吸器関連肺炎予防 ・尿路感染予防 ・血流感染予防 ・手術部位感染予防 ・職業感染予防 ・針刺し事故 ・血液媒介感染症 ・結核 ・予防接種、集団免疫	予習：易感染について調べてくる 復習：授業内容をまとめる
第 12 回 6/26 （木） 3 限	環境汚染調査	環境汚染調査 ・環境培養の結果 ・培地の観察 ・手指消毒の評価 ・培地の観察	予習：環境における細菌汚染について、課題レポートを読む 復習：実験レポートを仕上げる
第 13 回 6/26 （木） 4 限	在宅・長期療養施設における感染予防	医療施設以外における感染対策 ・長期療養施設の感染対策 ・在宅における感染対策 ・地域（学校など）における感染対策	予習：医療施設を長期療養施設や自宅は、どのような違いがあるか、考えてくる 復習：授業内容をまとめる
第 14 回 7/10 （木） 3 限	感染に伴う倫理課題①	・B 型肝炎集団予防接種 ・ハンセン病 ・HPV 予防接種 ・Covid19 で見られた倫理的問題	予習：Covid19 の経験で、自分が感じた倫理的問題を１つ探してくる 復習：授業内容をまとめる
第 15 回 7/17 （木） 3 限	感染に伴う倫理課題②	・感染に関連した倫理課題 ・感染症患者の倫理問題 ・感染対策の倫理問題	グループワーク 予習：提示された倫理課題について自分の意見をまとめて 復習：授業内容をまとめる

授業開始前学習	事前課題は予習内容に沿ったものを授業ごとに提示し、授業内で回収する
授業内課題のフィードバックの方法	授業終了 5 分前に、質問・意見用紙を配布し、回収する。質問への回答は、次回の授業の中で回答する。
テキスト・教材	授業ごとに資料を配布する

参考書	わかる！身につく！病原体・感染・免疫　藤本秀士編著　南山堂　第３版							
評価の基準と方法	定期試験 100%で評価する							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△			◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間+予習・復習時間 15 時間							
実務経験を活かした教育内容	大学病院の感染対策室での活動、認定・専門看護師育成、大学における細菌研究の経験に基づく講義を行う。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-111	科目分類（～2024 年入学者）	310-211-11	授業コード	HA0350
科目名称	栄養学			単位数	2.00 単位
英文名称	Nutrition			授業区分	講義
科目責任者	原　純也			必修・選択	必修
担当教員	安部　聡子			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	臨床における栄養について理解するために、栄養についての基礎的な知識や栄養についての基礎的な知識、そして疾病の治療における栄養の意義について学ぶ。また、栄養と疾病予防、健康の維持・増進との関連について、発達段階に応じた栄養管理という観点から学ぶ。食事療法を行っている対象とかかわるさいに必要となる食事療法の基本的な考え方についても学ぶ。				
到達目標	1.各疾患の病因と病態、症状、診断と治療を理解し、栄養素の大切さを説明できる。 2.栄養・食事療法による疾病の治癒促進や再発の予防の方法について記述できる。 3.ライフステージ別の栄養管理と栄養教育について説明できる。 4.栄養必要量の算出と栄養補給法の選択による栄養摂取量と食事の構成を具体的に述べることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	ガイダンス 原　純也	授業の進め方 臨床栄養学の意義と目的	教科書 P2～15 アクティブ・ラーニング　GW 栄養と食事について Key ward　人間栄養学　チーム医療
2	栄養素の種類と働き 原　純也	各栄養素の役割について 栄養素の種類とその役割	教科書 P18～42 Key ward　エネルギー産生栄養素、ビタミン、ミネラル、食物繊維
3	食物の消化と吸収及びエネルギー代謝 原　純也	消化と吸収の概要 代謝経路	教科書 P46～71・P74～89 Key ward 消化吸収経路　エネルギー代謝
4	食事と食品 原　純也	日本人の食事摂取基準 食品に多く含まれる栄養素	教科書 P92～111 Key ward 摂取基準　指標と目的
5	栄養ケア・マネジメント① 原　純也	栄養ケア・マネジメント概要 栄養スクリーニング 栄養アセスメントの概要	教科書 P114～129 アクティブ・ラーニング　GW　アセスメント手法 Key ward スクリーニング法、アセスメント法 栄養補給法　栄養教育　モニタリング法
6	栄養状態の評価・判定① 原　純也	栄養アセスメントの意義 各種栄養アセスメント法を実践	教科書 P132～145 Key ward　SGA　ODA
7	栄養状態の評価・判定② 原　純也	食事調査法	教科書 P146～149 アクティブ・ラーニング　GW　食事調査評価 Key ward　食事調査法
8	ライフステージと栄養 原　純也	乳児期から高齢期における特徴 栄養ケア・マネジメントの要点について	教科書 P152～186 Key ward　ライフステージ別栄養管理
9	臨床栄養① 原　純也	病院食の概要 栄養補給方法 経腸栄養法と種類 静脈栄養法と種類	教科書 P188～205 Key ward 一般食　特別食　栄養補給法
10	臨床栄養② 原　純也	やせ（サルコペニア・フレイル含む）について栄養療法について 肥満症・メタボリックシンドロームの栄養療法について 循環器疾患の栄養療法	教科書 P206～208 Key ward　PEM　マラスムス　クワシオルコル　メタボリックシンドローム　適正体重　適正エネルギー摂取
11	臨床栄養③ 原　純也	消化器疾患の栄養療法について	教科書 P208～216 Key ward　胃腸疾患　肝臓疾患　膵臓疾患　下痢　便秘
12	臨床栄養④ 原　純也	内分泌代謝（特に糖尿病）における栄養療法 腎臓疾患における栄養療法 血液疾患における栄養療法	教科書 P216～223 Key ward　2 型糖尿病　1 型糖尿病　妊娠糖尿病 CKD 病期分類　貧血　白血病
13	臨床栄養⑤ 原　純也	食物アレルギーにおける食事療法 摂食嚥下障害患者の栄養食事療法 その他疾患の栄養療法	教科書 P223～228 Key ward　特定原材料　除去食　学会分類 2021
14	臨床栄養⑥ 原　純也	がん患者の栄養食事療法	教科書 P230～236 Key ward　術前・術後栄養管理　がん悪液質　副作用

15	健康づくりと食生活 原　純也	生活習慣病予防のための栄養療法 健康栄養指針について 食の安全	教科書 P238～251 Key ward　生活習慣病予防　食生活施策

授業開始前学習	◇準備学習 講義の予定範囲を教科書や講義プリントであらかじめ一読し、講義の後に必ず復習をして十分理解しておく。 ◇学習上の留意点 知識を断片的に覚えるのではなく、他の事柄とも関連付けて理解すること。							
授業内課題のフィードバックの方法	初回講義時のガイダンスで説明する。							
テキスト・教材	系統看護学講座　鈴木志保子　外山健二　中村丁次　専門基礎分野　　栄養学　医学書院							
参考書	系統看護学講座　足立香代子　寺本房子　中村丁次　　別巻　栄養食事療法　医学書院							
評価の基準と方法	定期試験（100%）での得点数にて評価する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間+予習・復習時間 60 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-111 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-211-11 （J）	授業コード	HA0255
科目名称	薬理学			単位数	1.00 単位
英文名称	Pharmacology			授業区分	講義
科目責任者	下枝　貞彦			必修・選択	必修
担当教員	畔蒜　祐一郎			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	ー			研究室	-
授業概要	臨床で用いられる薬物について理解し、対象が効果的で安全な薬物療法を受けることができるように、薬物療法の目的、薬物の投与経路と作用機序、薬効の個人差に影響する因子、薬物の有害反応など薬物療法の基礎的な知識について学ぶ。また、臨床において使用頻度の高い薬物を取り上げ、その薬物を使用するさいの留意点を学ぶことを通して、効果的で安全な薬物療法についての理解を深める。さらには、薬物による医療事故（誤薬、混合禁忌・飲み合わせなど）防止、薬物に対する法律についても学ぶ。				
到達目標	1.薬の用量と作用の関係を説明できる。 2.薬物が作用するしくみについて、例をあげて説明できる。 3.薬物の吸収、分布、代謝、排泄と薬効発現の関わりについて説明できる。 4.薬物の選択、用法、用量の変更が必要となる要因について具体例をあげて説明できる。 5.疾病と薬物の作用に関する知識を修得し、医薬品の作用する過程を説明できる。 6.代表的な薬物相互作用について例をあげ、その機序を説明できる。 7.薬物依存性、耐性について具体例をあげて説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
第 1 回	ガイダンス・薬理学を学ぶにあたって・薬理学の基礎知識 下枝貞彦	薬理学の基本的知識、薬力学、薬物動態学、薬物相互作用、個別化治療などの原則を修得し、看護に必要な医薬品の適正使用に関する基本的事項を身につける。	授業方法：講義 予習：教科書第 1 部第 1・2 章をよく読んでおく。 復習：課題解決型学習用に配布された講義プリント（サブノート）に記述漏れがないかを確認するとともに、当日の講義内容について重要事項を再度教科書で振り返ること。
第 2 回	抗感染症薬 抗がん剤 下枝貞彦	呼吸器感染症、消化器感染症、尿路感染症、性感染症、髄膜炎、薬剤耐性菌、肺がん、乳がん、胃がん、大腸がん、肝細胞がんなどに作用する医薬品の基本的知識を修得し、看護に必要な医薬品の適正使用に関する基本的事項を身につける。	授業方法：講義 予習：教科書第 2 部第 1 章 2 章をよく読んでおく。 復習：課題解決型学習用に配布された講義プリント（サブノート）に記述漏れがないかを確認するとともに、当日の講義内容について重要事項を再度教科書で振り返ること。
第 3 回	免疫治療薬 抗アレルギー・抗炎症薬 下枝貞彦	自己免疫性疾患、臓器移植の拒絶反応、アレルギー性疾患、喘息、アナフィラキシーショック、関節リウマチなどに作用する医薬品の基本的知識を修得し、看護に必要な医薬品の適正使用に関する基本的事項を身につける。	授業方法：講義 予習：教科書 2 部第 3 章 4 章をよく読んでおく。 復習：課題解決型学習用に配布された講義プリント（サブノート）に記述漏れがないかを確認するとともに、当日の講義内容について重要事項を再度教科書で振り返ること。
第 4 回	末梢での神経活動に作用する薬物 中枢神経系に作用する薬物 下枝貞彦	交感神経系・副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する医薬品、うつ病、躁うつ病、てんかん、脳血管疾患、パーキンソン病、認知症などになどに作用する医薬品の基本的知識を修得し、看護に必要な医薬品の適正使用に関する基本的事項を身につける。	授業方法：講義 予習：教科書 2 部第 5 章 6 章をよく読んでおく。 復習：課題解決型学習用に配布された講義プリント（サブノート）に記述漏れがないかを確認するとともに、当日の講義内容について重要事項を再度教科書で振り返ること。
第 5 回	心臓・血管系に作用する薬物 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 下枝貞彦	心不全、虚血性心疾患、高血圧症、閉塞性動脈硬化症、貧血、DIC、慢性閉塞性肺疾患、消化性潰瘍、肝疾患、膵炎、腎不全、子宮内膜症、尿失禁などに作用する医薬品の基本的知識を修得し、看護に必要な医薬品の適正使用に関する基本的事項を身につける。	授業方法：講義 予習：教科書 2 部第 7 章 8 章をよく読んでおく。 復習：課題解決型学習用に配布された講義プリント（サブノート）に記述漏れがないかを確認するとともに、当日の講義内容について重要事項を再度教科書で振り返ること。
第 6 回	物質代謝に作用する薬物 皮膚科用薬・眼科用薬 漢方薬 下枝貞彦	糖尿病、バセドウ病、甲状腺炎、骨粗鬆症、ビタミン欠乏症、アトピー性皮膚炎、皮膚真菌症、褥瘡、白内障、緑内障、加齢性黄斑変性症などに作用する医薬品の基本的知識を修得し、看護に必要な医薬品の適正使用に関する基本的事項を身につける。	授業方法：講義 予習：教科書 2 部第 9 章 10 章および 12 章をよく読んでおく。 復習：課題解決型学習用に配布された講義プリント（サブノート）に記述漏れがないかを確認するとともに、当日の講義内容について重要事項を再度教科書で振り返ること。

第 7 回	救急の際に使用される薬物 消毒薬 輸液製剤・輸血剤 看護業務に必要な薬の知識・薬剤師とのコミュニケーションの取り方 下枝貞彦	心停止・ショック、気管支喘息発作、血栓症、けいれん発作、薬物中毒などに作用する医薬品、感染制御に求められる予防策、消毒薬の選択、電解質の補正とそれらに関わるの基本的知識を修得し、看護に必要な医薬品の適正使用に関する基本的事項を身につける。 病院勤務看護師に必要な処方せんの読み方、医療経済と薬のコスト、基本的な調剤用語などを理解することで、薬剤師と共通専門用語を用い医療現場でコミュニケーションをとる方法を身につける。	授業方法：講義 予習：教科書 2 部第 11 章 13 章および付章をよく読んでおく。 復習：課題解決型学習用に配布された講義プリント（サブノート）に記述漏れがないかを確認するとともに、当日の講義内容について重要事項を再度教科書で振り返ること。
第 8 回	医療現場で役立つ臨床薬理学総合演習 下枝貞彦	医薬品の作用する過程を理解することで、看護における医薬品のリスクを回避するための基本的事項が修得できたかを確認するための演習問題を通じ、本講到達目標の達成度を自己点検する。	授業方法：講義 予習：第 1 講から第 7 講まで配布されたプリントを再度よく読んでおく。 復習：配布された課題解決型演習問題を理解するためのまとめを行う。

授業開始前学習	講義予定項目の SBO を確認し、テキストの該当範囲を読んでから講義に臨むこと。また、講義の後は必ず復習をし、わからないことをそのままにしないで、参考書等で調べること
授業内課題のフィードバックの方法	講義資料は原則サブノート方式となっており、受講しながら重要事項やキーワードを講義時間内に記入させることで、授業内課題とそのフィードバックが毎回できるよう工夫している。さらに、次の講義開始時には冒頭で前回のサブノートを振り返りながら、教員が最重要箇所の復習を行っている。
テキスト・教材	系統看護学講座　専門基礎分野　薬理学　疾病のなりたちと回復の促進③（最新版）　医学書院 なお、必要に応じて講義プリントも配布する。
参考書	安原一・小口勝司：わかりやすい薬理学　第 4 版、ヌーヴェルヒロカワ
評価の基準と方法	小テスト（20%）、定期試験（80%）

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		

関連科目	
その他	◇学習目標 1.薬の用量と作用の関係を説明できる。 2.薬物が作用するしくみについて、例をあげて説明できる。 3.薬物の吸収、分布、代謝、排泄と薬効発現の関わりについて説明できる。 4.薬物の選択、用法、用量の変更が必要となる要因について具体例をあげて説明できる。 5.疾病と薬物の作用に関する知識を修得し、医薬品の作用する過程を説明できる。 6.代表的な薬物相互作用をについて例をあげ、その機序を説明できる。 7.薬物依存性、耐性について具体例をあげて説明できる。
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間
実務経験を活かした教育内容	1 年生が理解できる範囲内で、血液内科専属のがん専門薬剤師としての実務経験上、リスクマネジメントの観点から本講義を修学する意義を具体的に解説している。特にハイリスク薬である抗悪性腫瘍薬、電解質製剤、インスリン製剤、カテコラミン製剤、抗凝固剤などについて看護師であってもその薬効、用法用量に熟知していることで医療事故を水際で回避できることを強調している。したがって、ハイリスク薬を中心に自らの臨床経験を基に、医薬品安全管理の側面からも、講義を展開している。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-111 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-211-11 （J）	授業コード	HA0265
科目名称	病態生理学			単位数	1.00 単位
英文名称	Clinical Pathology			授業区分	講義
科目責任者	看護学部			必修・選択	必修
担当教員	「病態生理学」担当者			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	ー			研究室	-
授業概要	疾病によって生じた生体の病的な状態を理解するために、生体に障害や異常が生じたさいの身体状態について学ぶ。具体的には、疾病の分類（先天異常、退行性変化、循環障害、進行性変化、炎症、腫瘍）の理解、これらが各臓器に生じた場合の生体機能の変化やその生体機能の変化が全身に及ぼす影響について学ぶ。また、ここでの学びを「疾病と治療」の理解に繋げることができるようにする。本科目で学んだ病態生理の理解方法が看護実践を行うさいの根拠となることも学ぶ。				
到達目標	1．人間の身体における本来の働きとその乱れについて理解し、述べることができる。 2．先天異常、代謝障害、循環障害、炎症、腫瘍の疾病について、それぞれのパターンを説明できる。 3．皮膚・体温調節、免疫、体液調節のそれぞれのしくみと病態生理について説明できる。 4．血液のはたらき及び循環、呼吸、消化・吸収、腎・泌尿器、内分泌・代謝、生殖のそれぞれのしくみと病態生理について説明できる。 5．脳・神経、筋肉、感覚器のそれぞれのはたらきと病態生理について説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	ガイダンス 臨床病態学を学ぶための基礎知識	・講義の進め方 ・正常と病気の状態 ・循環障害（虚血と梗塞、充血とうっ血、浮腫と腹水・胸水、出血） ・細胞・組織の障害（細胞の損傷と適応、細胞の死、変形、圧力による臓器の障害、炎症）	予習：教科書 p.2～14 を熟読する 復習：教科書の図・表を確認し、講義内容をまとめる キーワード：病気、循環障害、細胞、炎症
2	臨床病態学を学ぶための基礎知識	・感染症（病原体、感染の成立、生体の治療と予防） ・腫瘍（良性腫瘍と悪性腫瘍、転移、がん遺伝子） ・先天異常と遺伝子異常（奇形、遺伝子・染色体異常） ・老化と死（老化、死の定義）	予習：教科書 p.14～26 を熟読する 復習：教科書の図・表を確認し、講義内容をまとめる キーワード：感染、腫瘍、遺伝子、死
3	皮膚・体温調節のしくみと病態生理	・皮膚の生体防御のしくみとその障害(皮膚の構造と機能、傷害、生体反応による異常) ・体温調節のしくみとその障害(しくみ、発熱、高体温、低体温)	予習：教科書 p.28～37 を熟読する 復習：教科書の図・表を確認し、講義内容をまとめる キーワード：皮膚の機能、体温調節
4	免疫のしくみと病態生理	・免疫のしくみ(免疫反応、自己寛容と自己免疫のしくみ) ・免疫反応の低下(免疫不全、細胞の機能低下) ・免疫反応の過剰(アレルギー反応による障害、自己免疫疾患)	予習：教科書 p.40～54 を熟読する 復習：教科書の図・表を確認し、講義内容をまとめる キーワード：免疫反応、免疫不全、自己免疫
5	体液調節のしくみと病態生理	・体液・電解質の調節とその異常 ・酸・塩基平衡のしくみとその異常	予習：教科書 p.56～70 を熟読する 復習：教科書の図・表を確認し、講義内容をまとめる キーワード：体液・電解質、脱水症、酸と塩基平衡
6	血液のはたらきと病態生理	・骨髄の機能とその障害 ・赤血球の機能とその障害 ・白血球の機能とその障害 ・血小板と出血傾向	予習：教科書 p.72～88 を熟読する 復習：教科書の図・表を確認し、講義内容をまとめる キーワード：骨髄、赤血球、白血球、血小板
7	循環のしくみとその病態生理	・心臓のポンプ機能と病態生理（構造と機能、排出機能の障害） ・血圧調節と末梢循環のしくみと病態生理(血圧と血圧調節、血圧調節と末梢循環の障害)	予習：教科書 p.90～117 を熟読する 復習：教科書の図・表を確認し、講義内容をまとめる キーワード：心臓、血圧、末梢循環
8	呼吸のしくみと病態生理	・呼吸器の構造と機能 ・呼吸困難と呼吸不全 ・呼吸器系の防御機構の障害 ・換気の障害 ・ガスの拡散障害 ・肺循環の障害 ・呼吸調節の障害	予習：教科書 p.120～139 を熟読する 復習：教科書の図・表を確認し、講義内容をまとめる キーワード：呼吸器、呼吸運動、呼吸困難、咳嗽、喀痰

9	消化・吸収のしくみと病態生理	・消化管の構造と機能 ・咀嚼・嚥下の障害 ・胃・腸管の障害 ・消化・吸収の障害	予習：教科書 p.142～174 を熟読する 復習：教科書の図・表を確認し、講義内容をまとめる キーワード：消化管、咀嚼、嚥下、消化・吸収
10	消化・吸収のしくみと病態生理	・肝臓・胆嚢の機能とその障害 ・膵臓の機能とその障害 ・腹膜腔・腹膜・腸間膜の機能とその障害	予習：教科書 p.142～174 を熟読する 復習：教科書の図・表を確認し、講義内容をまとめる キーワード：肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜
11	腎・泌尿器のしくみと病態生理	・腎臓の構造と機能 ・腎機能の障害 ・泌尿器のしくみと病態生理	予習：教科書 p.176～194 を熟読する 復習：教科書の図・表を確認し、講義内容をまとめる キーワード：濾過機能、尿のたくわえと排泄
12	内分泌・代謝のしくみと病態生理	・内分泌のしくみとその異常 ・糖代謝とその異常 ・脂質代謝とその異常 ・尿酸代謝とその異常 ・カルシウム・リンの代謝とその異常	予習：教科書 p.196～219 を熟読する 復習：教科書の図・表を確認し、講義内容をまとめる キーワード：ホルモン、血糖値、インスリン
13	生殖のしくみと病態生理	・女性生殖器の機能とその異常 ・男性生殖器の機能とその異常	予習：教科書 p.222～233 を熟読する 復習：教科書の図・表を確認し、講義内容をまとめる キーワード：女性生殖器、男性生殖器
14	脳・神経、筋肉のはたらきと病態生理	・脳・神経、筋肉の機能 ・脳循環のしくみとその障害 ・髄膜・髄液のはたらきとその障害 ・脳腫瘍 ・頭痛 ・睡眠障害 ・意識と認知の障害 ・運動制御のしくみとその障害 ・筋収縮のしくみとその障害	予習：教科書 p.236～263 を熟読する 復習：教科書の図・表を確認し、講義内容をまとめる キーワード：脳・神経、筋肉
15	感覚器のはたらきと病態生理	・視覚器の機能とその異常 ・聴覚器の機能とその異常 ・味覚・嗅覚とその異常 ・皮膚感覚とその異常	予習：教科書 p.266～278 を熟読する 復習：教科書の図・表を確認し、講義内容をまとめる キーワード：感覚器

授業開始前学習	1. 人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱの知識を復習して授業に臨むこと。 2. 講義の予定範囲を教科書や講義プリントであらかじめ一読し、講義の後に必ず復習をして十分理解しておくこと。 3. 知識を断片的に覚えるのではなく、他の事柄とも関連付けて理解すること。
授業内課題のフィードバックの方法	初回講義時に説明する。
テキスト・教材	系統看護学講座　専門基礎分野　病態生理学　疾病のなりたちと回復の促進２　医学書院
参考書	必要時、参考文献を紹介する。
評価の基準と方法	中間・期末試験（100%） ※前半に１回、後半に１回の試験を実施し合計で 60 点以上の場合は合格とする。

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△			◎	○		

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 15 時間
実務経験を活かした教育内容	消化器外科医の現役医師として実務経験を有している。人体の構造と機能において正常から逸脱する場合の様々な症状・徴候のメカニズムに共通する現象、疾病に対する対応や対処の原則について講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-111 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-211-11 （J）	授業コード	HA0280
科目名称	疾病と治療Ⅰ(内科総論･全身疾患)			単位数	2.00 単位
英文名称	Disease and Treatment Ⅰ (Internal medicine)			授業区分	講義
科目責任者	「疾病と治療Ⅰ」担当者			必修･選択	必修
担当教員	「疾病と治療Ⅰ」担当者			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	―			研究室	-
授業概要	看護学を学ぶにあたり、医療についての理解のもとに、看護学実践の基礎となる臨床医学全般について、内科学を中心に病態生理を理解する。内科総論としては、症候論、診断、治療を学ぶ。各論として人の身体各器官系統に起こる代表的な健康障害について、疾病のメカニズム･主要症状と病態･診断･治療･合併症･予後を学ぶ。主に血液、内分泌系、消化器系、呼吸器系、腎･泌尿器系、アレルギー･膠原病･感染症の内科的治療について学習する。また、高齢社会に伴い高齢者特有の疾患について学ぶ。				
到達目標	1．医学と医療の違いを説明できる。 2．疾病の誘因、生活習慣と病気との関連、病気の身体的･心理的影響を説明できる。 3．確定診断に至るまでの問診･検査法を説明できる。 4．各論として全身性疾患について、病理、病態生理を含めた診断と治療を関連付けられる。 5．様々な症状について述べることができ、その症状由来の原因と関連づけることができる。 6．加齢現象、高齢者疾患の特徴を説明できる。				
アクティブ･ラーニング型授業	無				

授業回数	授業項目･担当者	学修内容	授業方法（アクティブ･ラーニング）･予習･復習･レポートなどの課題
1	医療とは Evidence based practice 総合医療 老年の病態･疾病論	･科目の導入 1．医療とは、医学とは 2．医師の役割 ･原因不明または複数の疾患を有する人への診断･治療：不明熱、発熱･体重減少･貧血などを主訴とする疾患 ･高齢者疾患の症状とその病態生理（老化現象、高齢者疾患の特徴）	予習：医療･医学･医師の役割、チーム医療について事前学習しておく 専門分野Ⅱ 老年看護病態･疾患論の第 2 章～5 章を読んでおく 復習：学んだことを整理し、ノートにまとめる
2･3	消化器疾患	･消化管疾患の病態と内科的治療：潰瘍、ポリープ、腸炎、悪性腫瘍 ･胆嚢･肝臓･膵臓疾患の病態と内科的治療：肝炎ウイルスと肝疾患、胆道疾患、膵疾患	予習：成人看護学 5 消化器 2～5 章を読んでおく 復習：学んだことを整理し、ノートにまとめる
4～5	呼吸器疾患	･呼吸器疾患の症状と病態生理：咳、痰、喀血、呼吸困難と呼吸不全、チアノーゼ ･呼吸器疾患の病態と内科的治療：気管支喘息、間質性肺炎、COPD、悪性腫瘍、呼吸器感染症	予習：成人看護学 2 呼吸器 2～5 章を読んでおく 復習：学んだことを整理し、ノートにまとめる
6～7	循環器疾患	･循環器疾患の症状と病態生理、および内科的治療 ：動悸、不整脈、頻脈、除脈、血圧異常、虚血性心疾患、心不全	予習：成人看護学 3 循環器 2～5 章を読んでおく 復習：学んだことを整理し、ノートにまとめる
8～9	腎･高血圧疾患	腎疾患の症状および病態生理と内科的治療（透析を含む）	予習：成人看護学 8 腎･泌尿器 2～5 章を読んでおく 復習：学んだことを整理し、ノートにまとめる
10～11	免疫･アレルギー疾患	免疫･アレルギー疾患の病態と内科的治療 ：食物アレルギー、SLE、RA、PSS、シェーグレン症候群、PM/DM	予習：成人看護学 11 アレルギー 膠原病 感染症 2～4 章を読んでおく 復習：学んだことを整理し、ノートにまとめる
12～13	代謝･内分泌疾患	内分泌疾患とその病態生理：ホルモン、ネガティブフィードバック ･機構代謝疾患の病態と内科的治療：糖尿病、高脂血症、高尿酸血症 ･内分泌疾患の病態と内科的治療：機能亢進症と機能低下症	予習：成人看護学 6 内分泌･代謝 2～5 章を読んでおく 復習：学んだことを整理し、ノートにまとめる
14～15	血液疾患	血液･造血器疾患の病態と内科的治療 ･骨髄の機能、多血症、再生不良性貧血、造血幹細胞移植、骨髄異形形成症候群 ･白血病、悪性リンパ腫、血小板の機能、血液凝固因子、血友病	予習：成人看護学 4 血液･造血器 2～4 章を読んでおく 復習：学んだことを整理し、ノートにまとめる

授業開始前学習	各疾患の病態、診断、治療方法、合併症の理解を深めるために、解剖・生理の知識を復習して授業に臨むこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	初回ガイダンスで説明する。							
テキスト・教材	・系統看護学講座　専門分野　成人看護学[2, 3, 4, 5, 6, 8, 11]（医学書院） ・専門分野Ⅱ　老年看護病態・疾患論(医学書院) ・必要時、講義プリントを配布する。							
参考書	・系統看護学講座 別巻　医学概論（医学書院）							
評価の基準と方法	中間・期末試験（100%） ※前半に 1 回、後半に 1 回の試験を実施し合計で 60 点以上の場合は合格とする。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目								
その他	◇学習目標 看護学実践の基礎となる臨床医学全般について、内科学を中心に病態生理を理解する。 ※遠隔授業における授業計画は初回ガイダンス時に改めて説明を行う。							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容	現職の医師が、自身の専門分野の実務経験を活かして、それぞれの分野の疾病及び治療に関する講義をします。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-211 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-211-12 （J）	授業コード	HA0290
科目名称	疾病と治療Ⅱ(外科総論・臓器別疾患)			単位数	2.00 単位
英文名称	Disease and Treatment Ⅱ (Surgery)			授業区分	講義
科目責任者	教務関連部会			必修・選択	必修
担当教員	「疾病と治療Ⅱ」担当者			開講時期	2 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	外科学を中心に人体の生理・解剖学とその病理を理解するとともに、外科的治療のもたらす効果と障害についても学ぶ。また麻酔学・蘇生学も学びクリティカルケアについて学ぶ。特に人の身体各器官系統に起こる代表的な健康障害について、疾病のメカニズム・主要症状と病態・診断・治療・合併症・予後を学ぶ。主に消化器系、呼吸器系、循環器系、腎・泌尿器系、女性生殖器系の健康障害と外科的治療について学習する。				
到達目標	1．人体の生理とその病的状態を理解するとともに、外科の発展の歴史を知り、外科的治療のもたらす効果と障害について説明できる。 2．解剖学の知識を活かし、外科的治療について説明できる。また、麻酔学・蘇生学を理解し、クリティカルケアについて説明できる。 3．外科的治療による身体的、心理的影響について説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	外科総論	・外科総論：無菌法、基本的外科手技、創傷の治癒過程	予習：学修内容にあるテキスト該当ページを読んでおく。 復習：授業を振り返り、教科書と照合し整理する。
2	救急医学	・ショックと救急医学：ショックの分類と病態生理、救急外科	予習：学修内容にあるテキスト該当ページを読んでおく。 復習：授業を振り返り、教科書と照合し整理する。
3	麻酔学	・麻酔科学総論：周手術期管理 ・麻酔学各論：局所麻酔・全身麻酔（吸入麻酔薬の薬理）	予習：学修内容にあるテキスト該当ページを読んでおく。 復習：授業を振り返り、教科書と照合し整理する。
4	疼痛緩和	・疼痛緩和の意義と治療 ・緩和ケア	予習：学修内容にあるテキスト該当ページを読んでおく。 復習：授業を振り返り、教科書と照合し整理する。
5	乳腺・内分泌疾患	・乳腺・内分泌疾患の病態と外科的治療：乳腺疾患、甲状腺疾患の外科、その他の内分泌外科疾患	予習：学修内容にあるテキスト該当ページを読んでおく。 復習：授業を振り返り、教科書と照合し整理する。
6～7	消化器疾患	・上部および下部消化器疾患の病態と外科的治療 ・肝胆膵臓疾患の病態と外科的治療	予習：学修内容にあるテキスト該当ページを読んでおく。 復習：授業を振り返り、教科書と照合し整理する。
8～9	呼吸器疾患	・呼吸器疾患の病態と外科的治療：肺がん ・呼吸器疾患の病態と外科的治療：縦隔の構造とその他の肺疾患	予習：学修内容にあるテキスト該当ページを読んでおく。 復習：授業を振り返り、教科書と照合し整理する。
10～11	循環器疾患	・循環器疾患の病態と外科治療：虚血性心疾患 ・循環器疾患の病態と外科治療：弁膜症、心筋症、心膜疾患 ・循環器疾患の病態と外科治療：大血管疾患と末梢血管疾患、先天性疾患	予習：学修内容にあるテキスト該当ページを読んでおく。 復習：授業を振り返り、教科書と照合し整理する。
13～14	腎・泌尿器疾患	・腎・泌尿器疾患の病態と外科的治療：非腫瘍性疾患、腫瘍性疾患	予習：学修内容にあるテキスト該当ページを読んでおく。 復習：授業を振り返り、教科書と照合し整理する。
15	女性生殖器の疾患	・非腫瘍性疾患、腫瘍性疾患	予習：学修内容にあるテキスト該当ページを読んでおく。 復習：授業を振り返り、教科書と照合し整理する。

授業開始前学習	各疾患の病態、診断、治療方法、合併症の理解を深めるために、解剖・生理の知識を復習して授業に臨むこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業時間内に小テストを行うことがある。その場合には、担当教員が該当時間内に解説を行い、質問に回答する。
テキスト・教材	1．専門分野Ⅱ　成人看護学【1】～【11】／医学書院 2．別巻　臨床外科看護各論／医学書院 3．別巻　臨床外科看護総論／医学書院
参考書	当日、プリント配布
評価の基準と方法	中間・期末試験（100%） ※前半に 1 回、後半に 1 回の試験を実施し合計で 60 点以上の場合は合格とする。

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△			◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が協同で指導する科目である。担当教員は全員が医師免許を有し、医療施設にて診療・治療の医師業務を行っている。 本科目では、担当教員が専門とする診療科での実務経験を活かし、受講生が最新の外科治療について理解できるよう講義する。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-211 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-211-12 （J）	授業コード	HA0300
科目名称	疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)			単位数	2.00 単位
英文名称	Disease and Treatment Ⅲ (motor neuron and sensory of organs disease)			授業区分	講義
科目責任者	教務関連部会			必修・選択	必修
担当教員	「疾病と治療Ⅲ」担当者			開講時期	2 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	人の身体各器官系統すなわち運動系器官、神経系器官、感覚系器官に起こる代表的な健康障害について、臨床医学の各領域で、解剖・生理と正常の機能を学ぶ。またそれらの疾病におけるメカニズム・主要症状と病態・診断・治療・合併症・予後およびリハビリテーション、社会福祉資源の活用についても学ぶ。				
到達目標	1. 運動・神経・感覚器疾患の病態と診断・治療について説明できる。 2. 人体の生理とその病的状態を理解するとともに、治療のもたらす効果と障害について説明できる。 3. 治療による身体的、心理的影響について考察できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1・2	神経系疾患の病態と治療	・疾患論：脳血管障害、脳腫瘍 ・疾患論：脳腫瘍、頭部外傷 ・疾患論：脳卒中、くも膜下出血の手術	予習：教科書の「神経系の解剖・生理」に目を通し、既習学習ノートの確認をする。 復習：本時の学びを教科書を振り返りながらポイント整理する。
3～4	神経系疾患の病態と治療 （脳神経内科）	・疾患論：脱髄疾患、パーキンソン病 ・疾患論：認知症" ・疾患論：筋疾患・神経筋接合部疾患、ＡＬＳ	予習：教科書の「神経系の解剖・生理」に目を通し、既習学習ノートの確認をする。 復習：本時の学びを教科書を振り返りながらポイント整理する。
5	リハビリテーション総論	・リハビリテーション医療とチームアプローチ	予習：教科書の本時の該当内容に目を通し、ノートを整理する。 復習：本時の学びを教科書を振り返りながらポイント整理する。
6	放射線治療学総論	・放射線治療の適応と特徴 ・放射線治療の実際	予習：教科書の本時の該当内容に目を通し、ノートを整理する。 復習：本時の学びを教科書を振り返りながらポイント整理する。
7～9	筋・骨系疾患の症状と病態生理 （整形外科）	・脊椎・腰椎の疾患 ・四肢の疾患、骨腫瘍 ・骨折、脱臼、その他の外傷	予習：教科書の本時該当内容に目を通し、ノートを整理する。 復習：本時の学びを教科書を振り返りながらポイント整理する。
10～11	感覚器系疾患の病態生理 （皮膚科）	・皮膚疾患の病態と治療① ・皮膚疾患の病態と治療②	予習：教科書の本時の該当内容に目を通し、ノートを整理する。 復習：本時の学びを教科書を振り返りながらポイント整理する。
12～13	感覚器系疾患の病態生理 （眼科）	・白内障、緑内障、視神経 ・網膜剥離、全身疾患と眼	予習：教科書の本時の該当内容に目を通し、ノートを整理する。 復習：本時の学びを教科書を振り返りながらポイント整理する。
14～15	感覚器系疾患の病態生理 （耳鼻咽喉科）	・耳、鼻の疾患 ・咽頭、喉頭の疾患（永久気管孔造設等）	予習：教科書の本時の該当内容に目を通し、ノートを整理する。 復習：本時の学びを教科書を振り返りながらポイント整理する。

授業開始前学習	各疾患の病態、診断、治療方法、合併症の理解を深めるために、解剖・生理の知識を復習して授業に臨むこと。
授業内課題のフィードバックの方法	講義初回のガイダンス時に説明する。
テキスト・教材	・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学総論／医学書院 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経／医学書院 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10] 運動器／医学書院 ・必要時、講義プリントを配布する。

参考書	特記なし							
評価の基準と方法	中間・期末試験（100%） ※前半に 1 回、後半に 1 回の試験を実施し合計で 60 点以上の場合は合格とする。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△			◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容	現役の医師または理学療法士として担当する項目の疾患・治療に携わっており、その経験に基づいて講義をおこなう。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-211 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-211-12 （J）	授業コード	HA0360
科目名称	疾病と治療Ⅳ(母性・小児)			単位数	2.00 単位
英文名称	Disease and Treatment Ⅳ(Maternal and Pediatric)			授業区分	講義
科目責任者	教務関連部会			必修・選択	必修
担当教員	「疾病と治療Ⅳ」担当者			開講時期	2 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	人間の成長発達プロセスを医学的事象をもとに学習する。特に周産期（妊娠・分娩・産褥期）にある女性の身体的変化を産科学に基づき学習する。また正常逸脱したハイリスク妊産褥婦や産科特有疾患の原因とそのメカニズム、検査方法、最新の治療方法などを学習する。さらに胎芽・胎児期から乳幼児期・学童期・思春期までの小児期特有の疾患について、その原因とメカニズム、検査方法、最新の治療法などを学習する。				
到達目標	（母性） 周産期にある女性の生理的変化と産科特有の疾患がわかる。 （小児） 小児期の特異的な疾患の診断・治療法について説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
第 1 回	母性の疾病と治療 1 「生殖医療と内分泌」 田中　政信	1．本時の導入、予防、医療安全 2．生殖機能と内分泌（女性生殖器の構造、成長発達に伴う性機能の変化、月経周期と調節機能、月経の正常と月経の異常）	予習：教科書の下記該当箇所を熟読し、自分なりに整理してから講義に臨む。 1：p7～44、p49～55 2：p235～242、p92～94 復習：配布資料と教科書の該当箇所を振り返り、内容を整理する。
第 2 回	母性の疾病と治療 2 「妊娠の成立、発生と分化」 田中　政信	3．妊娠の成立と仕組み、配偶子、生殖腺・生殖器系の発生と分化 （遺伝的決定、生殖腺・生殖器の形成、性分化疾患）	予習：教科書の下記該当箇所を熟読し、自分なりに整理してから講義に臨む。 3：p176～187、p 68～80 復習：配布資料と教科書の該当箇所を振り返り、内容を整理する。
第 3 回	母性の疾病と治療 3 「胎芽・胎児の発育、胎児付属物」 田中　政信	4．胎芽・胎児の発育（検査法の診断と評価など）、胎児付属物（胎盤、胎盤ホルモン、臍帯、卵膜、羊水）	予習：教科書の下記該当箇所を熟読し、自分なりに整理してから講義に臨む。 4：p187～189、p226～230 復習：配布資料と教科書の該当箇所を振り返り、内容を整理する。
第 4 回	母性の疾病と治療 4 「妊娠の正常と異常①」 田中　政信	5．妊娠の正常と異常（妊娠維持と母体の適応、妊婦健康診査、胎位・胎勢・胎向、頸管成熟度、異常妊娠（異所性妊娠、前置胎盤、癒着胎盤、流産・早産など））	予習：教科書の下記該当箇所を熟読し、自分なりに整理してから講義に臨む。 5：p189～194、p226～234、p251～264、p271～300 復習：配布資料と教科書の該当箇所を振り返り、内容を整理する。
第 5 回	母性の疾病と治療 5 「妊娠の正常と異常②」 田中　政信	6．妊娠の正常と異常（妊娠疾患、胎児性異常妊娠、合併症妊娠）	予習：教科書の下記該当箇所を熟読し、自分なりに整理してから講義に臨む。 6：p301～320 復習：配布資料と教科書の該当箇所を振り返り、内容を整理する。
第 6 回	母性の疾病と治療 6 「分娩の正常と異常①」 田中　政信	7．分娩の 3 要素（娩出力、産道、胎児などの正常と異常）	予習：教科書の下記該当箇所を熟読し、自分なりに整理してから講義に臨む。 7：p195～215、p242～250、p265～270、p320～328 復習：配布資料と教科書の該当箇所を振り返り、内容を整理する。
第 7 回	母性の疾病と治療 7 「分娩の正常と異常②、産褥の正常と異常」 田中　政信	8．分娩時の損傷や出血（子宮破裂、頸管裂傷、会陰裂傷、外陰血腫、弛緩出血、子宮内反症、産科ショック、羊水塞栓症、産科危機的出血、産科処置と産科手術） 9．産褥の生理、乳汁分泌機序、子宮復古不全、産褥血栓栓塞症、産褥熱、精神疾患（合併）	予習：教科書の下記該当箇所を熟読し、自分なりに整理してから講義に臨む。 8：p265～270、p329～339 9：p216～224、p341～360 復習：配布資料と教科書の該当箇所を振り返り、内容を整理する。

第 8 回	母性の疾病と治療 8 「性感染症と母子感染、周産期に影響を及ぼす婦人科疾患」 田中　政信	10．TORCH、B/C 型肝炎、その他 11．子宮頸がん、卵巣腫瘍など	予習：教科書の下記該当箇所を熟読し、自分なりに整理してから講義に臨む。 10：p141～156、p282～285、 11：p103～124、p157～174 復習：配布資料と教科書の該当箇所を振り返り、内容を整理する。
第 9 回	小児の疾病と治療 1 松島　崇浩	新生児学概論、新生児・未熟児の生理機能と疾患	予習：新生児・未熟児の定義・特徴についてノート整理して授業に臨む。 復習：教科書を振り返り、学習した内容を整理する。
第 10 回	小児の疾病と治療 2 松島　崇浩	胎児・新生児の循環器・呼吸器、小児の循環器疾患	予習：胎児循環、新生児循環をノート整理して授業に臨む。 復習：教科書を振り返り、学習した内容を整理する。
第 11 回	小児の疾病と治療 3 仁後　綾子	小児に多い呼吸器疾患、免疫・アレルギー疾患	予習：、小児の呼吸器の正常な構造と機能、免疫とは何か、アレルギー疾患とは何かをノート整理して授業に臨む。 復習：教科書を振り返り、学習した内容を整理する。
第 12 回	小児の疾病と治療 4 小川　優一	内分泌疾患・成長障害・代謝性疾患、小児神経系疾患	予習：正常な内分泌、代謝の機能をノート整理して授業に臨む。 復習：教科書を振り返り、学習した内容を整理する。
第 13 回	小児の疾病と治療 5 岡部　まどか	小児に多い腎・泌尿器疾患、膠原病、生殖器疾患と外科疾患	予習：小児の腎・泌尿器の正常な構造と機能をノート整理して授業に臨む。 復習：教科書を振り返り、学習した内容を整理する。
第 14 回	小児の疾病と治療 6 松島　崇浩	小児の消化器疾患と外科疾患、小児の血液疾患、悪性疾患	予習：小児の消化器の正常な構造と機能、血液疾患な悪性疾患とはどのようなものかをノート整理して授業に臨む。 復習：教科書を振り返り、学習した内容を整理する。
第 15 回	小児の疾病と治療 7 絹巻　暁子	小児に多い感染症・予防接種、小児の救急（熱傷、虐待を中心に）	予習：小児に多い感染症・予防接種、小児の救急について既習内容をノート整理して授業に臨む。 復習：教科書を振り返り、学習した内容を整理する。

授業開始前学習	1．母性、小児の解剖・生理学を予習・復習すること。
授業内課題のフィードバックの方法	リアクションペーパーの内容を次の授業、または、Classroom 上で返却する。
テキスト・教材	看護学テキスト　病態・治療論〔13〕産科婦人科疾患 看護学テキスト NiCE　病態・治療論［14］　小児疾患（南江堂）
参考書	
評価の基準と方法	定期試験 100%で評価する ●試験受験資格　全 15 コマの中で 2/ 3 以上の出席をしていること 出席確認方法 「産婦人科疾患」リアクションペーパを授業終了後～17 時までに提出 「小児科疾患」　目視 ●試験での評価方法 〈試験内容〉疾病と治療Ⅳ　100 点満点＝「産婦人科疾患 50 点」+「小児科疾患 50 点」 〈試験合格基準〉 合格基準：「産婦人科疾患」60%以上獲得　+「小児科疾患」60%以上獲得 ※どちらか一方もしくは両方の科目が 60%未満の場合は、再試験の対象となる 不合格例 1

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ、病態生理学、薬理学、疾病と治療Ⅰ・Ⅱ、小児看護学概論、母性看護学概論
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間+予習・復習時間 60 時間

実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が協同で講義をする科目であり、担当教員全員が臨床医師として勤務している。本科目では、その経験を活かし受講生が母性、小児の疾患について学ぶ。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-211 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-211-12 （J）	授業コード	HA0335
科目名称	疾病と治療Ⅴ(精神)			単位数	1.00 単位
英文名称	Disease and Treatment Ⅴ(Psychiatry)			授業区分	講義
科目責任者	加藤 隆			必修・選択	必修
担当教員	加藤 隆			開講時期	2 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	生物学的モデルとしての脳と精神のつながりや、人間の精神現象と精神症状の特徴を学習し、それらを踏まえ、統合失調症や気分障害などの代表的な精神疾患に関する病態・治療、予後等の基礎的知識について学ぶ。				
到達目標	1. 精神科医療に携わる者が持つべき精神医学の基本的知識を習得する。 2. 精神症状を表す医学用語について説明できる。 3. 個々の精神疾患に特徴的な症状、基本的な治療法、リハビリテーションについて説明できる。 4. 以上の習得を通して精神疾患のある患者への接し方について説明することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	精神医学概論 加藤 隆	精神医学とは何か、精神疾患とは何かについて学ぶ。 ・精神医学とは ・脳機能の局在と精神機能の概要 ・了解と説明 ・人格と性格	授業方法：「講義」「課題解決型学習」 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：本日の授業内容を整理する。Googleforms の課題に取り組む。
2	神経症性障害・摂食障害・パーソナリティ障害 加藤 隆	神経症性障害・摂食障害・パーソナリティ障害の特性や治療、予後について学ぶ ・神経症性障害とは ・摂食障害とは ・パーソナリティ障害とは ・上記の主要な症状、経過、治療、予後について	授業方法：「講義」「課題解決型学習」 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：本日の授業内容を整理する。Googleforms の課題に取り組む。
3	発達に関連する精神障害 加藤 隆	発達に関する精神障害の特性や治療、予後について学ぶ ・発達に関する精神障害とは ・上記の主要な症状、経過、治療、予後について	授業方法：「講義」「課題解決型学習」 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：本日の授業内容を整理する。Googleforms の課題に取り組む。
4	統合失調症と関連障害 加藤 隆	統合失調症とその類縁疾患のの特性や治療、予後について学ぶ ・統合失調症とは ・上記の主要な症状、経過、治療、予後について	授業方法：「講義」「課題解決型学習」 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：本日の授業内容を整理する。Googleforms の課題に取り組む。
5	統合失調症と関連障害 加藤 隆	統合失調症とその類縁疾患のの特性や治療、予後について学ぶ ・統合失調症とは ・上記の主要な症状、経過、治療、予後について	授業方法：「講義」「課題解決型学習」 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：本日の授業内容を整理する。Googleforms の課題に取り組む。
6	気分障害 加藤 隆	気分障害の特性や治療、予後について学ぶ ・気分障害とは ・上記の主要な症状、経過、治療、予後について	授業方法：「講義」「課題解決型学習」 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：本日の授業内容を整理する。Googleforms の課題に取り組む。
7	精神科薬物療法 加藤 隆	精神科薬物療法について学ぶ ・精神科での薬物療法の考え方 ・精神科で使用される薬物について ・精神科薬物療法における看護の役割	授業方法：「講義」「課題解決型学習」 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：本日の授業内容を整理する。Googleforms の課題に取り組む。
8	認知症と老年期精神障害 加藤 隆	認知症と老年期精神障害の特性や治療、予後について学ぶ ・認知症とは ・老年期精神障害とは ・上記の主要な症状、経過、治療、予後について	授業方法：「講義」「課題解決型学習」 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：本日の授業内容を整理する。Googleforms の課題に取り組む。

授業開始前学習	すでに履修した教科目（人体の構造と機能、心理学、生化学、臨床薬理学）の中で精神・神経系に関係する部分を復習しておくことを勧めます。講義の予定項目について教科書の該当する範囲を一読し、講義の後は復習して次回に繋げること。精神症状は多くの精神疾患に共通して現れることが多いので、精神症状を表す医学用語を充分に理解しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された Googleforms に対して、次回授業でフィードバックを行う。

テキスト・教材	系統看護学講座　精神看護の基礎　精神看護学①　第 6 版第 2 刷　医学書院 ※ 別途、講義資料を配布します。							
参考書	・西丸 甫夫、西丸 四方：やさしい精神医学　第 5 版　南山堂 ・上島 国利 、立山 萬里 、三村 將：精神医学テキスト-精神障害の理解と治療のために-　改訂第 5 版　南江堂 ・加藤進昌：看護のための最新医学講座　12 巻　精神疾患　中山書店 ・中井久夫、山口直彦：看護のための精神医学　第 2 版　医学書院							
評価の基準と方法	定期試験を実施し、100 点満点のうち、60 点以上を合格とする。 出欠については評価対象としないが、30 分以上の遅刻は欠席、遅刻 3 回にて 1 回欠席とする。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△			◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容	精神科医、精神保健指定医としての実務経験を活かし、精神障害や精神疾患の特徴、診断、治療について具体的ケースを踏まえながら講義する。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-121 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-221-11 （J）	授業コード	HA0370
科目名称	医療概論			単位数	1.00 単位
英文名称	Introduction to Medical Care			授業区分	講義
科目責任者	三宅 良彦			必修・選択	選択
担当教員	三宅 良彦			開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	将来、人々の健康に携わるよりよい医療人になるために、医療の歴史的変遷や現状から医療の多様性と広がりを理解する。その中で、生命とは、健康とは、医療とはなど医療の原点について考えるとともに、医療人として医療の主人公である人への畏敬の念をもち、生活者に共感し、生活や背景を重視した支援を行う重要性と心構えを学ぶ。				
到達目標	1. 医療の成り立ち、進歩・発展を理解し説明できる 2. 医療人、医療法について、理解し説明できる 3. ＥＢＭを理解し、患者中心の医療を実践できるよう学ぶ 4. 医療安全と医療倫理を理解し、説明できる				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	医療とは／三宅 良彦	＊医学、医療、診療とは ＊患者中心の医療 ＊Cure と Care ＊健康と疾病	講義（学生間での討議も含む） 予習：「医療」の意味を辞書等で調べる 復習：教科書と配布資料で講義内容を確認する
2	医療人とは／三宅 良彦	＊医療職種は多彩 ＊医療法とは ＊医師法と保健師・助産師・看護師法 ＊医療保障	講義（学生間での討議も含む） 予習：どのような医療人があるか、調べておく 復習：医療人の役割を教科書と配布資料で再確認する
3	ＥＢＭ(Evidence-based Medicine)／三宅 良彦	＊ＥＢＭとは ＊診療ガイドライン ＊リアルワールド・データ ＊情報の収集と管理	講義（学生間での討議も含む） 予習：ＥＢＭに関して調べておく 復習：講義の復習をする
4	発展する医療連携／三宅 良彦	＊チーム医療と多職種連携＊病診連携/病病連携 ＊対面診療、オンライン診療、在宅診療 ＊お薬手帳、電子処方箋、マイナ保険証	講義（学生間での討議も含む） 予習：マイナンバーカードとマイナ保険証を調べておく 復習：講義の復習をする
5	救急医療と災害医療／三宅 良彦	＊救急医療とは ＊トリアージとは ＊ＡＥＤの取り扱い ＊災害医療とは ＊ＤＭＡＴとは	講義（学生間での討議も含む） 予習：①トリアージについて調べる②ＡＥＤがどこに設置されているか、調べてみる 復習：ＡＥＤの取り扱いを再確認する
6	感染症と生活習慣病／三宅 良彦	＊はびこる感染症 ＊感染症パンデミック ＊生活習慣病とは ＊良い生活習慣とは	講義：（学生間での討議も含む） 予習：100 年前のインフルエンザ・パンデミックを調べる 復習：講義の復習をする
7	医療安全と医療倫理／三宅 良彦	＊医療安全とは ＊医療倫理とは ＊インシデントレポート ＊ヒポクラテスの誓い	講義（学生間での討議も含む） 予習：ヒポクラテスの誓いを調べる 復習：講義の復習をする
8	医学・医療の歴史と未来／三宅 良彦	＊医学・医療の歴史の概説＊疾病構造の変遷 ＊人口動態 ＊高騰する医療費 ＊AI・IcT の進化	講義（学生間での討議も含む） 予習：①わが国の人口動態を調べる②看護師としての自身の将来を予測する 復習：①講義の復習をする②講義を振り返り、看護師としての自身の将来を予測する

授業開始前学習	次の授業のための課題を調べる。また、提出指示があったものは当日、提出する
授業内課題のフィードバックの方法	授業内での口答発表および学生間での討論
テキスト・教材	学生のための医療概論／医学書院（最新版）

参考書	国民衛生の動向 2021/2022 厚生労働統計協会 2021 年 8 月発行など							
評価の基準と方法	筆記試験（90%）レポート（10%）							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○			○			
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容	到達目標を成就させるため、臨床医・教育者としての経験を活かして講義を進める。講義の中では、短時間ではあるが学生のみによる討議も頻回に行って、学生自身が考える機会を設け、主体性ある医療人を養成する。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-111	科目分類（～2024 年入学者）	310-211-11	授業コード	HA0015
科目名称	生涯発達学			単位数	1.00 単位
英文名称	Life-Span Development			授業区分	講義
科目責任者	尾花　真梨子			必修・選択	必修
担当教員	尾花　真梨子			開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	人間の発達段階を理解するために、生涯発達の観点で胎児期から老年期までの身体的・心理・社会的な側面における発達的特徴とそれに関連する理論を概観し、心身の発達の様相とそのプロセス、発達に影響を及ぼす諸要因について学ぶ。また、各発達段階においてよくみられる発達上のさまざまな問題について概観し、健全な発達のための要件について学ぶ。				
到達目標	1．「発達」のメカニズムや理論について説明することができる。 2．各発達段階の様相と一生涯にわたる発達過程を関連づけることができる。 3．発達に影響し得る諸要因を検討することができる力を身につける。 4．発達上の諸課題やその支援を検討できる力を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	無				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	生涯発達とは何か：発達心理学の基礎	・ガイダンス：授業の進め方、到達目標、成績評価など ・発達心理学における「発達」 ・発達心理学における代表的理論の概観	講義 予習：シラバスを熟読しておく。 復習：配布されたレジュメを振り返り、「発達とは何か」について説明できるようにする。また、発達心理学の基本的理論の特徴についてまとめる。
2	胎生期・周産期の発達	・心と身体の初期発達	講義 予習：当該発達段階について調べ、概要をおさえる。また、疑問点を挙げておく。 復習：配布されたレジュメを振り返り、胎生期の発達について説明できるようにする。
3	乳幼児期の発達①	・「乳幼児期」とは ・乳幼児期における感覚と身体・運動の発達 ・乳幼児期における認知発達	講義 予習：当該発達段階について調べ、概要をおさえる。また、疑問点を挙げておく。 復習：配布されたレジュメを振り返り、講義内容を整理してテクニカルタームをまとめる。
4	乳幼児期の発達②	・乳幼児期における記憶・言語の発達 ・乳幼児期における感情発達	講義 予習：当該発達段階について調べ、概要をおさえる。また、疑問点を挙げておく。 復習：配布されたレジュメを振り返り、講義内容を整理してテクニカルタームをまとめる。
5	児童期の発達	・「児童期」とは ・児童期における学びと対人関係の発達	講義 予習：当該発達段階について調べ、概要をおさえる。また、疑問点を挙げておく。 復習：配布されたレジュメを振り返り、講義内容を整理してテクニカルタームをまとめる。
6	青年期の発達	・「青年期」とは ・子どもからおとなに変化していくプロセス	講義 予習：当該発達段階について調べ、概要をおさえる。また、疑問点を挙げておく。 復習：配布されたレジュメを振り返り、講義内容を整理してテクニカルタームをまとめる。
7	成人期の発達	・「成人期」とは ・成人期の発達理論 ・成人期の諸課題	講義 予習：当該発達段階について調べ、概要をおさえる。また、疑問点を挙げておく。 復習：配布されたレジュメを振り返り、講義内容を整理してテクニカルタームをまとめる。
8	老年期の発達	・「老年期」とは ・我が国の高齢化の歴史と現状 ・老年期における発達と諸課題	講義 予習：当該発達段階について調べ、概要をおさえる。また、疑問点を挙げておく。 復習：配布されたレジュメを振り返り、講義内容を整理してテクニカルタームをまとめる。
授業開始前学習	・各発達段階への関心を持ち、それと関連する社会的な問題や出来事について調べる。 ・レジュメや参考資料等をよく読んで、内容を整理・まとめる。ヒトの発達を全体として理解できるようにしておく。		

授業内課題のフィードバックの方法	毎回、小課題（リアクションペーパー）を課します。翌週の授業冒頭にコメント・共有し、必要に応じて補足します。							
テキスト・教材	特に指定しません。毎回レジュメを配布し，それを基に授業を進めます。							
参考書	授業中に適宜紹介します。							
評価の基準と方法	毎回の小課題（40%）および定期試験（60%）を基に、総合的に判断します。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○	△	
関連科目	「心理学」「臨床心理学」							
その他	本科目の履修を通して，自分自身の育ちや育ってきた環境が今の自分にどのような影響を与えているかを振り返りましょう。ぜひ，自分自身や周囲への関心を持ちながら学習してください。							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-112 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-211-21 （J）	授業コード	HA0035
科目名称	人間関係論			単位数	1.00 単位
英文名称	Human Relations			授業区分	演習
科目責任者	渡辺　浩美			必修・選択	必修
担当教員	奥井・渡辺			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	人間関係を構成する自己と他者について理論を基に理解する。人間の発達過程における対人関係の重要性を知るとともに、人間関係における社会的相互作用について理解する。また、様々な状況にある対象との良好な関係づくりの基盤となるコミュニケーションの基礎的技術を学び、多様な価値観を持つ人々と人間関係を良好に保つ能力を身に付ける。				
到達目標	1. 人間関係の重要性について述べることができる。 2. 発達過程における対人関係の特徴について述べることができる。 3. 自己理解を深めるための理論と技術について説明することができる。 4. 人間関係形成におけるコミュニケーションの重要性について述べることができる。 5. コミュニケーションの基礎的技術について説明することができる。 6. 援助場面におけるコミュニケーションのあり方について、多角的に検討することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	ガイダンス 人間関係とは 奥井　良子	本授業の進め方 人間関係に関する基本的概念	講義 予習：教科書第 1 章をよく読んでくる。 復習：本日の授業を振り返り、ノートにまとめる。
2	発達過程と人間関係 奥井　良子	幼児、小児、青年期の発達過程と人間関係成立の特徴 成人、老年期の発達過程と人間関係	講義 予習：教科書第 1 章をよく読んでくる。 復習：本日の授業を振り返り、ノートにまとめる。
3	社会的相互作用 奥井　良子	社会的相互作用と社会的役割 援助的役割	講義 予習：教科書第 2 章、4 章をよく読んでくる。 復習：本日の授業を振り返り、ノートにまとめる。
4	看護における人間関係 奥井　良子	看護における人間関係の特徴	講義 予習：教科書第 11 章、第 12 章をよく読んでくる。 復習：本日の授業を振り返り、ノートにまとめる。
5	看護における人間関係 奥井　良子	様々な健康状態にある人々との人間関係	講義 予習：教科書第 10 章をよく読んでくる。 復習：本日の授業を振り返り、ノートにまとめる。
6	看護における人間関係 奥井　良子	保健医療福祉の専門職間の人間関係 チームワーク	講義 予習：教科書第 10 章をよく読んでくる。 復習：本日の授業を振り返り、ノートにまとめる。
7	看護における人間関係 奥井　良子	「患者になること、患者の家族になること」 小テスト	講義、テスト 予習：第 1 回から 6 回の講義内容の復習。 復習：本日の授業を振り返り、ノートにまとめる。
8	人間関係をつくる理論と技法（1） 渡辺　浩美	コミュニケーションの基本的概念と構造 コミュニケーションの基礎的技術	講義 予習：教科書の第 5 章をよく読んでくる。 復習：本日の授業を振り返り、ノートにまとめる。
9	人間関係をつくる理論と技法（2） 渡辺　浩美	カウンセリングと心理療法	講義 予習：教科書の第 6 章をよく読んでくる。 復習：本日の授業を振り返り、ノートにまとめる。
10	人間関係をつくる理論と技法（3） 渡辺　浩美	コーチング 相手が本来持っている力や可能性を最大限に発揮できるようなサポート	講義 予習：教科書の第 7 章をよく読んでくる。 復習：本日の授業を振り返り、ノートにまとめる。
11	人間関係をつくる理論と技法（4） 渡辺　浩美	アサーティブコミュニケーション 自分と相手の双方を尊重した自己表現	講義 予習：教科書の第 8 章をよく読んでくる。 復習：本日の授業を振り返り、ノートにまとめる。
12	場面から考えるコミュニケーションと人間関係（1） 渡辺　浩美	グループワーク・ロールプレイ	演習（グループワーク・ロールプレイ） 予習：授業内容を整理しておく。 復習：グループワークでの気づきを整理しておく。
13	場面から考えるコミュニケーションと人間関係（2） 渡辺　浩美	グループワーク・ロールプレイ	演習（グループワーク・ロールプレイ） 予習：前回のグループワークにおける課題を整理しておく。 復習：グループワークでの気づきを整理しておく。

14	場面から考えるコミュニケーションと人間関係（3） 渡辺　浩美	グループワーク・ロールプレイ	演習（グループワーク・ロールプレイ） 予習：前回のグループワークにおける課題を整理しておく。 復習：援助場面におけるコミュニケーションについての自己の課題を整理しておく。
15	人間関係形成とコミュニケーション 渡辺　浩美・奥井　良子	人間関係形成と看護への活用	講義 予習：これまでのノートを振り返り、疑問点を整理しておく。 復習：今まで配布された資料や、自分でまとめたノートをよく読んでおく。

授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法	第 4 回授業でレポート課題を提示し、レポートに対して個別にフィードバックする。 第 7 回授業内で小テストを行い、解答内容に応じて補足説明を行う。 授業後のリアクションペーパー及びグループワークやロールプレイに関する気づきに対しては，授業内でフィードバックする。							
テキスト・教材	系統看護学講座　基礎分野　人間関係論第 3 版　医学書院							
参考書								
評価の基準と方法	評価比率は、小テスト 15%、課題レポート 25%、最終試験 60%とする。 2/3 以上の出席（リアクションペーパー、授業内課題の提出）で評価の対象となる。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	◎	○	△		△	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 15 時間							
実務経験を活かした教育内容	本科目は奥井、渡辺 2 名の教員が担当する。 奥井は、心理臨床で臨床心理士として、また保健・医療の臨床で看護師としての実務経験を有し、人間関係に関する基本的概念、発達過程による人間関係の形成および社会的役割、医療者としての人間関係について講義する。 渡辺は、保健・医療の臨床で看護師・保健師としての実務経験を有し、コミュニケーションの概念や技術についての講義、ロールプレイを担当する。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-211 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-211-12 （J）	授業コード	HA0380
科目名称	看護関係法規			単位数	1.00 単位
英文名称	Nursing Laws and Regulations			授業区分	講義
科目責任者	林田 丞太			必修・選択	必修
担当教員	林田 丞太			開講時期	2 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	看護職が知っておく必要のある法令を理解するために、法の基礎的な概念を受けて、看護法、医事法、保健衛生法、薬務法、労働法、福祉法などについて学びます。また、法令に基づいて看護が行われていることを理解するために、看護実践に関する具体的事例を通して、法令と看護実践の関係について学びます。				
到達目標	1 法令とは何を説明することができる 2 看護に関する法令とその概要を説明することができる 3 法令と看護実践の関係を例をあげて説明することができる				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	法律の基礎知識	法律の基礎知識について	講義・参加型授業 復習：本日学んだ内容について教科書で確認します
2	看護法（保健師助産師看護師法・人材確保法）・医事法（医療法）	看護法（保健師助産師看護師法・人材確保法）・医事法（医療法）について	講義・参加型授業 予習：次回予定プリント内の空欄を埋めておきます 復習：本日学んだ内容について教科書で確認します
3	保健衛生法（健康増進法、地域保健法、感染症法、予防接種法、検疫法）	保健衛生法（健康増進法、地域保健法、感染症法、予防接種法、検疫法）について	講義・参加型授業 予習：次回予定プリント内の空欄を埋めておきます 復習：本日学んだ内容について教科書で確認します
4	保健衛生法（母体保護法、がん対策基本法、臓器移植法、母子保健法、学校保健安全法）	保健衛生法（母体保護法、がん対策基本法、臓器移植法、母子保健法、学校保健安全法）について	講義・参加型授業 予習：次回予定プリント内の空欄を埋めておきます 復習：本日学んだ内容について教科書で確認します
5	薬務法（薬事法、薬剤師法、薬物取締法、医薬品医療機器等法）	薬務法（薬事法、薬剤師法、薬物取締法、医薬品医療機器等法）について	講義・参加型授業 予習：次回予定プリント内の空欄を埋めておきます 復習：本日学んだ内容について教科書で確認します
6	労働法（労働安全衛生法、労働基準法、男女雇用機会均等法、育児介護休業法）	労働法（労働安全衛生法、労働基準法、男女雇用機会均等法、育児介護休業法）について	講義・参加型授業 予習：次回予定プリント内の空欄を埋めておきます 復習：本日学んだ内容について教科書で確認します
7	福祉法（身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神障害者福祉法、発達障害者福祉法ほか）	福祉法（身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神障害者福祉法、発達障害者福祉法）について	講義・参加型授業 予習：次回予定プリント内の空欄を埋めておきます 復習：本日学んだ内容について教科書で確認します
8	その他の関連法規	虐待防止法、DV 防止法、食品関連法規、難病医療法、医療安全に関わる法律関係等について	講義・参加型授業 予習：次回予定プリント内の空欄を埋めておきます 復習：本日学んだ内容について教科書で確認します

授業開始前学習	1．前回講義で不明な用語、疑問点等を各自調べ、解決して講義に臨みましょう。 2．授業で興味をもった概念についてさらに調べてみるなど積極的な学習を行いましょう。
授業内課題のフィードバックの方法	返却時に口頭及び資料配布にてフィードバックを行います。
テキスト・教材	テキスト：『看護・医療を学ぶ人のためのよくわかる関係法規』松原孝明編著（Gakken） 講義時には、配布プリントも用います。
参考書	講義内で適宜紹介します。

評価の基準と方法	定期試験 100%、但し、授業への参加度（授業中に出す質問への回答、意見の発表）も加点し総合的に評価します。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目								
その他	この科目は社会との関連が強く、ニュース等で取り上げられる事が多い内容です。ぜひ、普段からニュース等にも目を向けてください。それが大きな予習となります。							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-211 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-211-12 （J）	授業コード	HA0045
科目名称	公衆衛生学			単位数	1.00 単位
英文名称	Public Hygiene			授業区分	講義
科目責任者	大久保 茂子			必修・選択	必修
担当教員	大久保 茂子			開講時期	2 年後期
オフィスアワー	前期 木曜日 10:00～13:00 後期 木曜日 10:00～13:00			研究室	1-312
授業概要	これからの医療・健康福祉サービスを充実するための基礎知識として、社会の変化及び生活環境の変化に対して、生体がどのように適応しているか、その破綻がどのようにして疾病の発症に至るかについて理解し、疾病の成因とその予防を考える。また、健康についての理解を深めるために様々な社会・環境因子の人への影響、環境保全と健康保護や公衆衛生の考え方を学び、人の健康と様々な環境のかかわりについて理解する。				
到達目標	１．医療・健康福祉サービスを充実するための基礎知識として、社会及び生活環境の変化に対して、生体がどのように適応しているかを学習し、その破綻がどのようにして疾病の発症に至るかについて理解し、疾病の成因とその予防について説明できる。 ２．健康についての理解を深めるために様々な環境因子の人への影響、環境保全と健康保護や公衆衛生の考え方を学び、人の健康と環境の関わりについて説明できる。 その主な内容は、 1）．健康の概念と予防医学について説明できる。 2）．人口動態・人口静態が理解できる。 3）．地域・				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	健康の概念、予防医学 大久保茂子	健康の概念について、WHO の健康の定義、健康観の歴史的変遷、予防医学の概念、ヘルスプロモーションの概念などについて学習する。	予習：教科書をよんでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、教科書の章末問題は各自解いておくこと。疑問点は次回の授業時に質問すること。
2	人口静態・人口動態統計 大久保茂子	国勢調査の方法と現状、人口の推移、将来推計人口、人口動態統計の要素（出生・死亡・婚姻・離婚・死産）の定義と各々の指標、生命表。平均寿命、平均余命などについて学習する。	予習：教科書をよんでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、教科書の章末問題は各自解いておくこと。疑問点は次回の授業時に質問すること。
3	母子保健・小児保健 大久保茂子	母子保健の概要、母子保健の指標と現状、家族計画、乳児の保健、小児保健の現状、母子保健行政などについて学習する。	予習：教科書をよんでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、教科書の章末問題は各自解いておくこと。疑問点は次回の授業時に質問すること。
4	学校保健・成人保健 大久保茂子	学校保健の概要と現状の問題点、学齢期の健康状態、学校保健行政などについて学ぶ。 また成人保健については生活習慣病、健康日本 21 などについて学習する。	予習：教科書をよんでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、教科書の章末問題は各自解いておくこと。疑問点は次回の授業時に質問すること。
5	高齢者保健・精神保健 大久保茂子	高齢者保健の現状の問題点、高齢者の健康状態と疾患、介護保険などについて学ぶ。 また精神保健と障害者保健についても学習する。	予習：教科書をよんでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、教科書の章末問題は各自解いておくこと。疑問点は次回の授業時に質問すること。
6	国民栄養・食品衛生 大久保茂子	国民栄養の現状と問題点、栄養障害、国民健康・栄養調査の概要について学ぶ。 また食品衛生の意義と現状、食中毒の分類、食中毒の予防などについて学習する。	予習：教科書をよんでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、教科書の章末問題は各自解いておくこと。疑問点は次回の授業時に質問すること。
7	環境保健、感染症 大久保茂子	生活環境の指標と疾病予防、地域環境と健康障害、公害の歴史、地球環境問題と健康影響などについて学ぶ。 また感染症の疫学について学習する。	予習：教科書をよんでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、教科書の章末問題は各自解いておくこと。疑問点は次回の授業時に質問すること。
8	産業保健・国際保健 大久保茂子	産業保健の定義と目的、労働災害の現状、産業看護、職業病などについて学ぶ。 また国際保健協力のしくみと現状について学習する。	予習：教科書をよんでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、教科書の章末問題は各自解いておくこと。

授業開始前学習	１．講義後には必ず復習をして学習内容を十分理解しておく。 ２．授業で興味をもった概念についてさらに調べてみるなど積極的な学習を行う。
授業内課題のフィードバックの方法	講評等の資料配布にてフィードバックを行う。

テキスト・教材	松木秀明編；よくわかる専門基礎講座 公衆衛生，金原出版							
参考書	国民衛生の動向，厚生労働統計協会 鈴木庄亮監修；シンプル公衆衛生学，南江堂							
評価の基準と方法	定期試験 80%、及びレポート・小テスト 20%の結果により総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎	○		
関連科目								
その他	◇学習上の留意点 課題には主体的に取り組む。							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容	本科目について実践経験のある者が担当します。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-211 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-211-12 （J）	授業コード	HA0085
科目名称	社会福祉学			単位数	1.00 単位
英文名称	Social Welfare			授業区分	講義
科目責任者	松﨑 吉之助			必修・選択	必修
担当教員	松﨑 吉之助			開講時期	2 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	この科目の目的は、我が国における社会保障制度の全体像を理解し、医療人として、医療がその一部を構成していることを理解することである。また、社会保障における社会福祉の基本的な考え方を理解することである。この科目は、看護専門領域における看護の対象の支援を考えるにあたって、その礎となる知識を学修するものとして位置づけられる。				
到達目標	1 社会保障制度における社会福祉の考え方を説明することができる。 2 社会保障制度の体系を説明することができる。 3 社会保険制度の基本的内容（概要）を説明することができる。 4 公的扶助制度の基本的内容（概要）を説明することができる。 5 社会福祉制度（高齢者・児童・障害者）の基本的内容（概要）を説明することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	社会保障体系	社会保障の概念、社会保障制度の分類	予習：社会保障体系について調べて意見をまとめておく 復習：本日学んだ内容についてノートにまとめておく
2	社会保険制度	医療保険制度	予習：医療保険制度について調べて意見をまとめておく 復習：本日学んだ内容についてノートにまとめておく
3	社会保険制度	医療保険制度、年金保険制度	予習：医療保険制度、年金保険制度について調べて意見をまとめておく 復習：本日学んだ内容についてノートにまとめておく
4	社会保険制度	介護保険制度	予習：介護保険制度について調べて意見をまとめておく 復習：本日学んだ内容についてノートにまとめておく
5	社会保険制度	労働者災害補償保険制度、雇用保険制度	予習：労働者災害補償保険制度、雇用保険制度について調べて意見をまとめておく 復習：本日学んだ内容についてノートにまとめておく
6	公的扶助制度	生活保護制度	予習：生活保護制度について調べて意見をまとめておく 復習：本日学んだ内容についてノートにまとめておく
7	社会福祉制度	障害者総合支援法	予習：障害者総合支援法について調べて意見をまとめておく 復習：本日学んだ内容についてノートにまとめておく
8	社会福祉制度	障害者総合支援法、公費負担医療	予習：障害者総合支援法、公費負担医療について調べて意見をまとめておく 復習：本日学んだ内容についてノートにまとめておく

授業開始前学習	1．講義前に教科書の該当部分を読んでくること。 2．毎回の授業内容を、次回の講義までに必ず復習を行い、理解を深めておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	翌授業日の冒頭に時間を設ける。
テキスト・教材	福田素生 他著 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉 第 22 版 医学書院
参考書	社会福祉法規研究会編 社会福祉六法 令和 3 年版 新日本法規 介護保険六法 令和 2 年版 中央法規 国民の福祉と介護の動向 2020/2021 厚生労働統計協会
評価の基準と方法	定期試験 80%、リアクションペーパーと授業態度 20%により評価する。

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目								
その他	学習上の留意点 1．この科目の内容は看護師国家試験において頻出です。 2．定期試験の学習は、授業で配布した資料を中心に、教科書を参考にして行うと良いです。							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容	本科目について実務経験のある者が担当します。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-212 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-211-12 （J）	授業コード	HA0065
科目名称	疫学(保健統計Ⅰ)			単位数	2.00 単位
英文名称	Epidemiology and Health statistics Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	大久保　茂子			必修･選択	必修
担当教員	大久保　茂子			開講時期	2 年後期
オフィスアワー	前期　木曜日 10:00～13:00 後期　木曜日 10:00～13:00			研究室	1-312
授業概要	集団の健康状態とその関連要因を明らかにする手法を学ぶために、疫学の概念、疫学の手法について学ぶ。また、健康に関する統計学的方法について理解するために、疫学研究のデータの読み方や調査結果の解釈方法、および、その活用方法について学ぶ。さらには、集団の特徴を数値で把握し、把握した特徴を健康に関する取り組みに活用する有用性を理解することを通して、保健統計の意義を学ぶ。				
到達目標	1　疫学とは何かを説明することができる。 2　疫学研究の方法について説明することができる。 3　疫学研究で明らかになったデータを解釈することができる。 4　疫学研究で明らかになった結果の活用方法を説明することができる。 5　疫学研究の有用性を説明することができる。 6　保健統計の意義を説明することができる。				
アクティブ･ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目･担当者	学修内容	授業方法（アクティブ･ラーニング）･予習･復習･レポートなどの課題
1	疫学の定義と歴史 大久保茂子	疫学の定義と西洋の疫学の歴史および日本の疫学の歴史について学ぶ。	講義
2	疫学で用いる健康指標 大久保茂子	疫学で用いる健康指標について学ぶ（１） 比率、疾病頻度などについて学ぶ。	講義･グループワーク
3	疫学で用いる健康指標 大久保茂子	疫学で用いる健康指標について学ぶ（２）年齢調整死亡率、標準化死亡比などについて学ぶ。	講義･グループワーク
4	標本抽出と対象の選定 大久保茂子	標本の抽出と対象の選定について学ぶ 無作為抽出、有意抽出の方法と応用について学ぶ。	講義
5	疫学方法論 大久保茂子	疫研究方法論について学ぶ（１） 記述疫学、分析疫学の種類について学ぶ。	講義･グループワーク
6	疫学方法論 大久保茂子	疫研究方法論について学ぶ（２） コホート研究、相対危険、寄与危険、寄与危険割合などについて学ぶ。	講義･グループワーク
7	疫学方法論 大久保茂子	疫研究方法論について学ぶ（３） 患者対照研究、オッズ比などについて学ぶ。	講義･グループワーク
8	偏りと交絡 大久保茂子	偏りと交絡の種類とその対策法について学ぶ。	講義･グループワーク
9	スクリーニング 大久保茂子	スクリーニングについて学ぶ（１） スクリーニングの指標とその計算法について学ぶ。	講義
10	スクリーニング 大久保茂子	スクリーニングについて学ぶ（２） ROC 分析とその応用について学ぶ。	講義･グループワーク
11	因果関係論 大久保茂子	因果関係論について学ぶ。	講義･グループワーク
12	保健統計の基礎 大久保茂子	疫学で用いられる統計学的方法とその解釈について学ぶ。	講義･グループワーク
13	疫学の応用 大久保茂子	疫学の応用について学ぶ（１） 感染症への疫学の応用	講義･グループワーク
14	疫学の応用 大久保茂子	疫学の応用について学ぶ（２） 生活習慣病の疫学の応用	講義･グループワーク
15	疫学の応用 大久保茂子	疫学の応用について学ぶ（３） 環境保健への疫学の応用	講義･グループワーク

授業開始前学習	1．教科書および資料集を読んでおくこと。 2．講義後には必ず復習をして学習内容を十分理解しておく。 3．授業で興味をもった概念についてさらに調べてみるなど積極的な学習を行う。
授業内課題のフィードバックの方法	講評等の資料配布にてフィードバックを行う。

テキスト・教材	日本疫学会監修、磯博康、他 著 はじめて学ぶやさしい疫学改訂第 3 版 南江堂							
参考書	中村好一著；基礎から学ぶ楽しい疫学，医学書院 浅野嘉延著、看護学生のための疫学・保健統計 第 3 版 南山堂							
評価の基準と方法	定期試験 80%、及びレポート・小テスト 20%の結果により総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間+予習・復習時間 60 時間							
実務経験を活かした教育内容	本科目について実践経験のある者が担当します。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-321 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-221-23 （J）	授業コード	HA0075
科目名称	疫学(保健統計Ⅱ)			単位数	2.00 単位
英文名称	Epidemiology and Health statistics Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	大久保 茂子			必修・選択	選択
担当教員	大久保 茂子			開講時期	3 年前期
オフィスアワー	前期 木曜日 10:00～13:00 後期 木曜日 10:00～13:00			研究室	1-312
授業概要	疫学/保健統計Ⅰの学習をふまえ、保健統計に関する各種データの処理方法や解析方法について学修する。疫学的調査や研究を正しく実施し、その結果に基づいた正しい意志決定を行うための基本的知識を身につける。また、保健統計資料の収集とその活用方法について理解し、応用ができるようになることを目指す。地域における保健予防対策の企画、立案および評価のための基礎的能力を養う。				
到達目標	1. 保健統計の意味が理解できる。 2. 感染症・食中毒の発生時に保健師として対応する事項が説明できる。 3. 生活習慣病の疫学について理解でき、また研究計画が立案できる。 4. 地域保健および健康政策について、疫学が応用でき実践できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	健康指標 大久保 茂子	疫学・保健統計学Ⅰで学習した健康指標について、さらに内容を深める。	予習：資料集を配布するので該当箇所を読んでおく。 復習：授業後、練習問題を解けるようにしておくこと。
2	保健統計学 大久保 茂子	帰無仮説の考え方、統計学を疫学に応用する事例で、仮説検定の理解を深める。	予習：資料集を配布するので該当箇所を読んでおく。 復習：授業後、練習問題を解けるようにしておくこと。
3	保健統計学 大久保 茂子	統計学で学習した t-検定、χ2 検定等について具体的な医療データで検定を行う。	予習：資料集を配布するので該当箇所を読んでおく。 復習：授業後、練習問題を解けるようにしておくこと。
4	保健統計学 大久保 茂子	オッズ比、相対危険度、寄与危険度、寄与危険割合を計算し、因果関係を判断する能力を養う。	予習：資料集を配布するので該当箇所を読んでおく。 復習：授業後、練習問題を解けるようにしておくこと。
5	保健統計学 大久保 茂子	多変量解析の疫学への応用について学ぶ。	予習：資料集を配布するので該当箇所を読んでおく。 復習：授業後、練習問題を解けるようにしておくこと。
6	保健統計学 大久保 茂子	国民生活基礎調査、患者調査、医療施設調査、国民・健康栄養調査などについて理解を深める。	予習：資料集を配布するので該当箇所を読んでおく。 復習：授業後、練習問題を解けるようにしておくこと。
7	感染症の疫学 大久保 茂子	食中毒発生時の保健師の役割、マスタ-テ-ブルの作成法、原因食品の探求法について学ぶ。	予習：資料集の該当箇所を読んでおくこと。 復習：授業後、練習問題を解けるようにしておくこと。 課題提出：マスタ-テ-ブルに関する演習問題
8	感染症の疫学 大久保 茂子	感染症発生時の疫学について、具体的事例で学ぶ。	予習：資料集の該当箇所を読んでおくこと。 復習：授業後、練習問題を解けるようにしておくこと。
9	環境保健の疫学 大久保 茂子	過去の公害の発生とその疫学的手法と解釈について学ぶ。	予習：資料集の該当箇所を読んでおくこと。 復習：授業後、練習問題を解けるようにしておくこと。
10	環境保健の疫学 大久保 茂子	生活環境の変化と健康影響について、疫学視点から学ぶ。	予習：資料集の該当箇所を読んでおくこと。 復習：授業後、練習問題を解けるようにしておくこと。
11	がんの疫学 大久保 茂子	がんの疫学について、過去および現在の疫学調査の概要を学ぶ。	予習：資料集の該当箇所を読んでおくこと。 復習：授業後、練習問題を解けるようにしておくこと。
12	栄養の疫学 大久保 茂子	栄養障害の疫学的研究について学ぶ。	予習：資料集の該当箇所を読んでおくこと。 復習：授業後、練習問題を解けるようにしておくこと。
13	生活習慣病の疫学 大久保 茂子	生活習慣病と疫学的研究について、過去の事例から学ぶ。	予習：資料集の該当箇所を読んでおくこと。 復習：授業後、練習問題を解けるようにしておくこと。
14	生活習慣病の疫学 大久保 茂子	現在の生活習慣病と疫学的研究の概要を学ぶ。	予習：資料集の該当箇所を読んでおくこと。 復習：授業後、練習問題を解けるようにしておくこと。
15	健康政策と疫学 大久保 茂子	健康政策への疫学的研究の応用を学ぶ。	予習：資料集の該当箇所を読んでおくこと。 復習：授業後、練習問題を解けるようにしておくこと。

授業開始前学習	シラバスに沿って授業をすすめる。資料集を読み、事前学習を必ずしてくること。
授業内課題のフィードバックの方法	講評等の資料配布にてフィードバックを行う。
テキスト・教材	日本疫学会監修、磯博康、他 著 はじめて学ぶやさしい疫学改訂第 4 版 南江堂

参考書	中村好一著；基礎から学ぶ楽しい疫学 第４版 医学書院 松木秀明、須藤真由美、松木勇樹著：医療統計学ー基礎統計から多変量解析まで 東海大学出版部 浅野嘉延著：看護学生のための疫学・保健統計 改訂第４版 南山堂							
評価の基準と方法	定期試験 80%、及びレポート 20%の結果により総合的に評価する.							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎	○		
関連科目								
その他	◇学習上の留意点 授業終了後は、理解できなかった箇所をノートに整理し、次回の授業で質問すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 60 時間							
実務経験を活かした教育内容	本科目について実践経験のある者が担当します。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-121	科目分類（～2024 年入学者）	310-221-11	授業コード	HA0390
科目名称	ｾｸｼｭｱﾘﾃｨ論			単位数	1.00 単位
英文名称	Human Sexuality			授業区分	講義
科目責任者	水野真希			必修・選択	選択
担当教員	水野　真希			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	前期　火曜日 13:00～16:00 後期　月曜日 10:00～13:00			研究室	1-307
授業概要	人間の性(ヒューマンセクシュアリティ)について基本的概念及び知識を修得する。人間のライフサイクルにおけるセクシュアリティを理解する。また、人々のセクシュアリティの尊厳やセクシュアリティに関する人権を擁護した行動、看護におけるセクシュアリティに関連した支援について考える。				
到達目標	１．科学的な研究と理論に基づく人間のセクシュアリティやジェンダーの歴史や概念について理解することができる ２．セクシュアリティやジェンダーをめぐる「常識」に対する客観的な視点と、なぜそのような「常識」が生まれ、維持されてきたのかを考察する視点を身につけることができる ３．セクシュアリティやジェンダーをめぐる現代社会の諸問題について理解し、自分の言葉で論じることができる ４．人間のセクシュアリティに関わる健康を促進するための支援を考えることができる				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	人間のセクシュアリティに関する考察と探求－１ 授業ガイダンスとセクシュアリティの概念	・性別、性行動、ジェンダー、性的指向、その他の基本用語に関連する用語の定義 ・メディアが人々の認識に与える影響 ・ 人々の交差するアイデンティティと文化が、セクシュアリティとジェンダーに対する見方の形成にどのような役割をもたらしたのか探求する	予習：セクシュアリティに関わる用語を事前に調べておくこと 復習：授業内容を振り返り、自身の経験や社会で問題になっている事例に当てはめ人間のセクシュアリティを探求する。
2	人間のセクシュアリティに関する考察と探求－２ 人間のセクシュアリティ理論	● 狩猟採集社会、牧畜社会、農耕社会における社会階層化がどのように起こるかを分析する ● ジェンダーとセクシュアリティに関する古代の視点と現代の視点を比較対照する ● 人間のセクシュアリティの研究に影響を与えるさまざまな理論の主な側面を理解する	予習：セクシュアリティやジェンダーの歴史的背景について事前に調べておく 復習：授業内容を振り返り、自身の経験や社会で問題になっている事例に当てはめ人間のセクシュアリティを探求する。
3	人間のセクシュアリティに関する考察と探求－３ セクシュアリティを構成する要素①	時代を通じた性科学と現代の性研究の概要 親密な関係とは ● 愛と長期にわたる親密な関係の発展をもたらした進化論的、生物学的、社会的、心理学的視点について学ぶ ● 恋愛関係の中で親密性を阻害する社会的要因や害を防ぐための方法を考える。	予習：セクシュアリティを構成する要素を事前に調べておく 復習：授業内容を振り返り、自身の経験や社会で問題になっている事例に当てはめ人間のセクシュアリティを探求する。
4	人間のセクシュアリティに関する考察と探求－４ セクシュアリティを構成する要素②	ジェンダー・性的指向・魅力とは ・ジェンダーの歴史や社会からの影響、多様性について学ぶ ・性的指向に影響を及ぼす要因 ・魅力の進化論や好意に影響を及ぼす要因について学ぶ	予習：セクシュアリティを構成する要素を事前に調べておく 復習：授業内容を振り返り、自身の経験や社会で問題になっている事例に当てはめ人間のセクシュアリティを探求する。
5	人間のセクシュアリティに関する健康を促進するための支援－１ 性の商品化とマーケット	・性労働の歴史的考察 ・性の商品化やマスメディアが人間の行動に与える影響 ・性労働者へのスティグマ	予習：社会で展開されている性の商品化について調べておく 復習：授業内容を振り返り、自身の経験や社会で問題になっている事例に当てはめ支援の在り方を考察する
6	人間のセクシュアリティに関わる健康を促進するための支援－２ セクシュアルヘルスを促進するためのケア①	・セクシュアリティに関するトラウマを引き起こす要因 ・トラウマを引き起こす要因を防ぐための方法を探求 ・支援の在り方（セラピー、トラウマ インフォームドケア）	予習：セクシュアリティに関するトラウマを引き起こす要因を調べておく 復習：授業内容を振り返り自身の経験や社会で生じている事例などに当てはめ支援の在り方を考察する
7	人間のセクシュアリティに関わる健康を促進するための支援－３ セクシュアルヘルスを促進するためのケア②	セクシュアリティに関する能力の回復に向けた支援 インターセクショナリティやボディイメージの回復に向けた支援	予習：疾患や障害が人間のセクシュアリティに及ぼす影響について調べる 復習：授業内容を振り返り自身の経験や社会で生じている事例などに当てはめ支援の在り方を考察する
8	人間のセクシュアリティに関する健康を促進するための支援－４ ・セクシュアリティと医療現場と倫理的問題	・医療現場でのセクシュアリティに対する課題 ・セクシュアルヘルスを促進するための支援の在り方	予習：医療者や医療施設、医療が人間のセクシュアリティに及ぼす影響を調べる 復習：授業内容を振り返り自身の経験や社会で生じている事例などに当てはめ支援の在り方を考察する

授業開始前学習	私たちは誰もがジェンダー・セクシュアリティと無関係で生きることはできません。また、ジェンダー・セクシュアリティは人により、地域により多種多様なものです。そしてジェンダー・セクシュアリティは科学的な立証は難しく、身体、家族、恋愛、教育、科学、国家、労働などほとんどあらゆる学問分野と関わっており、包括的な視点で探求していくことが求められます。社会の諸問題、特に医療に関わる問題をジェンダー・セクシュアリティの視点からも検討しながら人間のセクシュアルヘルスを促進する方法を授業を通して考察できることを目的としていま							
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、授業終了時リアクションペーパの記入と次の授業でフィードバックを行う。							
テキスト・教材	授業資料を活用していく							
参考書	授業の中で紹介していく							
評価の基準と方法	◇評価基準 ①授業での態度（出席状況も含める）や discussion での参加貢献度　20%・・・・相互評価表を用いて評価 ②課題への取り組み姿勢　20%・・・　同上 ③最終レポート　60%							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎		△	○			
関連科目	全看護専門科目							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	310-221-12	授業コード	HA0025
科目名称	臨床心理学			単位数	1.00 単位
英文名称	Clinical Psychology			授業区分	講義
科目責任者	鳥羽　翔太			必修・選択	選択
担当教員	鳥羽　翔太			開講時期	2 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	心理的な問題に対するかかわり方を理解し、心理的な支援ができるようになるために、臨床心理学の概念、臨床心理学と精神医学の違い、心理的な問題を抱えている人の理解のしかた・回復へ向けてのかかわり方、さらには心理的な問題発生を予防するするためのかかわり方などについて学ぶ。また、臨床心理学に対する理解を深め、よりよい支援ができるようになるために、心理療法の諸理論および行動観察や面接・心理検査によるアセスメントの視点と方法、自律訓練法、認知行動療法などについて学ぶ。				
到達目標	1．臨床心理学の概念、臨床心理学と精神医学の違いについて説明できる。 2．心理的な問題を抱えている人の理解のしかた・回復へ向けてのかかわり方、心理的な問題発生を予防するためのかかわり方などについて、具体例を挙げて述べることができる。 3．心理療法の諸理論（自律訓練法・認知行動療法を含む）について説明できる。 4．行動観察や面接・心理検査によるアセスメントの視点と方法について説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	ガイダンス	・臨床心理学の概念 ・臨床心理学と精神医学の違い ・授業目的に関する説明	（グループワーク） 予習：特に必要ない 復習：配布されたプリントを見返すこと キーワード：臨床心理学、科学、理論、実践、心理療法、アセスメント、介入
2	心理療法の理論 1	・精神分析についての概要	予習：特に必要ない 復習：配布されたプリントを見返すこと キーワード：精神分析、自我、防衛機制、生涯発達、対象関係、アタッチメント
3	心理療法の理論 2	・来談者中心療法についての概要	（課題解決型学習） 予習：特に必要ない 復習：配布されたプリントを見返すこと キーワード：来談者中心療法、カウンセリング・マインド
4	心理療法の理論 3	・自律訓練法・認知行動療法についての概要	予習：特に必要ない 復習：配布されたプリントを見返すこと キーワード：自律訓練法、認知行動療法、条件づけ、モデリング
5	心理アセスメント 1	・行動観察によるアセスメントの概要及びその実践	予習：特に必要ない 復習：配布されたプリントを見返すこと キーワード：アセスメント、観察法、ストレンジ・シチュエーション法
6	心理アセスメント 2	・面接によるアセスメントの概要及びその実践	（グループワーク） 予習：特に必要ない 復習：配布されたプリントを見返すこと キーワード：アセスメント、臨床面接法
7	心理アセスメント 3	・心理検査によるアセスメントの概要及びその実践 ・自己理解の促進	（グループワーク） 予習：特に必要ない 復習：配布されたプリントを見返すこと キーワード：アセスメント、心理検査、質問紙法、投影法、自己理解
8	連携とコミュニケーション	・多職種連携についての基本的な考え方 ・コミュニケーションスキルの習得	（グループワーク） 予習：特に必要ない 復習：配布されたプリントを見返すこと キーワード：多職種連携、ソーシャルスキル、アサーション

授業開始前学習	講義に関する理解を深めるため、講義の後に必ず復習をすること。

授業内課題のフィードバックの方法	レポートについては授業内で適宜フィードバックを行う。							
テキスト・教材	講義プリントを配布する。							
参考書	適宜、授業の中で紹介する。							
評価の基準と方法	受講者数によって、以下のどちらかで評価を行う。 ・小レポートと期末レポート：複数の小レポート（40%）、期末レポート（60%）を総合して評価する。 ・小レポートと期末試験：複数の小レポート（40%）、期末試験（60%）を総合して評価する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○		◎			△
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-221 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-221-12 （J）	授業コード	HA0055
科目名称	健康教育学			単位数	1.00 単位
英文名称	Health Education			授業区分	講義
科目責任者	中田晴美			必修・選択	選択
担当教員	富塚・中田・西村			開講時期	2 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	健康教育を必要とする対象者に対して健康教育を実施するための知識を身につけるために、健康教育の概念、活用できる行動科学に関連する理論やモデルとその活用方法について学ぶ。個人の健康行動を変える教育活動に加え、組織のプログラム、政策、マスメディアなどの影響について学ぶ。				
到達目標	1.健康教育の対象者の特徴と目標を述べることができる。 2.健康教育の理論やモデルについて、その適用と特徴について説明することができる。 3.健康教育の理論やモデルを活用した健康教育の具体的な方法を述べることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	科目ガイダンス 健康教育の意義・理論 中田晴美	地域における健康教育の位置づけ 健康教育の基盤となる理論	予習：公衆衛生看護学概論の講義内容を確認しておく 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく
2	健康教育の技術 中田晴美	健康教育の過程と活用する技術	予習：公衆衛生看護学概論の講義内容を確認しておく 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく
3	健康教育の展開方法① 中田晴美・富塚美和・西村悦子	グループ演習：基礎的知識の統合、健康教育企画書作成	予習：健康教育の対象者の特徴、健康教育に必要な基礎的知識を確認しておく 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく
4	健康教育の展開方法② 中田晴美・富塚美和・西村悦子	グループ演習：基礎的知識の統合、健康教育企画書作成	予習：健康教育の対象者の特徴、健康教育に必要な基礎的知識を確認しておく 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく
5	健康教育の展開方法③ 中田晴美・富塚美和・西村悦子	グループ演習：健康教育シナリオ・媒体作成	予習：健康教育の対象者の特徴に応じた媒体作成時の留意点について確認する 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく
6	健康教育の展開方法④ 中田晴美・富塚美和・西村悦子	グループ演習：健康教育シナリオ・媒体作成	予習：健康教育の対象者の特徴に応じた媒体作成時の留意点について確認する 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく
7	健康教育の展開方法⑤ 中田晴美・富塚美和・西村悦子	健康教育ロールプレイ	予習：健康教育の対象者の特徴に応じたプレゼンテーションの留意点について確認する 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく
8	健康教育の展開方法⑥ 中田晴美・富塚美和・西村悦子	健康教育ロールプレイ・まとめ	予習：健康教育の対象者の特徴に応じたプレゼンテーションの留意点について確認する 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく

授業開始前学習	既習の公衆衛生看護学概論の講義内容を確認しておくこと
授業内課題のフィードバックの方法	授業内でフィードバックを行う
テキスト・教材	
参考書	1.中村裕美子他：標準保健師講座　公衆衛生看護技術（医学書院） 2.佐々木明子他：公衆衛生看護活動における健康教育（丸善・DVD）
評価の基準と方法	試験（50%）、課題レポート（50%） 課題レポートの内容は講義時およびクラスルームから周知する

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△				◎	○		
関連科目								
その他	◇学習上の留意点 本科目は、保健師教育課程履修希望者は選択必修科目であるが、保健師に限らず看護職として働く上で必要な知識について学修する。 また、本科目はグループワークや発表を中心としたアクティブラーニングの授業形態をとるため、積極性、他者との協調性を発揮して臨むこと。							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容	保健師として、地域住民や専門職を対象にした健康教育をおこなってきた実務経験から、実践例を生かした教育を実施する。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-111 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-11 （J）	授業コード	HB0515
科目名称	看護学概論			単位数	2.00 単位
英文名称	Introduction to Nursing			授業区分	講義
科目責任者	天野 雅美			必修・選択	必修
担当教員	天野 雅美			開講時期	1 年前期
オフィスアワー	前期 月水木金曜日 12:10～13:00 後期 月水木金曜日 12:10～13:00			研究室	1-306
授業概要	看護のパラダイムを理解するために、看護学の核となる概念（人間・環境・健康・看護）について学ぶ。また、自己の看護観を醸成するために、看護の歴史的変遷、主な看護理論の看護の概念について学ぶ。さらには、どのような看護実践においても必要となる基礎的・基本的な概念について学ぶ。具体的には、看護の機能と役割（地域包括ケアシステム 含）、援助的人間関係の概念、看護倫理の概念、コミュニケーションの概念、看護技術の概念、健康の段階と基本的な看護援助、看護の記録・報告、看護提供システムなどについて学ぶ。				
到達目標	1．看護の歴史を学び、歴史的変遷を述べることができる。 2．看護の主要概念である人間・環境（生活）・健康・看護を学び、看護の概念を説明できる。 3．看護の専門性を学び、看護の機能や役割を述べることができる。 4．看護の本質を考察し、述べることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	ガイダンス：看護学、基礎看護学、科目概要 看護の歴史的変遷① 天野雅美	1．看護学を学ぶ意義 1）看護教育制度の概観 2）看護に求められる能力 2．基礎看護学科目の関連 3．歴史を学ぶ意義 1）第二次世界大戦後の確立 2）保健師助産師看護師法 （課題解決型授業学修）	授業方法：講義 予習：シラバスを熟読し、授業概要を理解する。 テキスト１．序章、第４章 A を読み、看護学を学ぶ動機と看護職のイメージや仕事内容をノートにまとめる。 復習：講義とグループワークを通して、看護を学ぶ意義と看護の歴史的変遷について学んだ内容をノートにまとめる。
2	看護の歴史的変遷② 天野雅美	看護職が活躍する場、 医療・福祉・介護施設（プレゼンテーション）	授業方法： 発表 予習：：看護職が活躍する場について、グループで取り組み、資料にして、プレゼンテーションの準備をする。 復習：グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。
3	看護の対象① 天野雅美	1．人間の特徴 1）マズローの基本的欲求 2）発達課題 （課題解決型授業学修）	授業方法：講義・グループワーク 予習：テキスト１．第２章を読み、看護の対象である人間の身体的・精神的・社会的特徴をノートにまとめる。 復習：講義とグループワークを通して、看護の対象について学んだ内容をノートにまとめる。
4	看護の対象② 天野雅美	人間と生活（プレゼンテーション）	授業方法：発表 予習：人間と生活について、グループで取り組み、資料にして、プレゼンテーションの準備をする。 復習：グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。
5	健康のとらえ方① 天野雅美	1．健康に影響を与えるもの 1）内的・外的環境要因 2）社会的要因 2．健康の定義 3．看護理論家の健康概念 1）ジョイス.トラベルビー 2）ヴァージニア.ヘンダーソン 4．平均寿命 1）平均余命 2）健康寿命 5．健康と疾病の関係 1）疾病の段階 2）障がいの定義 3）プライマリ・ヘルスケア 4）ヘルスプロモーション 5）健康の概念 （課題解決型授業学修）	授業方法：講義・グループワーク 予習：テキスト１．第３章を読み、国民の健康状態と生活について、ノートにまとめる。 復習：講義とグループワークを通して、健康のとらえ方について学んだ内容をノートにまとめる。
6	健康のとらえ方② 天野雅美	健康に影響を与えるもの（プレゼンテーション）	授業方法：発表 予習：国民の健康について、グループで取り組み、資料にして、プレゼンテーションの準備をする。

			復習：グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。
7	看護の提供者① 天野雅美	１．看護職の定義 １）名称独占・業務独占 ２）看護師の業務 ２．医療法における定義 １）病院、診療所 ２）助産所 ３．看護教育 １）カリキュラムの変遷 ２）モデル・コア・カリキュラム ４．看護職の資格と養成制度 １）認定看護師、専門看護師 ２）特定行為研修制度 ５．看護技術の提供 １）看護技術の定義・目的・類別 ２）看護技術の特徴と専門性 （課題解決型授業学修）	授業方法：講義・グループワーク 予習：：テキスト１．第４章ＢＣＤを読み、看護職の資格と養成制度をノートにまとめる。 復習：講義とグループワークを通して、看護の提供者について学んだ内容をノートにまとめる。
8	看護の提供者② 天野雅美	看護の資格と教育（プレゼンテーション）	授業方法：発表 予習：看護の資格と教育について、グループで取り組み、資料にして、プレゼンテーションの準備をする。 復習：グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。
9	看護の専門性① 天野雅美	１．看護のマネジメント １）労働時間と勤務体制 ２）病院組織と看護部組織 ２．情報管理 １）看護基準・手順 ３．看護方式 １）チームナーシング ２）機能別看護方式 ４．看護サービス １）看護サービスの質保証の考え方 ２）クリニカルパス ５．チーム医療 １）チーム医療の必要性と意義 ２）今後の課題 （課題解決型授業学修）	授業方法：講義・グループワーク 予習：テキスト１．第６章を読み、看護サービスとは何かについてノートにまとめる。 復習：：講義とグループワークを通して、看護について学んだ内容をノートにまとめる。
10	看護の専門性② 天野雅美	看護方式（プレゼンテーション）	授業方法：発表 予習：看護方式についてグループで取り組み、資料にして、プレゼンテーションの準備をする。 復習：グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。
11	看護における倫理① 天野雅美	１．倫理と道徳 ２．職業倫理と看護倫理 ３．看護職の倫理綱領 ４．看護師が経験している倫理的問題 ５．医療倫理の原則 ６．説明責任 ７．個人情報保護法 （課題解決型授業学修）	授業方法：講義・グループワーク 予習：：テキスト１．第５章を読み、看護における倫理とは何かについてノートにまとめる。 復習：：講義とグループワークを通して、看護について学んだ内容をノートにまとめる。
12	看護における倫理② 天野雅美	倫理的事例（プレゼンテーション）	授業方法：発表 予習：倫理的事例についてグループで取り組み、資料にして、プレゼンテーションの準備をする。 復習：グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。
13	F,ナイチンゲール 菊地由美		授業方法：講義、グループワーク 予習：テキスト（ナイチンゲールについて書かれている部分）および看護覚え書を一通り読んでおく。 復習：講義とグループワークを通して、ナイチンゲールについて学んだ内容をノートにまとめる。
14	F,ナイチンゲール 菊地由美		授業方法：発表 予習：看護覚え書の課題について、グループで取り組み、資料にして、プレゼンテーションの準備をする。 復習：グループ毎の発表を通して、要点、学びをノートにまとめる。
15	援助的人間関係の概念、コミュニケーションの概念 天野雅美	１．援助的人間関係 １）援助的関係の形成 ２）コミュニケーションの構成要素 ３）受容、繰り返し、明確化、支持、質問 ２．看護の方向性と課題 （課題解決型授業学修）	授業方法：講義・グループワーク 予習：ノートシリーズ「援助的人間関係とコミュニケーションの概要」を読みノートへまとめる。 復習：授業の第１回～第 15 回までの学びと看護とは何かをノートにまとめる。

授業開始前学習	看護職を選択するきっかけになった出来事や看護職を希望する動機について、自身で明確にしておきましょう。
授業内課題のフィードバックの方法	課題・レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。この場合の課題に、定期試験は含まれません。 各自のレスポンスシートにコメントをして、返却します。
テキスト・教材	茂野香おる：系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[１]　看護学概論，医学書院. フローレンス・ナイチンゲール著，湯槇ます他訳：看護覚え書―看護であること・看護でないことー，現代社.
参考書	ヴァージニア・ヘンダーソン著，湯槇ます，小玉香津子訳：看護の基本となるもの，日本看護協会出版.
評価の基準と方法	7 回のグループ課題 35%、評価視点…課題内容・構成・情報の伝達・質疑応答・提出を 3 段階 ABC で評価（5 点×7 回＝35 点） 1 回の個人レポート：30%、評価視点…課題内容・論理的思考・体裁・文章表現・提出を 5 段階 ABCDE で評価（30 点） 定期試験：35%（35 点） 合計：100%

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△	△		◎	○		

関連科目	看護理論、看護過程の基礎、基礎看護方法論Ⅰ、基礎看護方法論Ⅱ、基礎看護方法論Ⅲ、基礎看護学実習Ⅰ
その他	「看護学概論」は、「基礎看護学実習Ⅰ」の前提条件です。 個々の課題の取り組みをもとにして、グループワークで見分を広げ、発表会やレポートを通して看護観を養えるように取り組むことを希望します。更に、本科目の履修により、看護への興味を増し、関心が深まることを願っています。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間+予習・復習時間 60 時間
実務経験を活かした教育内容	看護師・保健師の資格を有し、内科病棟・外科病棟を中心とした看護師臨床経験がある。看護基礎教育は、基礎看護学領域を専任とした大学教育経験がある。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-111 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-11 （J）	授業コード	HB0525
科目名称	看護理論			単位数	1.00 単位
英文名称	Nursing Theory			授業区分	講義
科目責任者	天野 雅美			必修・選択	必修
担当教員	天野 雅美			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	前期 月水木金曜日 12:10～13:00 後期 月水木金曜日 12:10～13:00			研究室	1-306
授業概要	看護実践における看護理論活用の有用性を理解するために、看護理論（大理論・中範囲理論・小理論）の概念、看護理論の看護実践への活用方法につい学ぶ。また、事例として提示した看護場面に対する看護理論の活用の実際を通して、看護理論の活用法を体験的に学ぶ。さらには、看護実践において用いられることの多い看護理論を理解し、看護実践へ活用を可能にするために、各々の看護理論の概要について学ぶ。				
到達目標	1．看護理論とは何かを説明できる 2．看護理論を活用する意義と必要性を説明できる 2．広範囲理論・中範囲理論・小範囲理論の違いを説明できる 3．各看護理論の特徴を説明できる 4．看護理論を実践に活かす意義と有用性を説明できる 5．事例を通して看護理論を活用できる				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	看護理論とは 天野雅美	1．看護理論を学ぶ意義 2．看護理論の定義と構成要素 3．広範囲理論・中範囲理論・小範囲理論の違い 4．看護理論を実践に活用する意義 5．看護理論を実践に活かす方法	講義 予習：シラバスを読み、授業の概要を知る 復習：看護理論の活用方法、理論の種類と違いをまとめる
2	看護理論 1 天野雅美	看護理論と活用方法 1．ニード論（V.ヘンダーソン） 2．適応理論（ロイ） 3．事例による看護場面での活用方法の実際	講義・演習 予習：看護学概論で学習した V.ヘンダーソンの理論を復習する 復習：各看護理論家の理論の特徴を整理する
3	看護理論 2 天野雅美	看護理論と活用方法 1．対人関係理論（ペプロウ、トラベルビー） 2．セルフケア理論（オレム） 3．事例による看護場面での活用方法の実際	講義・演習 予習：既習した看護理論家の理論の特徴を整理する 復習：各看護理論家の理論の特徴を整理する
4	情動的中範囲理論 1 天野雅美	情動的中範囲理論と活用方法 1．危機理論 2．ストレスコーピング理論とケア 3．事例による看護場面での活用方法の実際	講義・演習 予習：テキストのフィンクの危機理論を読む 復習：ストレスとは何か、危機理論の特徴をまとめる
5	情動的中範囲理論 2 天野雅美	情動的中範囲理論と活用方法 1．悲嘆の心理プロセスとケア 2．不安とケア 3．事例による看護場面での活用方法の実際	講義・演習 予習：悲嘆、不安の違いについて自分の考えをまとめる 復習：悲嘆・不安を持つ患者のケアをまとめる
6	社会的中範囲理論 天野雅美	社会的中範囲理論と活用方法 1．役割理論 2．コーチング理論 3．事例による看護場面での活用方法の実際	講義・練習 予習：社会の中で今、自分の持つ役割を列挙してくる 復習：コーチングとティーチングの違い、適応を整理する
7	認知的中範囲理論 天野雅美	認知的中範囲理論と活用方法 1．自己概念・ボディイメージ 2．事例による看護場面での活用方法の実際	講義・演習 予習：看護学概論で学習した自己概念の内容を説明できるよう振り返る 復習：自己のボディイメージ、自己概念を考える
8	まとめ 天野雅美	事例によるまとめ 1．事例による理論の活用	講義・演習 予習：学習した看護理論の活用方法を確認する 復習：活用方法の不明確な看護理論を確認する

授業開始前学習	看護理論のテキスト 第Ⅰ章総論 に目を通して、授業へ臨む
授業内課題のフィードバックの方法	授業時に口頭でコメントする、あるいは次回授業時に返答する
テキスト・教材	看護学テキスト NICE 看護理論（最新版）看護理論 21 の理解と実践への応用／筒井真優美編／株式会社 南江堂

参考書	授業中にその都度紹介する							
評価の基準と方法	課題 50%＋定期試験 50%＝合計 100% 課題の評価は、ルーブリック表を用いて行う							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		△
関連科目	看護学概論、基礎看護方法Ⅰ（生活行動の援助技術）、基礎看護方法Ⅱ（ヘルスアセスメント）、基礎看護方法Ⅲ（診療の援助技術）、看護過程の基礎、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ							
その他	本科目は、前提条件がありません。 看護の対象のとらえ方や看護の実践方法の結びつきを理解して、看護学実習では、受け持ち患者への看護に活用できることを願っています。							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間＋予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容	看護師・保健師の資格を有し、内科病棟・外科病棟を中心とした看護師臨床経験がある。看護基礎教育は、基礎看護学領域を専任とした大学教育経験がある。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-112 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-21 （J）	授業コード	HB1700
科目名称	基礎看護方法Ⅰ(生活行動の援助技術)			単位数	2.00 単位
英文名称	Basic Nursing Skills Ⅰ(Assistive Skill in Daily Life)			授業区分	演習
科目責任者	樋口　美樹			必修･選択	必修
担当教員	天野･門脇･菊地･樋口･北條･室井			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	対象の状態･状況にあった生活行動の援助を実施できるようにするために、各々の生活行動援助技術についての概念、技術を適用する際の基礎的･基本的な知識、基礎的･基本的な知識を活用しての援助方法について学ぶ。具体的には、各々の看護技術を適用する際の原理･原則となる安全性･安楽性･自立性の理解ができ、この理解を受けて、対象の状態･状況にあった援助を考え、考えた援助を実施し、実施した援助を評価することを学ぶ。				
到達目標	1.看護技術とは何かを自分の言葉で表現することができる。 2.日常生活行動の援助に関する看護の基本的知識について説明することができる。 3.日常生活行動の援助に関する看護の基本的技術を習得することができる。 4.看護の対象の個別性にあわせた看護技術活用の必要性を理解し、個別的な看護について記述することができる。 5.看護師･患者の役割体験を通して、看護を実践する基礎的な能力を身につけることができる。				
アクティブ･ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目･担当者	学修内容	授業方法（アクティブ･ラーニング）･予習･復習･レポートなどの課題
1･2	（第 1 回）科目ガイダンス 樋口美樹、菊地由美、門脇淳子、北條由佳、室井容子 （第 2 回）共通技術 樋口美樹、菊地由美、門脇淳子、北條由佳、室井容子	（第 1 回） 学修の進め方、実習室使用のルール （第 2 回） 看護技術とは、観察･記録･報告、コミュニケーションの目的と意義、ボディメカニクスの原理と実際	（第 1 回）講義 予習：実習室の手引きを読んでおくこと 復習：様々なルールについて再確認しておくこと （第 2 回）講義 予習： テキスト「看護技術に共通する要素」を読んでおくこと。 復習：観察や記録をする際の重要点、看護におけるコミュニケーションの重要点について復習しておくこと
3･4	感染防止の技術 樋口美樹、菊地由美、門脇淳子、北條由佳、室井容子	感染予防の意義と原則 スタンダードプリコーション	講義/演習 予習：テキスト「感染予防」の章を読んでおくこと 復習：行動の根拠を確認し、衛生学的手洗いと手指消毒を正しい方法でできるように練習しておくこと
5･6	環境調整技術①② 樋口美樹、菊地由美、門脇淳子、北條由佳、室井容子	療養生活の快適な環境 病床環境のアセスメントと環境整備 ベッドとその周囲の観察 ベッドメーキング	講義/演習 予習：テキスト「環境整備」の章を読んでおくこと。 視聴覚教材「ベッドメーキング」に関するものを視聴しておくこと 復習：事例（様々な状況）を想定した環境整備の必要性と実施内容について学修しておくこと。 ベッドメーキングの基本技術を練習し、看護師 2 人で行うベッドメーキングの練習を積んでおくこと
7･8	活動･休息援助技術①② 樋口美樹、菊地由美、門脇淳子、北條由佳、室井容子	活動と休息の意義 援助の基礎知識とアセスメント ボディメカニクス ポジショニングと体位変換	講義/演習 予習：テキスト「活動援助」を読んでおくこと。 視聴覚教材「体位変換」に関するものを視聴しておくこと 復習：体位変換の方法、安楽な体位について援助の手順を学習し、互いに練習をしておくこと
9･10	環境調整技術③ 樋口美樹、菊地由美、門脇淳子、北條由佳、室井容子	環境調整 ベッドメーキング（技術確認）	演習 予習：2 人で行うベッドメーキングが一通りできるように練習しておくこと。 復習：技術を評価し課題を明確にした上で、更に練習を重ね精度を上げること。 ＊一定基準を満たすまで、チェックリストを活用して練習を重ねる
11･12	生活援助技術の統合Ⅰ 樋口美樹、菊地由美、門脇淳子、北條由佳、室井容子	複合技術 「臥床患者のリネン交換」	演習 予習：「臥床患者のリネン交換」に関する視聴覚教材を視聴しておくこと 復習：基本手順を根拠とともに復習し、自己･他者評価を行い技術の精度を上げること。

13 a/b	生活援助技術の統合Ⅰ 樋口美樹、天野雅美、菊地由美、門脇淳子、北條由佳、室井容子	技術の確認 臥床患者のリネン交換	演習 予習：課題の技術について練習し技術チェックに臨むこと。 復習：チェックリストをもとに自己・他者評価を行い、自己の課題を明確にすること。
14・15	清潔・衣生活援助技術①② 樋口美樹、菊地由美、門脇淳子、北條由佳、室井容子	清潔援助の意義と目的 援助方法選択のためのアセスメント 清潔援助に共通する技術 寝衣交換	講義/演習 予習：テキスト「清潔ケア」を読んでおくこと。視聴覚教材「寝衣交換」に関するものを視聴しておくこと。 復習：清潔援助に共通する原理原則、様々な清潔援助の方法の意義と留意点を復習し、各援助の手順作成や援助計画立案に活かすこと。 「臥床患者の寝衣交換」の技術について、基本手順を根拠とともに復習し練習を重ねておくこと
16・17	清潔・衣生活援助技術③④ 樋口美樹、菊地由美、門脇淳子、北條由佳、室井容子	清潔援助の基本技術 部分浴（足浴） 洗髪	演習 予習：視聴覚教材「清潔援助：部分浴」「清潔援助：洗髪」に関するものを視聴しておくこと。 復習：各援助について、演習後に必ず実習室で自己学習しておくこと。 足浴（臥床・座位）、洗髪（ベッド上・洗髪台）の基本的な技術をチェックリストを使って練習を重ねておくこと 部分浴「手浴」に関する課題に取り組むこと
18・19	清潔・衣生活援助技術⑤⑥ 樋口美樹、菊地由美、門脇淳子、北條由佳、室井容子	清拭（寝衣交換）	演習 予習：視聴覚教材「清潔援助：清拭、寝衣交換」に関するものを視聴しておくこと。 復習：一連の行動を通して、臥床患者の清拭・寝衣交換ができるように練習を重ねておくこと。
20・21	生活援助技術の統合Ⅱ 樋口美樹、菊地由美、門脇淳子、北條由佳、室井容子	事例患者の清潔援助・移動の援助 アセスメント～評価まで	講義・演習 予習：これまで学んだ各援助について、実習室で自己学習しておくこと。 対象・状況にあわせた援助技術の提供について、事例をふまえて課題に取り組む。 復習：対象・状況にあわせた援助の必要性とポイントを明確にする。 対象に実施する援助について、実習室で自己学習をしておくこと。
22・23	活動・休息援助技術③④ 樋口美樹、菊地由美、門脇淳子、北條由佳、室井容子	移乗・移送の技術	演習 予習：視聴覚教材「移動・移送」に関するものを視聴しておくこと 復習：第 7・8 回の講義内容を復習しておくこと ストレッチャーと車椅子の点検について確認しておくこと
24・25	食事援助技術 樋口美樹、菊地由美、門脇淳子、北條由佳、室井容子	食事の意義 栄養と食事に関するアセスメント 口腔ケア 嚥下体験 食事の援助	講義・演習 予習：テキスト「食事援助」を読んでおくこと。 視聴覚教材「食事援助」に関するものを視聴しておくこと。 復習：誤嚥予防の為の注意事項とその根拠を復習しておくこと。 食事援助の原則的留意事項について整理しておくこと。 事後課題を期日までに提出すること。
26・27	排泄援助技術 樋口美樹、菊地由美、門脇淳子、北條由佳、室井容子	排泄の意義 援助方法の選択のためのアセスメント 便器の種類と排泄の援助 対象者のプライバシー・尊厳を守る援助 汚染物の取り扱い 陰部洗浄	講義・演習 予習：テキスト「排泄ケア」を読んでおくこと。 視聴覚教材「排泄援助」「陰部洗浄」に関するものを視聴しておくこと。 復習：床上排泄に必要な道具を使用し、特徴についてまとめておくこと。 排泄援助の際の留意点と観察のポイントを整理しておくこと。 排泄援助を行なう際に看護者に求められているものについてまとめておくこと。
28・29 a/b/c/d 30	（第 28・29 回） 生活援助技術の統合Ⅱ 樋口美樹、天野雅美、菊地由美、門脇淳子、北條由佳、室井容子 （第 30 回） 「看護技術とは」 樋口美樹、菊地由美、門脇淳子、北條由佳、室井容子	（第 28・29 回） 対象者の状態・状況をふまえた援助 （アセスメント～評価まで） （第 30 回） 「看護技術とは」 課題のフィードバック等	（第 28・29 回） 演習 予習：必要書類を整え、課題技術を練習し臨むこと。 復習：自己・他者評価をおこない、課題を明確にすること。 （第 30 回） 講義 予習：自分なりの「看護技術とは」の考えについて、まとめてくること 復習：本科目すべての授業内容について復習し、筆記試験に臨むこと。

授業開始前学習	・人体の機能と構造、看護学概論で学習した内容を理解して臨んでください。							
授業内課題のフィードバックの方法	各演習の事前・事後課題のフィードバックについては単元毎に行い、課題の返却については随時行う。							
テキスト・教材	看護がみえる vol. 1　基礎看護技術　メディックメディア 駒沢女子大学ノートシリーズ「基礎看護方法Ⅰ」 視聴覚教材：基礎オリジナル動画、ビジュランクラウド							
参考書	適時紹介する							
評価の基準と方法	筆記試験（授業内の小テスト含む）（60%）、技術チェック（20%）、課題・レポート等提出物（20%）							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		○	○	◎	△
関連科目	看護学概論、基礎看護学実習Ⅰ							
その他	＜演習時＞ ・指定された服装で、身だしなみを整えて参加してください。 ・演習の欠席は、技術習得に影響を及ぼすため、健康管理に気をつけて臨んでください。 ・看護技術は準備から後片付けまでが技術です。事前の準備や後片付けが必要となります。 ＜看護技術の自己学習＞ ・事後課題や技術習得に向けて、授業時間外に技術の練習時間が必要となります。							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容	本科目は、複数の担当者が協同で指導する科目であり、全ての教員が看護師の実務経験を有している。本科目では、その経験を活かし、看護技術の基本が身につけられるよう授業を行う。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-212 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-22 （J）	授業コード	HB0555
科目名称	基礎看護方法Ⅱ(ﾍﾙｽｱｾｽﾒﾝﾄ)			単位数	2.00 単位
英文名称	Basic Nursing Skills Ⅱ(Health Assessment)			授業区分	演習
科目責任者	菊地 由美			必修・選択	必修
担当教員	天野・門脇・菊地・樋口・北條・室井			開講時期	2 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	対象の身体的・心理的・社会的な側面におけるアセスメントをできるようにするために、各側面についてのアセスメントを行なうさいに必要となる基礎的・基本的な知識や方法について学ぶ。具体的には、身体的なアセスメントにおいては、アセスメントの目的にあったデータ収集項目がわかり、解剖学的・生理学的な知識に裏づけられた正確なフィジカルイグザミネーション、フィジカルアセスメントができるようにする。心理的・社会的なアセスメントにおいては、アセスメントの目的にあったデータ収集項目がわかり、看護の視点で知識に裏づけられたアセスメントができるようにする。また、身体的・心理的・社会的な側面におけるアセスメント結果を統合し、ヘルスアセスメントができる素地を養う。				
到達目標	1.ヘルスアセスメントの概念、意義、目的を述べることができる 2.視診、触診、打診、聴診の方法および留意点を述べることができる 3.バイタルサインの測定とアセスメントができる 4.身体各部のフィジカルイグザミネーションの留意事項について説明することができる 5.身体各部のフィジカルイグザミネーションを実施し、アセスメントすることができる 6.心理・社会的側面のアセスメントの意味と方法についてその根拠も含め説明することができる				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1・2	授業の進め方 ヘルスアセスメントとは フィジカルアセスメントに必要な基本技術 菊地由美 門脇淳子 樋口美樹 北條由佳 室井容子	科目ガイダンス 看護におけるヘルスアセスメントの意義、目的、方法、看護上の留意点 フィジカルアセスメントの基本技術、計測 （問診、視診、聴診、打診、触診）	講義 予習：シラバスを一読しておくこと。テキスト P2-22、ノートシリーズ該当箇所を予習して臨むこと。 復習：「ヘルスアセスメント」の看護にとっての意味を整理しておくこと。 基本技術の留意事項を理解し自己練習しておくこと。
3～5	バイタルサインの観察と測定技術① 菊地由美 門脇淳子 樋口美樹 北條由佳 室井容子	バイタルサインとは 体温、脈拍、呼吸、血圧測定 測定結果の記録とアセスメント バイタルサイン測定の技術演習	講義/演習 予習：テキスト「バイタルサイン」の項を読み、ノートシリーズ該当箇所を予習して臨むこと。視聴覚教材「バイタルサインの測定」に関するものを視聴しておくこと。血圧計の点検方法を調べて実施、血圧測定も一度体験し、事前課題を提出して授業に臨むこと。 復習：体温、脈拍、呼吸、血圧の測定条件、影響因子、基準値、観察のポイントを復習しておくこと。年齢・性別の異なる対象の脈拍及び血圧を 3 例以上実施し、記録用紙に記載してくること。次週の演習までに測定技術は一通りできるようにしておくこと。
6・7	バイタルサインの観察と測定技術② 菊地由美 門脇淳子 樋口美樹 北條由佳 室井容子 天野雅美	バイタルサイン測定技術到達度チェック バイタルサインの観察とアセスメント	演習 予習：バイタルサイン測定を一連の流れで行う場合の順番や方法を予習しておくこと。バイタルサイン測定技術到達度チェック（脈拍と血圧測定）を行うため、測定技術は一通りできるようにしておくこと。 復習：様々な状況設定下でバイタルサインの観察ができるよう自己練習しておくこと。技術到達度チェックで到達できなかった課題は、本科目終了までに必ず再チェックを受けること。
8・9	呼吸器系・循環器系のフィジカルアセスメント 菊地由美 門脇淳子 樋口美樹 北條由佳 室井容子	呼吸器系・循環器系のフィジカルアセスメント 目的と基礎知識の理解 フィジカルイグザミネーションの実際とアセスメント	講義/演習 予習：事前課題（ノートシリーズ該当箇所）、肺音聴取の部位と音の特徴、心音聴取部位と音の特徴については視聴覚教材も活用し予習しておくこと。 復習：胸部骨格の位置関係、肺音の種類と特徴・聴取部位、心音の特徴・異常音の意味を整理しておくこと。肺音聴取の方法、心音聴取の部位について、自己学習を行い基本技術の習得を目指すこと。

10・11	腹部および消化器系のフィジカルアセスメント 菊地由美　門脇淳子 樋口美樹　北條由佳 室井容子	腹部および消化器系のフィジカルアセスメント 目的と基礎知識の理解 フィジカルイグザミネーションの実際とアセスメント	講義/演習 予習：事前課題（ノートシリーズ該当箇所）、腸蠕動音聴取部位と音の特徴については視聴覚教材も活用し予習しておくこと。打診をよく練習しておくこと。 復習：腹部および消化器のフィジカルイグザミネーションに必要な知識を整理しておくこと、腹部の聴診方法について、自己学習を行い基本技術の習得を目指すこと。
12・13	感覚・神経・運動系のフィジカルアセスメント 菊地由美　門脇淳子 樋口美樹　北條由佳 室井容子	感覚・神経・運動系のフィジカルアセスメント 目的と基礎知識の理解 フィジカルイグザミネーションの実際とアセスメント	講義/演習 予習：事前課題（ノートシリーズ該当箇所）、感覚・神経・運動系の診察手技については視聴覚教材も活用し予習しておくこと 復習：感覚・神経・運動系のイグザミネーションに必要な知識を整理しておくこと。感覚・神経系のイグザミネーションの方法とその意味について整理し、基本技術の理解を目指すこと。ROM と日常生活の関係について整理し、ROM 制限のある患者の日常生活援助のアセスメントができるようにしておくこと。
14 (a/b/c/d)	フィジカルイグザミネーションとアセスメントの統合 菊地由美　門脇淳子 樋口美樹　北條由佳 室井容子　天野雅美	技術チェック：呼吸器、循環器、腹部および消化器のフィジカルイグザミネーションの統合	講義/演習（実習） 予習：呼吸器・循環器・腹部および消化器系のフィジカルイグザミネーションの実際とアセスメントの基準を学修しておくこと。 復習：達成できなかった課題については、技術習得をめざし自己練習しておくこと。
15	心理・社会的側面のアセスメント 菊地由美　門脇淳子 樋口美樹　北條由佳 室井容子	心理的側面のアセスメント 社会的側面のアセスメント	講義 予習：事前課題（ノートシリーズ該当箇所） 復習：ストレス、自己知覚、家族に関するアセスメントはどのような項目について行うか整理しておくこと 。

授業開始前学習	・人体の機能と構造Ⅰ、Ⅱで学習した内容を理解して臨んでください。 ・基礎看護方法Ⅰで学習した看護に共通する基本技術を復習して臨んでください。
授業内課題のフィードバックの方法	各演習の事前・事後課題のフィードバックについては単元毎に行い、課題の返却については随時行う。
テキスト・教材	看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント　メディックメディア 駒沢女子大学ノートシリーズ「基礎看護方法Ⅱ」
参考書	授業内で随時紹介する
評価の基準と方法	筆記試験（70%）、技術チェック（15%）、課題・記録等の提出物（15%）より総合的に評価する

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○	◎	△

関連科目	看護学概論、基礎看護方法Ⅰ、看護過程の基礎
その他	＜授業全般＞ ・基礎の共通ルールを遵守してください。 ＜演習時＞ ・指定された服装で、身だしなみを整えて参加してください。 ・クリップボード、聴診器（所有の方）を持参してください。 ・演習の欠席は、技術習得に影響を及ぼすため、健康管理に気をつけて臨んでください。 ＜看護技術の自己学習＞

	・事前・事後課題や技術習得に向けて、授業時間外の技術練習が必須となります。
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間+予習・復習時間 60 時間
実務経験を活かした 教育内容	本科目は、複数の担当者が協同で指導する科目であり、全ての教員が看護師の実務経験を有している。本科目では、その経験を活かし、観察技術の基本が身につけられるよう授業を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-212 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-22 （J）	授業コード	HB1710
科目名称	基礎看護方法Ⅲ(診療の援助技術)			単位数	2.00 単位
英文名称	Basic Nursing Skills Ⅲ(Skill to Support Medical Treatment)			授業区分	演習
科目責任者	門脇　淳子			必修・選択	必修
担当教員	天野・門脇・菊地・樋口・北條・室井			開講時期	2 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	検査・処置・治療を受ける対象に対して対象のニーズを理解し、治療・処置・検査が安全・安楽・正確に実施できるようにするために、各々の診療の援助技術についての概念、技術を適用する際の基礎的・基本的な知識、基礎的・基本的な知識を活用しての援助方法について学ぶ。具体的には、各々の診療の援助技術を適用する際の原理・原則、安全性・安楽性の理解ができ、この理解を受けて、対象の状態・状況にあった的確な援助ができるようにする。				
到達目標	1．診療の援助技術を実施するために、根拠となる知識について記述できる。 2．診療の援助技術の実施について、安全・安楽・自立の観点から説明できる。 3．診療の援助技術を安全に行うための事故防止策について述べることができる。 4．検査・処置・治療が対象者の日常生活にどのような影響を及ぼしているのか述べることができる。 5．対象にあった診療の援助技術を計画・実施し、評価できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1～3	授業の進め方 感染防止の技術 ―無菌操作― 門脇淳子　菊地由美 樋口美樹　北條由佳 室井容子	科目ガイダンス 診療の援助に必要な感染防止技術 1．洗浄・消毒・滅菌 2．無菌操作 ①無菌操作の原理・原則 ②滅菌物の取扱い ・滅菌布の開き方 ・滅菌手袋の装着 ・その他の滅菌物 3．感染性廃棄物の取扱い	講義・演習（実習） 予習：清潔・汚染の区別および無菌操作の基本、原則（看護がみえる① p.25～33、p.37～41）を読んできてください。 復習：滅菌布の開き方、滅菌手袋の装着ができるようにしておいてください。
4～6	症状・生体機能管理技術 ―静脈血採血― 門脇淳子　菊地由美 樋口美樹　北條由佳 室井容子	1．検査の必要性・種類 2．検査における看護の役割 3．生体検査 ①生体検査の必要性・種類 ②生体検査を受ける患者の援助 4．検体検査 ①血液検査 ②尿検査 5．採血の種類と援助の方法 6．静脈血採血 ①静脈血採血の目的と方法 ②静脈血採血に使用する物品の特徴 ③静脈血採血時の留意事項 ④採血合併症とその予防 ⑤静脈血採血の実際（シミュレーター）	講義・演習（実習） 予習：看護が見える②p.2～19 の静脈血採血の手順、前腕（肘窩）の神経走行・血管走行の図示を講義ノートにまとめてきてください。 シミュレーターでの静脈血採血ができるよう視聴覚教材を視聴し、一連の援助ができるよう自己学習してきてください。 復習：検査における看護の役割、生体検査・検体検査を受ける患者の援助について整理しておいてください。
7～8	与薬の技術 1 －薬物療法－ 門脇淳子　菊地由美 樋口美樹　北條由佳 室井容子	1．薬物療法における看護師の役割(法的根拠他) 2．インシデント・アクシデントの実際と 6 R 3．処方箋とその見方・看護師の責任 4．配合禁忌の薬剤 5．薬剤の保管上の留意 6．与薬形態による吸収と排泄のプロセス、与薬の方法と留意点 ①経口与薬・口腔内与薬 ②外用薬　：吸入・点眼・点鼻・直腸内与薬・経皮的与薬 ③注射（筋肉・皮下・皮内・静脈）	講義 予習：看護が見える① p.244～283 を読み、講義ノート p.30～37、80～84 をまとめてください。 復習：ビジュランクラウドで、経口与薬・口腔内与薬、外用薬（吸入・点眼・点鼻・直腸内与薬・経皮的与薬）について援助の実際を視聴してください。
9	与薬の技術 2 －薬剤の準備－ 門脇淳子　菊地由美 樋口美樹　北條由佳 室井容子	1．注射の基本技術 ①注射指示の確認（6R） ②アンプルの取り扱い ③アンプルからの薬液の吸い上げ ④指示された薬剤の準備 2．筋肉内注射に必要な物品の準備	演習（実習） 予習：看護が見える② p.30～39 を読み、アンプルの取り扱いと薬剤の準備についてまとめてください。また、筋肉内注射に必要な物品の準備について、講義ノートにまとめてください。 復習：筋肉内注射の事前行動について、手順および根拠と留意点を講義ノートにまとめてください。

10～ 11	与薬の技術３ －筋肉内注射－ 門脇淳子　菊地由美 樋口美樹　北條由佳 室井容子	１．筋肉内注射技術の実際 ①注射指示の確認（6R） ②注射部位（中殿筋）の選定 ③注射技術の手順と根拠 ④感染性廃棄物の取り扱い ２．筋肉内注射を受ける患者への援助	演習（実習） 予習：筋肉内注射で起こる危険性の高い合併症について整理し、中殿筋・三角筋の神経および血管の走行を図示してください。 看護が見える② p.49～56 を読み、筋肉内注射の手順および根拠と留意点を講義ノートにまとめてください。その上で、筋肉内注射の部位選定方法、注射部位に適した筋肉・皮脂厚のアセスメント、筋肉内注射を受ける患者への援助についてまとめておいてください。 復習：皮下注射（上腕伸側部）で起こる危険性の高い合併症について整理し、皮下注射（上腕伸側部）の選定の方法、注射部位に適した
12～ 14	与薬の技術４ －点滴静脈内注射－ 門脇淳子　菊地由美 樋口美樹　北條由佳 室井容子	１．点滴静脈内注射の実際 ①点滴の準備 ②点滴静脈内注射の固定方法 ③滴下数の計算と確認 ④点滴静脈内注射実施前・中・後の観察 ２．点滴静脈内注射を受けている患者の日常生活援助（歩行、トイレ、更衣） ３．点滴静脈内注射実施中の観察	講義・演習（実習） 予習：看護師による点滴静脈内注射に関する事故事例を調べる課題を出します。 看護が見える② p.57~91 を読み、講義ノート穴埋め、点滴静脈内注射の手順と留意点をまとめてきてください。点滴静脈内注射の滴下数計算、滴下調整、生活援助技術で学習した技術（寝衣交換、車いす移乗・移送、歩行介助）を復習してきてください。 復習：点滴静脈内注射の準備、実施前・中・後の留意事項、点滴静脈内注射を受けている患者に必要な日常生活援助について整理しておいてください。
15～ 16	侵襲を伴う排泄援助技術１ －一時的導尿― 門脇淳子　菊地由美 樋口美樹　北條由佳 室井容子	１．無菌的導尿 ①導尿の目的と種類 ②無菌的導尿の方法と留意点 ③無菌的導尿の実際 ④導尿を受ける患者への援助 ２．一時的導尿の実際	講義・演習（実習） 予習：看護が見える② p.266~296 を読み、手順をまとめてきてください。 基礎看護方法Ⅰ（生活援助の技術）および本科目で学習した内容（特に排泄のメカニズム、寝衣交換、陰部・殿部の清潔援助、患者の羞恥心への配慮、無菌物の取り扱い、汚染物の取り扱い）について知識・技術を学習しておいてください。 復習：一時的導尿の手順および根拠について整理しておいてください。
17	侵襲を伴う排泄援助技術２ ―浣腸― 門脇淳子　菊地由美 樋口美樹　北條由佳 室井容子	１．浣腸 ①　浣腸の目的と種類 ②　浣腸の方法と留意点 ③　浣腸の実際 ④　浣腸を受ける患者への援助 ２．グリセリン浣腸による排泄援助の実際	講義・演習（実習） 予習：看護が見える② p.297~311 を読み、手順をまとめてきてください。 基礎看護方法Ⅰで学習した便器の当て方を復習しておいてください。 復習：グリセリン浣腸の手順および根拠について整理しておいてください。
18～ 19	呼吸・循環を整える技術 －酸素療法－ 門脇淳子　菊地由美 樋口美樹　北條由佳 室井容子	１．酸素吸入療法 ①効率的な呼吸法と姿勢 ②酸素の取り扱いと留意事項 ２．酸素吸入の実際 ①酸素ボンベの取扱い ②酸素吸入器の種類	講義・演習（実習） 予習：看護が見える② p.202~229 を読み、酸素ボンベの取扱いとその留意点をまとめておいてください。 復習：酸素療法を受ける患者への援助についてまとめておいてください。
20～ 21	苦痛の緩和・体温調整の技術 ―罨法― 門脇淳子　菊地由美 樋口美樹　北條由佳 室井容子	１．罨法と生体反応 ①温熱刺激と生体反応 ②冷刺激と生体反応 ２．罨法の方法 ①目的と留意事項 ②温罨法の実際 ③冷罨法の実際 ④快適で効率的な罨法の方法を考える ３.安楽をもたらす看護援助	講義・演習（実習） 予習：看護がみえる①p.284～305 を読み、手順と留意点をまとめてきてください。 復習：苦痛の緩和、安楽をもたらす援助について自分の考えをまとめ、レポー トを提出してください。
22	診療の援助技術の統合１ ―事例展開― 門脇淳子　菊地由美 樋口美樹　北條由佳 室井容子　天野雅美	診療の援助技術で学習した技術を事例に適用した応用技術の実際（技術チェック）	演習（実習） 予習：援助計画に基づいた援助が実施できるように、技術を練習してください。 復習：実施した援助について、SOAP で看護記録を記載してください。
23	診療の援助技術の統合２ ―まとめ― 門脇淳子　菊地由美 樋口美樹　北條由佳 室井容子	１．診療の援助技術の統合についてのフィードバック ２．診療の援助技術のまとめ	講義 予習：実施した援助技術について自己評価と振り返りをしてください。 復習：自己評価および受けたフィードバックから、自己の援助技術についての課題を明確にしてください。

授業開始前学習	・人体の構造と機能を復習して臨んでください。特に、神経や血管の走行、代謝のしくみ、排泄のメカニズムについての知識を復習しておきましょう。 ・基礎看護方法Ⅰ（生活行動の援助技術）等で学んだ内容、基本的な技術を確認しておいてください。
授業内課題のフィードバックの方法	課題レポートの記述内容に対する講評、あるいは個別にコメントを入れて返却するなどの方法で行う。
テキスト・教材	・看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第１版 ・看護がみえる vol.2 臨床看護技術 第１版
参考書	・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ基礎看護学② 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ基礎看護学③ 医学書院 ・授業の中で適宜紹介する
評価の基準と方法	筆記試験（70%）、技術試験（15%）課題レポート・記録等の提出物（15%）により総合的に評価する。

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○	◎	△
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 46 時間+予習・復習時間 44 時間							
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が協同で指導する科目であり、担当教員のすべてが看護師の実務経験を有している。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-212 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-22 （J）	授業コード	HB0575
科目名称	看護過程の基礎			単位数	2.00 単位
英文名称	Foundational of the nursing proces			授業区分	演習
科目責任者	天野　雅美			必修・選択	必修
担当教員	天野・門脇・菊地・樋口・北條・室井			開講時期	2 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	看護実践を行うための思考を導くプロセスを理解するために、看護過程を活用する意義や看護過程の基本的な考え方について学ぶ。具体的には、看護を実践するさいは、どのようなことをどのような順序でどのように考えていくのかという看護を実践するさいの手続きがわかるようにする。また、事例演習を通して、看護実践における看護過程の活用法についての理解を深めるとともに、看護過程を活用する意義を学ぶ。				
到達目標	１．看護実践における看護過程の必要性を説明できる。 ２．看護過程の構造およびアセスメント、問題の明確化（看護診断）、計画立案、実施、評価のステップを説明できる。 ３．紙上事例を通して、V,ヘンダーソンの考えに基づく看護過程を展開できる。 ４．事例の個別性に合わせた看護計画に沿って、安全・安楽・自立の視点から援助を実施できる。 ５．看護過程の学修を通して、自己の課題を述べることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
第１回 第２回	（第１回）看護過程の意義 （第２回）アセスメント 天野　雅美、門脇　淳子、菊地　由美、樋口　美樹、北條　由佳、室井　容子	（第１回） １．看護過程の意義 ２．看護過程と問題解決法 ３．クリティカルシンキング ４．看護理論の関係 ５．ヘンダーソンの看護論 ６．事例「脳梗塞」の共有 （第２回） １．情報の意味・種類・収集方法 ２．情報の整理、分析・解釈の意味と方法 ３．基本的欲求に影響をおよぼす常在条件に関する情報の整理	（第１回）講義・グループワーク 予習：テキストの看護過程の構成要素を熟読し、要点をまとめる。 復習：授業内容及び、グループワークを振り返り、不足内容を調べる。 （第２回）講義・グループワーク 予習：事前に提示した事例を熟読し、解剖生理、疾患の特徴や症状の機序、薬の作用・副反応、発達課題、看護援助を具体的に調べる。 復習：授業内容及び、不足内容を調べる。
第３回 第４回	（第３回）アセスメント （第４回）アセスメント 天野　雅美、門脇　淳子、菊地　由美、樋口　美樹、北條　由佳、室井　容子	（第３回） １．　基本的欲求項目１の情報整理、分析・解釈 ２．　基本的欲求の充足・未充足の判断と根拠、援助の方向性 （第４回） １．基本的欲求項目 2.3.4 の情報整理、分析・解釈、充足状況の判断と根拠、援助の方向性	（第３回）講義・グループワーク 予習：呼吸に関する情報を整理する。 復習：グループワークを振り返り、不足内容を調べる。 （第４回）講義・グループワーク 予習：飲食、排泄、姿勢に関する情報を整理し、分析・解釈、充足状況の判断、援助の方向性を整理する。 復習：グループワークを振り返り、不足内容を調べる。
第５回 第６回	（第５回）アセスメント （第６回）アセスメント 天野　雅美、門脇　淳子、菊地　由美、樋口　美樹、北條　由佳、室井　容子	（第５回） １．基本的欲求項目 5.6.7.8 の情報整理、分析・解釈、充足状況の判断と根拠、援助の方向性 （第６回） １．基本的欲求項目 9.10.11.12.13.14 の情報整理、分析・解釈、充足状況の判断と根拠、援助の方向性	（第５回）講義・グループワーク 予習：睡眠・休息、衣類の選択、体温の維持、清潔に関する情報を整理し、分析・解釈、充足状況の判断、援助の方向性を整理する。 復習：グループワークを振り返り、不足内容を調べる。 （第６回）講義・グループワーク 予習：危険、コミュニケーション、信仰、仕事、レクリエーション、学習に関する情報を整理し、分析・解釈、充足状況の判断、援助の方向性を整理する。 復習：グループワークを振り返り、不足内容を調べる。
第７回 第８回	（第７回）関連図 （第８回）関連図 天野　雅美、門脇　淳子、菊地　由美、樋口　美樹、北條　由佳、室井　容子	（第７回） １．関連図を記載する意味 ２．記載のルール （第８回） １．関連図の記載 ２．病態、アセスメントの関連と全体像	（第７回）講義・グループワーク 予習：基本的欲求の未充足の原因・誘因を関連させて、看護上の問題までを記載する。 復習：グループワークを振り返り、不足内容を調べる。 （第８回）講義・グループワーク 予習：関連図を記載する。 復習：グループワークを振り返り、不足内容を調べる。
第９回	（第９回）看護問題	（第９回）	（第９回）講義・グループワーク

第 10 回	の明確化 （第 10 回）看護計画 天野　雅美、門脇　淳子、菊地　由美、樋口　美樹、北條　由佳、室井　容子	1．関連図から基本的欲求の未充足を導く 2．看護問題の抽出 3．看護問題の優先順位と根拠 （第 10 回） 1．看護目標の設定 2．看護計画の立案 3．評価	予習：基本的欲求の未充足の原因・誘因を関連させて、看護上の問題までを記載する。 復習：グループワークを振り返り、不足内容を調べる。 （第 10 回）講義・グループワーク 予習：対象の最も優先度の高い看護問題について、根拠を記載し、看護計画を立案する。 復習：グループワークを振り返り、不足内容を調べる
第 11 回	看護計画 天野　雅美、門脇　淳子、菊地　由美、樋口　美樹、北條　由佳、室井　容子	1．　優先順位の高い看護計画の立案 2．OP・TP・EP	講義・グループワーク 予習：対象の最も優先度の高い看護問題について、根拠を記載し、看護計画を立案する。 復習：グループワークを振り返り、不足内容を調べる。
第 12・13 回	（第 12 回・13 回）援助の実施 天野　雅美、門脇　淳子、菊地　由美、樋口　美樹、北條　由佳、室井　容子	（第 12・13 回） 1．援助の準備・実施・観察・記録・評価	（第 12・13 回）演習 予習：立案した看護計画に沿って援助を実施し、看護目標の到達度を評価する。 復習：実施した援助の記録を見直す。
第 14 回 第 15 回	（第 14 回）評価・計画修正 （第 15 回）要約 天野　雅美、門脇　淳子、菊地　由美、樋口　美樹、北條　由佳、室井　容子	（第 14 回） 1．評価の意味・時期 2．評価による看護計画の修正 （第 15 回） 1．看護計画の要約 2．課題の展開事例「大腿骨頚部骨折」の理解	（第 14 回）講義・グループワーク 予習：立案した看護計画に沿って援助を実施し、看護目標の到達度を評価する。 復習：実施した援助の評価・計画修正記録を見直す。 （第 15 回）講義・グループワーク 予習：アセスメントから評価までを振り返り、要約をまとめる。 復習：課題の展開事例を熟読し、アセスメントする。
第 16・17 回	（第 16・17 回）事例の展開：アセスメント 天野　雅美、門脇　淳子、菊地　由美、樋口　美樹、北條　由佳、室井　容子	（第 16・17 回） 1．事例の情報整理、分析・解釈、充足状況の判断と根拠、援助の方向性	（第 16 回）演習 予習：課題の事例の情報整理、分析・解釈、充足状況の判断と根拠、援助の方向性を用紙へ記載する。 復習：グループワークを振り返り、不足内容を調べる。 （第 17 回）演習 予習：事例の情報整理、分析・解釈、充足状況の判断と根拠、援助の方向性を用紙へ記載する。 復習：グループワークを振り返り、不足内容を調べる。
第 18 回	事例の展開：関連図 天野　雅美、門脇　淳子、菊地　由美、樋口　美樹、北條　由佳、室井　容子	1．事例に沿った関連図の記載 2．病態、アセスメントの関連と全体像	演習 予習：病態を調べ、アセスメントの関連と全体像を記載する。 復習：グループワークを振り返り、不足内容を調べる。
第 19 回	事例の展開：看護問題の明確化 天野　雅美、門脇　淳子、菊地　由美、樋口　美樹、北條　由佳、室井　容子	1．事例の関連図から基本的欲求の未充足を導く 2．関連図より看護問題の抽出 3．看護問題の優先順位と根拠	演習 予習：事例の関連図から基本的欲求の未充足を導き、関連図へ記載するとともに、看護問題を抽出する。 復習：グループワークを振り返り、不足内容を調べる。
第 20 回	事例の展開：看護計画 天野　雅美、門脇　淳子、菊地　由美、樋口　美樹、北條　由佳、室井　容子	1．事例に合わせた看護目標の設定 2．優先順位の高い看護計画 OP・TP・EP の立案	演習 予習：事例に合わせた看護目標を設定し、優先順位の高い看護計画を立案する。 復習：グループワークを振り返り、不足内容を調べる。
第 21 回	事例の展開：援助の実施 天野　雅美、門脇　淳子、菊地　由美、樋口　美樹、北條　由佳、室井　容子	1．事例の看護計画に合わせた援助の準備・実施・観察・記録・評価	演習 予習：事例の看護計画に基づいて援助を実施できるように準備する。 復習：グループワークを振り返り、不足内容を調べる。
第 22 回	事例の展開：評価・計画の修正 天野　雅美、門脇　淳子、菊地　由美、樋口　美樹、北條　由佳、室井　容子	1．　事例の看護計画に合わせた援助の準備・実施・観察・記録・評価	演習 予習：事例の看護計画に基づいて援助を実施できるように準備する。 復習：グループワークを振り返り、不足内容を調べる。
第 23 回	まとめ 天野　雅美、門脇　淳子、菊地　由美、樋口　美樹、北條　由佳、室井　容子	1．患者の全体像のとらえ方	講義・グループワーク 予習：看護過程を展開した事例を振り返り全体像をまとめる。 復習：グループワークを振り返り、不足内容を調べる。

授業開始前学習	各演習前には、事例に関連する「人体の構造と機能」「栄養学」「薬理学」「疾病と治療」「人間関係論」「看護学概論」「看護理論」「基礎看護方法Ⅰ（生活行動の援助技術）」「基礎看護方法Ⅱ（ヘルスアセスメント）」「基礎看護方法Ⅲ（診療の援助技術）」を復習しておきましょう。							
授業内課題のフィードバックの方法	当該授業時、あるいは次回授業時に行います。 平日の昼休み時間をオフィスアワーとしますので、利用してください。事前にメール連絡を頂けると、確実に時間を確保できます。							
テキスト・教材	「看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践」／秋葉公子著／ヌーヴェルヒロカワ							
参考書	「看護の基本となるもの」／ヴァージニア・ヘンダーソン著，湯槇ます，小玉香津子訳／日本看護協会出版 「看護がみえる vol.4 看護過程の展開」／医療情報科学研究所編／メディックメディア							
評価の基準と方法	・個人課題：25%（ 提示された課題に取り組んでいない場合、遅れた場合は、減点対象となります。） ・グループ課題：25%（提示された課題に取り組							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	◎		△
関連科目	看護学概論、看護理論、基礎看護方法Ⅰ（生活行動の援助技術）、基礎看護方法Ⅱ（ヘルスアセスメント）、基礎看護方法Ⅲ（診療の援助技術）							
その他	基礎看護学実習Ⅱの前提条件となっています。 演習は、連続し関連した内容なので、個人学修した内容をグループメンバーで共通理解し、活発な意見交換を行い、学修を発展させていきましょう。また、計画した援助を実施し、学生相互で評価することにより、援助の多様性を理解する機会にするとともに、看護の質向上に繋げられるように取り組みましょう。							
予習・復習の所要時間	講義時間 46 時間＋予習・復習時間 44 時間							
実務経験を活かした教育内容	看護師・保健師の資格を有し、内科病棟・外科病棟・外来を中心とした看護師の臨床経験があります。看護基礎教育では、基礎看護学領域を専任とした大学教育経験がありますので、根拠に基づいた看護過程を展開できるよう授業を行います。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-113 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-21（J）	授業コード	HB1720
科目名称	地域ふれあい実習			単位数	2.00 単位
英文名称	First Practicum in Community			授業区分	実習
科目責任者	佐川　美枝子			必修・選択	必修
担当教員	看護専任			開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	地域で暮らす人々とその生活の様子を、実際に人々とふれあう体験を通して学ぶ。具体的には、大学近郊のさまざまな地域住民サービスの場に出かけ、参加し、人々の生活の様子を見聞することで、参加している人たちにとってその活動が持つ意味を考える。また、地域の人々同士のふれあいの過程を理解し、日々地域で暮らす人々から看護職に求められる役割について考える。				
到達目標	1.地域で暮らす人々とその生活の様子を述べることができる。 2.見学・参加した活動がもつ意味を参加者の立場で述べることができる。 3.地域で暮らす人々の生活についての学びをディスカッションし発表できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1 週目	看護学部専任教員	1日目（月）実習オリエンテーション（学内） 2日目（火）～4日目（木）（臨地） ・地域の人々が集う場に出向き、様々な人との交流を通して、暮らしや生活の様子を知る。 5日目（金）グループ毎に学びを共有（学内）	臨地実習 （臨地実習要項 2025 年版参照）
2 週目	看護学部専任教員	6日目（月）～8日目（水）（臨地） ・地域の人々が集う場に出向き、様々な人との交流を通して、暮らしや生活の様子を知る。 9日目（木）発表準備（学内） ・複数施設での見学・参加経験から、人々の生活についての学びを共有し、実習報告会の準備を行う。 10日目（金）実習報告会（学内） ・1 グループ 20 分程度で発表と質疑を行う。	臨地実習 （臨地実習要項 2025 年版参照）

授業開始前学習	臨地実習要項 2025 年版参照
授業内課題のフィードバックの方法	臨地実習要項 2025 年版参照
テキスト・教材	特になし
参考書	
評価の基準と方法	実習評価表に基づき、実習目標の到達度、実習態度、記録を総合的に評価する。

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○	△	◎			

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	
実務経験を活かした教育内容	実務経験のある教員が、その経験を活かした授業科目を担当している。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-113 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-31 （J）	授業コード	HB1310
科目名称	基礎看護学実習Ⅰ			単位数	1.00 単位
英文名称	Foundations of Nursing Care Practice：Practicum Ⅰ			授業区分	実習
科目責任者	菊地　由美			必修・選択	必修
担当教員	天野・門脇・菊地・樋口・北條・室井			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	初めての医療現場を体験することから、病院の概要や特徴、病院における看護の役割を学ぶ。対象者とのコミュニケーションや観察から、対象者の様子や療養生活の実際を知り、日常生活行動の援助を看護師と共に一部体験する。看護学生として倫理的態度を理解するとともに自己の課題を洗い出す。				
到達目標	1.病院の組織と機能、看護部の役割を概観し、他職種及び看護の役割を理解することができる 2.対象者の思いや療養環境に関心を向け、対象を理解することができる 3.看護におけるコミュニケーションの意味と方法を理解することができる 4.対象に行われている看護援助とその根拠を理解することができる 5.看護学生として礼節をもった責任ある行動をとることができる 6.実習を通して自己についての理解を深め、今後の成長の方向性を表現することができる				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1 週目	菊地由美 天野雅美 門脇淳子 樋口美樹 北條由佳 室井容子	実習前ガイダンス 1 日目（臨地実習） ・病院・病棟オリエンテーション ・受け持ち患者とコミュニケーション 2 日目（臨地実習） ・看護師のシャドウイング ・受け持ち患者とコミュニケーション ・療養環境の観察 3 日目（臨地実習） ・日常生活援助の見学/一部参加 4 日目（臨地実習） ・日常生活援助の見学/一部参加 ・評価面接、最終カンファレンス 5 日目（学内） ・学びのまとめと共有（成果発表） ・実習記録提出 ・課題レポート作成	実習 事前の課題等については実習要項参照のこと。

授業開始前学習	既習の科目内容、技術の内容を確実に復習して臨むこと。			
授業内課題のフィードバックの方法	実習記録は随時コメントして返却する。 在学期間中は、提出した実習記録の閲覧ができる。			
テキスト・教材	基礎看護学に使用したすべてのテキスト			
参考書	実習中に適宜紹介する			
評価の基準と方法	評価表に基づき評価する：実習点（記録物、学内活動含む）80%、レポート課題 20%			
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○	◎	△	△
関連科目	看護学概論、基礎看護方法Ⅰ他							
その他	必要な予防接種および手続きを完了しておくこと、実習開始前・終了後に健康・行動観察期間が必要となる。							
予習・復習の所要時間								
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が協同で指導する科目であり、担当教員の全員が看護師の実務経験を有している。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-213 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-32 （J）	授業コード	HB1320
科目名称	基礎看護学実習Ⅱ			単位数	2.00 単位
英文名称	Foundations of Nursing Care Practice：Practicum Ⅱ			授業区分	実習
科目責任者	門脇 淳子			必修・選択	必修
担当教員	天野・門脇・菊地・樋口・北條・室井			開講時期	2 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	看護の対象が健康上の問題を解決するための看護の方法について体験を通して学び、患者との援助関係を築く能力、問題解決思考に基づいた看護過程を展開できる能力、日常生活援助を実施・評価する基礎的能力を養う。受け持ち患者と援助を通し、よりよい関係性を構築できるコミュニケーション能力を学習する。また、健康障害が患者の行動や日常生活にどのような影響を及ぼしているかをアセスメントし、必要な援助を考え、計画に基づいた具体的な援助を実施・評価するための方法を学習する。				
到達目標	１．受け持ち患者とより良い関係を築くことができる ２．健康障害が受け持ち患者の行動や日常生活にどのような影響を及ぼしているのかアセスメントし、必要な看護を計画・実施・評価・修正することができる ・対象の全体像をとらえることができる ・対象の看護上の問題を明らかにすることができる ・対象に看護上の問題を解決するための計画を立案することができる ・立案した計画を実施することができる ・実施した援助を評価し、評価結果を対象に合った援助のために活用することができる 3．受け持ち患者が必要としている看				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1 週目	門脇淳子 天野雅美 菊地由美 樋口美樹 北條由佳 室井容子	1 日目(月) ・病棟オリエンテーション、受け持ち患者の決定、受け持ち患者の状態をおおよそ把握する。 2 日目（火）～3 日目（水） ・1 日目に把握した受け持ち患者の状態を受けて、重点的に情報収集が必要になる項目を明らかにし、その項目についてのアセスメントを行う。 ・3 日目には、学内において受け持ち患者に必要な看護技術を練習し、4 日目以降に実施できるようにする。 4 日目（木）～	事前課題： 看護過程の概念（基本的な看護過程）、看護モデルに基づく看護過程の展開について説明できるようにしておく。 復習（毎日）： 実習目的・目標を念頭において実習での学びを振り返り、以下の学習を行う。 ・看護援助における自己の学習課題を明らかにする。 （明らかになった学習課題に対しては、実習中に解決できるように努める） ・現段階における対象の健康上の問題を解決するための看護の方法を明らかにする。 ・対象の健康上の問題を解決するために、看護を
2 週目	門脇淳子 天野雅美 菊地由美 樋口美樹 北條由佳 室井容子	～6 日目（月） ・アセスメントによって明らかになった看護上の問題に対して、看護目標、介入（具体策）を立案する。 6 日目（月）～9 日目（木） ・看護計画に基づき行動計画を立案し、受け持ち患者に対する援助を実施し、評価する。 ・受け持ち患者に実施した援助を評価し、必要時、立案した看護計画を追加、修正する。 ・最終カンファレンスにおいては、実習目標の達成度と今後の課題、「対象の健康上の問題を解決するための看護」において大切になることは何かについて発表する。 10 日目（金） ・実習での患者との関	同上

授業開始前学習	・既習の看護学概論、看護理論、基礎看護方法Ⅰ（生活行動の援助技術）、基礎看護方法Ⅱ（ヘルスアセスメント）、基礎看護方法Ⅲ（診療の援助技術）、看護過程の基礎、専門基礎科目の復習をして臨むこと。 ・生活行動の援助技術・ヘルスアセスメントに関しては、看護技術の原理・原則、根拠に基づいた基本的な技術を何度も練習しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	実習中の日々の記録、看護過程の展開、および課題レポートの記述内容について個別にコメントを入れて返却する。

テキスト・教材	基礎看護学で使用したすべてのテキスト							
参考書	実習中に適宜紹介する							
評価の基準と方法	実習評価表に基づき評価する							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○	◎	◎	○
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間								
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が協同で指導する科目であり、担当教員のすべてが看護師の実務経験を有している							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-111 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-11 （J）	授業コード	HB0935
科目名称	地域･在宅看護学概論			単位数	2.00 単位
英文名称	Introduction to Community and Home care Nursing			授業区分	講義
科目責任者	佐川　美枝子			必修･選択	必修
担当教員	沖田･佐川･上野			開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを支援するために、生活の基盤である地域を理解し、生活を支えるための保健、医療、福祉制度と活用方法について学ぶ。地域で生活する人々を支えるための看護の基礎的知識について学びを深める。				
到達目標	1.地域で生活する人々の暮らしと多様性を理解し、地域の環境が暮らしに及ぼす影響を説明できる。 2.暮らしと健康をめぐる社会の動向をとらえ、地域で暮らす対象を支えるしくみや保健、医療、福祉制度の概要を説明できる。 3.地域･在宅看護の対象･意義･役割について説明できる。				
アクティブ･ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目･担当者	学修内容	授業方法（アクティブ･ラーニング）･予習･復習･レポートなどの課題
1	講義ガイダンス 地域･在宅看護とは 4/8 佐川　美枝子	講義ガイダンス 地域･在宅看護とは	講義･演習（課題研究型･グループワーク･ディスカッション･発表によるアクティブ･ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む（ｐ2~3） 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。
2	人々の暮らしと健康（1） 4/15 上野　まり	1. 自然界におけるヒトという存在 2. 暮らしと病	講義･演習（課題研究型･グループワーク･ディスカッション･発表によるアクティブ･ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む（ｐ8~18） 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する
3	人々の暮らしと健康（2） 4/22 上野　まり	1. 暮らしの知恵と専門職の誕生 2. 在宅医療･在宅看護･地域保健活動の発展	講義･演習（課題研究型･グループワーク･ディスカッション･発表によるアクティブ･ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む（ｐ19~27） 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する
4	人々の暮らしと健康（3） 4/29 佐川　美枝子	1. 健康の定義 2. 集団や社会が健康に与える影響	講義･演習（課題研究型･グループワーク･ディスカッション･発表によるアクティブ･ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む（ｐ36~62） 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する
5	地域･在宅看護に関わる制度（1） 5/13 上野　まり	1. 日本の保健･医療･福祉制度の変遷 2. 地域･在宅看護が求められる現状	講義･演習（課題研究型･グループワーク･ディスカッション･発表によるアクティブ･ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む（ｐ64~80） 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する
6	地域･在宅看護に関わる制度（2） 5/20 佐川　美枝子	高齢者、 介護保険制度	講義･演習（課題研究型･グループワーク･ディスカッション･発表によるアクティブ･ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む（ｐ99~113） 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する
7	地域･在宅看護に関わる制度（3） 5/27 沖田　亜希恵	障がい者、こども、 障がい者総合支援法	講義･演習（課題研究型･グループワーク･ディスカッション･発表によるアクティブ･ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む（ｐ114~124） 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する
8	地域包括ケアシステム 6/3 佐川　美枝子	1. 地域包括ケアシステム 2. 地域包括支援センター	講義･演習（課題研究型･グループワーク･ディスカッション･発表によるアクティブ･ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む（ｐ132~137） 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する
9	訪問看護（1） 6/10 上野　まり	訪問看護の歴史、しくみ	講義･演習（課題研究型･グループワーク･ディスカッション･発表によるアクティブ･ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む（ｐ19~27、p162~174） 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する

10	訪問看護（2） 6/17 上野 まり	訪問看護ステーション	講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む（ｐ175~182） 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する
11	療養の場の移行支援 6/24 佐川 美枝子	継続看護 入退院支援	講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む（ｐ257-270） 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する
12	エンドオブライフケア 7/1 上野 まり	1．さまざまな死生観 2．意思決定支援、ACP 3．地域・在宅における看取り	講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む（ｐ271~284） 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する
13	地域・在宅看護の姿勢・考え方 7/8 佐川 美枝子	1．地域・在宅看護の場の特徴 2．対象者との関係構築	講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む（ｐ214~218） 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する
14	地域における看護職の役割 7/15 上野 まり	1．地域包括ケアシステム、共生社会における看護職の役割 2．多職種連携	講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む（ｐ150~158, 235~237 ） 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する
15	まとめ 7/22 佐川 美枝子	グループワーク、発表	講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング） 予習： テーマについて、自分の考えをまとめる 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。

授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法	各授業において、学生は授業での学びや課題を紙面又は Forms にて提出する。学生からの質問や補足解説が必要な内容は、翌回の授業時等にフィードバックを行う。							
テキスト・教材	石垣和子他編：看護学テキスト NiCE『地域・在宅看護論Ⅰ 総論 地域における暮らしと健康の理解を深める』（南江堂）							
参考書								
評価の基準と方法	授業の参加態度・課題学習（40%）、定期試験（筆記）（60%）							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 60 時間							
実務経験を活かした教育内容	実務経験のある教員が、その経験を活かした授業科目を担当している。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-211 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-12 （J）	授業コード	HB0955
科目名称	地域包括ｹｱ概論			単位数	1.00 単位
英文名称	Introduction to The Community-based Integrated Care			授業区分	講義
科目責任者	佐川　美枝子			必修・選択	必修
担当教員	沖田・佐川			開講時期	2 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	地域包括ケアについて、現状と展望について学び、地域特性に応じた支援活動の実際を知り、地域包括ケアシステムの一員として必要な基礎的能力を身につける。地域包括ケアの概念とその考え方について政策の変遷や時代背景から理解し、主に成人・高齢者を切り口に様々な職種の立場からの地域活動展開について知る。住民・多職種・看護職等の連携を促進し、地域包括ケア実現に向けた地域活動の現状・課題について学ぶ。				
到達目標	1.地域包括ケアシステムについて説明できる 2.社会保障制度（介護保険・医療保険）の概要と利用方法を説明することができる。 3.訪問看護の制度のしくみと看護の役割を説明することができる。 4.介護保険制度における地域・在宅看護マネジメントを説明することができる。 5.地域での多職種連携と、看護師の役割について説明することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	地域・在宅看護の場と人々の暮らし	さまざまな看護実践の場 1.住まいで提供される看護 2.医療機関で提供される看護	講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む。（地域・在宅看護の基盤 p 144~154） 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。
2	地域包括ケアシステムと地域・在宅看護の役割	支え合って生きる 1.地域包括ケアシステム 2.地域に暮らす対象者と看護	講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む。（地域・在宅看護の基盤 p 45~50、89~94） 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。
3	地域・在宅看護の制度と社会資源（1）	地域・在宅看護に関わる制度とその活用 1.社会背景の変化と社会保障制度の展開 2.訪問看護サービスと医療保険制度	講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む。（地域・在宅看護の基盤 p 168、175~177） 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。
4	地域・在宅看護の制度と社会資源（2）	地域・在宅看護に関わる制度とその活用 3.訪問看護サービスと介護保険制度	講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む。（地域・在宅看護の基盤 p 168~175） 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。
5	地域・在宅看護の制度と社会資源（3）	地域・在宅看護に関わる制度とその活用 4.訪問看護の制度	講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む。（地域・在宅看護の基盤 p 183~197） 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。
6	地域・在宅看護の制度と社会資源（4）	地域・在宅看護に関わる制度とその活用 5.障害者・難病の支援 6.医療的ケア児の支援 7.精神訪問看護	講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む。（地域・在宅看護の基盤 p 202~207） 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。
7	地域・在宅看護マネジメント	介護保険制度上の地域・在宅看護マネジメント 1.ケアマネジメント業務のながれ 2.介護支援専門員の役割 3.地域包括支援センター	講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む。（地域・在宅看護の実践 p 358~380） 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。

8	地域・在宅看護における連携・協働 （まとめ）	多職種連携・多職種協働 1.看護師の役割 2.訪問看護における連携・協働の実際	講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む。（地域・在宅看護の基実践 p 340~347） 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。

授業開始前学習	既習の地域・在宅看護学概論を再学習し系統別に整理しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	各授業において、学生は授業での学びや課題を紙面又は Forms にて提出する。学生からの質問や補足解説が必要な内容は、翌回の授業時等にフィードバックする。							
テキスト・教材	河原加代子他編：『系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤』（医学書院） 河原加代子他編：『系統看護学講座 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践』（医学書院）							
参考書	テキスト以外に必要な参考書は適宜紹介する。必要な資料はその都度配布する。							
評価の基準と方法	定期試験（筆記）50%・課題学習 50%							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容	実務経験のある教員が、その経験を活かした授業科目を担当している。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-312 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-23 （J）	授業コード	HB1730
科目名称	地域･在宅看護学方法論			単位数	2.00 単位
英文名称	Methods of Community and Home care Nursing			授業区分	演習
科目責任者	佐川　美枝子			必修･選択	必修
担当教員	沖田･佐川･上野			開講時期	3 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを支援するための基礎的知識を基に、地域における看護の実際について学ぶ。地域で療養生活を送る対象者とその家族の健康課題を多面的にアセスメントし、暮らしの場で行われる看護の実際や多職種連携の必要性及び社会資源の活用について学ぶ。地域における多様な場での看護の実際について学ぶ。				
到達目標	1. 地域の中で暮らす対象者と、その家族への看護が理解できる。 2. 日常生活を維持し、暮らしていくためのアセスメントに必要な視点を述べることができる。 3. 対象者とその家族の情報からアセスメントを行い、必要な看護上の課題を導きだすことができる。 4. アセスメントに基づいて、対象者とその家族に必要な看護計画を立案し、説明することができる。 5. 介護保険制度や社会資源の具体的な利用方法を理解できる。 6. ロールプレイを通して、立案した看護計画を評価できる。				
アクティブ･ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目･担当者	学修内容	授業方法（アクティブ･ラーニング）･予習･復習･レポートなどの課題
1 (4/8)	第 1 回 授業ガイダンス 佐川　美枝子、沖田亜希恵、上野　まり	授業ガイダンス事例紹介	講義グループワークアクティブラーニング 予習：既習の地域･在宅看護学概論、地域包括ケア論で使用した教科書や講義資料をノート等にまとめる 復習：教科書、講義資料の整理し、ノート等にまとめる
2 (4/15)	第 2 回 地域･在宅看護過程 1 佐川　美枝子、沖田亜希恵、上野　まり	事例の情報整理	講義グループワークアクティブラーニング 予習：授業内で提示した事例について、情報の整理とアセスメントを行い、指定用紙に記述し持参する 復習：授業内で、随時追記や修正を行う。講義内容を振り返り、疑問点を明らかにする。不明点については、次回までに調べ整理しノート等に記載する
3-4 (4/22)	第 3 回 地域･在宅看護過程 2 佐川　美枝子、沖田亜希恵、上野　まり	情報整理とアセスメント（1）	講義グループワークアクティブラーニング 予習：授業内で提示した事例について、アセスメントを行い、指定用紙に記述し持参する 復習：授業内で、随時追記や修正を行う。講義内容を振り返り、疑問点を明らかにする。不明点については、次回までに調べ整理しノート等に記載する
5-6 (4/29)	第 4 回 地域･在宅看護過程 3 佐川　美枝子、沖田亜希恵、上野　まり	情報整理とアセスメント（2） アセスメント、関連図	講義グループワークアクティブラーニング 予習：授業内で提示した事例について、教科書の該当ページを参考にアセスメントを行い、指定用紙に記述し持参する 復習：授業内で、随時追記や修正を行う。講義内容を振り返り、疑問点を明らかにする。不明点については、次回までに調べ整理しノート等に記載する
7-8 (5/13)	第 5 回 地域･在宅看護過程 4 佐川　美枝子、沖田亜希恵、上野　まり	情報整理とアセスメント（3） アセスメント、看護課題の発表	講義グループワークアクティブラーニング 予習：授業内で提示した事例について、教科書の該当ページを参考にアセスメントを行い、指定用紙に記述し持参する 復習：授業内で、随時追記や修正を行う。講義内容を振り返り、疑問点を明らかにする。不明点については、次回までに調べ整理しノート等に記載する
9-10 (5/20)	第 6 回 地域･在宅看護過程 5 佐川　美枝子、沖田亜希恵、上野　まり	看護計画の立案	講義グループワークアクティブラーニング 予習：授業内で提示した事例について、教科書の該当ページを参考に看護計画の立案を行い、指定用紙に記述し持参する 復習：授業内で、随時追記や修正を行う。講義、演習内容を振り返り、疑問点を明らかにする。不明点については、次回までに調べ整理しノート等に記載する
11-12 (5/27)	第 7 回 地域･在宅看護過程 6 佐川　美枝子、沖田亜希恵、上野　まり	看護計画グループ発表	講義グループワークアクティブラーニング 予習：グループで作成した看護計画について、発表の準備をする 復習：他のグループ発表内容を振り返り、計画の見直し、修正を行う

13 (6/3)	第８回 地域で暮らす人への看護 佐川　美枝子、沖田亜希恵、上野　まり	日常生活を支える看護技術（１） 演習のオリエンテーション	講義グループワークアクティブラーニング
14 (6/10)	第９回 地域で暮らす人への看護 佐川　美枝子、沖田亜希恵、上野　まり	日常生活を支える看護技術（２） 食事の援助	講義グループワークアクティブラーニング 予習：ビジュランクラウド　看護　「3 分で学ぶ実践！看護技術」　活動・休息の援助技術/食事の援助技術を視聴する。事例の対象者に必要な援助時の注意点をノートに整理し、援助を行う際のアセスメントポイント、及び看護ケア方法について調べ、ノートに記載する 復習：授講義、演習内容を振り返り、事前学習からの不足点を調べ、計画の修正をする。不明点については、次回までに調べ整理しノート等に記載する
15-16 (6/17)	第 10 回 地域で暮らす人への看護 佐川　美枝子、沖田亜希恵、上野　まり	日常生活を支える看護技術（3） 清潔、排泄ケア	講義グループワークアクティブラーニング 予習：ビジュランクラウド　看護　「実践！看護技術」清潔と排泄ケアの項目を視聴する。事例の対象者に必要な援助時の注意点をノートに整理し、援助を行う際のアセスメントポイント、及び看護ケア方法について調べ、ノートに記載する 復習：授講義、演習内容を振り返り、事前学習からの不足点を調べ、整理しノート等に記載する
17-18 (6/24)	第 11 回 地域で暮らす人への看護 佐川　美枝子、沖田亜希恵、上野　まり	日常生活を支える看護の実際 皮膚・排泄ケア認定看護師	講義グループワークアクティブラーニング 予習：皮膚・排泄ケア認定看護師について調べておく 復習：授講義、演習内容を振り返り、事前学習からの不足点を調べ、計画の修正をする。不明点については、次回までに調べ整理しノート等に記載する
19-20 (7/1)	第 12 回 地域で暮らす人への看護 佐川　美枝子、沖田亜希恵、上野　まり	在宅医療機器を使用して暮らしている方への看護	グループワーク技術演習アクティブラーニング 予習：在宅医療機器を必要な方への看護について復習しておく。また、援助を行う際のアセスメントポイント、看護ケア方法、注意点等について調べ、ノートに記載する。 復習：講義、技術演習内容を振り返り、事前学習からの不足点を調べ、ノート等に追記、修正する
21-22 (7/8)	第 13 回 地域で暮らす人への看護 佐川　美枝子、沖田亜希恵、上野　まり	在宅療養児・者とその家族への看護 難病の方とその家族への看護	講義グループワークアクティブラーニング 予習：ビジュランクラウド　看護　小児在宅　小児訪問看護の実際を視聴しておく。また、小児看護での授業内容を復習し、小児、及び難病の在宅療養者に関わる関係法規を復習し、ノート等にまとめておく 復習：講義内容を振り返り、事前学習からの不足点を調べ、ノート等に追記、修正する
23 (7/15)	第 14 回 地域で暮らす人への看護 佐川　美枝子、沖田亜希恵、上野　まり	まとめ	講義グループワークアクティブラーニング

授業開始前学習	１．地域・在宅看護学概論と地域包括ケア論の復習 ２．脳血管疾患の病態、治療、薬、それに伴う看護について調べ、ノート等にまとめること
授業内課題のフィードバックの方法	授業内での課題は、グループワークや発表を通して共有を行う。また、グループワークや発表は相互評価を行う。
テキスト・教材	河原加代子他編：『系統看護学講座　地域・在宅看護論[1]　地域・在宅看護の基盤』（医学書院） 河原加代子他編：『系統看護学講座　地域・在宅看護論[2]　地域・在宅看護の実践』（医学書院） 尾崎章子・蒔田寛子『療養者が望む暮らしを支える地域在宅看護過程』（医歯薬出版株式会社）
参考書	テキスト以外に必要な参考書は適宜紹介する。必要な資料はその都度配布する
評価の基準と方法	授業の参加態度、グループワーク、看護過程（50%）、テスト（50%）

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△	△	○	◎	○	

関連科目	地域・在宅看護学概論、地域包括ケア概論
その他	（学習目標） 地域で活躍する看護師の基本を習得する。 地域で暮らす在宅療養者に対する看護過程の展開、および「その人らしい生活」への援助方法を習得する。 （学習上の注意点） 本科目は、地域・在宅看護学実習の参加において必要不可欠な態度、知識、技術を学ぶ。 既習の各科目等との関連を考えながら学習を行う。 効果的なグループワークを行う事ができる様に、各自積極的に取組む。
予習・復習の 所要時間	講義時間 46 時間＋予習・復習時間 44 時間
実務経験を活かした 教育内容	実務経験のある教員が、その経験を生かした授業科目を担当している。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-313 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-33 （J）	授業コード	HB1405
科目名称	地域･在宅看護学実習			単位数	2.00 単位
英文名称	Practicum in community and home care nursing			授業区分	実習
科目責任者	佐川　美枝子			必修･選択	必修
担当教員	沖田･佐川			開講時期	3 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	地域･在宅看護学の特徴を理解し、地域における多様な場で療養する人々とその家族の看護の展開方法について学ぶ。地域における様々な場での看護に必要な基礎的知識や技術、多職種連携及び社会資源の活用の実際を理解し、看護実践を展開できる能力を養う。地域の中でその人らしい生活を継続するための看護職の役割を考察する。				
到達目標	1.在宅で療養する対象者およびその家族が暮らす地域の特性について説明できる。 2.訪問看護利用者およびその家族の特徴を身体的･精神的･社会的な面から理解し、説明できる。 3.訪問看護利用者の看護過程の展開を通し、在宅看護の実際を知る。 4.保健･医療･福祉チームの一員として、在宅における看護職の役割、連携の実際について説明できる。 5.住み慣れた地域でその人らしい療養生活を継続するために、必要な在宅ケアシステムおよび社会資源の活用方法について説明できる。				
アクティブ･ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目･担当者	学修内容	授業方法（アクティブ･ラーニング）･予習･復習･レポートなどの課題
第 1 週目	佐川　美枝子、沖田亜希恵	1日目（月）施設オリエンテーション、訪問看護師の指導のもと同行訪問 2日目（火）訪問看護師の指導のもと同行訪問 3日目（水）訪問看護師の指導のもと同行訪問 4日目（木）訪問看護師の指導のもと同行訪問 5日目（金）【学内実習】学内演習、受持ち事例のアセスメント･計画立案	既習の関連科目である地域･在宅看護専門科目はもちろんのこと、対象者のライフステージや疾患･障害に応じて各専門科目を復習し、在宅療養の課題や目標を理解し看護援助を考える。
第 2 週目	佐川　美枝子、沖田亜希恵	6日目（月）訪問看護師の指導のもと同行訪問、受け持ち事例のプランの実施･評価 7日目（火）訪問看護師の指導のもと同行訪問、受け持ち事例のプランの実施･評価 8日目（水）訪問看護師の指導のもと同行訪問、受け持ち事例のプランの実施･評価 9日目（木）訪問看護師の指導のもと同行訪問、最終カンファレンス 10日目（金）【学内実習】学内報告会、まとめ	同上

授業開始前学習	本実習は、在宅で療養する小児から高齢者まですべてのライフステージの者が対象となり得る。準備学習として既習の「地域･在宅看護学概論」、「地域包括ケア概論」、「地域･在宅看護学方法論」と、各専門領域分野の看護の知識･技術と、社会福祉学を応用し活用することが必要になる。そのため、必ず実習前に関連科目を復習し、実習の成果を上げるようにする。訪問看護師に同行して実習することが中心になるが、同行した訪問宅ではそれ以前の実習で経験済みの看護技術を提供する機会とし、看護援助の計画を考えるなど主体的･積極的な実習の取り組み
授業内課題のフィードバックの方法	実習中の日々の記録、情報収集･アセスメント･看護計画は随時指導する。
テキスト･教材	河原加代子他編：『系統看護学講座　地域･在宅看護論[1]　地域･在宅看護の基盤』（医学書院） 河原加代子他編：『系統看護学講座　地域･在宅看護論[2]　地域･在宅看護の実践』（医学書院） 尾崎章子･蒔田寛子編著：『療養者が望む暮らしを支える　地域･在宅看護過程』（医歯薬出版株式会社）
参考書	実習中に適宜紹介する。
評価の基準と方法	実習評価表に基づき評価（80%）、レポート（20%）

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力

科目の該当				△	○	○	△	◎
関連科目								
その他	◇学習目標 ・地域で暮らしている人は、必要な治療を終えれば住み慣れた地域に戻っていくこと、その地域の特性やニーズに対応した地域看護が求められていることを理解する。 ・訪問看護利用者とその家族の生活に触れ、看護過程の展開を通し、援助の方向性を考え、生活の場に応じた援助の実際を学ぶ。 ・保健・医療・福祉チームの一員としての看護の役割を理解する。 ・その人らしい療養生活の継続のために、必要な在宅ケアシステムおよび社会資源の活用方法を理解する。 ◇学習上の留意事項 ・訪問者であることをわきまえ、失礼の							
予習・復習の所要時間								
実務経験を活かした教育内容	実務経験のある教員が、その経験を活かした授業科目を担当している。							

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	310-311-33（J）	授業コード	HB1400
科目名称	在宅看護学実習			単位数	2.00 単位
英文名称	Practicum in community and home care nursing			授業区分	実習
科目責任者	佐川　美枝子			必修・選択	必修
担当教員	沖田・佐川			開講時期	3 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	健康上の問題を抱え、地域で療養生活をする対象や取り巻く人々の特性を理解し、看護過程の展開を通して、在宅で療養している対象への看護が実践できる基礎的能力を身につける。在宅療養者の援助を指導者とともに実施することを通して、保健・医療・福祉チームの一員として、在宅における看護職の役割、連携の実際、在宅でその人らしく療養生活を継続するために必要な在宅ケアシステムおよび社会資源の活用方法について学習する。				
到達目標	1.在宅で療養する対象者およびその家族が暮らす地域の特性について説明できる。 2.訪問看護利用者およびその家族の特徴を身体的・精神的・社会的な面から理解し、説明できる。 3.訪問看護利用者の看護過程の展開を通し、在宅看護の実際を知る。 4.保健・医療・福祉チームの一員として、在宅における看護職の役割、連携の実際について説明できる。 5.住み慣れた地域でその人らしい療養生活を継続するために、必要な在宅ケアシステムおよび社会資源の活用方法について説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
第１週目	佐川　美枝子、沖田亜希恵	1日目（月）施設オリエンテーション、訪問看護師の指導のもと同行訪問 2日目（火）訪問看護師の指導のもと同行訪問 3日目（水）訪問看護師の指導のもと同行訪問 4日目（木）訪問看護師の指導のもと同行訪問 5日目（金）【学内実習】学内演習、受持ち事例のアセスメント・計画立案	既習の関連科目である地域・在宅看護専門科目はもちろんのこと、対象者のライフステージや疾患・障害に応じて各専門科目を復習し、在宅療養の課題や目標を理解し看護援助を考える。
第２週目	佐川　美枝子、沖田亜希恵	6日目（月）訪問看護師の指導のもと同行訪問、受け持ち事例のプランの実施・評価 7日目（火）訪問看護師の指導のもと同行訪問、受け持ち事例のプランの実施・評価 8日目（水）訪問看護師の指導のもと同行訪問、受け持ち事例のプランの実施・評価 9日目（木）訪問看護師の指導のもと同行訪問、最終カンファレンス 10日目（金）【学内実習】学内報告会、まとめ	同上

授業開始前学習	本実習は、在宅で療養する小児から高齢者まですべてのライフステージの者が対象となり得る。準備学習として既習の「地域・在宅看護学概論」、「地域包括ケア概論」、「地域・在宅看護学方法論」と、各専門領域分野の看護の知識・技術と、社会福祉学を応用し活用することが必要になる。そのため、必ず実習前に関連科目を復習し、実習の成果を上げるようにする。訪問看護師に同行して実習することが中心になるが、同行した訪問宅ではそれ以前の実習で経験済みの看護技術を提供する機会とし、看護援助の計画を考えるなど主体的・積極的な実習の取り組み			
授業内課題のフィードバックの方法	実習中の日々の記録、情報収集・アセスメント・看護計画は随時指導する。			
テキスト・教材	河原加代子他編：『系統看護学講座　地域・在宅看護論[1]　地域・在宅看護の基盤』（医学書院） 河原加代子他編：『系統看護学講座　地域・在宅看護論[2]　地域・在宅看護の実践』（医学書院） 尾崎章子・蒔田寛子編著：『療養者が望む暮らしを支える　地域・在宅看護過程』（医歯薬出版株式会社）			
参考書	実習中に適宜紹介する。			
評価の基準と方法	実習評価表に基づき評価（80%）、レポート（20%）			
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	○	△	◎
関連科目								
その他	◇学習目標 ・地域で暮らしている人は、必要な治療を終えれば住み慣れた地域に戻っていくこと、その地域の特性やニーズに対応した地域看護が求められていることを理解する。 ・訪問看護利用者とその家族の生活に触れ、看護過程の展開を通し、援助の方向性を考え、生活の場に応じた援助の実際を学ぶ。 ・保健・医療・福祉チームの一員としての看護の役割を理解する。 ・その人らしい療養生活の継続のために、必要な在宅ケアシステムおよび社会資源の活用方法を理解する。 ◇学習上の留意事項 ・訪問者であることをわきまえ、失礼の							
予習・復習の所要時間								
実務経験を活かした教育内容	実務経験のある教員が、その経験を活かした授業科目を担当している。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-211 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-12 （J）	授業コード	HB0755
科目名称	成人看護学概論			単位数	2.00 単位
英文名称	Introduction to Adult Health Nursing			授業区分	講義
科目責任者	長嶋　祐子			必修･選択	必修
担当教員	飯塚･奥井･小林(優)･髙田･長嶋			開講時期	2 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	成人看護学の目的と役割、看護方法を理解するために、成人各期の身体的、精神的、社会的な特徴を理解し、成人期における疾病の予防やそのための社会システムの機能、健康の回復過程に沿った看護の特徴と方法を学ぶ。成人看護学を学ぶ上で欠かせない理論･概念の活用や、成人看護学における倫理的課題について理解する。				
到達目標	1.成人期にある人の生活と健康について説明できる。 2.成人期にある人の健康問題と看護の役割を説明できる。 3.成人を対象とする保健･医療･福祉のシステムを説明できる。 4.健康の回復過程に沿った看護の特徴について記述できる。 5.成人をとらえる上での主要概念を説明できる。 6.病気を持った成人の家族の看護を説明できる。				
アクティブ･ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目･担当者	学修内容	授業方法（アクティブ･ラーニング）･予習･復習･レポートなどの課題
1	成人看護学への導入 長嶋　祐子	成人看護学の構造と学習の目的．目標について 成人看護学Ⅰガイダンス	授業は、教科書･配布資料をもとに講義を行う。 講義の途中で適宜、think pair shear 、グループワークなどを活用する。 事前学習ならびに事後学習のためのワークブックを用意するので、ワークブックにしたがって予習と復習をすること。
2	対象の理解 1 飯塚　麻紀	対象の理解　成人期の発達と生活 ―青年期･壮年期―	授業は、教科書（第 1 章）･配布資料をもとに講義を行う。 講義の途中で適宜、think pair shear 、グループワークなどを活用する。 事前学習ならびに事後学習のためのワークブックを用意するので、ワークブックにしたがって予習と復習をすること。
3	対象の理解 2 飯塚　麻紀	対象の理解　成人期の発達と生活 ―壮年期･向老期―	授業は、教科書　（第 1 章）･配布資料をもとに講義を行いまう。 講義の途中で適宜、think pair shear 、グループワークなどを活用する。 事前学習ならびに事後学習のためのワークブックを用意するので、ワークブックにしたがって予習と復習をすること。
4	成人の生活と健康問題 1 飯塚　麻紀	成人を取り巻く社会環境と成人の生活	授業は、教科書（第 2 章･第 3 章）･配布資料をもとに講義を行う。 講義の途中で適宜、think pair shear 、グループワークなどを活用する。 事前学習ならびに事後学習のためのワークブックを用意するので、ワークブックにしたがって予習と復習をすること。
5	成人の生活と健康問題 2 飯塚　麻紀	成人の健康の動向と保健･医療･福祉政策	授業は、教科書（第 2 章･第 3 章）･配布資料をもとに講義を行う。 講義の途中で適宜、think pair shear 、グループワークなどを活用する。 事前学習ならびに事後学習のためのワークブックを用意するので、ワークブックにしたがって予習と復習をすること。
6	成人の生活と健康問題 3 長嶋　祐子	成人の労働、労働に関する政策	授業は、教科書（第 2 章･第 3 章）･配布資料をもとに講義を行う。 講義の途中で適宜、think pair shear 、グループワークなどを活用する。 事前学習ならびに事後学習のためのワークブックを用意するので、ワークブックにしたがって予習と復習をすること。
7	成人の健康に応じた看護 1 飯塚麻紀	急性期･周術期	授業は、教科書（第 5 章）をもとに講義を行う。 講義の途中で適宜、think pair shear 、グループワークなどを活用する。 事前学習ならびに事後学習のためのワークブックを用意するので、ワークブックにしたがって予習と復習をすること。

8	成人の健康に応じた看護２ 奥井　良子	慢性期	授業は、教科書（第５章）・配布資料をもとに講義を行う。 講義の途中で適宜、think pair shear 、グループワークなどを活用する。 事前学習ならびに事後学習のためのワークブックを用意するので、ワークブックにしたがって予習と復習をすること。
9	成人の健康に応じた看護３ 小林　優子	がん看護	授業は、教科書（第５章）・配布資料をもとに講義を行う。 講義の途中で適宜、think pair shear 、グループワークなどを活用する。 事前学習ならびに事後学習のためのワークブックを用意するので、ワークブックにしたがって予習と復習をすること。
１０	成人の健康に応じた看護４ 長嶋　祐子	リハビリテーション	授業は、教科書（第５章）・配布資料をもとに講義を行う。 講義の途中で適宜、think pair shear 、グループワークなどを活用する。 事前学習ならびに事後学習のためのワークブックを用意するので、ワークブックにしたがって予習と復習をすること。
１１	成人の健康に応じた看護５ 奥井　良子	終末期	授業は、教科書（第５章）・配布資料をもとに講義を行う。 講義の途中で適宜、think pair shear 、グループワークなどを活用する。 事前学習ならびに事後学習のためのワークブックを用意するので、ワークブックにしたがって予習と復習をすること。
１２	成人看護学の主要概念１ 髙田　幸江	アンドラゴジー、エンパワメント、自己効力理論	授業は、教科書（第４章）・配布資料・配布資料をもとに講義を行う。 講義の途中で適宜、think pair shear 、グループワークなどを活用する。 事前学習ならびに事後学習のためのワークブックを用意するので、ワークブックにしたがって予習と復習をすること。
１３	成人看護学の主要概念２ 小林　優子	自己概念、ボディイメージ 小林　優子	授業は、参考書１の第３章・配布資料・配布資料をもとに講義を行う。 講義の途中で適宜、think pair shear 、グループワークなどを活用する。 事前学習ならびに事後学習のためのワークブックを用意するので、ワークブックにしたがって予習と復習をすること。
１４	成人看護学の主要概念３ 小林　優子	危機理論、ストレスコーピング理論	授業は、教科書（第４章）・配布資料をもとに講義を行う。 講義の途中で適宜、think pair shear 、グループワークなどを活用する。 事前学習ならびに事後学習のためのワークブックを用意するので、ワークブックにしたがって予習と復習をすること。
１５	成人看護学における看護倫理 長嶋　祐子	成人看護学における倫理的課題 成人看護学概論のまとめ	授業は、教科書（第４章・５章）・配布資料をもとに講義を行う。 講義の途中で適宜、think pair shear 、グループワークなどを活用する。 事前学習ならびに事後学習のためのワークブックを用意するので、ワークブックにしたがって予習と復習をすること。

授業開始前学習	１．テキストの該当するページを読んで授業に臨むこと。 ２．ワークブックにしたがって事前学習を行った上で授業に臨むこと。
授業内課題のフィードバックの方法	原則として翌週の授業内でフィードバックする。
テキスト・教材	黒江ゆり子他著『新体系看護学全書成人看護学概論／成人保健』（メヂカルフレンド社）
参考書	黒田裕子監修『看護診断のためのよくわかる中範囲理論』（学研メディカル秀潤社） その他授業内で紹介する。
評価の基準と方法	定期試験 100%

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	△		

関連科目	成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱにつながる基盤となる科目である。 成人看護学方法論Ⅰの前提条件になっており、成人看護学概論の単位習得ができなければ成人看護学方法論Ⅰの履修はできない。
その他	◇学習目標 成人各期の発達課題を理解し，成人期に生じやすい健康問題と、予防や健康増進への看護について理解する。 ◇学習上の留意事項 成人看護は、10 代後半～60 代までの幅広い年齢の人々と、その家族を対象とした看護である。成人期にある人々には、進路選択、就職、結婚、子育て、退職と人生のライフイベントが多くある。その人々が病気を抱えたとき、本人がどう対処するのかを支援する看護学領域である。さらに、健康障害をもつ患者の家族の特徴、家族への具体的な援助方法についても学ぶ。成人の健康状態に応じた看護では、
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間+予習・復習時間 60 時間
実務経験を活かした教育内容	担当教員全員が、成人系病棟、クリニック、保健センターなどにおける実務経験を有しており、実務経験を活かして教育にあたる。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-212 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-22 （J）	授業コード	HB1740
科目名称	成人看護学方法論Ⅰ(急性期)			単位数	2.00 単位
英文名称	Adult Health Nursing Ⅰ(Acute Care)			授業区分	演習
科目責任者	飯塚 麻紀			必修・選択	必修
担当教員	飯塚・奥井・小林(優)・髙田・長嶋・野村・吉野			開講時期	2 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	急性発症あるいは慢性疾患の急性増悪により救急処置や集中治療管理を必要とする生命危機状態にある人や周術期にある人への看護を理解するために、主要な疾患の急性期の病態と検査、処置、治療に沿った看護援助を学ぶ。苦痛の緩和、合併症の予防、回復促進のために適切な看護を看護過程を用いて具体的に考えるとともに、急性期に必要な看護援助についてその原理やしくみを理解し、安全安楽な実施方法を学ぶ。				
到達目標	１．救急処置、集中治療管理を必要とする人、周術期にある対象の特徴を述べることができる。 ２．Basic Life Support（BLS)に必要な知識を説明し、実践することができる。 ３．主要な疾患の、検査、処置、治療における看護援助を根拠に基づいて説明することができる。 ４．事例を基に看護過程を展開し、苦痛の緩和、合併症予防、回復のための適切な看護を考えることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1・2	急性期看護への導入 周術期にある患者と家族の看護【１】 飯塚麻紀	１．オリエンテーション ２．急性期看護の対象理解に必要な基礎知識 ３．周術期看護 ４．術前の看護	【事前学習】テキスト１：第１編第１章、成人看護学概論（特に「急性期看護」）の復習 【講義】事例・国家試験問題等を活用しディスカッションしながら理解を深める 【事後学習】授業内容を振り返り整理する
3・4	周術期にある患者と家族の看護【２】【３】 飯塚麻紀	１．術中の看護 ２．術後の管理に必要な知識 ３．術後の看護①：術後合併症（術後疼痛・術後出血・術後せん妄）	【事前学習】テキスト１：第１編第 3・4・5 章 【講義】臨床で実際に使用する医療器機・資材に触れ、ディスカッションしながら理解を深める 【事後学習】授業内容を振り返り整理する
5・6	周術期にある患者と家族の看護【４】【５】 飯塚麻紀	１．術後の看護②：術後合併症（無気肺・イレウス・SSI・DVT） ２．看護過程導入	【事前学習】テキスト１：第１編第５章、第２編第５章Ⅱ胃がん 【講義】事例・電子カルテ、国家試験問題等を活用しディスカッションしながら理解する 【事後学習】授業内容を振り返り整理する
7・8	手術を受ける人の看護【１】【２】 飯塚麻紀	１．乳がんで手術を受ける人の看護 ２．胃がんで手術を受ける人の看護	【事前学習】テキスト２⑨：乳房の構造と機能・乳房の手術を受ける人の看護、テキスト２⑤：胃の構造と機能・胃がんで手術を受ける人の看 【見学授業】事例・電子カルテ、国家試験問題等を活用しディスカッションしながら理解する 【事後課題】授業内容を振り返り整理する。
9・10	看護過程演習【１】 飯塚麻紀 吉野靖代	１．情報の整理とアセスメント：パターン１・４ ２．グループ発表 ３．解説講義	【事前学習】看護過程ワークブックの指定箇所の記述 【講義】グループでのディスカッション、発表と質疑応答、解説講義を通して理解を深める 【事後学習】看護過程ワークブックの追加・修正
11・12	周術期看護に必要な技術【１】 野村美紀 吉野靖代 飯塚麻紀	１．輸液ポンプ・シリンジポンプ管理 ２．深部静脈血栓予防 ３．術後観察	【事前学習】技術演習ノートの指定箇所の熟読と課題箇所の実施 【演習】グループごとに実施・ディスカッション、技術学習ノートの追記 【事後学習】技術学習ノートの追記・復習
13・14	手術を受ける人の看護【３】【４】 吉野靖代	１．肺がんで手術を受ける人の看護 ２．変形性股関節症で手術を受ける人の看護	【事前学習】テキスト２②：肺の構造と機能・肺がんで手術を受ける人の看護、テキスト２⑩：変形性股関節症・人工股関節全置換術を受ける人の看護 【講義】事例・国家試験問題等を活用しディスカッションしながら理解を深める 【事後学習】授業内容を振り返り整理する
15・16	看護過程演習【2】 飯塚麻紀 吉野靖代	１．事例患者の理解に特に必要なパターンのアセスメント ２．グループ発表 ３．解説講義	【事前学習】看護過程ワークブックの指定箇所の記述 【講義】グループでのディスカッション、発表と質疑応答、解説講義を通して理解を深める 【事後学習】看護過程ワークブックの追加・修正

17･18	手術を受ける人の看護【５】【6】 野村美紀	１．胆石症で手術を受ける人の看護 ２．前立腺がんで手術を受ける人の看護	【事前学習】テキスト２⑤：胆石症、テキスト２⑧：前立腺がん・前立腺全摘出術を受けた患者の看護 【講義】事例・国家試験問題等を活用しディスカッションしながら理解を深める 【事後学習】授業内容を振り返り整理する
19･20	周術期看護に必要な技術【２】 野村美紀 吉野靖代 飯塚麻紀	１．術後離床 ２．ドレーン管理	【事前学習】技術演習ノートの指定箇所の熟読と課題箇所の実施 【演習】グループごとに実施・ディスカッション、技術学習ノートの追記 【事後学習】技術学習ノートの追記・復習
21･22	手術を受ける人の看護【７】【８】 飯塚麻紀	１．大腸がんで手術を受ける人の看護 ２．直腸がんで手術を受ける人の看護	【事前学習】テキスト２⑤：大腸がん・直腸がん、ストーマケア 【講義】事例・国家試験問題等を活用しディスカッションしながら理解を深める 【事後学習】授業内容を振り返り整理する
23･24	看護過程演習【３】 飯塚麻紀 野村美紀	１．看護問題の抽出（関連図）・看護目標の設定・看護計画の立案 ２．全体発表 ３．解説講義	【事前学習】看護過程ワークブックの指定箇所 【講義】グループワークでのディスカッション、発表の質疑応答、解説講義を通して理解を深める 【事後学習】看護過程ワークブックの追加・修正
25･26	BLS（Basic Life Support） 成人看護学領域教員全員	１．BLS の知識 ２．BLS の実践	【事前学習】技術学習ノートのの精読と「事前課題」箇所の記載 【演習】救急蘇生のシミュレーターと資材を用いて実践する 【事後学習】看護過程ワークブックの修正
27･28	救急看護・クリティカルケア【１】【２】 野村美紀	１．急性循環機能障害患者の看護：急性心筋梗塞 ２．急性呼吸機能障害患者の看護：急性呼吸不全・人工呼吸器	【事前学習】テキスト２②：呼吸不全・人工呼吸器、テキスト２③：急性心筋梗塞 【講義】事例・国家試験問題等を活用しディスカッションしながら理解を深める 【事後学習】授業内容を振り返り整理する
29･30	救急看護・クリティカルケア【３】 急性期看護のまとめ 飯塚麻紀	１．急性脳機能障害患者の看護：脳梗塞 ２．急性期看護のまとめ	【事前学習】テキスト２⑧：脳の解剖生理・脳梗塞 【講義】事例・国家試験問題等を活用しディスカッションしながら理解を深める 【事後学習】授業内容を振り返り整理する

授業開始前学習	・学習する内容を確認し、該当する臓器等の解剖生理・疾患の病態や治療の復習をして授業に臨んでください。 ・提示された事前課題がある場合には、必ず完成させて授業に臨んでください。
授業内課題のフィードバックの方法	フィードバックの方法、日時は授業内で提示します。
テキスト・教材	【電子テキスト】 １．新体系看護学全書　経過別成人看護学①　周術期看護、メジカルフレンド社 ２．系統別看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護②～⑩ 【授業内配布】 １．成人看護学方法論Ⅰ　技術学習ノート　ー急性期看護に必要な看護技術― ２．成人看護学方法論Ⅰ・Ⅱ　ーゴードンの機能的健康パターンを用いた看護過程― ３．看護過程ワークブック 【その他】 １．電子カルテ（教育用）
参考書	授業の中で適宜紹介する
評価の基準と方法	①定期試験（70%） ②看護過程ワークブック（30%）

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎	○	△	

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ 病態生理学 疾病と治療Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 薬理学

	基礎看護方法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 看護過程の基礎
その他	◇学習上の留意点 ・必ず事前学習を行って授業に臨むこと 成人看護学（急性期）は非常に幅広い疾患・治療・機能障害を持つ人を対象とする看護である。 そのため、解剖生理、病態生理、疾病の理解が基盤にないと看護援助を考えることは非常に難しい。 ・全ての授業に出席すること 見学授業・グループワーク・実技等は補講を行うことはできない。 また各講義は国家試験に頻出される重要な疾患をピックアップして行う。 ・Google ドキュメントの操作法を確認しておくこと 看護過程演習では Google ドキュメ
予習・復習の 所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間
実務経験を活かした 教育内容	担当教員全員が、成人系病棟・クリニック等における実務経験を有しており、その経験を生かして授業を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-312 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-23 （J）	授業コード	HB1750
科目名称	成人看護学方法論Ⅱ(慢性期)			単位数	2.00 単位
英文名称	Adult Health Nursing Ⅱ(Chronic Care)			授業区分	演習
科目責任者	長嶋祐子			必修・選択	必修
担当教員	飯塚・奥井・小林(優)・髙田・長嶋・野村・吉野			開講時期	3 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	慢性疾患の特徴を理解し、慢性疾患とともに生きる対象者への看護を理解するために、症状マネジメント、セルフケア能力を高める援助、家族へのサポート、社会的支援システムを含めた援助方法について学習する。また、慢性経過をたどり死を迎える対象者の援助として、全人的苦痛を緩和するための看護方法を学習し、QOL について理解を深める。				
到達目標	１．疾病の特徴と治療が対象の生活にどのような影響を及ぼすか説明できる。 ２．薬物療法・放射線療法・食事療法・運動療法などの治療を受ける患者の援助を説明できる。 ３．慢性疾患の急性増悪期にある模擬患者の看護過程の展開ができる。 ４．終末期にある患者の全人的苦痛を理解し、看護援助について説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1 2	慢性病とその看護 （1）（2） 長嶋祐子	慢性疾患を抱え生活する人と家族の特徴と看護 オリエンテーション 慢性期看護の看護過程の概要説明	講義　演習 予習：学習ノート（講義）内に提示（要点整理） 復習：学習ノート（講義）内に提示（授業内容の整理）
3 4	看護過程演習（1） （2） 長嶋祐子 奥井良子 髙田幸江	慢性心不全患者の看護過程 ー情報収集・アセスメントー	演習（グループワーク、発表） 予習：事前レポート（看護過程） 復習：各自、看護過程レポート修正
5 6	看護過程演習（3） （4） 長嶋祐子 奥井良子 髙田幸江	慢性心不全患者の看護過程 関連図・全体像 看護計画	演習（グループワーク、発表） 予習：事前レポート（看護過程） 復習：各自、看護過程レポート修正
7	看護過程演習（5） 長嶋祐子 奥井良子 髙田幸江	慢性心不全患者の看護過程 看護計画の実施	演習（グループワーク、ロールプレイ） 予習：事前レポート（看護過程）パンフレット作成 復習：各自、看護過程レポート修正
8 9	慢性病とその看護 （3）（4） 髙田幸江	代謝・内分泌機能障害をもつ人とその家族への看護①②	講義　演習 予習：学習ノート（講義）内に提示（要点整理） 復習：学習ノート（講義）内に提示（授業内容の整理）
10	慢性病とその看護 （5） 髙田幸江	腎機能障害をもつ人とその家族への看護	講義　演習 予習：学習ノート（講義）内に提示（要点整理） 復習：学習ノート（講義）内に提示（授業内容の整理）
11	慢性病とその看護 （6） 奥井良子	呼吸機能障害をもつ人とその家族への援助	講義 予習：学習ノート（講義）内に提示（要点整理） 復習：学習ノート（講義）内に提示（授業内容の整理）
12 13	技術演習（1）（2） 長嶋祐子 奥井良子 髙田幸江	糖尿病を持って生活する人への看護 呼吸機能障害をもつ人への看護	技術演習 予習：学習ノート（技術演習）内に提示（要点整理） 復習：学習ノート（技術演習）内に提示（授業内容の整理）
14 15	慢性病とその看護 （7）（8） 長嶋祐子	造血機能障害をもつ人とその家族への看護 免疫機能障害をもつ人とその家族への看護	講義 予習：学習ノート（講義）内に提示（要点整理） 復習：学習ノート（講義）内に提示（授業内容の整理）
16	慢性病とその看護 （9） 奥井良子	脳・神経機能障害をもつ人とその家族への看護	講義 予習：学習ノート（講義）内に提示（要点整理） 復習：学習ノート（講義）内に提示（授業内容の整理）

17	慢性病とその看護 （10） 長嶋祐子	消化・排泄機能障害をもつ人とその家族への看護	講義　演習 予習：学習ノート（講義）内に提示（要点整理） 復習：学習ノート（講義）内に提示（授業内容の整理）
18	慢性病とその看護 （11） 長嶋祐子	栄養・代謝機能障害をもつ人とその家族への看護	講義　演習 予習：学習ノート（講義）内に提示（要点整理） 復習：学習ノート（講義）内に提示（授業内容の整理）
19 20 21	技術演習技術演習 （3）（4）（5） 飯塚麻紀 野村美紀 小林優子 吉野靖代	治療を受ける人に必要な看護技術 ①輸液ポンプ ②輸血 ③深部静脈血栓予防	技術演習 予習：学習ノート（技術演習）内に提示（要点整理） 復習：学習ノート（技術演習）内に提示（授業内容の整理）
22	慢性病とその看護 （12） 髙田幸江	終末期にある患者と家族への看護	講義 予習：学習ノート（講義）内に提示（要点整理） 復習：学習ノート（講義）内に提示（授業内容の整理）
23	慢性病とその看護 （13） 長嶋祐子	慢性疾患をもって生活する人の看護	講義　演習 予習：学習ノート（講義）内に提示（要点整理） 復習：学習ノート（講義）内に提示（授業内容の整理）

授業開始前学習	レポートおよび課題あり。指定した部分について取り組む。
授業内課題のフィードバックの方法	看護過程レポートおよびその他演習等の課題（ワークシート、学習ノート）について 課題に取り組んでいる過程において必要な内容は、授業内でコメントおよび classroom を活用し、共有ワークシートを作成することで実施する 提出されたレポートは、確認後、全体（必要時、個人）コメントでフィードバックを行う 講義は授業後のリフレクションペーパーを確認後、授業または classroom を通じてフィードバックを行う
テキスト・教材	１．系統看護学講座　専門分野　成人看護学[２～１１]（医学書院、東京） ２．鈴木久美、旗持知恵子、佐藤直美編　成人看護学『慢性期看護』、第４版（南江堂）
参考書	１．野川道子編、『看護実践に活かす中範囲理論』（メジカルフレンド） ２．マージョリー・ゴードン著、江川隆子監訳、『ゴードン博士の看護診断アセスメント指針』（照林社） ３．マージョリー・ゴードン著、上鶴重美訳、『アセスメント覚え書　機能的健康パターンと看護診断』（医学書院） ４．T.ヘザー・ハードマン他、NANDA-I 看護診断　定義と分類（医学書院） ５．授業時、適時提示する
評価の基準と方法	授業内で指示された内容のレポート（10%）、看護過程レポート（30%）、定期試験（60%）で評価する

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎	○	△	

関連科目	疾病と治療Ⅰ、基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅲ、看護過程の基礎、人間関係論、健康教育学、成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ
その他	慢性疾患や障害を抱え生活する成人の急性増悪期、慢性期、終末期にある生活や心理・社会面を考慮した看護援助を学習する。 事前・事後学習は授業内容の理解のためには必須である。学習ノートの指示された部分について、教科書・参考書を中心に作成すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 46 時間+予習・復習時間 44 時間
実務経験を活かした教育内容	成人看護学教員全員が病院等で看護師実務経験がある。臨床看護の経験を活かし、慢性疾患患者の看護について講義・演習を実施する

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-313 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-33 （J）	授業コード	HB1355
科目名称	成人看護学実習Ⅰ(急性期)			単位数	2.00 単位
英文名称	Adult Health Nursing Practicum Ⅰ (Acute Care)			授業区分	実習
科目責任者	吉野　靖代			必修・選択	必修
担当教員	飯塚・野村・吉野			開講時期	3 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	急性期の患者や家族のへの看護を実践する基礎的能力を身につけるために、周術期にある患者を受け持ち、患者を身体的、心理社会的に理解し、看護過程の展開を通して身体変化や回復過程に応じた援助の方法を学ぶ。特に、周術期特有の苦痛の緩和や合併症に関する理解を深める。保健医療チームの一員としての責任ある行動や、臨床における倫理的配慮について考えを深め、実施した看護を振り返り自己の学習課題を明らかにすることで自己の看護観の確立につなげる。				
到達目標	1）　受け持ち患者の疾患・検査・治療によって生じている看護問題について、身体的・心理的・社会的側面からアセスメントし抽出できる。 2）　受け持ち患者の看護問題に対して計画立案し、具体的な援助を述べることができる。 3）　立案した看護計画に基づき、苦痛の緩和および回復の促進のための援助を、安全・安楽に基づいて実施・評価することができる。 4）　周術期における多職種との連携について考えながら、保健医療チームの一員として責任ある行動をとることができる。 5）　患者、家族と良好な信頼関係を築き、尊重した態				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
実習要項を参照のこと	実習要項を参照のこと	実習要項を参照のこと	事前学習、課題については実習要項を参照のこと。 施設での実習にあたり必要な予習・復習を必ず行うこと。

授業開始前学習	・本科目では、専門基礎分野や専門分野の看護の基本の知識を活用するとともに統合を図る。 ・人体の構造と機能、疾病と治療、基礎看護学、成人看護学を見直し、必要時資料を持参する。 ・成人看護学方法論Ⅰ・Ⅱで学習した内容（看護過程、技術演習含む）を見直し、資料を実習場へ持参する。 ・オリエンテーション前に配属された病棟の特徴を確認し、関連する科目の復習を行う。 ・実習中は毎日、ケア実践の結果・評価を明らかにし翌日のケア実践に活かす。 ・ケア実践を通して自己の課題や看護への気づきを記録し学修の足跡を残す。
授業内課題のフィードバックの方法	実習記録は毎日の記録、看護過程の記録、手術室見学実習記録などがある。毎日の記録は原則として翌日に個別にフィードバックを行う。看護過程の記録はカンファレンスの際にフィードバックを実施する。そのほか必要に応じて個別にフィードバックを行う。
テキスト・教材	新体系看護学全書　経過別成人看護学①　周術期看護（メヂカルフレンド社） 系統看護学講座　専門分野　成人看護学②～⑩（医学書院） 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論（医学書院） 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護各論（医学書院） 新体系看護学全書　成人看護学概論/成人保健（メヂカルフレンド社）
参考書	本庄恵子他『写真でわかる臨床看護技術アドバンス①②』（インターメディカ） 浦部晶夫他『今日の治療薬 2025』（南江堂） 櫻林郁之介他『今日の臨床検査 2023−2024』（南江堂）
評価の基準と方法	実習日程の 2/3 以上の出席があり、所定の記録物を時間内に提出した者に対して評価を行う。 ◆評価方法 ・ 評価表をもとに、個人面接を行う。個人面接は、2 週目の金曜日に実施する。 ・ 評価表に基づき、実習目標到達状況、実習態度、実習記録を総合的に評価する。 ・ 感染症などの理由による欠席に関して、所定の手続きを終了している場合には補習実習、追実習を認める場合がある。

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		○	△	○	◎
関連科目								
その他	◆学習目標 手術、麻酔などにより侵襲を受けている患者やその家族などの特徴を理解し、看護過程の展開をとおして急性期から回復期へ向かう看護を実践できる基礎的能力を身につける。 ◆学習上の留意事項 ・積極的に臨地実習に取り組むことを期待する。 ・実習上で生じる様々な問題、葛藤に前向きに対処し、自己の成長に努めていってほしい。 ・健康障害をもつ患者を受けもたせて頂くにあたって、学生として責任のある行動をとること。 ・原則として全日数出席である。十分に自己の健康管理を行うこと。 ・グループメンバー							
予習・復習の所要時間								
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の教員が担当する科目であり、全員が看護師としての臨床での実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、学生が受持ち患者に対して看護過程を展開し看護援助が行えるよう教育を行う。							

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	310-311-33（J）	授業コード	HB1350
科目名称	成人看護学急性期実習			単位数	3.00 単位
英文名称	Adult Health Nursing Practicum (Acute Care)			授業区分	実習
科目責任者	吉野　靖代			必修・選択	必修
担当教員	飯塚・野村・吉野			開講時期	3 年後期～4 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	急性期にある患者や取り巻く人々の特性を理解し、看護過程の展開を通して慢性期にある患者への看護を実践できる基礎的能力を身につける。急性期にある患者の受け持ち、急性期の身体変化や回復過程に応じた援助の方法を学び、危機的状況にある患者とその家族への看護の方法を学習する。また、自己の看護観の確立に向けて、実施した看護を振り返り自己の学習課題を明らかにする。実習を通して、保健医療チームの一員であることを自覚し、学生として責任のある行動をとることができるようになることをねらいとする。				
到達目標	1.疾病、手術、麻酔などによって生じている身体的問題を抽出し看護計画を立案することができる。 2.疾病、治療による影響や発達段階、社会的役割から、患者や家族を心理・社会的側面からアセスメントし、問題の抽出と看護計画を立案することができる。 3.具体的な援助の実施を通し、急性期に必要な看護ケアについて具体的に列挙できる。 4.保健医療チームの一員として果たす役割および多職種との連携について述べることができる。 5.患者、家族の尊厳を重んじ、安全・安楽を考えた態度で援助できる。 6.実施した看護を振				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
実習要項を参照のこと	実習要項を参照のこと	実習要項を参照のこと	事前学習、課題については実習要項を参照のこと。 施設での実習にあたり必要な予習・復習を必ず行うこと。

授業開始前学習	・本科目では、専門基礎分野や専門分野の看護の基本の知識を活用するとともに統合を図る。 ・人体の構造と機能、疾病と治療、基礎看護学、成人看護学を見直し、必要時資料を持参する。 ・成人看護学Ⅱで学習した内容（看護過程、技術演習含む）を見直し、資料を実習場へ持参する。 ・オリエンテーション前に配属された病棟の特徴を確認し、関連する科目の復習を行う。 ・実習中は毎日、ケア実践の結果・評価を明らかにし翌日のケア実践に活かす。 ・ケア実践をとおして自己の課題や看護への気づきを記録し学修の足跡を残す。 ・体
授業内課題のフィードバックの方法	実習記録は毎日の記録、看護過程の記録、手術室見学実習記録などがある。毎日の記録は原則として翌日に個別にフィードバックを行う。看護過程の記録はカンファレンスの際にフィードバックを実施する。そのほか必要に応じて個別にフィードバックを行う。
テキスト・教材	系統看護学講座　専門分野　成人看護学［1～11］（医学書院） 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論（医学書院） 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護各論（医学書院） 新体系看護学全書　成人看護学概論/成人保健（メヂカルフレンド社）
参考書	本庄恵子他『写真でわかる臨床看護技術アドバンス①②』（インターメディカ） 浦部晶夫他『今日の治療薬 2025』（南江堂） 櫻林郁之介他『今日の臨床検査 2023−2024』（南江堂）
評価の基準と方法	①2/3 以上の出席があり、所定の記録物を時間内に提出した者に対して評価を行う。 ②評価表をもとに、個人面接を行う。 ③評価表に基づき、実習目標到達状況、実習態度、記録・レポートを総合的に評価する。

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	○	○	◎

関連科目	
その他	◇学習目標 手術、麻酔などにより侵襲を受けている患者や家族等の特徴を理解し、看護過程の展開を通して急性期から回復へ向かう看護を実践できる基礎的能力を身につける。 ◇学習上の留意事項 ・積極的に臨地実習に取り組むことを期待します。 ・実習上で生じる様々な問題、葛藤に前向きに対処し、自己の成長に努めていきましょう。 ・健康障害をもつ患者を受けもたせて頂くにあたって、学生として責任のある行動をとりましょう。 ・原則として全日数出席です。自己の健康管理を行って下さい。
予習・復習の 所要時間	
実務経験を活かした 教育内容	本科目は複数の教員が担当する科目であり、全員が看護師としての臨床での実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、学生が受持ち患者に対して看護過程を展開し看護援助が行えるよう教育を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-313 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-33 （J）	授業コード	HB1365
科目名称	成人看護学実習Ⅱ(慢性期)			単位数	2.00 単位
英文名称	Adult Health Nursing PracticumⅡ(Chronic Care)			授業区分	実習
科目責任者	髙田幸江			必修・選択	必修
担当教員	奥井・髙田・長嶋			開講時期	3 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	慢性疾患を抱えて生活する患者や取り巻く人々の特性を理解し、看護過程の展開を通して慢性期にある患者への看護を実践できる基礎的能力を身につける。慢性期にある患者を受け持ち、健康の回復や急性増悪の予防のための援助と、多職種との連携で患者を支援するためのヘルスケアシステムを理解する。また、自己の看護観の確立に向けて、実施した看護を振り返り自己の学習課題を明らかにする。実習を通して、保健医療チームの一員であることを自覚し、学生として責任のある行動をとることができるようになることをねらいとする。				
到達目標	1.患者・家族に対して積極的な関心を持ち、適切な関係を築くことができる。 2.成人の特徴および健康状態を考慮に入れて，患者の個別的状況を総合的に理解できる。 3.患者の理解に基づき看護上の問題・患者のニーズを特定し，看護計画の立案、実践、評価ができる 4．看護専門職者を目指す者としての責任を自覚し、患者の権利を擁護し、倫理観に基づいて行動できる。 5.患者に関わる関係従事者と連携の重要性を理解し、チームの一員として、協働しながら行動できる。 6.看護専門職者として、自己成長と看護の向上のために				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	臨地実習 髙田幸江、奥井良子、長嶋祐子	臨地実習 1 日目 病院・病棟オリエンテーション 受け持ち患者決定 情報収集 カンファレンス	臨地実習 予習および復習：慢性期実習ガイダンスで提示した事前課題、日々記録、看護過程記録（患者プロフィール、病態、アセスメント）
2	臨地実習 2 日目 髙田幸江、奥井良子、長嶋祐子	臨地実習 2 日目 受け持ち患者のケア 情報収集 カンファレンス	臨地実習 予習および復習：日々記録、看護過程記録（患者プロフィール、病態、アセスメント）
3	臨地実習 髙田幸江、奥井良子、長嶋祐子	臨地実習 3 日目 受け持ち患者のケア 情報収集 カンファレンス	臨地実習 予習および復習：日々記録、経過記録、看護過程記録（患者プロフィール、病態、アセスメント）
4	学内実習 髙田幸江、奥井良子、長嶋祐子	学内実習① 受け持ち患者の全体像（関連図）カンファレンス カンファレンスを踏まえ、記録の修正、追加学習	学内実習 予習および復習：日々記録、経過記録、看護過程（患者プロフィール、病態、アセスメント）、カンファレンス資料（関連図）
5	臨地実習 髙田幸江、奥井良子、長嶋祐子	臨地実習 4 日目 受け持ち患者のケア 情報収集 中間カンファレンス	臨地実習 予習および復習：日々記録、経過記録、看護過程（患者プロフィール、アセスメント,看護問題リスト、関連図）修正、看護計画立案、1 週目自己評価表
6	臨地実習 髙田幸江、奥井良子、長嶋祐子	臨地実習 5 日目 看護計画に基づいた受け持ち患者のケアの実施と評価 カンファレンス	臨地実習 予習および復習：日々記録、経過記録、看護計画修正
7	臨地実習 髙田幸江、奥井良子、長嶋祐子	臨地実習 6 日目 看護計画に基づいた受け持ち患者のケアの実施と評価 カンファレンス	臨地実習 予習および復習：日々記録、経過記録、看護計画評価、計画見直し
8	臨地実習 髙田幸江、奥井良子、長嶋祐子	臨地実習 7 日目 看護計画に基づいた受け持ち患者のケアの実施と評価 カンファレンス	臨地実習 予習および復習：日々記録、経過記録、看護計画評価、計画見直し
9	臨地実習 髙田幸江、奥井良子、長嶋祐子	臨地実習 8 日目 看護計画に基づいた受け持ち患者のケアの実施と評価 臨地実習最終カンファレンス ・受け持ち患者に行った看護とその評価 ・成人看護学慢性期実習での学び	臨地実習 カンファレンス 復習：日々記録、経過記録、看護過程記録

10	学内実習 髙田幸江、奥井良子、長嶋祐子	学内実習② 病みの軌跡カンファレンス ・「病みの軌跡理論」で受け持ち患者を捉えなおす。 ・「病みの軌跡」の図式化 ・プレゼンテーションおよび意見交換 個別評価面接 記録提出	学内実習 予習および復習：日々記録、経過記録、看護計画評価、目標・計画見直し、2 週目自己評価表

授業開始前学習	慢性期実習ガイダンスおよび、classroom から指示された事前課題に取り組む ・技術演習（女性、63 歳、脳梗塞、右片麻痺への以下 A～C の援助技術の援助計画手順書） A：左前腕から点滴中に発汗があり、寝衣交換を行う。 B：足浴を行う。 C：ベッド上臥床から車いす、車いすからベッドへの移乗を行う。 ・実習で活用できる文献の検索と確認 ・実習初日の行動計画を教員の指導を受けて、様式Ⅸに記入する。 ・自己学習ノートに、既習の臨地実習							
授業内課題のフィードバックの方法	臨地実習では適宜、グループおよび個別に指導する。 日々のカンファレンス、中間および最終カンファレンスではグループでのディスカッションを促進し、必要に応じてコメントを行う。							
テキスト・教材								
参考書								
評価の基準と方法	実習評価表に基づき評価する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		○	△	○	◎
関連科目	成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ、成人看護学方法論Ⅱ							
その他	慢性期実習ガイダンスの参加は必須							
予習・復習の所要時間								
実務経験を活かした教育内容	複数の教員が担当する科目であり、担当教員は全員が看護師としての臨床での実務経験を有したものである。							

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	310-311-33（J）	授業コード	HB1360
科目名称	成人看護学慢性期実習			単位数	3.00 単位
英文名称	Adult Health Nursing Practicum (Chronic Care)			授業区分	実習
科目責任者	髙田幸江			必修・選択	必修
担当教員	奥井・髙田・長嶋			開講時期	3 年後期～4 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	慢性疾患を抱えて生活する患者や取り巻く人々の特性を理解し、看護過程の展開を通して慢性期にある患者への看護を実践できる基礎的能力を身につける。慢性期にある患者を受け持ち、健康の回復や急性増悪の予防のための援助と、多職種との連携で患者を支援するためのヘルスケアシステムを理解する。また、自己の看護観の確立に向けて、実施した看護を振り返り自己の学習課題を明らかにする。実習を通して、保健医療チームの一員であることを自覚し、学生として責任のある行動をとることができるようになることをねらいとする。				
到達目標	1.患者・家族に対して積極的な関心を持ち、適切な関係を築くことができる。 2.成人の特徴および健康状態を考慮に入れて，患者の個別的状況を総合的に理解できる。 3.患者の理解に基づき看護上の問題・患者のニーズを特定し，看護計画の立案、実践、評価ができる 4．看護専門職者を目指す者としての責任を自覚し、患者の権利を擁護し、倫理観に基づいて行動できる。 5.患者に関わる関係従事者と連携の重要性を理解し、チームの一員として、協働しながら行動できる。 6.看護専門職者として、自己成長と看護の向上のために				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	学内オリエンテーション 髙田幸江、奥井良子、長嶋祐子	病院・病棟オリエンテーション 援助技術演習 インシデントシミュレーションワーク 臨地実習事前学習	オリエンテーション 援助技術演習 グループワーク 自己学習 ・臨地実習までに学習した形態機能学、人体の構造と機能、疾病と治療、基礎看護学、成人看護学などのテキスト、ノートがそろっているか内容を含め整理する。 ・実習前演習で、臨地実習で体験する可能性のある看護技術の自己学習を行なう。
2	臨地実習 髙田幸江、奥井良子、長嶋祐子	臨地実習 1 日目 病院・病棟オリエンテーション 受け持ち患者決定 情報収集 カンファレンス	臨地実習 予習および復習：日々記録、看護過程記録（患者プロフィール、病態、アセスメント）
3	臨地実習 髙田幸江、奥井良子、長嶋祐子	臨地実習 2 日目 受け持ち患者のケア 情報収集 カンファレンス	臨地実習 予習および復習：日々記録、経過記録、看護過程記録（患者プロフィール、病態、アセスメント）
4	臨地実習 髙田幸江、奥井良子、長嶋祐子	臨地実習 3 日目 受け持ち患者のケア 情報収集 カンファレンス	臨地実習 予習および復習：日々記録、経過記録、看護過程（患者プロフィール、病態、アセスメント）、中間カンファレンス資料（看護問題リスト、関連図）
5	臨地実習 髙田幸江、奥井良子、長嶋祐子	臨地実習 4 日目 受け持ち患者のケア 情報収集 中間カンファレンス	臨地実習 予習および復習：日々記録、経過記録、看護過程（患者プロフィール、アセスメント,看護問題リスト、関連図）修正、看護計画立案、1 週目自己評価表
6	臨地実習 髙田幸江、奥井良子、長嶋祐子	臨地実習 5 日目 看護計画に基づいた受け持ち患者のケアの実施と評価 カンファレンス	臨地実習 予習および復習：日々記録、経過記録、看護計画修正
7	臨地実習 髙田幸江、奥井良子、長嶋祐子	臨地実習 6 日目 看護計画に基づいた受け持ち患者のケアの実施と評価 カンファレンス	臨地実習 予習および復習：日々記録、経過記録、看護計画評価、計画見直し
8	臨地実習 髙田幸江、奥井良子、長嶋祐子	臨地実習 7 日目 看護計画に基づいた受け持ち患者のケアの実施と評価 カンファレンス	臨地実習 予習および復習：日々記録、経過記録、看護計画評価、計画見直し

9	学内実習 髙田幸江、奥井良子、長嶋祐子	病みの軌跡カンファレンス ・受け持ち患者の病みの軌跡の図式化 ・受け持ち患者の病みの軌跡のプレゼンテーション ・グループディスカッション 看護実習記録の整理 看護実践に必要な学習、援助技術の練習	学内実習 カンファレンス 自己学習 復習：日々記録、経過記録、看護過程記録
10	臨地実習 髙田幸江、奥井良子、長嶋祐子	臨地実習 9 日目 看護計画に基づいた受け持ち患者のケアの実施と評価 カンファレンス	学内実習 予習および復習：日々記録、経過記録、看護計画評価、目標・計画見直し、2 週目自己評価表
11	臨地実習 髙田幸江、奥井良子、長嶋祐子	臨地実習 10 日目 看護計画に基づいた受け持ち患者のケアの実施と評価 カンファレンス	臨地実習 予習および復習：日々記録、経過記録、看護計画評価、計画見直し
12	臨地実習 髙田幸江、奥井良子、長嶋祐子	臨地実習 11 日目 看護計画に基づいた受け持ち患者のケアの実施と評価 カンファレンス	臨地実習 予習および復習：日々記録、経過記録、看護計画評価、計画見直し
13	臨地実習 髙田幸江、奥井良子、長嶋祐子	臨地実習 12 日目 看護計画に基づいた受け持ち患者のケアの実施と評価 カンファレンス	臨地実習 予習および復習：日々記録、経過記録、看護計画評価、計画見直し
14	臨地実習 髙田幸江、奥井良子、長嶋祐子	臨地実習 13 日目 看護計画に基づいた受け持ち患者のケアの実施と評価 最終カンファレンス ・受け持ち患者に実施した看護とその評価のプレゼンテーションおよびグループディスカッション ・慢性期実習での学びについてのグループディスカッション	臨地実習 予習および復習：日々記録、経過記録、最終カンファレンスを反映した看護計画記録の修正
15	学内実習 髙田幸江、奥井良子、長嶋祐子	ヒヤリハットカンファレンス 個人評価面接 実習記録の作成、実習記録提出	実習最終日 カンファレンス 課題：実習記録、評価表を提出

授業開始前学習	慢性期実習ガイダンスおよび、classroom から指示された事前課題に取り組む ・技術演習（女性、63 歳、脳梗塞、右片麻痺への以下 A～C の援助技術の援助計画手順書） A：左前腕から点滴中に発汗があり、寝衣交換を行う。 B：足浴を行う。 C：ベッド上臥床から車いす、車いすからベッドへの移乗を行う。 ・実習で活用できる文献の検索と確認 ・実習初日の行動計画を教員の指導を受けて、様式Ⅸに記入する。 ・自己学習ノートに、既習の臨地実習で必要だと感じた学習内容を整理する。
授業内課題のフィードバックの方法	臨地実習では適宜、グループおよび個別に指導する。 日々のカンファレンス、中間および最終カンファレンスではグループでのディスカッションを促進し、必要に応じてコメントを行う。
テキスト・教材	
参考書	
評価の基準と方法	実習評価表に基づき評価する。

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	○	○	◎

関連科目	成人看護学Ⅰ、成人看護学Ⅱ、成人看護学Ⅲ
その他	慢性期実習ガイダンスの参加は必須
予習・復習の所要時間	

実務経験を活かした教育内容	複数の教員が担当する科目であり、担当教員は全員が看護師としての臨床での実務経験を有したものである。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-111 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-11 （J）	授業コード	HB0785
科目名称	老年看護学概論			単位数	2.00 単位
英文名称	Introduction to Gerontological Nursing			授業区分	講義
科目責任者	成瀬　早苗			必修・選択	必修
担当教員	成瀬　早苗			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	前期　火曜日 10:00～13:00 後期　火曜日 10:00～13:00			研究室	1-303
授業概要	高齢期にある対象者の身体・精神・心理・社会的な特徴を理解し、高齢者の健康問題や生活障害をとらえるための多角的な視点と援助方法の概要を学習する。また、高齢者をとりまく社会状況と社会制度について基礎的な知識を得て、社会システムの構築という視点で高齢者ケアを考える視点を学習する。				
到達目標	1．高齢者の身体的、心理的、社会的な特徴について述べることができる。 2．高齢者に特徴的な健康問題や生活障害について述べることができる。 3．高齢社会の課題と主な社会制度について説明することができる。 4．高齢者看護の理念と基本的な考え方が説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1 回目	老年看護学の理念、目標、基本姿勢 成瀬　早苗	老年看護学の理念、目標、基本姿勢について	講義、グループワーク 予習：シラバスを読んでくる。「高齢者」、「老い」についての自分なりのイメージをまとめておく 復習：授業ノート資料の整理、高齢者のイメージについて再考する
2 回目	高齢者の特徴 成瀬　早苗	高齢者の特徴：ライフサイクルからみた高齢期の特徴、高齢期の発達課題	講義 予習：「老年看護学」第 1 章を読んでくる 復習：配布資料や教科書を見直し、授業ノートの整理をする
3 回目	高齢者のとらえ方、高齢者観 成瀬　早苗	高齢者のとらえ方、高齢者観：エイジズム、サクセスフルエイジング、高齢者虐待	講義 予習：「老年看護学」第 2 章 C を読んでおく 復習：配布資料や教科書を見直し、授業ノートの整理をする
4 回目	加齢に伴う変化 成瀬　早苗	加齢に伴う変化：生理的加齢変化、フィジカルアセスメントの方法	講義 予習：「老年看護学」第 4 章、「老年看護　病態・疾患論」第 1、3 章を読んでくる 復習：配布資料や教科書を見直し、授業ノートの整理をする
5 回目	高齢期に特徴的な疾患 成瀬　早苗	高齢期に特徴的な疾患：認知症、心不全、脳卒中、高血圧、糖尿病、パーキンソン病、肺炎、COPD、骨粗鬆症など	講義 予習：「老年看護学」6 章、「老年看護　病態・疾患論」第 4 章を読んでくる 復習：配布資料を参考に、教科書に記載されている疾患についてまとめておく（提出課題）
6 回目	高齢期に特徴的な健康問題や生活障害と基本的な看護 1 成瀬　早苗	高齢期に特徴的な健康問題や生活障害と基本的な看護 1：老年症候群、廃用症候群、日常生活動作の低下と密接な関連を持つ老年症候群と基本的看護	講義 予習：「老年看護学」第 5 章、「老年看護　病態・疾患」第 2 章を読んでくる 復習：配布資料や教科書を見直し、授業ノートの整理をする
7 回目	高齢期に特徴的な健康問題や生活障害と基本的な看護 2 成瀬　早苗	高齢期に特徴的な健康問題や生活障害と基本的な看護 2：慢性疾患に付随する老年症候群	講義 予習：「老年看護学」第 5 章、「老年看護　病態・疾患」第 6 章を読んでくる 復習：配布資料や教科書を見直し、授業ノートの整理をする
8 回目	高齢期に特徴的な健康問題や生活障害と基本的な看護 3 成瀬　早苗	高齢期に特徴的な健康問題や生活障害と基本的な看護 3：急性疾患に付随する老年症候群	講義 予習：「老年看護学」第 7 章、「老年看護　病態・疾患」第 5 章を読んでくる 復習：配布資料や教科書を見直し、授業ノートの整理をする
9 回目	高齢期に特徴的な健康問題や生活障害と基本的な看護 4 成瀬　早苗	高齢期に特徴的な健康問題や生活障害と基本的な看護 4：薬物療法、手術療法、検査	講義 予習：「老年看護学」第 7 章、「老年看護　病態・疾患」第 5 章を読んでくる 復習：配布資料や教科書を見直し、授業ノートの整理をする
10 回	高齢社会と社会保障	高齢社会と社会保障：人口統計、医療保険制	講義

目	成瀬　早苗	度、介護保険制度、権利擁護など	予習：「老年看護学」第 2 章 AB を読んでくる 復習：配布資料や教科書を見直し、授業ノートの整理をする
11 回目	高齢者と家族、地域コミュニティ 成瀬　早苗	高齢者と家族、地域コミュニティ：家族構成の変化、社会的交流、地域の一員としての高齢者	講義 予習：「老年看護学」第 9 章を読んでくる 復習：配布資料や教科書を見直し、授業ノートの整理をする
12 回目	高齢者のリスクマネジメント 成瀬　早苗	高齢者のリスクマネジメント：高齢者のリスク、災害時のリスクマネジメント	講義 予習：「老年看護学」第 10 章を読んでくる 復習：配布資料や教科書を見直し、授業ノートの整理をする
13 回目	終末期ケア 成瀬　早苗	終末期ケア：高齢者の終末期の特徴、看取り、家族へのケア	講義 予習：「老年看護学」第 8 章を読んでくる 復習：配布資料や教科書を見直し、授業ノートの整理をする
14 回目	高齢者の生きてきた時代を知る 老年看護におけるアクティビティケア 成瀬　早苗	高齢者の生きてきた時代を知る：時代背景と価値観、役割意識、流行、楽しみなどを通して、「その人らしさ」を形成しているものへの理解 老年看護におけるアクティビティケア：アクティビティケアの基本的な考え方、高齢者にとってのアクティビティケアの効果	講義、グループワーク 予習：大正～昭和～平成にかけての主な出来事を調べ、高齢者の生きてきた時代が分かる年表を作成する（提出課題） 「高齢者のアクティビティ」、「アクティビティケア」について調べておく 復習：自分が受けたいアクティビティケアを具体的にイメージしてまとめておく
15 回目	まとめ 成瀬　早苗	まとめ	講義、グループワーク 予習：1～14 回の講義内容を見直しておく 復習：配布資料や教科書を見直し、授業ノートの整理をする

授業開始前学習	◇準備学習 ・シラバスを参考に、教科書の該当部分を事前に読んでおく。 ・高齢者に関連する時事問題について関心を持ち、日ごろからニュース、新聞などの情報を得ておく。 ・予習、復習を十分に行い、知識の定着を図る。とくに、高齢者の特徴を理解するためには、「生涯発達学」「人間関係論」「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」「病態生理学」「疾病と治療Ⅰ」の内容と関連させて学習すること。 ◇学習上の留意事項 積極的に授業に参加すること。
授業内課題のフィードバックの方法	第 5 回・第 14 回の課題については、第 15 回の授業内で全体の講評を行う。 ５回程度の小テストを実施し、その都度、授業内で解説を行う。
テキスト・教材	専門分野Ⅱ　老年看護学 専門分野Ⅱ　老年看護病態・疾患論
参考書	講義内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	授業中の小テストやレポートなどの課題３０%、筆記試験７０%によって評価する。

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	◎	○		

関連科目	
その他	◇学習目標 高齢者の特徴、高齢者看護の目的を理解し、高齢者看護の方法を身につける。また、高齢者をとりまく制度や施策に関する知識を深める。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 60 時間
実務経験を活かした教育内容	病院での看護師の経験があり、老年期にある患者の看護実践の経験を活かして講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-212 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-22 （J）	授業コード	HB1760
科目名称	老年看護学方法論			単位数	2.00 単位
英文名称	Gerontological Nursing			授業区分	演習
科目責任者	武田　藍			必修・選択	必修
担当教員	武田・成瀬・松戸・上條			開講時期	2 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	健康障害や生活障害を持つ高齢者への看護実践のために、学んだ知識を統合しながら、アセスメントから実施・評価に至る老年看護の看護過程を展開する方法を学ぶ。また、科学的根拠と高齢期の対象者の状況理解に基づいて、臨床看護実践で必要とされる基本的な看護技術について学習する。				
到達目標	1.高齢者の全体像をアセスメントするための視点を述べることができる。 2.健康障害や生活障害をもつ高齢者のアセスメントができる。 3.アセスメントに基づいて、個々の高齢者にあった看護計画の立案ができる。 4.高齢期の対象者への看護実践で必要とされる嚥下・食・排泄・清潔・生活リズムなどへの援助について、基本的な看護技術が習得できる。 5.実施場面のロールプレイを通して、ケアを評価できる。 6.一連の学習過程を通して、老年看護の実践に必要な知識・技術・態度の習得にむけた自己課題を述べることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1、2	1 回目：ガイダンス 2 回目：老年看護学における看護実践の特徴と看護過程 成瀬　早苗、武田　藍、松戸　典文	授業の進め方 看護過程とは 演習ミニ事例の患者紹介・病態生理 排泄ケア・移乗介助 教科書「看護がみえる vol.4 看護過程の展開」、「看護がみえる vol.①基礎看護技術」（基礎看護方法論教科書の使い方）を持参すること	講義・演習 予習：老年看護学概論の復習 事前課題：日常生活援助技術の基本的手順の整理 復習　学習内容を整理し、疑問点を解決しておく
3、4	老年看護の展開のためのアセスメントの基本と実践① 成瀬　早苗、武田　藍、松戸　典文	排泄ケア GW　対象者の状況に合わせた排泄ケアを考え、実施・評価してみる	講義・演習 予習：援助技術の事前課題 復習：授業内容を整理し、学習を発展させるための自己課題を明らかにする
5、6	老年看護の展開のためのアセスメントの基本と実践② 成瀬　早苗、武田　藍、松戸　典文	移乗介助 GW　対象者の状況に合わせた移乗介助を考え、実施・評価してみる	演習 予習　援助技術の事前課題 復習　授業内容を整理し、学習を発展させるための自己課題を明らかにする
7、8	老年看護の展開のためのアセスメントの基本と実践③ 松戸典文、非常勤講師	栄養管理 嚥下機能	講義・演習 予習　援助技術の事前課題 復習　学習内容を整理し、疑問点を解決しておく 課題：調理課題あり
9、10	老年看護の展開① 武田藍	看護過程 事例紹介、病態生理、アセスメントの視点の概要（ゴードンの 11 の機能的健康パターン）	講義・演習 予習　教科書「看護過程の展開」p54-69 を読んでくる 復習　学習内容を整理し、疑問点を解決しておく
11、12	老年看護の展開② 武田藍	健康知覚-健康管理パターン 栄養-代謝パターン、排泄パターン	講義・演習 予習　紹介された事例について、分からない用語などを調べておく 復習　学習内容を整理し、疑問点を解決しておく
13、14	老年看護の展開③ 武田藍	活動-運動パターン、睡眠―休息パターン、認知-知覚パターン、自己知覚-自己概念パターン、役割―関係パターン	講義・演習 予習　紹介された事例について、分からない用語などを調べておく 復習　学習内容を整理し、疑問点を解決しておく
15、16	老年看護の展開④ 武田藍	セクシュアリティ-生殖パターン、コーピング-ストレス耐性パターン、価値-信念パターン	講義・演習 予習　紹介された事例について、分からない用語などを調べておく 復習　学習内容を整理し、疑問点を解決しておく 課題：アセスメントの統合の課題あり

17、18	老年看護の展開⑤ 武田藍	全体像（アセスメントの統合）、プロブレムリスト、看護計画	講義・演習 予習　教科書「看護過程の展開」p 36～166 を読んでおく 復習　学習内容を整理し、疑問点を解決しておく
19、20	老年看護の展開⑥ 武田藍	具体的な援助行動計画、評価（SOAP）、サマリー 教科書「看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント」（基礎看護方法論Ⅱ）を持参する	講義・演習 予習　教科書「看護過程の展開」p 36～166 を読んでおく 復習　学習内容を整理し、疑問点を解決しておく
21、22	老年看護の展開⑦ 成瀬　早苗、武田藍、松戸　典文	バイタルサインの観察 GW　看護過程でアセスメントしてきた事例について、その状態を把握し、様々なケアについての判断をするための観察項目・方法を考え、実施・評価してみる	講義・演習 予習　援助技術の事前課題 復習　学習内容を整理し、疑問点を解決しておく
23	老年看護の専門性 まとめ 武田　藍	老年看護の専門性 CNS 特別講義（ゲストスピーカー） まとめ	講義 予習　老人看護専門看護師について調べる 復習　学習内容を整理し、疑問点を解決しておく 課題　レポート「私が考える老年看護の専門性」

授業開始前学習	◇準備学習 シラバスを参考に、老年看護学概論をはじめ、基礎看護方法Ⅰ、病態生理学、疾病と治療Ⅰで学習した内容を十分復習し、さらに、基礎看護方法Ⅱ・Ⅲ、看護過程の基礎の学習内容と関連付けながら学習を進めること。春休みの課題に各自でしっかり取組んでおくこと。 ◇学習上の留意点 ・積極的に授業に参加すること。 ・グループワークを行う機会が多いので、自分の考えをもち他者にきちんと伝える力、他者の多様な意見を受け入れながら、課題解決に向けてグループメンバーと協力して取り組む姿勢を身に着けて欲しい。
授業内課題のフィードバックの方法	初回授業で説明する
テキスト・教材	医療情報科学研究所編：『看護がみえる vol.4　看護過程の展開』（メディックメディア） 専門分野Ⅱ　老年看護学（医学書院） 専門分野Ⅱ　老年看護病態・疾患論（医学書院）
参考書	医療情報科学研究所編：『看護がみえる vol.1　基礎看護技術』（メディックメディア） 医療情報科学研究所編：『看護がみえる vol.3　フィジカルアセスメント』（メディックメディア）
評価の基準と方法	授業中の課題やレポートなど５０％、筆記試験５０％によって評価する。

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		○	◎	○	

関連科目	
その他	◇学習目標 健康障害や生活障害持つ高齢者の QOL 向上のためのアセスメントの視点について理解し、看護実践のための計画立案の仕方や具体的な看護の方法を習得する。
予習・復習の所要時間	講義時間 46 時間＋予習・復習時間 44 時間
実務経験を活かした教育内容	担当する全教員が病院での看護師の経験があり、老年期にある患者の看護実践の経験を活かして講義する。

科目分類（2025年～入学者）	NU-M-213 （J）	科目分類（～2024年入学者）	310-311-32 （J）	授業コード	HB1370
科目名称	老年看護学実習Ⅰ			単位数	1.00 単位
英文名称	Gerontological Nursing Practicum Ⅰ			授業区分	実習
科目責任者	武田 藍			必修・選択	必修
担当教員	武田・成瀬・松戸			開講時期	2 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	地域で生活する高齢者の発達段階と加齢現象を理解する。また、施設内で行われているさまざまなサービスや活動を通して、高齢者の活動の実際および医療・保健・福祉の連携を理解する。地域で生活する高齢者の自立・自律支援に関わる援助を指導者とともに実施することを通して、保健・医療・福祉チームの一員として、施設における看護職の役割、連携の実際、高齢者の地域での生活を支える社会資源の活用方法について学習する。実習を通して高齢者への関心を高め、高齢者を個人として尊重する態度を身につける。				
到達目標	1. 高齢者とのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを成立させるための技術を学び、記述できる。 2. 地域で生活する高齢者の特徴を身体的・精神的・社会的な面から把握し、列挙できる。 3. 地域で生活する高齢者の自立・自律支援に関わる援助を指導者とともに実施できる。 4. 保健・医療・福祉ﾁｰﾑの一員として、施設における看護職の役割、連携の実際について学び、説明できる。 5. 高齢者の地域での生活を支える社会資源の活用方法について学び、具体的に述べることができる。 6. 高齢者への関心を高め、高齢者を個人として尊重する態度を示				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
第 1 週	武田 藍 松戸 典文 成瀬 早苗	実習前ガイダンス 実習に臨むための諸注意 実習施設の機能と役割を理解するために、高齢者の地域での生活を支える社会資源ついて事前学習を行う。 1 日目（月曜日） オリエンテーション、施設実習 施設オリエンテーションをうけ、施設の社会的な役割、理念、特徴、サービスの概要について知る。また、サービス提供をしている多職種について、その役割と連携について知る。 高齢者とのコミュニケーションをとる。 2-4 日目（火～木曜日） ・高齢者とコミュニケーションをとりながら、高齢者自身の思いに触れる。 ・	授業方法：臨地実習 事前課題： ①授業で学習した内容から、実習施設について介護保険制度上のサービスの種類、対象者、規程などについて調べてまとめておく。 ②今までの実習で明確になった自分の課題や、自分でこの実習で到達したいと考えている目標、高齢者とコミュニケーションを取ることに対し、どのような点に配慮しようと考えているかを指定の用紙に記載し、実習初日に提出する 実習中は日々の学びを指定の記録用紙に記入し、原則当日実習時間終了時に指導者に提出する。 実習終了時には、初日から今まで学んだ成

授業開始前学習	老年看護学概論で学習した内容を十分復習して実習に臨む。			
授業内課題のフィードバックの方法	記録用紙については、日々口頭で、あるいは文章で、個々にコメントをおこなう。 また、カンファレンスを通して、実習グループ全体で学びが深められるように振返りの機会を提供する。			
テキスト・教材	特になし			
参考書	老年看護学概論で使用した教科書。			
評価の基準と方法	実習評価に基づいて評価する。			
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	○	○	◎
関連科目								
その他	◇学習目標 地域で生活する高齢者の発達段階と加齢現象を理解する。また、施設内で行われているさまざまなサービスや活動を通して、高齢者の活動の実際および医療・保健・福祉の連携を理解する。 ◇学習上の留意事項 生活リズムをととのえ健康管理をしっかりとおこなうことで、欠席しないようにする。 実習施設や高齢者の方々のご協力を得て成立している授業であることを念頭に置き、常に感謝の気持ちをもって、積極的・自主的に実習に臨んでほしい。							
予習・復習の所要時間								
実務経験を活かした教育内容	担当する全教員が病院での看護師の経験があり、老年期にある患者の看護実践の経験を活かして、実習指導をおこなう。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-313 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-33 （J）	授業コード	HB1385
科目名称	老年看護学実習Ⅱ			単位数	2.00 単位
英文名称	Gerontological Nursing Practicum Ⅱ			授業区分	実習
科目責任者	松戸　典文			必修・選択	必修
担当教員	武田・成瀬・松戸			開講時期	3 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	健康障害により施設内で療養生活を送る老年期にある対象や取り巻く人々の特性を理解し、看護過程の展開を通して老年期にある対象への看護が実践できる基礎的能力を身につける。療養施設で療養生活を送る高齢者の健康上の問題解決に必要なアセスメントをし、計画に基づいた具体的な援助の実施を通し、老年期にある患者とその家族への看護の方法を学習する。保健医療チームの一員として果たす役割を学習する。自己の看護観の確立に向けて、実施した看護を振り返り自己の学習課題を明らかにする。				
到達目標	1. 施設で療養生活を送る高齢者の特徴を知り、生活者として把握するための情報を多様な視点で記述することができる。 2. 受持ち患者との援助関係を通し、健康上の問題解決に必要なアセスメントを記述できる。 3. 患者の個別性と生活の質を考慮した援助計画を立案することができる。 4. 具体的な援助の実施を通し、高齢者への看護ケアに必要な技術と姿勢・態度を記述できる。 5. 保健医療チームの一員として果たす役割を説明できる。 6. 自己の看護観の確立に向けて、実施した看護を振り返り自己の学習課題を具体的				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1 週目	(新任教員) 松戸典文 武田　藍	1 日目(施設)　施設オリエンテーション、病棟オリエンテーション、受持ち患者の選定および挨拶、同意書の取得、コミュニケーション、情報収集 2 日目(施設)　受持ち患者とのコミュニケーションや記録物を通して情報収集やアセスメントを行い、受持ち患者の病態生理や全体像が理解できる。Vital sign 測定および環境整備の自立チェック 3 日目(施設)　受持ち患者とのコミュニケーションや、指導者・スタッフと共に受持ち患者のケアに参加する。カンファレンスにて受持ち患者の看護上の課題を発表して、指導者からコメントを貰う	授業方法：臨地実習 事前課題： ①老年看護学概論および老年看護学方法論で学習した知識と技術を復習しておく。 ②実習記録用紙「患者基本情報」の検査値の基準値を調べて記載しておく。 ③老年看護学方法論で学習した手順書を準備して復習しておく。 実習中： 「日々の記録」は毎日記載して、翌実習日の朝に担当教員に提出する。 受持ち患者とのコミュニケーション、電子カルテ、紙媒体、実習指導者などから情報収集を行い、適宜担当教員の指導を受けながら内容の精度を高めていく。 自宅課題： ①「患者基本情
2 週目	(新任教員) 松戸典文 武田　藍	6・7 日目(施設)　修正した看護計画を指導者や教員に確認して貰い、看護計画に基づいたケアを実施する。また、実施した看護計画の評価・修正(必要時)を行う。看護計画の評価を行う 8 日目(施設)　看護計画に基づいたケアを実施する。また、実施した看護計画の評価・修正(必要時)を行う。看護計画の評価を行う。看護サマリーを作成する 9 日目(施設)　最終カンファレンスにて看護サマリーの発表を行う。受持ち患者、病棟、看護部に実習最終日の挨拶を行う 10 日目(学内)　学内で実習記録の整理をし、実習のまとめ、自己評価を	1.実習中の学びは「日々の記録」に記載し、翌実習日の朝に担当教員に提出する 2.看護計画に基づいたケア実施・評価・修正については、日々の記録に記載して適宜教員の指導を受ける 3.受持ち患者について看護サマリーにまとめ、施設実習最終日のカンファレンスで発表をする 4.施設実習終了後に自己評価表を記入して、学内で担当教員と評価面談を行う 5.実習記録一式、自己評価表を提出する

授業開始前学習	◇準備学習 老年看護学概論、老年看護学方法論で学習した内容を十分復習して実習に臨む ◇学習上の留意点 生活リズムを整え健康管理を十分に行い、欠席しないようにする 老年看護学実習Ⅰでの学びを生かし、さらに高い倫理観をもって真摯な姿勢で実習に取り組む
授業内課題のフィードバックの方法	記録用紙については、日々口頭または文章で、個々にコメントをおこなう カンファレンスを通して、実習グループ全体で学びが深められるように振返りの機会を提供する

テキスト・教材	看護が見える vol.4 看護過程の展開(メディックメディア)							
参考書								
評価の基準と方法	実習評価表に基づいて評価する							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	△	○	◎
関連科目								
その他	◇学習目標 健康障害により施設内で療養生活を送る老年期にある対象や取り巻く人々の特性を理解し、看護過程の展開を通して老年期にある対象への看護が実践できる基礎的能力を身につける							
予習・復習の所要時間								
実務経験を活かした教育内容	担当する全教員が病院での看護師の経験があり、老年期にある患者の看護実践の経験を活かして、実習指導をおこなう							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-313 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-33 （J）	授業コード	HB1380
科目名称	老年看護学実習Ⅱ			単位数	3.00 単位
英文名称	Gerontological Nursing Practicum Ⅱ			授業区分	実習
科目責任者	松戸　典文			必修・選択	必修
担当教員	武田・成瀬・松戸			開講時期	3 年後期～4 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	健康障害により施設内で療養生活を送る老年期にある対象や取り巻く人々の特性を理解し、看護過程の展開を通して老年期にある対象への看護が実践できる基礎的能力を身につける。療養施設で療養生活を送る高齢者の健康上の問題解決に必要なアセスメントをし、計画に基づいた具体的な援助の実施を通し、患者とその家族への看護の方法を学習する。保健医療チームの一員として果たす役割を学習する。自己の看護観の確立に向けて、実施した看護を振り返り自己の学習課題を明らかにする。				
到達目標	1．療養施設で療養生活を送る高齢者の特徴を知り、生活者としての全体像を列挙できる。 2．患者を受け持ち、援助関係を通し健康上の問題解決に必要なアセスメントを記述できる。 3．患者の個別性と生活の質を考慮した援助計画を立案することができる。 4．具体的な援助の実施を通し、高齢者への看護ケアに必要な技術と姿勢・態度を記述できる。 5．保健医療チームの一員として果たす役割を説明できる。 6．自己の看護観の確立に向けて、実施した看護を振り返り自己の学習課題を具体的に記述することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1 週目	(新任教員) 松戸典文 武田藍	実習前：学内オリエンテーション 1 日目　学内オリエンテーション、リーダー・書記の選出、事前学習(病態生理の学習など)を行う 2 日目　施設オリエンテーション、病棟オリエンテーション、受持ち患者の選定および挨拶、同意書の取得、コミュニケーション、情報収集 3 日目　受持ち患者とのコミュニケーションや記録物の確認を通して、情報収集やアセスメントを行い、看護上の課題を抽出する 4 日目　受持ち患者とのコミュニケーションや、指導者・スタッフと共に受持ち患者のケアに参加する。看護問題の抽出 5 日目　受持ち患	授業方法：臨地実習 事前課題：老年看護学Ⅰ、Ⅱで学習した知識と技術を復習しておく。 実習中は日々の学びを指定の記録用紙に記入し、翌実習日の朝に担当教員へ提出する。 情報収集、アセスメント、全体像、看護上の課題、看護計画はそれぞれ指定の用紙に記入し、適宜担当教員の指導を受け、内容の精度を高めていく。 一週目のまとめとして、一連のアセスメントに基づいた看護計画を立案する。
2 週目	(新任教員) 松戸典文 武田藍	6、7 日目　修正した看護計画を指導者や教員に確認して貰い、看護計画に基づいたケアを実施する。また、実施した看護計画の評価・修正(必要時)を行う 8 日目　学内にて実習記録の整理を行う。担当教員と中間面接を行い、実習後半に向けての課題を明確にする。看護計画の評価を行う 9 日目　修正した看護計画を指導者や教員に確認して貰い、看護計画に基づいたケアを実施する。また、実施した看護計画の評価・修正(必要時)を行う 10 日目　修正した看護計画を指導者や教員に確認して貰い、看護計画に基づいたケアを実施する。また、実	実習中は日々の学びを指定の記録用紙に記入し、翌実習日の朝に担当教員に提出する。 日々の学びの記録用紙には、看護計画に基づいたケア実施についての記録を含む。 指定の実習評価表を用いて、実習中間の自己評価をおこない、教員と面談する際に持参する。
3 週目	(新任教員) 松戸典文 武田藍	11～13 日目　修正した看護計画を指導者や教員に確認して貰い、看護計画に基づいたケアを実施する。また、実施した看護計画の評価・修正(必要時)を行う。看護計画の評価を行う。受持ち患者の看護サマリーを作成する 14 日目　最終カンファレンスにて看護サマリーの発表を行う。受持ち患者、病棟、看護部に実習最終日の挨拶を行う 15 日目　学内で実習記録の整理をし、実習のまとめ、自己評価を行う。担当教員と評価面談を行い、実習記録物を提出する	実習中は日々の学びを指定の記録用紙に記入し、翌実習日の朝に担当教員に提出する。 日々の学びの記録用紙には、看護計画に基づいたケア実施についての記録を含む。 看護計画の評価は、看護計画用紙の所定の欄に記入し、適宜教員の指導を受ける。 実習で受け持った患者について看護サマリーにまとめ、施設実習最終日の反省会で発表する。 施設実習終了後に、自己評価表を記入し学内の最終(評価)面談に備える。 実習記録一式、自己評価表を提出する。

授業開始前学習	◇準備学習 老年看護学Ⅰ、老年看護学Ⅱで学習した内容を十分復習して実習に臨む。 ◇学習上の留意点 生活リズムをととのえ健康管理をしっかりとおこなうことで、欠席しないようにする。 老年看護学実習Ⅰでの学びを生かし、さらに高い倫理観をもって真摯な姿勢で実習に取り組む。							
授業内課題のフィードバックの方法	記録用紙については、日々口頭または文章で、個々にコメントをおこなう。 また、カンファレンスを通して、実習グループ全体で学びが深められるように振返りの機会を提供する。							
テキスト・教材	看護がみえる vol.4 看護過程の展開(メディックメディア)							
参考書								
評価の基準と方法	実習評価表に基づいて評価する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	○	○	◎
関連科目								
その他	◇学習目標 健康障害により施設内で療養生活を送る老年期にある対象や取り巻く人々の特性を理解し、看護過程の展開を通して老年期にある対象への看護が実践できる基礎的能力を身につける。							
予習・復習の所要時間								
実務経験を活かした教育内容	担当する全教員が病院での看護師の経験があり、老年期にある患者の看護実践の経験を活かして、実習指導をおこなう。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-211 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-12 （J）	授業コード	HB0735
科目名称	小児看護学概論			単位数	2.00 単位
英文名称	Introduction to Child Health Nursing			授業区分	講義
科目責任者	秋田　由美			必修・選択	必修
担当教員	秋田・橋浦			開講時期	2 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	多様化している現代において、子どもが健やかにこころと身体を育んでいくことができるような援助を行うために、小児看護の理念、各発達段階における子どもの身体・心理・社会的特徴とその影響因子、発達の評価、家族の特徴、子どもと家族を取り巻く環境と社会の変化等を学び、小児看護の基礎となる考え方を学習する。また、健康に育つための日常生活の世話の原則と方法を学ぶ。				
到達目標	1.子どもの看護をする上で必要な理念、看護者の姿勢について述べることができる。 2.小児看護の目標、対象、特徴について説明ができる。 3.子どもにとっての家族、家族にとっての子どもについて、自分の考えを述べることができる。 4.子どもの成長発達の原理原則と成長過程について説明ができる。 5.各発達段階の子どもの特徴を形態的・機能的・心理社会的側面から具体的に説明できる。 6.子どもの発達課題・成長発達の評価方法について説明できる。 7.子どもにとっての栄養の重要性および各期の栄養の特徴について				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	小児看護学ガイダンス・小児看護学の概要 秋田　由美	４年生までの小児看護学の学習の組み立て 子どもとは、小児看護とは何か 小児看護実践者としての姿勢、大切にしたいこと 子どもの権利	講義 予習：教科書第 1 部第Ⅰ章 P3~12、P160～171 を熟読し、大切だと思うところにアンダーラインを引く。 復習：教科書・資料の整理 課題 1：子どもの成長発達一覧表配布
2	子どもの成長発達 1 原理・原則・評価 秋田　由美	新生児期から思春期までの成長発達の原理・原則と成長過程および発達評価の概要	講義・ディスカッション・発表 予習：教科書第 1 部第Ⅲ章 65～93 を熟読し、大切だと思うところにアンダーラインを引く。講義資料記載の事前学習を行う。 復習：課題 1 の該当部分を整理する。 課題 2 ：育児経験インタビューレポート
3	子どもの成長発達 2 新生児・乳児 秋田　由美	新生児・乳児期の形態的・機能的・心理社会的発達の特徴	講義・ディスカッション・発表 予習：教科書第 1 部第Ⅲ章 P 96～120 を熟読し、大切だと思うところにアンダーラインを引く。講義資料記載の事前学習を行う。 復習：課題 1 の該当部分を整理する。
4	子どもの成長発達 3 幼児期 秋田　由美	幼児期の形態的・機能的・心理社会的発達の特徴	講義・ディスカッション・発表 予習：教科書第 1 部第Ⅲ章 P 121～131 を熟読し、大切だと思うところにアンダーラインを引く。講義資料記載の事前学習を行う。 復習：課題 1 の該当部分を整理する。
5	子どもの成長発達 4 学童・思春期 秋田　由美	学童・思春期の形態的・機能的・心理社会的発達の特徴	講義・ディスカッション・発表 予習：教科書第 1 部第Ⅲ章 P 132～157 を熟読し、大切だと思うところにアンダーラインを引く。講義資料記載の事前学習を行う。 復習：課題 1 の該当部分を整理する。
6	子どもの遊びと学習 秋田　由美	子どもにとっての遊びの意義と発達、学習の意義とその援助	講義・ディスカッション・発表 予習：教科書第 1 部第 1 章 P12～17 を熟読 し、大切だと思うところにアンダーラインを引く。講義資料記載の事前学習を行う。 復習：課題 1 の該当部分を整理する。
7	子どもの安全と環境 秋田　由美	子どもに起こりやすい事故の特徴と成長発達・ 環境との関連、事故を予防するための看護	講義・ディスカッション・発表 予習：教科書第 1 部第Ⅱ章 P26～29、49～51、第Ⅳ章 P187 を熟読し、大切だと思うところにアンダーラインを引く。講義資料記載の事前学習を行う。 自分自身またはきょうだい等の事故・外傷のエピ ソードを記述する。 復習：子どもの事故を成長発達・環境と関連づけて整理し、予防策を考える。

8	子どもと家族 橋浦　里実	子どもにとって家族とは何か、子どもと家族を取り巻く社会背景と家族の状況、育児経験インタビュー振り返り	講義・ディスカッション 予習：教科書第１部第Ⅰ章Ｐ18～21 を熟読し、課題２：育児経験インタビューレポートを振り返る。 復習：教科書・資料の整理
9	特殊な状況にある子ども 橋浦　里実	虐待・災害が子どもと家族に与える影響	講義・ディスカッション 予習：教科書第１部第Ⅴ章 P206～223 を熟読し、大切だと思うところにアンダーラインを引く。 復習：教科書・資料の整理
10	子どもの日常生活の援助１ 秋田由美	基本的生活習慣の自立の過程および自立を促す援助（食事）	講義・ディスカッション・発表 予習：教科書第１部第Ⅲ章の食事の援助について熟読し、大切だと思うところにアンダーラインを引く。講義資料記載の事前学習を行う。 復習：課題１の該当部分を整理する。
11	子どもの日常生活の援助２ 秋田由美	基本的生活習慣の自立の過程および自立を促す援助（休息と睡眠、排泄）	講義・ディスカッション・発表 予習：教科書第１部第Ⅲ章の休息と睡眠、排泄の援助について熟読し、大切だと思うところにアンダーラインを引く。講義資料記載の事前学習を行う。 復習：課題１の該当部分を整理する。
12	子どもの日常生活の援助３ 秋田由美	基本的生活習慣の自立の過程および自立を促す援助（衣服、清潔）	講義・ディスカッション・発表 予習：教科書第１部第Ⅲ章衣服、清潔の援助について熟読し、大切だと思うところにアンダーラインを引く。講義資料記載の事前学習を行う。 復習：課題１の該当部分を整理する。 課題３：技術演習学習ノート
13	子どもの日常生活の援助４ 秋田　由美　橋浦　里実	技術演習 子どもの抱っこ、寝かせ方、着替え、授乳の演習	技術演習 予習：教科書第２部第Ⅸ章 P424～428、453～454、472 を熟読し、課題３技術演習ノートを整理する。 復習：課題３技術演習ノートに追加修正をする。
14	子どもの今・子どもの健康と保健統計１ 橋浦　里実	子どもの健康問題の特徴、小児保健統計、小児保健政策・学校保健	講義・グループワーク 予習：教科書第１部第Ⅱ章Ｐ23～63 を熟読し、大切だと思うところにアンダーラインを引く。 復習：各グループ指定の項目について調べ、整理し、発表できるように準備する。
15	子どもの今・子どもの健康と保健統計２ 橋浦　里実	子どもの健康問題の特徴、小児保健統計、小児保健政策・学校保健	発表 予習：各グループ指定の項目について調べ、整理し、発表できるように準備する。 復習：発表されたすべての項目について、要点を整理する。

授業開始前学習	関連する他の科目（生涯発達学、人体の構造と機能ⅠとⅡ、栄養学）を復習しておきましょう。
授業内課題のフィードバックの方法	・課題１、２、３は、評価対象となります。その他の課題について詳細は授業初回のガイダンスにて説明をします。
テキスト・教材	二宮啓子、今野美紀編著『看護学テキスト NiCE　小児看護学Ⅰ　小児看護学概論・小児看護技術　子どもと家族を理解し力を引き出す』南江堂
参考書	講義の中で提示する。
評価の基準と方法	課題 40%、定期試験 60%

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△		△	◎	○		

関連科目	生涯発達学、人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ、栄養学
その他	予習を前提として授業を進行します。予習は必ず行ってきてください。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 60 時間
実務経験を活かした教育内容	本科目の担当教員は、小児看護の実務経験を有している。その経験を活かし、子どもとその家族に興味関心が持てるように、小児看護の理念・小児看護を実践する上で必要な知識と考え方等について講義・ディスカッション・発表・技術演習を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-312 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-23 （J）	授業コード	HB0745
科目名称	小児看護学方法論			単位数	2.00 単位
英文名称	Child Health Nursing			授業区分	演習
科目責任者	秋田 由美			必修・選択	必修
担当教員	秋田・橋浦・小沢			開講時期	3 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	さまざまな健康レベルにある子どもと家族が体験している状況に対して適切な援助を行うために、病気や入院が子どもと家族に及ぼす影響、子どものフィジカルアセスメント、子どもによくみられる症状、さまざまな状況および健康レベルにある子どもと家族への援助など基礎的な知識・援助方法を習得する。また、事例を用いた看護過程をとおして子どもや家族の抱えている問題・課題の解決に必要な思考を身につけるとともに、主体的にものごとに取り組む姿勢や自己洞察力を培い、小児看護の果たす役割を理解する。				
到達目標	1.健康障害や入院が子どもと家族に与える影響について述べることができる。 2.子どものヘルスアセスメントを正確に実践できる。 3.子どもとのコミュニケーションの目的・方法を述べ、実践できる。 4.子どもによく見られる症状と、それに対する看護について述べることができる。 5.さまざまな状況や健康レベルにある子どもと家族の状況を理解し、ニーズを充足するための看護を説明することができる。 6.演習事例の子どもの発達的特徴をふまえ、疾患・治療が子どもと家族に与えている影響を記述することができる。 7				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1・2	①健康障害を持ち生活・入院する子どもと家族の看護 ②さまざまな状況にある子どもと家族の看護 秋田由美	①ガイダンス 小児看護とは 小児病棟の特徴、起こりやすい事故とその予防 ②子どものヘルスアセスメントの特徴と実施方法（身体発育・発達のアセスメント、SOAP の書き方）	①授業方法：講義、ディスカッション 予習：教科書①Ⅰ章 1（p1-9）、Ⅳ章（p 159-193）を熟読し、大切だと思うところに印をつける。そのうえで小児看護・小児医療において大切なことは何か、自分の考えを記述してくる。 復習：教科書②Ⅱ章 3（p32-47）を熟読し、大切だと思うところに印をつける。その上で、授業資料の復習課題を行う。 ②授業方法：講義 予習：教科書③Ⅱ章 2（診察技術：p78-83）、教科書①Ⅶ章（p283-340）とⅥ章 1（p226-229）を熟読し、大切だと思うところに印をつけ
3・4	③④小児看護技術演習 秋田由美 橋浦里実、他	乳幼児の身体計測、おむつ交換、ベッド柵の取り扱い、子どもの VS 測定など小児特有の看護技術	授業方法：技術演習、グループワーク 予習：ビジュランクラウド「看護」→「小児のフィジカルアセスメント」→「乳児～6 か月のフィジカルアセスメントを中心に（約 30 分）」を視聴し、技術演習のイメージをしておく。 復習：事前課題のケア計画に追加修正し、自己のケア計画に何が不足していたのかを整理する。実施後のアセスメント・評価を記載し、レポートする。
5・6	⑤さまざまな状況にある子どもと家族の看護 秋田由美 ⑥健康障害をもち生活・入院する子どもと家族の看護 本学短大保育科 准教授 上出香波先生（ゲストスピーカー）	⑤診断・治療にともないさまざまな制限をうける子どもや検査や処置を受ける子どもと家族への看護 ⑥小児医療における保育・遊び	⑤授業方法：講義・ディスカッション 予習：教科書③Ⅱ章 3・4（検査・薬物療法：p84-98）、教科書②Ⅱ章 2（p22-31：検査・処置）、5（p56-60：薬物療法）、9（p78-85：活動制限・隔離）、教科書②Ⅲ章事例 7（髄膜炎：p176-184）を熟読し、大切だと思うところに印をつける。 復習：教科書①Ⅷ章：341-420（検査・処置技術）及び授業資料を基に、病院で実施されている子どもの検査や処置の種類とその方法を整理し、それらが子どもにとってどういう体験かを考える。 ⑥授業方法：講義・デ

7･8	健康障害をもち生活・入院する子どもと家族の看護 ⑦ゲストスピーカー・橋浦里実 ⑧橋浦里実	⑦心身障害をもつ子どもと家族の看護Ⅰ ⑧先天的な健康障害をもつ子どもと家族の看護（ハイリスク新生児含む）	⑦授業方法：講義 予習：ビジュランクラウド「看護→ライフヒストリー　Vol.3」を視聴する。教科書①Ⅴ章 1（身体障害：p196-199）、②Ⅱ章 11（在宅療養：p86-95）を熟読し、事前学習課題を行う。 復習：教科書・講義資料を確認し、重症心身障害児に生じやすい合併症について、整理する。障害をもつ子どもと家族への看護について自分の考えをまとめる。 ⑧授業方法：講義 予習：教科書③Ⅲ章（染色体異常：p110-122）を熟読し 、事前学習課題を行う。ビジュランクラウド「看護→目で見る新生児看護
9･10	⑨健康障害をもち生活・入院する子どもと家族の看護 橋浦里実 ⑩さまざまな状況にある子どもと家族の看護 秋田由美	⑨心身障害をもつ子どもと家族の看護Ⅱ ⑩手術を受ける子どもと家族への看護（痛みの看護を含む）	⑨授業方法：講義、ディスカッション 予習：第 7 回講義資料、教科書①Ⅴ章 1(身体障害：p195-200）、Ⅵ章 9（けいれん:p273-280）、教科書②Ⅱ章 6（リハビリテーション：p61-65）、Ⅲ章事例 20（脳性麻痺：p326-338）、③Ⅲ章 5-3（脳性麻痺：p177-179）を熟読し、事前課題を行う。 復習：教科書②Ⅲ章事例 20（脳性麻痺：p326-338）を再度復習し、事後課題を行う。障害児や医療的ケア児に対して行われる医療的ケアについて、学習課題を行い期日までに提出する。 ⑩授業方法：講
11･12	健康障害をもち生活・入院する子どもと家族の看護 秋田由美	⑪子どもによくみられる症状（下痢・嘔吐・脱水）の発生機序及び子どもへの影響とその看護 ⑫小児看護過程（ガイダンス、情報の整理～様式 6 までの書き方）	⑪授業方法：講義、ディスカッション 予習：教科書①Ⅵ章 4･5･6（脱水・嘔吐・下痢：p242-259）、教科書②Ⅲ章 11（胃腸炎：p217-225）、教科書③Ⅲ章 3-1（感染性胃腸炎：p297-299）を熟読し、予習課題学習を行う。 復習：教科書・講義資料を整理し、春休み課題ノートの胃腸炎に追加・修正する。 ⑫授業方法：講義、ディスカッション 予習：教科書②Ⅰ章（看護過程：p10-13）を熟読し、既習科目におけるアセスメント・看護過程の考え方について復習する。 復習：事例①の看護過程記入例を
13･14	健康障害をもち生活・入院する子どもと家族の看護 秋田由美	⑬子どもによくみられる症状（発熱、発疹、尿路感染）の発生機序及び子どもへの影響とその看護 ⑭子どもによくみられる症状（呼吸困難）の発生機序及び子どもへの影響とその看護	⑬授業方法：講義、ディスカッション 予習：教科書①Ⅵ章 3（発熱：p237-241）、7（発疹：260-266）、教科書③Ⅲ章 5-1（熱性けいれん：171-173）、Ⅲ章 12-3-1（川崎病：p270-272）、教科書②Ⅲ章 8（川崎病：p185-194）を熟読し、大切だと思うところに印をつける。 復習：教科書・講義資料を基に体温上昇時に体内で何が起こるのか、発疹の種類、発疹を起こす疾患について整理する。春休み課題ノートの川崎病、熱性けいれん、尿路感染症、中耳炎に追加・修正する。 ⑭授業方法：講義、
15	⑮小児看護過程演習 秋田由美 橋浦里実、他	⑮看護過程演習（アセスメント）	⑮授業方法：講義、ディスカッション 予習：事例②の様式 3･4（看護過程の情報・知識の整理）、様式 5（アセスメント）を記載する。 復習：看護過程に追加、修正をする。
16･17	子どもの看護に必要な技術 秋田由美 橋浦里実、他	子どもの安全、シーネ固定法・点滴確認、子どもの内服など小児特有の看護技術	授業方法：技術演習、グループワーク 予習：第 5 回講義で配布した資料をもとに小児特有の看護技術について整理する。 復習：上記予習の加筆・修正をする。実施後の評価をレポートする。
18･19	健康障害をもち生活・入院する子どもと家族の看護 ⑱秋田由美 ⑲橋浦里実	⑱慢性疾患をもつ子どもと家族の看護 ⑲外来における子どもと家族への看護、小児科外来の特徴	⑱授業方法：講義、ディスカッション 予習：教科書②Ⅱ章 12（慢性疾患：p96-101）、教科書③Ⅲ章 8（アレルギー：p207-213）を熟読し、事前学習課題を行う。 復習：教科書②Ⅲ章 24（アトピー性皮膚炎：p370-382）を熟読し、事後学習課題を行う。また、教科書②Ⅲ章 14（食物アレルギー：p248-257）を参照し、春休み課題ノートの食物アレルギーに、追加・修正する。 ⑲授業方法：講義、ディスカッション 予習：教科書②Ⅱ章 1 （外来：p16-21）、Ⅲ章

			29（1 型糖尿病：p426-437）
20	小児看護過程演習 秋田由美 橋浦里実、他	看護過程演習（要因探索、看護の方向性）、行動計画	授業方法：授業、ディスカッション 予習：事例②の様式 6（要因探索、看護の方向性）を記述する。 復習：事例②の様式 6（要因探索、看護の方向性）に追加・修正する。
21・22	子どもの看護に必要な技術 秋田由美 橋浦里実、他	看護過程事例の観察、環境整備など小児特有の看護技術	授業方法：シミュレーション、グループワーク 予習：事例②のケア計画を作成する。 復習：ケア計画の追加・修正、実施評価を記載する。
23	健康障害をもち生活・入院する子どもと家族の看護 秋田由美	小児がんの子どもと家族の看護、終末期にある子どもと家族の看護	授業方法：講義 予習：教科書③Ⅲ章 15-6・7、16（白血病、悪性リンパ腫、腫瘍性疾患：ｐ331-354）、教科書②Ⅲ章 17（急性リンパ性白血病：ｐ283-301）、教科書②Ⅱ章 13（終末期：p102-108）を熟読し、事前学習課題を行う。 復習：春休み課題ノートに小児がんについて、その疾患、治療、看護を追加する。

授業開始前学習	春休み課題として事前に提示された疾病と治療Ⅳ（小児分）の復習とケア計画の作成、知識の整理を必ず行う。							
授業内課題のフィードバックの方法	課題は授業内の発表やディスカッションで共有し、全体にフィードバックする。また看護過程はルーブリック評価を行う。							
テキスト・教材	①看護学テキスト NiCE　小児看護学Ⅰ　小児看護学概論・小児看護技術／南江堂 ②看護学テキスト NiCE　小児看護学 II　小児看護支援論／南江堂 ③看護学テキスト NiCE　病態・治療論［１４］小児疾患／南江堂							
参考書	筒井真優美　監修『小児看護実習ガイド』（照林社　2017）、その他は適宜講義内で提示する。							
評価の基準と方法	定期試験（60%）、課題内容および演習での授業態度（40%）で総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		○	◎	○	
関連科目	疾病と治療Ⅳ（小児）、小児看護学概論							
その他	予習を前提として授業を進行します。予習は必ず行ってきてください。							
予習・復習の所要時間	講義時間 46 時間＋予習・復習時間 44 時間							
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が共同で指導する科目であり、担当教員全員が小児看護の実務経験を有している。本科目では、その経験を活かし、受講生が病気や障害のある子どもと家族に対する看護を考え実践できるように、講義・ディスカッション、看護過程演習や技術演習を行う。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-313 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-33 （J）	授業コード	HB1340
科目名称	小児看護学実習			単位数	2.00 単位
英文名称	Pediatric Nursing Practicum			授業区分	実習
科目責任者	橋浦　里実			必修・選択	必修
担当教員	秋田・橋浦・小沢			開講時期	3 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	さまざまな健康レベル・発達段階にある子どもとその家族に適切な看護を展開するために、乳児、幼児、学童期にある対象の成長・発達とその家族の身体的・心理的・社会的特性を理解する。また、看護過程の展開を通して個別性を捉え、健康障害をもつ子どもとその家族に対する健康の回復、苦痛の緩和のための看護および健康教育の方法を中心に体験し学習を深める。これらの実践を通して、子どもとその家族を取り巻く保健医療チームの一員であることを自覚し、小児看護に求められる知識、技術、態度を学ぶ。				
到達目標	1） 小児の身体的・心理的・社会的特性および生活・療養環境について記述できる。 2） 小児の健康レベルに合わせた援助の必要性を考え、具体的方法を説明できる。 3） 小児の個別性に合わせ、安全安楽な看護技術を実践し、評価できる。 4） 小児看護における家族への援助の必要性を明確にし、その具体的方策を記述できる。 5） 小児が生活・療養する場における看護師・保健師の役割、他職種との連携について記述できる。 6） 自己の関わりを振り返り、今後の課題を明確に記述できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	病院実習（5 日間） 橋浦里実、秋田由美、他	１）子どもとの関わりを通して、子どもがどのようなことを感じ、思い、考えているのか、子どもの反応の意味を理解し、記述できる。 ２）子どもの基本情報、成長発達、家族背景、生活環境について情報収集し、子どもの病態・治療について知識と情報を整理できる。 ３）子どもの個別性をふまえたアセスメントをし、抽出した看護上の問題・課題を解決するための具体的目標を記述できる。 ４）抽出した看護上の問題・課題に適切な優先順位を付けるとともに、看護上の問題・課題を解決するための看護の方向性を記述できる。 ５）	4 日間病院実習、1 日学内実習を行う。 病棟実習：入院中の子どもを受け持ち、看護過程を展開し、子どもの個別性を捉え、健康の回復・苦痛の緩和を中心に看護を実践する。 外来実習：病棟で受け持ちがいなかった場合に外来実習を行う。小児科外来において、地域で生活する子どもとその家族の健康レベルに合わせた看護について学ぶ。 1 日目（臨地実習）：実習オリエンテーション、病棟オリエンテーション、受け持つ子どもの決定、情報収集 2 日目～4 日目（臨地実習）：受け持ちの情報収集・アセスメント、看護の見学・実践・評価・
2	保育所（認定こども園）実習（3 日間） 橋浦里実、秋田由美、他	１）遊びを含めた日常生活の様子から、健康な子どもの成長・発達の特徴についての学びを記述できる。 ２）健康な子どもに必要な日常生活(食事、衣服の着脱、排泄、睡眠など)支援を見学・実施し、子どもの発達や状況に合わせた関わりについて具体的に記述できる。 ３）集団生活における子どもの安全・事故防止、感染予防など健康管理および家庭との調整について理解し、学生ができる範囲で実践したことを具体的に記述できる。 ４）保育所（認定こども園）における看護師・保健師の役割についての学びを具体的に記述できる。 ５	1・2 日目：保育所（認定こども園）実習 保育所（認定こども園）内の実習担当者の指示に従って、クラスに入り子どもたちの活動に参加し、クラスの子どもと関わり、成長・発達、生活の様子を観察し、必要な生活援助を見学・実施する。看護師または保健師から保育所（認定こども園）における看護師・保健師の役割について説明を受ける。保育所（認定こども園）における感染管理・安全管理や子どもの成長発達、実施した生活援助についてディスカッションする。 3 日目：学内実習 保育所（認定こども園）実習での経験や学びを共有し、実習施設
3	障害児施設実習（2 日間） 橋浦里実、秋田由美、他	１）重症心身障害児・者が生活する環境と、重症心身障害児・者施設が持つ社会的意義を記述できる。 ２）重症心身障害が子どもとその家族に与える影響について、身体・心理・社会的側面から記述できる。 ３）重症心身障害児・者の生活の実際を記述できる。 ４）重症心身障害児・者およびその家族に対して行われている支援の実際を記述できる。 ５）重症心身障害児・者およびその家族への看護についての学びを、実習での経験に基づき具体的に記述できる。	1 日目は障害児施設実習、2 日目は学内実習を行う。詳細は別途説明する。 ※保育所（認定こども園）実習と障害児施設実習は、異なる週の実習となり、順序も実習グループによって異なる。 予習・復習：重症心身障害児の特徴について整理する。見学した生活環境や子どもの様子、看護師による子どもや家族への援助とその際の子どもや家族の反応を実習記録用紙に整理し、自らの考えを深める。

授業開始前学習	小児看護学概論・小児看護学方法論および疾病と治療Ⅳ(小児)の内容を復習しておく。詳細な事前準備については、別途説明する。							
授業内課題のフィードバックの方法	日々の行動計画は実習開始前に教員および実習指導者が確認し、より効果的に実習を行うことができるように計画の追加修正などを促す。その他の実習記録については、実習時間内および実習終了後に思考の整理や実践の振り返りができるようにコメントし、必要に応じて面談する。							
テキスト・教材	・二宮啓子　他編集『小児看護学Ⅰ』（南江堂） ・今野美紀他編集『小児看護学Ⅱ』（南江堂） ・真部淳他編集『小児疾患』（南江堂）							
参考書	筒井真優美　監修『小児看護第２版　パーフェクト臨床実習ガイド』（照林社）など。その他は、実習オリエンテーションにて提示する。							
評価の基準と方法	病院実習 50%、保育所（認定こども園）実習 25%、障害児施設実習 25%							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	○	○	◎
関連科目	疾病と治療Ⅳ（小児） 小児看護学概論 小児看護学方法論							
その他								
予習・復習の所要時間								
実務経験を活かした教育内容	担当教員全員が小児病棟での看護師としての実務経験を有しており、その経験を活かし学生の実習指導を行う。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-211 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-12 （J）	授業コード	HB0715
科目名称	母性看護学概論			単位数	2.00 単位
英文名称	Introduction to Maternal and Newborn and Women's Health Nursing			授業区分	講義
科目責任者	水野　真希、高山奈美、那須野順子			必修・選択	必修
担当教員	髙山・那須野・水野			開講時期	2 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	母性看護の対象はマタニティサイクルにある母子と家族だけでなく、あらゆるライフステージにある人々への性と生殖に関わる健康を支援する役割も担っている。妊娠、分娩、産褥期にある女性と胎児・新生児及びその家族（以下母子とその家族）に必要なケアを提供するために必要な周産期看護を学ぶ。また、性の健康支援に必要なライフステージにある人々への支援の在り方について学ぶ。				
到達目標	1．性の健康の概念を説明できる 2．社会、特に医療現場での性に関わる課題を説明することができる 3．子どもから高齢者までの各ライフステージにおける性の健康についての特徴を説明できる 4．それぞれのライフステージにおける疾患や障害などの健康問題と性との関連を説明できる 5．性に対する自己の価値観や態度を考察する 6．性の健康に対する支援の在り方、看護師の役割を考察する 7．日本社会でのマタニティサイクルにある母子と家族に関わる課題について説明することができる 8．マタニティサイ				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	セクシュアルヘルス１・水野	ガイダンス 性の健康の概念 人の性の成り立ちと仕組み、性の多様性	講義 予習：指定された教科書を読んでくる。 復習：配布された資料をまとめる。
2	セクシュアルヘルス２・水野	社会（特に医療現場）での性をめぐる課題や取り組み	講義 予習：指定された教科書を読んでくる。 復習：配布された資料をまとめる。
3	セクシュアルヘルス３・水野	子どもの生と sexuality education	講義 予習：指定された教科書を読んでくる。 復習：配布された資料をまとめる。
4	セクシュアルヘルス４・水野	生殖期の性の健康	講義 予習：指定された教科書を読んでくる。 復習：配布された資料をまとめる。
5	セクシュアルヘルス５・水野	疾患や障害と性の健康	講義 予習：指定された教科書を読んでくる。 復習：配布された資料をまとめる。
6	セクシュアルヘルス６・水野	疾患、治療による生殖への影響	講義 予習：指定された教科書を読んでくる。 復習：配布された資料をまとめる。
7	セクシュアルヘルス７・水野	更年期・老年期の性と健康	講義 予習：指定された教科書を読んでくる。 復習：配布された資料をまとめる。
8	セクシュアルヘルス８・水野	ライフサイクルにある人々の性と生殖に関わる法と支援体制	講義 予習：指定された教科書を読んでくる。 復習：配布された資料をまとめる。
9	セクシュアルヘルス９・水野	性と生殖をめぐる倫理的課題	ＧＷＤ（グループワークディスカッション） 予習：前回までの授業内容を見直しておく。 復習：グループワークの内容を整理しておく。
10	マタニティサイクル１・水野	母子保健の現状と課題	講義 予習：指定された教科書を読んでくる。 復習：配布された資料をまとめる。
11	マタニティサイクル２・水野	マタニティサイクルにある母子と家族に関わる法と支援体制（医療保健福祉） 1	講義 予習：指定された教科書を読んでくる。 復習：配布された資料をまとめる。
12	マタニティサイクル３・高山、那須野	マタニティサイクルにある母子と家族に関わる法と支援体制（医療保健福祉） 2	講義 予習：指定された教科書を読んでくる。 復習：配布された資料をまとめる。
13	マタニティサイクル４・水野	マタニティサイクルにある家族それぞれの発達や役割と支援の在り方	講義 予習：指定された教科書を読んでくる。 復習：配布された資料をまとめる。

14	マタニティサイクル５・水野	身体、精神、社会的にリスクを抱える母子と家族への支援	講義 予習：指定された教科書を読んでくる。 復習：配布された資料をまとめる。
15	マタニティサイクル６・水野	マタニティサイクルにある母子と家族への支援と看護師の役割	ＧＷＤ 予習：前回までの授業内容を見直しておく。 復習：グループワークの内容を整理しておく。

授業開始前学習	講義、グループワーク、ディスカッションで授業を進めていく。 授業前に教科書や配布資料を読み、事前課題をまとめ発表できるように準備をしておく。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業内でのレポート課題は課題への取り組み姿勢として評価していく。							
テキスト・教材	ナーシング・グラフィカ　概論・リプロダクティブヘルスと看護：メディカ出版 母性看護学 II　マタニティサイクル：南江堂							
参考書	授業開始時に提示していく							
評価の基準と方法	◇評価基準 ①授業態度（出席状況なども含める）及びディスカッションへの取り組み　20%・・・・相互評価表を用いて評価 ②課題への取り組み姿勢　20%・・・　同上 ③試験　60%							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△		△	◎	○		
関連科目	母性看護学方法論、母性看護学実習							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間+予習・復習時間 60 時間							
実務経験を活かした教育内容	実務経験を活かし、マタニティサイクルにある母子と家族だけでなく、あらゆるライフステージにある人々への性と生殖に関わる健康への支援を提供するための看護師の役割や必要な能力について講義をする。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-312 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-23 （J）	授業コード	HB0725
科目名称	母性看護学方法論			単位数	2.00 単位
英文名称	Maternal and Newborn Nursing			授業区分	演習
科目責任者	那須野　順子			必修・選択	必修
担当教員	髙山・那須野・水野			開講時期	3 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	マタニティサイクルにある母子と家族の身体的・心理社会的変化とその看護について学ぶ。マタニティサイクルの各期における変化を多面的に捉え、健康の維持増進、正常からの逸脱の予防および異常時の看護を学ぶ。さらに、その看護を実践するための看護技術を学修する。				
到達目標	1．マタニティサイクルにある母子と家族の身体的・心理社会的変化と適応過程から、対象の理解ができる。 2．正常な経過をたどる母子と家族への看護を理解できる。 3．正常からの逸脱および異常の状態にある母子と家族への看護を理解できる。 4．産褥期にある母子および家族の紙上事例から情報収集し、論理的に解釈・分析・統合することで、適正な看護上の課題を導き出すことができる。 さらにその課題に対して、エビデンスに基づいた目標設定・計画立案ができる。（看護過程） 5．母性看護実践のための基本的				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
第 1 回	ガイダンス ヘルスアセスメントと看護 那須野順子、髙山奈美	1．授業の進め方 2．授業内容のオリエンテーション 3．ヘルスアセスメントと看護	講義・演習 予習：事前に提示されている事前学習課題、予習資料を教科書等を熟読しながら完成させ、疑問点を挙げておく。 復習：講義資料と教科書、予習資料の該当箇所を振り返り、内容を整理する。
第 2 回～第 11 回	事例①を用いたヘルスアセスメントと看護 那須野順子、髙山奈美	事例①を用いたヘルスアセスメントとケア	講義・演習（グループワーク、ディスカッション、発表） 予習：事例①に関連する、事前に提示されている事前学習課題、予習資料を教科書等を熟読しながら完成させ、疑問点を挙げておく。 復習：講義資料と教科書、予習資料の該当箇所を振り返り、内容を整理する。
第 12 回	母性看護実践のための基本的看護技術 那須野順子、髙山奈美、水野真希	事例①を用いた各期における健康診査とケア ①妊娠期・分娩期、②産褥期、③新生児期	技術演習 予習：第 1 回～第 11 回までの講義や演習すべての復習と課題に取り組んでから、演習に臨む。 復習：演習内容から理解が不足している部分を、これまでの講義資料と教科書、予習資料を用いて補完する。
第 13 回～第 22 回	事例②を用いたヘルスアセスメントと看護 髙山奈美、那須野順子	事例②を用いたヘルスアセスメントとケア	講義・演習（グループワーク、ディスカッション、発表） 予習：事例②に関連する、事前に提示されている事前学習課題、予習資料を教科書等を熟読しながら完成させ、疑問点を挙げておく。 復習：講義資料と教科書、予習資料の該当箇所を振り返り、内容を整理する。
第 23 回	事例を用いたヘルスアセスメントと看護　総まとめ 那須野順子、髙山奈美	事例を用いたヘルスアセスメントと看護の総まとめ	講義・演習 予習：第 1 回～第 22 回の講義内容すべての復習をし、事前学習課題、予習資料を補完し、完成させる。また疑問点を挙げておく。 復習：講義資料と教科書、予習資料の該当箇所を振り返り、内容を整理する。

授業開始前学習	1．配布済みの予習資料（正常編・異常編）を用いて、予習をしておくこと。 2．講義の予定範囲について、さらに予習を行い、講義の後に必ず復習して十分理解しておくこと。 3．知識を断片的に覚えるのではなく、他の事柄とも関連して理解すること。 4．母性、小児の解剖・生理学を予習・復習すること。 5．classroom に登録し、そこから配信される事前準備を行うこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で、口頭および提出課題の添削等を通して、随時フィードバックを行う。

テキスト・教材	１．大平光子他編：『母性看護学Ⅱ　マタニティサイクル（改定第３版）』(南江堂) ２．平澤美恵子他監修：『写真でわかる母性看護技術 アドバンス』(インターメディカ) ３．中込さと子他編：『母性看護学①　概論・リプロダクティブヘルスと看護』（メディカ出版） ４．百枝幹雄他編：『看護学テキスト 病態・治療論〔13〕産科婦人科疾患』（南江堂）							
参考書	１．村越毅：『ペリネイタルケア　帝王切開バイブル』（メディカ出版） ２．太田操：『ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程　第４版』（医歯薬出版株式会社） ３．医療情報科学研究所：『病気がみえる vol10 産科第４版』（メディックメディア） ４．森恵美他著：『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学各論 母性看護学②』(医学書院)							
評価の基準と方法	定期試験（小テスト含）70%、個人課題 30% 定期試験および個人課題のそれぞれが６割を満たしたものに単位を認定する。 ＊評価対象に不正行為が認められた場合には、大学の規定に準じて評価対象外とする。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎	○	○	
関連科目	母性看護学概論 疾病と治療Ⅳ：妊娠・分娩・産褥・新生児の各期における正常・異常の病態生理についての理解が不可欠である。							
その他	１．学修内容は本シラバスのとおりだが、講義や演習日程の詳細については初日のガイダンスにて説明を行う。 ２．『事前学習課題』は評価対象となるため、提示されてから提出期限までに計画的に進めておくこと。 ３．学修する範囲が広いため、『予習資料』は講義前に必ず行ってから受講すること。 ４．事前学習課題、予習資料、講義資料等はすべて「母性看護学実習」で使用するため、整理し、ファイリングすること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 46 時間+予習・復習時間 44 時間							
実務経験を活かした教育内容	本科目は、複数の担当者がオムニバスおよび協同で行う科目であり、担当教員全員が助産師としての実務経験を有している。本科目では、その経験を生かした講義・演習を行う。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-313 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-33 （J）	授業コード	HB1330
科目名称	母性看護学実習			単位数	2.00 単位
英文名称	Maternal-Child Nursing Practicum			授業区分	実習
科目責任者	髙山　奈美			必修・選択	必修
担当教員	髙山・那須野・水野			開講時期	3 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	マタニティサイクルにある母子と家族の身体的・心理社会的変化と適応過程から対象を理解する。また臨地実習を通して、母性看護における看護師の役割を理解するとともに、対象となる母子と家族を多面的に捉え、健康を維持・増進を含めた個別性に応じた看護の在り方について学ぶ。				
到達目標	1．マタニティサイクルにある母子と家族を包括的にアセスメントし、看護上の課題から必要な看護を展開できる。 2．医療チームメンバーと適切なコミュニケーションを取り、マタニティサイクルにある母子と家族の目標達成に向けて協働することができる。 3．周産期医療に携わる医療職者としての自覚を持ち、倫理的配慮を基に責任ある行動をとることができる。 4．周産期医療に携わる看護師の役割について考えることができる。 5．実習体験をもとに、母性看護における対象者を多面的に捉え個別性のある看護の在り方を考察で				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1　週目	髙山奈美 那須野順子 水野真希	学内演習 ★演習目標 　1．母性看護における基本的な看護技術を習得する。 　2．紙上事例の母子と家族を包括的にアセスメントし、退院後に母子の健康を維持・増進するために必要な支援や、新生児を迎えた家族が安心して生活をスタートするために必要な支援を実施する。 ★演習スケジュール １日目：学内オリエンテーション　技術演習に向けた事前学習および個人課題の実施 ２日目：技術演習　①褥婦・新生児の健康診査　②授乳支援　個人課題の実施 ３日目：紙上事例の母子に対する退院支援内容の決定およびグループワーク¥	★予習 ・母性看護学実習に関連した既習学修内容（母性看護学概論、母性看護学方法論、疾病と資料Ⅳ）の知識を活用できるよう準備する。 　とくに、母性看護学方法論で取り組んだ看護過程事例の全体像を見直し、事前学習課題をブラッシュアップしておくこと。 ★授業展開：個人またはグループの課題に取り組みながら以下について実施する。 ・提示された紙上事例の母子（産褥期・新生児期）の状況を正確に判断するために必要な観察とケアを実施する。 ・提示された紙上事例の母子（産褥期・新生児期）と家族に対し、退院後に母子
2 週目	髙山奈美 那須野順子 水野真希	臨地実習 ★実習目標 　マタニティサイクルにある母子と家族の特徴を理解し、対象の個別性に応じた看護を実践できる基礎的能力を培う。	★学習方法 　実習指導者および担当教員の指導を受けながら、以下について実施する。 ・一組の母子を受け持ち、継続的に関わりながら看護過程を展開しケアを提供する。受け持ち対象は、原則、正常経過をたどると思われる経腟分娩あるいは帝王切開分娩の母子とする。 ・1 日の学生の行動計画は、あらかじめ行動計画用紙に記入しておく。これに基づいて 1 日の行動計画を発表し、実習指導者などからアドバイスを受けケアを実施する。 ・ケアを実施する際は、実習指導者あるいは担当教員とともに行い、実施後は速やかに報告をする。 ・翌

授業開始前学習	「母性看護学実習要項」をよく読んでおくこと。 「母性看護学概論」「母性看護学方法論」「疾病と治療Ⅳ」の学修内容を復習しておくこと。 classroom に登録し、そこから配信される事前準備を行い実習に臨むこと。
授業内課題のフィードバックの方法	連日、口頭・記録物添削等を通してフィードバックを行う。
テキスト・教材	母性看護学概論、母性看護学方法論、疾病と治療Ⅳで指定したテキストに準ずる
参考書	母性看護学概論、母性看護学方法論、疾病と治療Ⅳで提示したテキストに準ずる

<table>
<tr><td>評価の基準と方法</td><td colspan="8">実習評価は、実習評価表に基づき、実習目標への達成度、課題レポート、実習への取り組みかた・態度の観点から総合的に行う。
規定の出席日数を満たし実習記録を指定された期限内に提出していること、実習評価において 60 点以上の者に母性看護学実習 2 単位を認定する。</td></tr>
<tr><td>ディプロマポリシー</td><td colspan="2">人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成</td><td colspan="2">他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成</td><td colspan="2">チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成</td><td colspan="2">多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成</td></tr>
<tr><td>学修指針</td><td>教養力</td><td>人間性</td><td>コミュニケーション力</td><td>社会性</td><td>専門力</td><td>判断力</td><td>技術力</td><td>実践力</td></tr>
<tr><td>科目の該当</td><td></td><td></td><td></td><td>△</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>◎</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="8">母性看護学概論
母性看護学方法論
疾病と治療Ⅳ</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="8"></td></tr>
<tr><td>予習・復習の
所要時間</td><td colspan="8"></td></tr>
<tr><td>実務経験を活かした
教育内容</td><td colspan="8">本科目は複数の担当者が各実習施設を担当し指導する科目であり、担当教員全員が助産師としての実務経験を有している。本科目では、その経験を活かし、各学生が臨床でスムーズに学修が進むよう支援する。</td></tr>
</table>

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-211 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-12 （J）	授業コード	HB0915
科目名称	精神看護学概論			単位数	2.00 単位
英文名称	Introduction to Psychiatric and Mental Health Nursing			授業区分	講義
科目責任者	渡辺 浩美			必修・選択	必修
担当教員	渡辺 浩美			開講時期	2 年後期
オフィスアワー	前期 水曜日 12:00～15:00 後期 水曜日 10:00～13:00			研究室	1-314
授業概要	対象となる人を多角的視点から包括的に理解し、あらゆるライフステージにおける心理社会的課題をふまえ、心の健康とは何か、その維持や向上について考える。また、精神保健医療福祉の歴史的変遷、現在の地域精神保健福祉の法や制度をふまえ、精神疾患をもつ人をとりまく現状を理解し、権利擁護やソーシャルインクルージョンの実現に向けた看護の役割を考える。				
到達目標	1.こころの健康と病理を説明する医学モデル、精神分析モデル、ストレスモデルについて説明できる 2.人間がその life（生命・人生・生活）を通して歩む生涯発達のプロセスとそこで直面する多様なこころの危機について説明できる。 3.精神看護を展開する上で必要な看護理論を理解できる。 4.精神保険医療福祉の歴史および障害者の支援をめぐる法的背景を理解することを通して。障害者の人権を守る上での看護の役割について説明できる。 5.ストレングスモデルと精神障害者がその人らしい生活をおくることができるために必要な				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	本授業のオリエンテーション こころの健康の考え方 渡辺浩美	精神看護の対象と役割	講義およびディスカッション 予習：教科書をもとに、こころの健康の捉え方についての考え方を予習してくる。 復習：こころの健康の考え方には、時代・社会構造・価値・文化的背景等によって変化することもあることを含め、こころの健康の考え方を説明できるように、復習・整理する。精神看護学における対象理解の考え方と看護職の役割を説明できるように復習・整理する。
2	こころの構造と機能 渡辺浩美	医学モデル 精神分析モデル ストレスモデル	講義およびディスカッション 予習：指示された内容に関し教科書をもとに予習してくる 復習：こころの構造と働きについて説明できるように復習・整理する
3	生涯発達とこころの健康（1） 渡辺浩美	児童・思春期期・青年期の精神保健	講義およびディスカッション 予習：指示された内容に関し教科書をもとに予習してくる 復習：こころの成長発達と危機状況について説明できるように復習・整理する
4	生涯発達とこころの健康（2） 渡辺浩美	成人・高齢期の精神保健	講義およびディスカッション 予習：指示された内容に関し教科書をもとに予習してくる 復習：こころの成長発達と危機状況について説明できるように復習・整理する
5	精神看護に必要な看護理論 渡辺浩美	オレムのセルフケア理論、ペプロウの人間関係論	講義およびディスカッション 予習：看護理論を復習し授業に臨む 復習：本日の授業内容を整理する
6	精神保健医療福祉の歴史 渡辺浩美	精神障害者の処遇と歴史的な出来事 医療の発達、社会的背景との関係	講義およびディスカッション 予習：指示された内容に関し教科書をもとに予習してくる 復習：本日の授業内容を整理する
7	精神看護の関連法規と看護(1)（精神保健福祉法） 渡辺浩美	精神保健福祉法に基づく入院形態と処遇	講義およびディスカッション 予習：指示された内容に関し教科書をもとに予習してくる 復習：本日の授業内容を整理する
8	精神看護の関連法規と看護（2）（障害者総合支援法） 渡辺浩美	精神障害者が活用する障害福祉サービスと社会資源	講義およびディスカッション 予習：指示された内容に関し教科書をもとに予習してくる 復習：本日の授業内容を整理する
9	精神科医療における人権擁護と看護の倫理 渡辺浩美	精神保健福祉における基本的人権の保障の重要性	講義およびディスカッション 予習：精神保健医療福祉に関する今後の課題についての私見をまとめておく 復習：本日の授業内容を整理する

10	精神障害者の地域支援とストレングスモデル 渡辺浩美	ストレングスモデル 精神障害者のリカバリー	講義およびディスカッション 予習：指示された内容に関し教科書をもとに予習してくる 復習：
11	当事者活動とピア・サポート活動 渡辺浩美	当事者の体験とピア・サポーターの役割	グループワークおよびディスカッション 予習：指示された内容に関し教科書をもとに予習してくる 復習：課題に取り組み、期限までに提出する
12	ストレスマネジメントとレジリエンス 渡辺浩美	ストレスと身体的・精神的健康の関係とコーピング レジリエンスを高める効果 唾液アミラーゼによるストレスチェック	講義およびディスカッション 予習：指示された内容に関し教科書をもとに予習してくる 復習：本日の授業内容を整理する
13	リエゾン精神看護 渡辺浩美	一般科病棟における心理的課題を抱える患者への支援 リエゾン看護師の役割	講義およびディスカッション 予習：指示された内容に関し教科書をもとに予習してくる 復習：課題に取り組み、期限までに提出する
14	看護の展開に必要な看護技術「観察とコミュニケーション」（１） 渡辺浩美	看護の視点に基づく観察とコミュニケーションの基本	グループワークおよびディスカッション（教科書は使用しません。当日配布資料があります） 予習： 復習：本日の授業内容を整理する
15	看護の展開に必要な看護技術「観察とコミュニケーション」（２） 渡辺浩美	患者、医療スタッフ間におけるコミュニケーションの工夫 アサーティブコミュニケーション	グループワークおよびディスカッション（教科書は使用しません。当日配布資料があります） 予習： 復習：本日の授業内容を整理する

授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法	授業時間内に質疑応答の時間を設ける。リアクションペーパーで質問があった場合は次回授業内でフィードバックする。							
テキスト・教材	武井麻子著者代表：精神看護の基礎Ⅰ第６版,医学書院 ISBN978-4-260-04213-0 武井麻子著者代表：精神看護の展開Ⅱ第６版,医学書院 ISBN978-4-260-04214-7							
参考書	適宜指示する。							
評価の基準と方法	定期試験 70%、小テスト 20%、レポート 10%により評価する。成績評価基準は、100 点満点のうち、60 点以上を合格とする。 小テスト結果は、テスト終了後に正誤を公表することから、不正解の問題は、復習すること。 出欠については評価対象としないが、30 分以上の遅刻は欠席、遅刻３回にて１回欠席とする。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○			◎	△		
関連科目	精神看護方法論　精神看護学実習　疾病と治療Ⅴ　人間関係論							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間+予習・復習時間 60 時間							
実務経験を活かした教育内容	精神科病院にて看護師、保健センターにて保健師としての実務経験を有している。地域生活・医療施設での看護並びに実践の基盤となる理論について説明する。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-312 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-23 （J）	授業コード	HB0925
科目名称	精神看護学方法論			単位数	2.00 単位
英文名称	Psychiatric and Mental Health Nursing			授業区分	演習
科目責任者	渡辺 浩美			必修・選択	必修
担当教員	淺賀・岡・渡辺			開講時期	3 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	精神疾患の病因、症状、治療を理解した上で、精神障害者への援助方法の基本および看護について学ぶ。また、精神看護の基本である対人関係や治療的コミュニケーションスキルをプロセスレコードやロールプレイなどの演習を通じて習得すると同時に、セルフマネージメント方法についても学ぶ。セルフケア看護モデルを活用した看護過程演習を通して、精神疾患をもつ人への個別的な看護の実際について学習する。				
到達目標	1．様々な精神障害の状態像と治療および具体的な看護の特徴ついて説明できる。 2．精神科医療における各種治療法と看護職の役割を説明できる。 3．精神疾患によって生じる生活障害を理解し、その背景にある様々な関連要因に着目して考えることができる。 4．精神の健康を査定するアセスメントの特徴・方法について説明できる。 5．具体的事例をもとに対象者の直面している生活障害、さらにその背景についてアセスメントし看護援助を考えることができる。 6．精神症状のある患者に対する援助的な対人関係の構築につ				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	第 1 回／渡辺浩美 本授業のオリエンテーション 精神疾患と生活障害	第 1 回 生物心理社会モデル 様々な病態像	第 1 回 講義およびディスカッション 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：本日の授業内容を整理する
2	第 2 回／渡辺浩美 精神の健康障害と援助の実際（1）	第 2 回 不安障害のある患者への看護 強迫性障害のある人の看護 ストレス関連障害のある人の看護	第 2 回 講義およびディスカッション 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：本日の授業内容を整理する
3	第 3 回／渡辺浩美 精神の健康障害と援助の実際（2）	第 3 回 気分障害のある患者への看護 （うつ状態にある人、そう状態にある人）	第 3 回 講義およびディスカッション 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：本日の授業内容を整理する
4	第 4 回／岡 京子 精神の健康障害と援助の実際（3）	第 4 回 統合失調症のある患者への看護 （幻覚・妄想状態にある人、無為・自閉状態にある人）	第 4 回 講義およびディスカッション 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：本日の授業内容を整理する
5	第 5 回／渡辺浩美 精神科の治療（1）	第 5 回 薬物療法、特殊な治療法	第 5 回 講義およびディスカッション 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：本日の授業内容を整理する
6	第 6 回／岡 京子 精神科の治療（2）	第 6 回 心理社会的な治療法 精神療法（個人・集団） 作業療法	第 6 回 講義およびディスカッション 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：本日の授業内容を整理する

7 8	第 7 回／岡　京子 精神症状のアセスメント(1) 第 8 回／岡　京子 精神症状のアセスメント(2)	第 7 回 精神症状のアセスメント 第 8 回 精神症状のアセスメント DVD 視聴、MSE 演習	第 7 回 講義およびディスカッション 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：本日の授業内容を整理する 第 8 回 講義およびディスカッション 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：本日の授業内容を整理し、MSE 用紙を完成させる
9 10	第 9 回／渡辺浩美 ペーパーペィシェントによる看護過程① 第 10 回／精神看護学領域教員 ペーパーペィシェントによる看護過程②	第 9 回 オレム・アンダーウッドのセルフケア理論 事例紹介　基本情報収集　セルフケアアセスメント 第 10 回 基本情報収集　セルフケアアセスメント	第 9 回 講義およびディスカッション 予習：セルフケア理論、精神症状のアセスメント（MSE）を復習してくる 復習：本日の授業内容を復習・整理する 第 10 回 グループワーク 予習：セルフケア理論、精神症状のアセスメント（MSE）を復習してくる 復習：記録用紙を作成する
11 12	第 11 回／精神看護学領域教員（渡辺・岡） ペーパーペイシェントによる看護過程③ 第 12 回／精神看護学領域教員（渡辺・岡） ペーパーペイシェントによる看護過程④	第 11 回 基本情報 精神症状のアセスメント セルフケアアセスメント 第 12 回 基本情報 精神症状のアセスメント セルフケアアセスメント	第 11 回 グループワーク 予習：看護過程事例の内容を整理をしてくる 復習：記録用紙を作成する 第 12 回 グループワーク 予習：看護過程事例の内容を整理をしてくる 復習：記録用紙を作成する
13 14	第 13 回／渡辺浩美 ペーパーペィシェントによる看護過程⑤ 第 14 回／精神看護学領域教員（渡辺・岡） ペーパーペィシェントによる看護過程⑥	第 13 回 全体像の把握 療養上の課題と目標 第 14 回 全体像の把握 療養上の課題と目標	第 13 回 講義およびディスカッション 予習：看護過程事例の内容を整理をしてくる 復習：グループワークの内容を整理する 第 14 回 グループワーク 予習：看護過程事例の内容を整理をしてくる 復習：グループワークの内容を整理しプレゼンテーションの準備をする
15 16	第 15 回／精神看護学領域教員（渡辺・岡） ペーパーペイシェントによる看護過程⑦ 第 16 回／渡辺浩美 精神の健康障害と援助の実際（４）	第 15 回 グループプレゼンテーション 事例検討のまとめ 第 16 回 発達障害のある患者への援助	第 15 回 グループワークおよびディスカッション 予習：グループでプレゼンテーション資料の準備をする 復習：個人の看護過程記録を追加・修正し、看護計画を作成して提出する。 第 16 回 講義　講義およびディスカッション 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：本日の授業内容を整理する
17 18	第 17 回／岡　京子 精神障害者の家族支援 第 18 回／岡　京子 精神の健康障害と援助の実際（5）	第 17 回 家族システム論　HEE 保護者制度　家族心理教育 第 18 回 アディクションのある患者への看護（アルコール依存症、薬物等）	第 17 回 講義およびディスカッション 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：本日の授業内容を整理する 第 18 回 講義およびディスカッション 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：本日の授業内容を整理する
19 20	第 19 回／岡　京子 精神障害者の地域支援（1） 第 20 回／岡　京子 精神障害者の地域支援（2）	第 19 回 ACT 訪問看護 専門職の多職種連携 第 20 回 地域移行支援 地域定着支援	第 19 回 講義およびディスカッション 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：本日の授業内容を整理する 第 20 回 講義およびディスカッション 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：本日の授業内容を整理する

21 22	第 21 回／渡辺浩美 精神看護における援助としての対人関係技術（1） 第 22 回／渡辺浩美 精神看護における援助としての対人関係技術（2）	第 21 回 幻覚・妄想症状のある患者の対応 ロールプレイとプロセスレコード 第 22 回 無為自閉状態の患者の対応 ロールプレイとプロセスレコード	第 21 回 講義および演習 予習：事前に配布する簡単な事例に対してどのように対応するか考えてレポートを提出する 復習：自分が看護学生役をしたプロセスレコード作成して提出する 第 22 回 講義および演習 予習：事前に配布する簡単な事例に対してどのように対応するか考えてレポートを提出する。 復習：自分が看護学生役をしたプロセスレコード作成して提出する
23	第 23 回／渡辺浩美 精神科病棟における安全管理	第 23 回 自傷・他害行為 不慮の事故 薬剤 離院、無断外出 実習で起きるインシデント	第 23 回 講義およびグループワーク 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：本日の授業内容を整理する

授業開始前学習	疾病と治療Ⅴ及び精神看護学概論で学んだことを復習すること。特に、セルフケアモデル、精神症状についてはよく理解しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業時間内に質疑応答の時間を設ける。リアクションペーパーで質問があった場合は次回授業内でフィードバックする。
テキスト・教材	武井麻子著者代表：精神看護の基礎Ⅰ第 6 版,医学書院 ISBN978-4-260-04213-0 武井麻子著者代表：精神看護の展開Ⅱ第 6 版,医学書院 ISBN978-4-260-04214-7
参考書	適宜指示する。
評価の基準と方法	定期試験 70%、授業内提出物 30%により評価する。成績評価基準は、100 点満点のうち、60 点以上を合格とする。 出欠については評価対象としないが、30 分以上の遅刻は欠席、遅刻 3 回にて 1 回欠席とする。

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△	△		◎	○	○	

関連科目	精神看護学概論　精神看護学実習　疾病と治療Ⅴ　人間関係論
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 46 時間+予習・復習時間 44 時間
実務経験を活かした教育内容	精神科医療機関における看護師または専門看護師及び地域における保健師として、精神医療保健福祉に従事した教員らがその実務経験を活かして教育にあたる。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-313 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-33 （J）	授業コード	HB1390
科目名称	精神看護学実習			単位数	2.00 単位
英文名称	Psychiatric Nursing Practicum			授業区分	実習
科目責任者	岡　京子			必修・選択	必修
担当教員	淺賀・岡・渡辺			開講時期	3 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	精神の健康問題により日常生活に困難を抱える患者の特性を理解し、看護過程の展開を通して、精神の健康問題を抱える患者の看護が実践できる基礎的能力を身につける 受け持ち患者との相互関係を通し、他者理解・自己理解を深め、治療的関係の構築および自己を活用した援助方法について学ぶ 精神疾患を持つ人の地域生活を支える精神保健医療福祉体制の諸制度、各機関や各職種の役割について学習し、チーム連携と看護の役割を学ぶ				
到達目標	1.受け持ち患者との相互関係を通し、他者理解・自己理解を深め、治療的関係の構築及び自己を活用した援助方法について説明できる 2.受け持ち患者を全人的に理解し、受け持ち患者の看護に必要なアセスメントを列挙できる 3.アセスメントをもとに立案した計画を受け持ち患者とともに検討し、看護師とともに実施できる 4.精神疾患を持つ方の地域生活を支える精神保健医療福祉チームについて、その中での看護の役割を説明できる 5.実習を通した学びをカンファレンスで振り返り整理することができる				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
実習 1 日目	臨地実習（病院） 渡辺浩美、岡京子、新任教員	病院・病棟オリエンテーション 受け持ち患者決定 情報収集 カンファレンス	臨地実習 予習 「事前学習課題」実習に臨むための基本的な知識を整理するために、精神看護学方法論の授業で配付する。実習初日に学習内容を確認する。 「実習日誌」1 日目の実習目標と行動計画を立案する。毎朝教員に提出をする。 復習 「実習日誌」当日の実施内容と自己の振り返り、気づきを記述する。翌日の実習目標、行動計画を立案する。 「看護過程の展開」受け持ち患者をセルフケア看護理論に基づいてアセスメントを行う。
実習 2 ～3 日目	臨地実習（病院） 渡辺浩美、岡京子、新任教員	受け持ち患者の看護活動に参加 関係性の構築 情報収集 カンファレンス	臨地実習 予習・復習 「実習日誌」 「看護過程の展開」「ケースの全体像」 「プロセスレコード」1 週目のかかわりの中から 1 場面を選び記述する
実習 4 日目	臨地実習（病院） 渡辺浩美、岡京子、新任教員	受け持ち患者の看護活動に参加 関係性の構築 情報収集 病棟中間カンファレンス（ケースの全体像・看護の方向性発表）	臨地実習 中間カンファレンスでケースの全体像について共有し、グループディスカッションや臨床指導者からの助言をもとに学びを深める 予習 「実習日誌」「看護過程の展開」 「ケースの全体像」実習開始時に提出する 復習 「実習日誌」「看護過程の展開」「プロセスレコード」 「ケースの全体像」中間カンファレンスの内容を受け、修正を行う。
実習 5 日目	学内実習 渡辺浩美、岡京子、新任教員	プロセスレコードカンファレンス 実習記録の整理、アセスメント、看護計画の立案	学内実習 学生主導のカンファレンスにてプロセスレコードを共有し、グループディスカッションにて様々な視点から検討を行う。 実習記録の整理を行い、看護計画の立案を行う 予習 「実習日誌」「看護過程の展開」「ケースの全体像」 「プロセスレコード」1 週目のかかわりの中から 1 場面を記述する 復習 プロセスレコードカンファレンスを通し、自己のかかわりを分析する 「看護過程の展開」「看護計画」患者のセルフケアの維持・向上を目指した看護計画を立案する

実習 6～8 日目	臨地実習（病院/精神科デイケア・就労継続支援 B 型事業所実習） 渡辺浩美、岡京子、新任教員	立案した看護計画に基づいたケアの実施と評価 カンファレンスでの看護計画の共有と評価・修正 精神科デイケア・就労継続支援 B 型事業所での実習を通し、地域生活を送る当事者の実際を知る	臨地実習 立案した実習目標と計画について、教員と臨床指導者の指導・助言を受け実施する 学生主導のカンファレンスにて看護計画を共有し、評価と修正を行う。 精神科デイケア・就労継続支援 B 型事業所のオリエンテーション・活動への参加、指導者との振り返りを通し学びを深める 予習 「実習日誌」立案した看護計画に基づいた自己の実習目標と行動計画を記述する。前日の実習日誌は提出する 地域での実習の場合は、精神科デイケア・就労継続支援 B 型事業所での実習目標と行動計画を記述する 「看護計画」患者のセ
実習 9 日目	臨地実習（病院） 渡辺浩美、岡京子、新任教員	立案した看護計画に基づいたケアの実施と評価 最終カンファレンス 受け持ち患者との関係性の終結	臨地実習 立案した実習目標と計画について、教員と臨床指導者の指導・助言を受け実施する 受け持ち患者と関係の振り返りを行い、関係性を治療的に終結させる 最終カンファレンスレポートに基づき実施した看護計画の内容と評価を共有する 学生主導でディスカッションを実施し、精神看護学実習での学びを深める 予習 「実習日誌」前日の実習日誌は提出する。関係の終結に向けて計画を立案する。 「最終カンファレンスレポート」受け持ち患者へ実施した看護計画の内容と評価、精神看護学実習の学びを記述し、提出する。 復習¥
実習 10 日目	学内実習 渡辺浩美、岡京子、新任教員	個人評価面接 実習記録の作成、実習記録提出	評価表に基づき、実習の自己評価を行う 担当教員との個人面接を実施し、実習での学び、自己の課題について整理を行う 実習記録を提出する

授業開始前学習	・実習要項、Googleclassroom でのオリエンテーション資料を熟読し、実習の目的・目標や方法を理解しておくこと。 ・「事前学習課題」に取り組み、実習に臨むための基本的な知識を整理すること
授業内課題のフィードバックの方法	・「事前学習課題」については実習初日に担当教員が記載内容を確認し、助言・指導を行う ・「実習日誌」については、毎日担当教員と臨床指導者が記載内容を確認し、助言・指導を行う ・そのほかの記録については担当教員が適宜確認を行い、助言・指導を行う ・カンファレンスでは学生同士のディスカッションを促進し、必要に応じて担当教員・臨床指導者から助言・指導を行う
テキスト・教材	疾病と治療Ⅴ（精神障害）、精神看護学概論、精神看護学方法論、人間関係論において使用した教科書、授業資料は、引き続き使用する。
参考書	1.精神看護学　学生―患者のストーリーで綴る実習展開　田中美恵子編著　医歯薬出版株式会社 2.精神看護学実習ハンドブック　一般社団法人日本精神科看護協会監修　草地仁史・中村博文・畠山卓也・三谷梨絵子・若井亮治編著　中央法規出版　2022 年 3.看護師のための精神科でのコミュニケーションとケア　畠山卓也編著　ナツメ社　2021 年
評価の基準と方法	実習評価表に基づき評価する。

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	○	○	◎

関連科目	疾病と治療Ⅴ（精神障害）、精神看護学概論、精神看護学方法論、人間関係論
その他	
予習・復習の所要時間	
実務経験を活かした教育内容	担当教員は全員が病院での精神看護実践に携わっている。精神看護専門看護師の教員（岡）と、保健センターにて保健師としての実務経験も有している教員（渡辺）が実務経験を活かし実習指導を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-321 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-321-13 （J）	授業コード	HB1770
科目名称	緩和ｹｱ論			単位数	1.00 単位
英文名称	Palliative Care			授業区分	講義
科目責任者	髙田幸江			必修・選択	選択
担当教員	門脇・小林(優)・髙田			開講時期	3 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	緩和ケア病床のみならず一般病棟や外来、在宅において、すべての看護師が身につけるべき「基本的緩和ケア」について学習する。 痛みをはじめとした身体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛、スピリチュアルペインなど、患者と家族が抱えるさまざまな苦痛の予防・アセスメント・治療および看護について学習する。 また、コミュニケーション、家族ケア、臨死期のケア、倫理的問題、非がん患者へのケアの基本的な知識や考え方を学習する。				
到達目標	１．緩和ケアにける看護師の役割について説明できる。 ２．痛みをはじめとする主な身体症状とその治療・看護について説明できる。 ３．主な精神症状とその治療・看護について説明できる。 ４．社会的ケア・スピリチュアルケアについて説明できる。 ５．終末期に緩和ケアを受ける患者とその家族の人権を擁護するためのケアを倫理的視点で考えることができる。 ６．意思決定支援について説明できる。 ７．臨死期、死別後の家族ケアについて説明できる。 ８．全人的な苦痛を持つ人や、死を迎える患者とその家族の看護において、自				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	髙田幸江	ガイダンス 緩和ケア論概論	講義 予習：教科書 p.2-49 および、62-66 を読み、各自のノートにポイントをまとめておく。
2	髙田幸江	全人的苦痛に対する緩和ケア① 身体的苦痛へのケア 痛みの緩和に対する療法（化学療法、手術療法、放射線療法、神経ブロック、補完代替療法）	講義 予習：教科書 p.116-165 を読み、各自のノートにポイントをまとめておく。
3	髙田幸江	全人的苦痛に対する緩和ケア② 精神的苦痛・社会的苦痛・スピリチュアルペインへのケア	講義 予習：教科書 p.167-198 を読み、各自のノートにポイントをまとめておく。
4	髙田幸江、門脇淳子	喪失・悲嘆を経験する人の理解 喪失・悲嘆を経験する人へのグリーフケア	講義、アクティブラーニング 予習：教科書 p.101-105 を読み、各自のノートにポイントをまとめておく。 自分が①大切にしているもの、②大切にしている人、③大切にしている事を複数挙げ、①～③を大事にしている理由を、各自のノートに書き出しておく。
5	小林優子	緩和ケアにおける倫理的問題、意思決定支援	講義 予習：教科書 p.64、および 86-94 を読み、各自のノートにポイントをまとめておく。
6	門脇淳子	緩和ケアで目指す QOL	講義 予習：教科書 p.6-7、71-85、および 106-109 を読み、各自のノートにポイントをまとめておく。
7	髙田幸江、ゲストスピーカー	緩和ケアの実際	講義 予習：1-6 回までの講義資料を見直す。教科書 p.33-48 を読み、緩和ケアの場の特徴を各自のノートにポイントをまとめておく。
8	髙田幸江	臨死期にある患者のケア 緩和ケアにおける家族ケア	講義 予習：教科書 p.235-248、p.96-99、および p.251-254 を読み、各自のノートにポイントをまとめておく。

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	授業内課題、リアクションペーパーについて授業内でフィードバックを行う。

テキスト・教材	看護学テキスト NiCE　緩和ケア　尊厳ある生と死，大切な生活を支える技と心　改訂第 3 版　南江堂 ISBN　978-4-524-21002-2							
参考書	授業内で紹介する。							
評価の基準と方法	出席 2/3 以上評価の対象とする。 定期試験で 60 点以上を合格とする。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	△	
関連科目	看護専門科目すべて							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容	担当教員は緩和ケア病棟または施設、地域での臨床経験を有している							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-321 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-321-13 （J）	授業コード	HB1780
科目名称	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ看護論			単位数	1.00 単位
英文名称	Rehabilitation Nursing			授業区分	講義
科目責任者	長嶋 祐子			必修・選択	選択
担当教員	長嶋・松戸			開講時期	3 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	リハビリテーション看護の基本的知識、技術を理解するために、小児から高齢者、急性期から終末期など幅広く存在する対象者がもつ生活機能障害およびリハビリテーションの理念や基本的技術を学習する。さらにリハビリテーション医療・福祉チームにおける多職種連携と看護の役割と可能性についての理解する。				
到達目標	１）リハビリテーションの理念および実践する為に必要な基礎知識を学ぶ事により、看護におけるリハビリテーションを実践に結び付けて考えることができる ２）医療・福祉の中でのリハビリテーションチームを構成する専門職それぞれの役割を理解することにより、リハビリテーションリームの中での看護の役割を表現することができる ３）リハビリテーションにつながる技術を学ぶことで看護場面で安全に適用できる				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	オリエンテーション 長嶋祐子 松戸典文	オリエンテーション リハビリテーション看護概論	講義・演習 事前学習・事後学習 指定した項目に取り組む
2	対象の理解① 長嶋祐子 松戸典文	リハビリテーション看護の対象への身体的アセスメントの視点	演習 事前学習・事後学習 指定した項目に取り組む
3	対象の理解② 長嶋祐子 松戸典文	リハビリテーション看護の対象の心理・社会的アセスメントの視点	演習 事前学習・事後学習 指定した項目に取り組む
4	患者の生活活動を支える視点 長嶋祐子 松戸典文	生活活動を評価する視点と事例患者の FIM 評価の実際及び活用	発表 事前学習・事後学習 指定した項目に取り組む
5	患者の活動を支える技術の実際① ゲストスピーカー 松戸典文 長嶋祐子	正しいトランスファー技術	技術演習 事前学習・事後学習 指定した項目に取り組む
6	患者の活動を支える技術の実際② ゲストスピーカー 松戸典文	正しいトランスファー技術 リハビリテーションチームの実際	演習 事前学習・事後学習 指定した項目に取り組む
7	生活の再構築を考える ゲストスピーカー 松戸典文	退院するために必要な看護を考える	演習 事前学習・事後学習 指定した項目に取り組む
8	実施と評価 長嶋祐子 松戸典文	発表とまとめ	演習 事前学習・事後学習 指定した項目に取り組む

授業開始前学習	内容は授業時間内に指示します
授業内課題のフィードバックの方法	原則として授業内でフィードバックします
テキスト・教材	原三紀子他：系統看護学講座・別館 リハビリテーション看護、医学書院
参考書	酒井 郁子、金城 利雄編：リハビリテーション看護 障害をもつ人の可能性とともに歩む、南江堂、2021 細田満和子：「チーム医療」とは何か 患者・利用者本位のアプローチに向けて ，日本看護協会出版会，2021. 千野直一他：脳卒中の機能評価 SIAS と FIM，金原出版，2021. FIM 医学的リハビリテーションのための統一データセット利用の手引き 慶応義塾大学医学部リハビリテーション医学教室 訳 林 泰史 著「新訂版 写真でわかるリハビリテーション看護 アドバンス 」（インターメディカ） 野川

評価の基準と方法	レポート：40% グループワーク、調査および発表、技術獲得の成果：60%（項目と配点は初回授業で提示する）							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	◎	○	△	
関連科目	疾病と治療Ⅰ～Ⅲ、基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅲ、看護過程の基礎、人間関係論、健康教育学、成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ、老年看護学概論、老年看護学方法論							
その他	【学習目標】看護におけるリハビリテーションの実践方法を理解するために、リハ看護の臨床において必要な基本的知識・技術を修得する							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容	担当教員は臨床でリハビリテーション看護の実務経験を有しており、実戦経験を生かして教育をおこなう							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-421	科目分類（～2024 年入学者）	310-321-14	授業コード	HB1790
科目名称	外来看護論			単位数	1.00 単位
英文名称	Outpatient Nursing			授業区分	講義
科目責任者				必修・選択	選択
担当教員	成瀬　早苗			開講時期	4 年前期
オフィスアワー	－			研究室	1-303
授業概要	新たな外来看護の目的・役割、外来看護師の役割と責務などについて学ぶ。現在、外来での医療は大きく様変わりしているため、それに伴う外来看護師の役割が需要となる。特に外来医療は発展的活動や高度化した医療が行われるため、看護師は重要な医療的な背景、様々な外来の目的・機能とその特徴を学修する必要がある。ファーストコンタクトとしての外来、在宅における外来治療、入院治療から在宅へ向けての看護師の役割、新たな生活構築のためのフォローアップなど、外来看護の機能は多様であり、対象者も様々な発達段階、回復過程にあることを理解し、さらに看護専門外来の種類についても学び、外来における質の高い看護の提供について考察する。				
到達目標					
アクティブ・ラーニング型授業					

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	
テキスト・教材	
参考書	
評価の基準と方法	

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎	○		△
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-421 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-321-14 （J）	授業コード	HB1800
科目名称	救急看護学			単位数	1.00 単位
英文名称	Emergency Nursing			授業区分	講義
科目責任者	飯塚　麻紀			必修・選択	選択
担当教員	飯塚・野村・吉野			開講時期	4 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	急激な発症、急変によって救命救急医療を必要とする対象に必要な看護を理解するために、プレホスピタルケア、一次救急、二次救急、三次救急の場における医療および多職種連携の現状とその中における看護の役割を学ぶ。主要病態に対する臨床判断と救急処置の原則および災害看護の基本について学ぶとともに、救命救急医療の現場における倫理的課題についても考察する。				
到達目標	１．救急医療における救急看護および災害看護の定義と役割を説明できる。 ２．救急医療における主要病態として、外傷および出血性ショック時の対応方法を説明できる。 ３．様々な救急場面にある対象に必要な看護について、グループメンバーと協力してプレゼンテーションを行い、全体のディスカッションを通して理解を深めることができる。 ４．救急医療を必要とする対象への看護とはどのようなものか、自身の考えを論理的にまとめることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	救急医療への導入 飯塚麻紀	１．我が国の救急医療体制 ２．救急看護の定義と役割	講義 予習：救急医療・看護に関するトピックを確認する 復習：講義内容をまとめる
2	災害看護の定義と実際 救急医療を必要とする対象への看護【１】 飯塚麻紀	１．災害看護の定義と実際 ２．グループワーク導入	講義 予習：災害看護に関するトピックを確認する 復習：授業内容をまとめる
3	救急看護の実際【１】 鈴木めぐみ（救急看護認定看護師）	プレホスピタルケア ドクターヘリの概要とフライトナースの役割	講義 予習：ドクターヘリ・フライトナースについて調べる 復習：授業内容をまとめる
4	救急看護の実際【２】 森田康敬（急性・重症患者看護専門看護師）	インホスピタルケア 救急外来・EICU における看護	講義 予習：救急外来・EICU について調べる 復習：授業内容をまとめる
5	救急医療を必要とする対象への看護【２】 飯塚麻紀	救急医療を必要とする対象への看護	演習：グループワーク 【予習】2 回目授業で担当が決まった対象へのケア 【復習】グループワーク内容のまとめ ◆小テスト（第１・２回目授業内容）
6	主要病態に対する臨床判断と救急処置【１】 野村美紀	１．外傷とは ２．外傷の救急処置：骨盤骨折	講義・演習 【予習】外傷・骨盤骨折の病態 【復習】授業・演習内容をまとめる
7	主要病態に対する臨床判断と救急処置【２】 吉野靖代	１．ショックとは ２．出血性ショック時の対応：ACLS	講義・演習 予習：ショックの定義、ACLS について 復習：授業・演習内容をまとめる
8	救急医療を必要とする対象への看護【３】 飯塚麻紀・野村美紀・吉野靖代	プレゼンテーション 全体討議	予習：プレゼンテーション準備 復習：授業内容をまとめる ◆小テスト（第 6・7 回目授業）

授業開始前学習	・日本の救急医療および救急看護についての概要を調べるとともに、救急看護に関する最新のトピックを調べておくこと。 ・成人看護学方法論Ⅰ（急性期）で学んだショックの病態および BLS について復習しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	◆グループワークのプレゼンテーションについては授業内で講評を行う。 ◆授業時間内に行う小テスト（Google フォーム）の結果は、即時返却する。 ◆最終レポート（Google ドキュメント）は採点後にコメントをつけて返却する。
テキスト・教材	テキストなし。 資料は毎回の講義・演習で配布する。
参考書	系統看護学講座　別巻　救急看護学、医学書院 新体系　看護学全書　経過別成人看護学①　急性期看護：クリティカルケア、メヂカルフレンド社 看護学テキスト　成人看護学　急性期看護Ⅱ　救急看護・クリティカルケア、南江堂 その他、授業内で適宜紹介する。

評価の基準と方法	①小テスト：30 点（第 1.2.5.6 回授業内容） ②レポート：60 点 ③ピア評価：10 点							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	△	
関連科目	成人看護学方法論Ⅰ（急性期）、災害看護学、疾病と治療Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容	担当教員は急性期看護ならびに救急・クリティカル看護における実務経験を生かして講義・演習を行う。 現在、救急認定看護師、急性・重症患者看護専門看護師として活躍する看護師を外部講師として迎え、救急看護の実際についての講義を行う。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-211	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-12	授業コード	HB0965
科目名称	公衆衛生看護学概論			単位数	1.00 単位
英文名称	Introduction to Public Health Nursing			授業区分	講義
科目責任者	中田　晴美			必修・選択	必修
担当教員	富塚・中田・西村			開講時期	2 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	公衆衛生看護活動の基本となる理念・概念、公衆衛生看護の活動の場について学修する。また、個人・家族・集団・地域全体のニーズを解決するための活動の展開方法および看護職の役割について学修する。				
到達目標	1．公衆衛生看護の理念・定義について説明できる。 2．公衆衛生看護の基盤となる概念について説明できる。 3．公衆衛生看護活動の歴史の概要を説明できる。 4．公衆衛生看護の活動方法の概要および看護職の役割について説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	科目ガイダンス 公衆衛生の理念 中田晴美	公衆衛生看護の理念と公衆衛生看護の歴史的背景	講義 予習：テキスト第 1・3・10 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理する
2	公衆衛生看護の基盤となる概念 中田晴美	公衆衛生看護の基盤となる概念 プライマリヘルスケア ヘルスプロモーション ポピュレーションアプローチ 一次予防・二次予防・三次予防	講義 予習：テキスト第 1・4・5 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理する
3	公衆衛生看護の活動方法① 中田晴美	保健指導 健康相談 健康診査	講義・演習 予習：テキスト第 2・5 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理する
4	公衆衛生看護の活動方法② 中田晴美	家庭訪問 健康教育	講義 予習：テキスト第 2・5 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理する
5	公衆衛生看護の活動方法③ 中田晴美	グループ支援・地区組織活動 地域診断 事業化・施策化	講義 予習：テキスト第 5 章・第 6 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理し、保健指導案を作成する
6	国際保健 西村悦子	国際保健活動の現状と課題 国際保健活動における看護職の役割	講義 予習：テキスト第 3 章 F 国際 を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理する
7	公衆衛生看護活動の実際 中田晴美・富塚美和・西村悦子・ゲストスピーカー	行政保健師活動の実際	講義 予習：これまでの学修内容を確認しておく 復習：本時の授業内容を整理する
8	公衆衛生看護活動における看護職の役割まとめ 中田晴美・富塚美和・西村悦子・ゲストスピーカー	公衆衛生看護活動のまとめ 中田晴美・富塚美和・西村悦子	講義・演習 予習：これまでの学修内容を確認しておく、配付資料を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理する

授業開始前学習	公衆衛生看護学の基礎となる概念や活動方法について学びます。広い視野で考えながらすすめましょう。
授業内課題のフィードバックの方法	課題レポートは、講評をクラスルーム内でコメントします。
テキスト・教材	標　美奈子　他：標準保健師講座・1　公衆衛生看護学概論（医学書院）
参考書	井伊久美子他　編：新版　保健師業務要覧（日本看護協会出版会）

評価の基準と方法	試験　70% 課題レポート　30%							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間＋予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	310-321-14	授業コード	HB0960
科目名称	公衆衛生看護学概論			単位数	1.00 単位
英文名称	Introduction to Public Health Nursing			授業区分	講義
科目責任者	土屋　陽子			必修・選択	選択
担当教員	富塚・中田・西村			開講時期	4 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	公衆衛生看護活動の歴史・変遷と基本概念などについて学習する。また、対象を理解し、健康ニーズをアセスメントするための技術である地域診断について学習する。さらに、個人、家族、地域・集団のニーズを解決するための保健指導について学ぶ。				
到達目標	1．公衆衛生看護活動の変遷と歴史について説明できる。 2．公衆衛生看護活動の基盤となる理念を理解できる。 3．公衆衛生看護活動の対象を理解できる。 4．公衆衛生看護の活動方法の概要を説明できる。 5．公衆衛生看護活動を行う上での保健師の役割について考え記述できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	公衆衛生看護の基本理念・概念① 土屋陽子	公衆衛生の理念と公衆衛生看護の歴史・背景を理解する。 公衆衛生看護における倫理について理解する。	講義 予習：教科書第 1 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理、理解する
2	公衆衛生看護の基本理念・概念② 土屋陽子	公衆衛生の理念と公衆衛生看護の基盤となる概念について理解する 健康の概念・ヘルスプロモーション・看護の対象と場	講義 予習：教科書第 2・3 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理、理解する
3	公衆衛生看護活動に必要な考え方と技術① 土屋陽子	予防の段階 ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ 住民参加の意義 地域アセスメント	講義 予習：教科書第 5・6 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理、理解する
4	公衆衛生看護活動に必要な考え方と技術② 土屋陽子	保健師の活動の具体 保健指導（家庭訪問・健康診査・健康教育・健康相談・グループ育成・地域組織活動）	講義 予習：教科書第 5・6 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理、理解する
5	公衆衛生看護の場と健康課題 土屋陽子	保健活動の実際 母子家庭訪問を中心に	グループワーク 予習：教科書第 4・5 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理、理解する
6	公衆衛生看護の展開方法① 土屋陽子	保健師が出会ったある高齢者の事例から 「対象者と地域環境をみる」	講義・事例演習 予習：第 3 回授業資料と教科書第 5 章を再度読んでおく 復習：本時の授業内容を整理、理解する
7	公衆衛生看護の展開方法② 土屋陽子	地域診断から見える健康課題とその対策	講義・事例演習 予習：第 3 回授業資料と教科書第 5 章を再度読んでおく 復習：本時の授業内容を整理、理解する
8	演習の振り返りとシステム まとめ 土屋陽子	事例を通して公衆衛生看護の活動と保健師の役割を考える	講義・事例演習 予習：第 6・7 回授業の内容確認をする 復習：授業の振り返りとまとめ

授業開始前学習	自分の住んでいる地域や人々、現在の社会にある健康課題やニュースなどに目を向け広い視野に立って物事を見て考えましょう。
授業内課題のフィードバックの方法	課題レポートはの講評は授業内でコメントします。
テキスト・教材	標美奈子他「標準保健師講座 1　公衆衛生看護学概論」（ 医学書院）
参考書	井伊久美子他編「保健師業務要覧」（日本看護協会出版会）
評価の基準と方法	試験 60%・課題レポート 40%

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△			◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間＋予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-211 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-12 （J）	授業コード	HB1810
科目名称	ﾍﾙｽﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ活動論			単位数	2.00 単位
英文名称	Health Promotion Activity Theory			授業区分	講義
科目責任者	中田　晴美			必修･選択	必修
担当教員	富塚･中田･西村･大信田･根岸			開講時期	2 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	地域社会の中で生活する人々の生活状況に応じた健康課題を学び、人々が主体的に課題を解決できるよう、地域における保健活動を理解することを目的とする。特に、学校保健･産業保健･口腔保健を中心とした保健活動の基本的な方法と考え方を学ぶ。				
到達目標	1. ヘルスプロモーションの理念･定義について説明できる。 2. 各分野で行われているヘルスプロモーションの概念について説明できる。 3. ヘルスプロモーションの活動の方法について説明できる。 4. ヘルスプロモーション活動を行う上での看護職の役割と他職種連携について説明できる。 5. 自らの健康保持増進のための望ましい生活について考えることができる。				
アクティブ･ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目･担当者	学修内容	授業方法（アクティブ･ラーニング）･予習･復習･レポートなどの課題
1	科目ガイダンス ヘルスプロモーションとは 中田晴美	ヘルスプロモーションの定義･概念	講義 予習：公衆衛生看護学概論のヘルスプロモーションについて確認する 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく
2	ヘルスプロモーション活動とは① 中田晴美	「健康日本 21」と行政分野で行われているヘルスプロモーション活動の実際①	講義 予習：「健康日本 21（第 3 次）」の概要を調べる 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく
3	ヘルスプロモーション活動とは② 中田晴美	「健康日本 21」と行政分野で行われているヘルスプロモーション活動の実際②	講義 予習：「健康日本 21（第 3 次）」の概要を調べる 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく
4	学校保健① 大信田真弓	学校保健におけるヘルスプロモーション活動①	講義 予習：テキスト　公衆衛生看護学概論　第 3 章　C　学校、国民衛生の動向 2025/2026 学校保健の章を読んでおく 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく
5	学校保健② 大信田真弓	学校保健におけるヘルスプロモーション活動②	講義 予習：テキスト　公衆衛生看護学概論　第 3 章　C　学校、国民衛生の動向 2025/2026 学校保健の章を読んでおく 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく
6	学校保健③ 大信田真弓	学校保健におけるヘルスプロモーション活動③	講義 予習：テキスト　公衆衛生看護学概論　第 3 章　C　学校、国民衛生の動向 2025/2026 学校保健の章を読んでおく 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく
7	産業保健① 根岸茂登美	産業保健におけるヘルスプロモーション活動①	講義 予習：テキスト　公衆衛生看護学概論　第 3 章　B　職域、国民衛生の動向 2025/2026　労働衛生の章を読んでおく 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しお
8	産業保健② 根岸茂登美	産業保健におけるヘルスプロモーション活動②	講義 予習：テキスト　公衆衛生看護学概論　第 3 章　B　職域、国民衛生の動向 2025/2026　労働衛生の章を読んでおく 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しお
9	産業保健③ 根岸茂登美	産業保健におけるヘルスプロモーション活動③	講義 予習：テキスト　公衆衛生看護学概論　第 3 章　B　職域、国民衛生の動向 2025/2026　労働衛生の章を読んでおく 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく
10	歯科保健 ゲストスピーカー	ライフサイクルに沿った歯科保健、ヘルスプロモーション活動の実際	講義 予習：国民衛生の動向 2025/2026　歯科保健に関する項目を読んでおく 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく

11	栄養・食生活指導 ゲストスピーカー	ライフサイクルに沿った栄養・食生活指導、ヘルスプロモーション活動の実際	講義 予習：国民衛生の動向 2025/2026 生活習慣病と健康増進対策に関する項目を読んでおく 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく
12	メンタルヘルス ゲストスピーカー （東京都南多摩保健所・稲城市役所）	保健所におけるメンタルヘルス対策と市におけるメンタルヘルス活動の協働	講義 予習：国民衛生の動向 2025/2026 精神保健に関する項目を読んでおく 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく
13	地域の健康とヘルスプロモーション活動① 中田晴美・富塚美和・西村悦子	地域診断の理論とアセスメント	グループワーク 予習：テキスト 公衆衛生看護学概論 第 6 章を読んでおく 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく
14	地域の健康とヘルスプロモーション活動② 中田晴美・富塚美和・西村悦子	アセスメントの統合、健康課題の抽出、資料作成	グループワーク 予習：テキスト 公衆衛生看護学概論 第 6 章を読んでおく 復習：保健統計のデータ収集、分析を進める
15	地域の健康とヘルスプロモーション活動③ 中田晴美・富塚美和・西村悦子	地域診断発表会	プレゼンテーション・ディスカッション 予習：プレゼンテーションの準備を進める 復習：学習内容を振り返り、疑問点を解決する

授業開始前学習	公衆衛生看護学概論で学んだ「健康の概念」や「健康日本 21」の基本方針や理念、取り組みなどについて復習、予習をして臨むこと。
授業内課題のフィードバックの方法	課題レポートは講評を授業内でコメントします。
テキスト・教材	標 美奈子 他：標準保健師講座・1 公衆衛生看護学概論 （医学書院） 厚生労働統計協会：国民衛生の動向 2025/2026
参考書	厚生労働省ホームページ『健康日本 21』
評価の基準と方法	試験 70% 課題レポート 30%

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	◎	△	

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 60 時間
実務経験を活かした教育内容	本科目は、実務経験のある教員が、その経験を活かして講義を担当する。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-321	科目分類（～2024 年入学者）	310-321-13	授業コード	HB1820
科目名称	保健医療福祉行政論			単位数	2.00 単位
英文名称	Health Care and Social Welfare Administration			授業区分	講義
科目責任者	中田　晴美			必修・選択	必修
担当教員	中田・城所・小林(啓)			開講時期	3 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	急速な少子化、超高齢化、核家族化などの社会構造の変化、また生活習慣病など疾病構造の変化に伴う、医療保険、介護保険、公費負担制度など社会保障制度の歴史的な変遷について学習する。また、法律、制度に伴う行政の仕組みと役割、政策理念等の基礎的な知識を修得し、地域の健康課題を解決するための社会資源の開発や施策化のプロセス、地域保健計画の推進と評価等について学修し、地域と医療機関との連携において看護職として期待される役割を理解する。				
到達目標	1．国民の健康と福祉の現状について説明できる。 2．社会保障制度の基本理念と方法について説明できる。 3．保健・医療・福祉サービスの提供体制について説明できる。 4．医療保険・介護保険・社会福祉の制度とその実施状況および今後の課題について説明できる。 5．保健医療行政の施策への住民参加と計画策定・実施・評価の一連の過程を説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	科目ガイダンス 中田晴美 保健医療福祉行政の基本 城所敏英	保健医療福祉行政の根拠 公衆衛生の理念と戦略	講義 予習：テキスト第 1 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理する
2	保健医療福祉制度の変遷 小林啓子	公衆衛生の基盤形成 保健医療福祉行政の動向	講義 予習：テキスト第 2 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理する
3	保健医療福祉行政 小林啓子	国・都道府県・市区町村の行政のしくみと役割 行政における保健師の役割と活動	講義 予習：テキスト第 3 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理する
4	保健医療福祉の財政 公衆衛生に関する国際的な活動 城所敏英	財政のしくみ 予算の機能と原則 社会保障の給付と財源、国民負担 国際保健の潮流 保健医療分野の国際協力 国際保健に関するおもな国際機関	講義 予習：テキスト第 3 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理する
5	地域保健行政と保健師活動 小林啓子	地域保健に関する各種公的機関と役割	講義 予習：テキスト第 4 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理する
6	地域保健行政における関係機関との連携 城所敏英	地域・職域連携の推進 地域保健と学校保健の連携 ボランティア・NPO との協働	講義 予習：テキスト第 4 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理する
7	保健医療福祉行政～感染症対策～ 城所敏英	感染症法の概要 感染症法に基づく対策	講義 予習：テキスト第 2 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理する
8	社会保障制度の理念としくみ 城所敏英	社会保障制度とは 社会保障給付費 社会保障の法規と行政体系 社会保障制度をめぐる環境の変化と制度改革	講義 予習：テキスト第 5 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理する
9	医療制度と政策 城所敏英	医療制度と医療保険のしくみ 医療提供体制の管理と整備 医療安全対策 医療対策と医療提供体制	講義 予習：テキスト第 5 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理する
10	介護保険制度 城所敏英	介護保険制度の概要 介護保険サービスの内容 地域包括支援センター 地域包括ケアシステムにおける自治体の役割 介護保険事業の実施状況と保健師の役割	講義 予習：テキスト第 5 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理する
11	社会保障・社会福祉の制度① 城所敏英	年金保険 雇用保険と労働者災害補償保険 公的扶助（生活保護） 児童家庭福祉	講義 予習：テキスト第 5 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理する

12	社会保障・社会福祉の制度② 城所敏英	高齢者福祉 障害者福祉 成年後見制度と日常生活自立支援事業	講義 予習：テキスト第 5 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理する
13	保健医療福祉の計画と評価 城所敏英	地方公共団体の保健医療福祉計画の種類と目的 地域の保健医療福祉施策の各種計画	講義 予習：テキスト第 6 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理する
14	保健計画の策定プロセス 小林啓子	保健計画立案の一連のプロセス 政策決定への住民参加 保健計画策定とエンパワメント	講義・演習 予習：テキスト第 6 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理する
15	保健計画の策定プロセス立案の実際 小林啓子	保健計画の企画・立案	講義・演習 予習：テキスト第 6 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理する

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	講義時に講評を伝える
テキスト・教材	藤内 修二 他：標準保健師講座 別巻 1 保健医療福祉行政論（医学書院）
参考書	
評価の基準と方法	試験 100%

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	◎	○		

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 60 時間
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-321	科目分類（～2024 年入学者）	310-321-13	授業コード	HB1830
科目名称	公衆衛生看護活動論Ⅰ(対象別)			単位数	2.00 単位
英文名称	Public Health Nursing Activity Theory Ⅰ(Target)			授業区分	講義
科目責任者	富塚　美和			必修・選択	選択
担当教員	富塚・中田・西村			開講時期	3 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	対象の様々な状況や発達段階に応じた生活や健康課題及び支援の特徴を学び、人々が主体的に課題を解決できるよう予防の視点を重視しつつ、施策及び地域の社会資源を活用して保健活動を展開することについて基本的な理解を目的とする。さらに、保健・医療・福祉の様々な職種による連携のあり方と保健師の役割について学ぶ。				
到達目標	1．公衆衛生看護活動の理念と目的について説明できる。 2．公衆衛生看護活動に関する理論につい説明できる。 3．公衆衛生看護活動の場と特性について説明できる。 （行政機関・産業・学校） 4．対象に応じた公衆衛生看護活動について説明できる。 （母子・成人・高齢者・精神・障害児・難病） 5．健康危機管理における公衆衛生看護活動について説明できる。 （感染症・災害） 6．国際における公衆衛生看護活動について説明できる。 7．地域包括ケアにおける公衆衛生看護活動について説明で				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	公衆衛生看護に関する基本 担当：富塚美和	・公衆衛生看護の概念 ・活動の対象および場について	方法：講義 予習：公衆衛生看護学概論（2 年）の資料を復習しておくこと 復習：本時の授業内容を整理、理解する
2	公衆衛生看護活動に関わる理論・モデル 担当：富塚美和・西村悦子	公衆衛生看護学活動に関わる理論・モデル	方法：講義 GW（PRECEDE-PROCEED モデル） 予習：配付資料を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理、理解する
3	公衆衛生看護活動の場と特性 －学校保健－ 担当：富塚美和	・学校保健の基本 ・学校における健康課題への保健活動	方法：講義 予習：教科書第 9 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理、理解する
4	公衆衛生看護活動の場と特性 －産業保健－ 担当：富塚美和	・産業保健の基本 ・産業における健康課題と保健活動	方法：講義・GW（KYT 事例演習） 予習：事例を読み課題に取り組んでくること 教科書第 10 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理、理解する
5	対象に応じた公衆衛生看護活動 －母子保健－ 担当：西村悦子	・母子保健の理念・目的 ・母子保健の動向（歴史的変遷・施策等） ・母性各期の健康課題と保健活動 ・障害児保健の理念・目的 ・障害児保健の動向（歴史的変遷・施策等） ・障害児に対する保健活動	方法：講義 予習：教科書第 1 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理、理解する
6	対象に応じた公衆衛生看護活動 －成人保健－ 担当：富塚美和	・成人保健の理念・目的 ・成人保健の動向（歴史的変遷・施策等） ・成人の健康課題と保健活動	方法：講義・GW 予習：事例を読みレポートに取り組んでくること 教科書第 2 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理、理解する
7	対象に応じた公衆衛生看護活動 －高齢者保健－ 担当：中田晴美	・高齢者保健の理念・目的 ・高齢者保健の動向（歴史的変遷・施策等） ・高齢者の健康課題と保健活動	方法：講義 予習：教科書第 3 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理、理解する
8	対象に応じた公衆衛生看護活動 －精神保健－ 担当：中田晴美	・精神保健の理念・目的 ・精神保健の動向（歴史的変遷・施策等） ・精神障害者の健康課題と保健活動	方法：講義 予習：教科書第 4 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理、理解する

9	対象に応じた公衆衛生看護活動 －難病保健－ 担当：富塚美和	・難病保健の理念・目的 ・難病保健の動向（歴史的変遷・施策等） ・難病障害者の健康課題と保健活動	方法：講義・GW 予習：事例を読みレポートに取り組んでくること 教科書第 6 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理、理解する
10	国際保健活動	・国際保健の理念・目的 ・国際保健の動向（歴史的変遷・施策等） ・国際的な健康課題と保健活動	方法：講義 予習：配付資料を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理、理解する
11	健康危機管理に関する保健活動 －災害保健活動①－ 担当：富塚美和	・災害保健活動における基本 （法制度・システム・社会資源等） ・災害サイクルにおける災害対策と保健活動	方法：講義 予習：教科書第 11 章 C を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理、理解する
12	健康危機管理に関する保健活動 －災害保健活動②－ 担当： 中田晴美・富塚美和 西村悦子	災害保健活動の実際 災害対応の体験	方法：講義・グループワーク カードゲーム形式の防災教材を用いた災害対応の体験 （クロスロードゲーム） 予習：教科書第 3 章を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理、理解する
13	健康危機管理に関する保健活動 －災害保健活動③－ 担当：富塚美和・GS	災害保健活動の実際	方法：講義 予習：教科書第 11 章 C を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理、理解する
14	健康危機管理に関する活動 －感染症保健活動－ 担当：富塚美和	・感染症保健の理念・目的 ・感染症保健の動向 （歴史的変遷・施策等） ・感染症患者（家族）への保健活動 ・疾病管理 （新興・再興感染症・結核・HIV 等）	方法：講義 予習：教科書第 11 章 B を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理、理解する
15	地域包括ケアにおける公衆衛生看護活動 公衆衛生看護活動のまとめ 富塚美和	・地域包括ケアの動向 ・地域包括ケアにおける公衆衛生看護活動 ・地域包括ケアにおける多職種連携 ・公衆衛生看護活動論全体のまとめ	方法：講義 予習：これまでの講義資料を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理、理解する 公衆衛生看護活動における看護職の役割についてレポートにまとめる

授業開始前学習	＊予習を前提として授業を進行するため予習は必ず行ってきてください。 ＊グループワークや発表など、アクティブラーニングの授業形態を取り入れています。意欲的・積極的に参加してください。 ＊公衆衛生看護に関連する時事問題に関心を持ち、日常的にニュース、新聞等から情報を得るよう努めてください。 ＊公衆衛生看護学活動を理解するため、これまでの既修の内容と関連させて学習してください。
授業内課題のフィードバックの方法	課題レポート、グループワークの講評については授業内でコメントします。
テキスト・教材	中村裕美子他「標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動」（医学書院）
参考書	講義内で必要時紹介します。
評価の基準と方法	試験（70%）、課題レポート（30%）
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成 他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成 チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成 多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	◎	△	△
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 60 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	ZP-9-432	科目分類（～2024 年入学者）	310-331-24	授業コード	HB0985
科目名称	公衆衛生看護方法論			単位数	2.00 単位
英文名称	Public Health Nursing Skills			授業区分	演習
科目責任者	富塚　美和			必修・選択	自由
担当教員	富塚・中田・西村			開講時期	4 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	既存の資料からの情報を基に、実習予定地を対象に地域診断を実施する。地域診断により抽出された健康課題の解決に向け、保健活動を考察しプレゼンテーションを行う。また、公衆衛生看護活動における基本技術である健康診査、健康相談、家庭訪問、健康教育について、講義および事例を用いた看護展開により習得し、公衆衛生看護学実習へつなげる。				
到達目標	1.家庭訪問の事例に対する訪問計画を立案することができる。 2.訪問計画に基づき家庭訪問場面をロールプレイにて実施できる。 3.対象に応じた健康診査をロールプレイにて実施できる。 4.対象に応じた健康相談をロールプレイにて実施できる。 5.対象に応じた健康教育指導案を立案することができる。 6.指導案に基づき健康教育をロールプレイにて実施できる。 7.地域診断に必要な情報を収集、分析し健康課題を抽出できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	ガイダンス 公衆衛生看護技術 担当： 中田晴美・富塚美和 西村悦子	授業のガイダンス 公衆衛生看護活動に関わる技術について 　地域診断・健康診査・健康相談 　家庭訪問・健康教育	方法：講義 予習：既修の公衆衛生看護に関連する講義資料読んでおく 復習：講義の内容を整理し理解する
2	家庭訪問 担当： 中田晴美・富塚美和 西村悦子	家庭訪問について 　目的・特徴・対象・技術 　基本姿勢・展開方法	方法：講義 予習：事前課題に取り組んでおく 　テキスト②第 5 章・テキスト③第 1 章を読んでおく 　新生児の成長発達課題について復習しておく 復習：講義内容をもとに新生児訪問事例の訪問計画を立案する
3 4	家庭訪問 担当： 中田晴美・富塚美和 西村悦子	家庭訪問の展開 　＊新生児訪問事例の訪問計画の立案 　＊家庭訪問に関わる技術演習 　＊新生児訪問事例に対する訪問演習準備	方法：グループワーク・ロールプレイ 予習：事前課題に取り組んでおく 　テキスト②第 5 章・テキスト③第 1 章を読んでおく 　新生児の成長発達について復習しておく 復習：家庭訪問計画を評価・修正する 　家庭訪問に関わる知識や技術、一連のプロセスについて 　整理し、課題をまとめる
5	健康診査・健康相談 担当者： 中田晴美・富塚美和 西村悦子	健康診査・健康相談について 　目的・特徴・対象・技術 　基本姿勢・展開方法	方法：講義 予習：事前課題に取り組んでおく 　テキスト②第 4 章を読んでおく 　乳幼児の成長発達課題について復習しておく 復習：講義内容をもとに健康診査・健康相談について学びを整理し、課題をまとめる
6・7	健康診査・健康相談 担当者： 中田晴美・富塚美和 西村悦子	健康診査・健康相談の展開 　＊事例（1 歳 6 か月児）に対する 　　健康診査・健康相談計画の立案 　＊健康診査・健康相談場面の演習	授業方法：グループワーク・ロールプレイ 予習：事前課題に取り組んでおく 　テキスト②4 章を読んでおく 復習：健康診査・健康相談についての学びを整理し、課題をまとめる
8・9・10	地域診断 担当者： 中田晴美・富塚美和 西村悦子	地域診断の展開 　＊アセスメントの統合 　＊地域の強み・弱みの検討 　＊発表準備（地域診断記録・スライド作成）	授業方法：グループワーク 予習：公衆衛生看護学概論および地域看護活動論Ⅱ（応用）の講義資料を読んでおく 復習：アセスメント内容を整理し、地域診断記録用紙およびスライドをまとめる
9・10	地域診断 担当者： 中田晴美・富塚美和 西村悦子	地域診断の発表と振り返り	方法：グループワーク・発表 予習：地域診断の発表にむけ、地域診断記録およびスライドを整理しておく 復習：発表をふまえ、さらに必要な情報の収集やアセスメントを整理し地域診断記録およびスライドにまとめる

11	健康教育 担当者： 中田晴美・富塚美和 西村悦子	健康教育について 目的・特徴・対象・技術・教材 基本姿勢・展開方法	授業方法：講義 予習：事前課題に取り組んでおく テキスト②第 6 章を読んでおく 復習：講義の内容を整理し、課題用紙をまとめる
12 ｜ 18	健康教育 担当者： 中田晴美・富塚美和 西村悦子	健康教育の展開 ＊健康教育指導案の立案 ＊指導案に基づきシナリオおよび教材作成	授業方法：グループワーク 予習：事前課題に取り組んでおく テキスト②第 6 章を読んでおく 復習：健康教育に関わる知識や技術について整理し、課題をまとめる 健康教育の発表に向けて準備をする
19・20	健康教育 担当者： 中田晴美・富塚美和 西村悦子	健康教育の展開 ＊健康教育の実施（発表） ＊健康教育の評価・修正	授業方法：グループワーク 予習：テキスト②第 6 章を読んでおく 発表に向けて準備をしておく 復習：健康教育に関わる知識や技術について整理し、課題をまとめる 発表でのコメントをふまえ、指導案および教材を追加・修正する
21	地域診断 担当者： 中田晴美・富塚美和 西村悦子	地域診断の展開 ＊アセスメントの統合 ＊地域の強み・弱みの検討 ＊発表準備（地域診断記録・スライド作成）	方法：グループワーク・発表 予習：第 10 回の地域診断の発表での助言をふまえ、地域診断記録およびスライドを整理しておく 復習：発表に向けて、地域診断記録およびスライドにまとめる
22・23	地域診断 担当者： 中田晴美・富塚美和 西村悦子	地域診断の発表と振り返り 公衆衛生看護方法論の全体のまとめ	方法：グループワーク・発表・講義 予習：地域診断の発表にむけ、地域診断記録およびスライドを整理しておく 復習：発表でのコメントをふまえ、さらに必要な情報の収集やアセスメントを整理し地域診断記録およびスライドにまとめる 公衆衛生看護に関する基本技術について、学びを整理する

授業開始前学習	＊保健師課程における必修科目となっています。 ＊講義内容は実習に必要となる知識・技術で構成されています。欠席をしないことが望ましい。 ＊予習を前提として授業を進行するため予習は必ず行ってきてください。 ＊グループワークや発表など、アクティブラーニングの授業形態をとるため意欲的・積極的に参加してください。 ＊公衆衛生看護学領域に関連する時事問題に関心を持ち、日常的にニュース、新聞等から情報を得るよう努めてください。 ＊公衆衛生看護学活動を理解するため、これまでの既修の内容と関連させて学習してくださ
授業内課題のフィードバックの方法	授業中に質問に回答するとともに、授業内で講評を伝える。
テキスト・教材	①標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論（第 6 版）/医学書院 ②標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術（第 5 版）/医学書院 ③標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動（第 5 版）/医学書院 ④国民衛生の動向 2024/2025
参考書	
評価の基準と方法	授業内課題・小テスト：60% 演習実施状況：40%

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	○	◎	

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 46 時間+予習・復習時間 44 時間
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	ZP-9-331	科目分類（～2024 年入学者）	310-331-13	授業コード	HB1840
科目名称	公衆衛生看護活動論Ⅱ(応用)			単位数	2.00 単位
英文名称	Public Health Nursing Activity Theory Ⅱ(application)			授業区分	講義
科目責任者	富塚　美和			必修・選択	選択
担当教員	富塚・中田・西村			開講時期	3 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	公衆衛生看護活動論Ⅰ（対象別）の学びを基礎とし、対象の様々な状況や発達段階に応じた生活や健康課題及び支援の特徴を学ぶ。さらに、人々が主体的に課題を解決できるよう予防の視点を重視しつつ、施策及び地域の社会資源を活用して保健活動を展開することについて、保健・医療・福祉の様々な職種による連携のあり方と保健師の役割、多様性について学ぶ。				
到達目標	1．地域診断の理論について理解し、活用することができる。 2．実際の対象地域をアセスメントすることにより潜在的・顕在的な健康課題を抽出することができる。 3．地域診断により抽出された健康課題に対する公衆衛生看護活動を考え記述することができる。 4．事例展開を通して、対象に応じた支援について考察し記述することができる。 5．事例展開を通して、保健・医療・福祉の様々な職種による連携のあり方と保健師の役割、多様性について説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	ガイダンス 保健活動の実際と展開 －高齢者保健活動①－ 担当：中田晴美 富塚美和・西村悦子	・科目全体に関するガイダンス ・高齢者保健活動について	授業方法：講義 予習：公衆衛生看護活動論Ⅰ（対象別）の資料を読んでおく 教科書③第 3 章を読んでおく 復習：本時の内容を整理、理解する
2	保健活動の実際と展開 －精神保健活動①－ 担当：中田晴美	精神保健活動について	授業方法：講義 予習：公衆衛生看護活動論Ⅰ（対象別）の資料を読んでおく 教科書③第 4 章を読んでおく 復習：本時の内容を整理、理解する
3	保健活動の実際と展開 －高齢者保健活動②－ 担当：中田晴美・富塚美和 西村悦子	高齢者保健活動の事例展開	授業方法：グループワーク・講義 予習：教科書②第 4 章、教科書③第 3 章、公衆衛生看護活動論Ⅰの資料を読み、事前に配布された課題および事例に取り組んでくること 復習：本時の内容を整理、理解する
4	保健活動の実際と展開 －精神保健活動②－ 担当：中田晴美・富塚美和 西村悦子	精神保健活動の事例展開	授業方法：グループワーク・講義 予習：教科書②第 4 章、教科書③第 4 章、公衆衛生看護活動論Ⅰの資料を読み、事前に配布された課題および事例に取り組んでくること 復習：本時の内容を整理、理解する
5	保健活動の実際と展開 －難病保健活動①－ 担当：富塚美和 中田晴美・西村悦子	難病保健活動について	授業方法：講義 予習：公衆衛生看護活動論Ⅰ（対象別）の資料を読んでおく 教科書③第 6 章を読んでおく 復習：本時の内容を整理、理解する
6	保健活動の実際と展開 －難病保健活動②－ 担当：富塚美和 中田晴美・西村悦子	難病保健活動の事例展開	授業方法：グループワーク・講義 予習：教科書②第 4 章、教科書③第 6 章、公衆衛生看護活動論Ⅰの資料を読み、事前に配布された課題および事例に取り組んでくること 復習：本時の内容を整理、理解する

7	保健活動の実際と展開 －感染症保健活動①－ 担当：富塚美和 中田晴美・西村悦子	感染症保健活動について	授業方法：講義 予習：教科書②第４章、教科書③第６章、公衆衛生看護活動論Ⅰの資料を読んでおく 復習：本時の内容を整理、理解する
8	保健活動の実際と展開 －感染症保健活動②－ 担当：富塚美和 中田晴美・西村悦子	感染症保健活動の事例展開	授業方法：講義・グループワーク 予習：教科書①第９章、教科書③第７章、公衆衛生看護活動論Ⅰの資料を読み、事前に配布された課題および事例に取り組んでくること 復習：本時の内容を整理、理解する
9	地域診断① 担当：中田晴美 富塚美和・西村悦子	地域診断に関する理論と展開方法	授業方法：講義 予習：公衆衛生看護学概論の講義資料を読んでおく 教科書①第６章のA、教科書②第３章Ｃを読んでおく 復習：本時の内容を整理、理解する
10 ｜ 12	地域診断②・③・④	地域診断に必要な情報の収集とアセスメント （住民のコアと８つのサブシステム）	授業方法：グループワーク 予習：配付資料を読んでおく 復習：収集した情報を整理し、発表に向け準備をする
13	地域診断⑤ 担当：中田晴美 富塚美和・西村悦子	地域診断の発表による学びの共有	講義・グループワーク・発表 予習：発表に向け準備をする 復習：発表でのコメントを整理し、課題を明確にする
14	地域診断⑥ 担当：中田晴美 富塚美和・西村悦子	・地域診断に必要な情報の収集とアセスメント （住民のコアと８つのサブシステム） ・科目全体のまとめ	授業方法：グループワーク・講義 予習：配付資料を読んでおく 復習：地域診断の今後の課題を明確にする。 本時の授業内容を整理する。
13	保健活動の実際と展開　6 －精神保健活動－ 担当：中田晴美 富塚美和・西村悦子	精神保健活動の事例展開	講義・グループワーク・発表 予習：GW の発表内容を整理する 復習：本時の内容を整理、理解する
14	地域診断　7 担当：富塚美和	地域診断に必要な情報収集 アセスメントの統合・健康課題の抽出 発表準備	授業方法：グループワーク 予習・復習：収集した情報やアセスメント内容を整理し、発表に向けた準備をする
15	地域診断　8 担当：富塚美和・中田晴美・西村悦子	・地域診断の発表 ・公衆衛生看護活動論Ⅱのまとめ	授業方法：グループワーク・発表 予習：収集した情報やアセスメント内容を整理し、発表に向けた準備をする 復習：GW の発表内容からの学びを整理する 公衆衛生看護活動について整理、理解する

授業開始前学習	＊講義内容は保健師課程において必須となる知識・技術で構成されています。欠席をしないことが望ましい。 ＊予習を前提として授業を進行するため予習は必ず行ってきてください。 ＊グループワークや発表など、アクティブラーニングの授業形態をとるため意欲的・積極的に参加してください。 ＊公衆衛生看護学領域に関連する時事問題に関心を持ち、日常的にニュース、新聞等から情報を得るよう努めてください。 ＊公衆衛生看護学活動を理解するため、これまでの既修の内容と関連させて学習してください。 ＊対象地域の自治体の広報情報
授業内課題のフィードバックの方法	事例展開、課題については、講義内でフィードバックします。
テキスト・教材	教科書①標美奈子他 「標準保健師講座１公衆衛生看護学概論」（医学書院） 教科書②中村裕美子他「標準保健師講座２公衆衛生看護技術」（医学書院） 教科書③松田正巳他 「標準保健師講座３対象別公衆衛生看護活動」（医学書院）
参考書	国民衛生の動向
評価の基準と方法	試験（60%）、課題レポート・小テスト（40%）

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	○	◎	○
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間+予習・復習時間 60 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	ZP-9-431	科目分類（～2024 年入学者）	310-331-14	授業コード	HB1010
科目名称	公衆衛生看護管理論			単位数	1.00 単位
英文名称	Public Health Nursing Management			授業区分	講義
科目責任者	中田　晴美			必修・選択	自由
担当教員	富塚・中田・西村			開講時期	4 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	公衆衛生看護活動における保健師の管理的な機能としての基礎的な知識を理解するとともに、情報管理、組織・運営管理、人材育成、予算管理の具体的な実践方法を学ぶ。さらに、感染症や災害などに対する健康危機管理について、段階に応じた保健師の役割や活動について理解する。また、地域の健康課題を解決するために必要な保健福祉計画の策定および地域ケアシステムの創出について考える。				
到達目標	1．公衆衛生看護管理の定義と特徴を述べることができる。 2．公衆衛生看護管理の構成要素および活動方法の実際について述べることができる。 3．健康危機管理における段階に応じた保健師の役割と活動について説明できる。 4．保健事業計画の策定から評価までのプロセスを説明できる。 5．地域の健康課題を解決するために必要となる社会資源や保健事業を考察できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	科目ガイダンス 公衆衛生看護管理の概念と機能① 中田晴美	公衆衛生看護管理の定義・目的・機能	講義 予習：テキスト第 8 章を読んでおく 復習：本時の授業内容とテキストを整理する
2	公衆衛生看護管理の概念と機能② 中田晴美	公衆衛生看護管理の構成要素	講義 予習：テキスト第 8 章を読んでおく 復習：本時の授業内容とテキストを整理する
3	行政における公衆衛生看護管理の実際 中田晴美・ゲストスピーカー	公衆衛生看護管理の展開と保健師の役割	講義 予習：テキスト第 8 章を読んでおく 復習：本時の授業内容とテキストを整理する
4	保健事業計画策定① 中田晴美	地域診断に基づく分析、健康課題の抽出	講義 予習：テキスト第 6・7 章を読んでおく 復習：本時の授業内容とテキストを整理する
5	健康危機管理 富塚美和	公衆衛生看護管理における健康危機管理の概要	講義 予習：テキスト第 9 章を読んでおく 復習：本時の授業内容とテキストを整理する
6	健康危機管理 中田晴美・富塚美和・西村悦子	公衆衛生看護管理における健康危機管理の実際	グループワーク 予習：テキスト第 9 章を読んでおく 復習：本時の授業内容とテキストを整理する
7	保健事業計画策定② 中田晴美・富塚美和・西村悦子	健康課題を解決するための事業計画策定	グループワーク 予習：各自で保健事業計画案を完成させる 復習：本時の授業内容を整理する
8	保健事業計画策定③ 中田晴美・富塚美和・西村悦子	事業計画発表 まとめ	グループワークと発表 予習：各自で保健事業計画案を完成させる 復習：全体のまとめとして、課題レポートを作成する

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	課題レポートはクラスルーム内でフィードバックします
テキスト・教材	標美奈子他 編：標準保健師講座 1　公衆衛生看護学概論（医学書院）
参考書	井伊久美子他編：保健師業務要覧（日本看護協会出版会）
評価の基準と方法	試験　60% 課題レポート　40%

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	○	◎	
関連科目								
その他	公衆衛生看護管理の意義・役割は、公衆衛生看護活動そのものと重なり重要な分野です。積極的にディスカッションをしながらすすめます。							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	ZP-9-433	科目分類（～2024 年入学者）	310-331-34	授業コード	HB1850
科目名称	公衆衛生看護学実習			単位数	4.00 単位
英文名称	Public Health Nursing Practicum			授業区分	実習
科目責任者	中田　晴美			必修・選択	自由
担当教員	富塚・中田・西村			開講時期	4 年通年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	公衆衛生看護活動の場である保健所・保健センター等において地域住民を対象として、地域の健康水準の向上を目的に展開される活動の実際と保健師の役割を学ぶ。				
到達目標	1．地域で暮らす個人・家族および小集団や地域の健康を守る公的機関の機能・法規について、生活や環境と関連づけて把握し、対象に応じた支援のあり方を説明できる。 2．地域で暮らす個人・家族および小集団や地域について、人々の生活と健康に関する情報を多角的に捉え、根拠に基づいたアセスメントをすることにより、健康課題を明らかにできる。 3．公衆衛生看護活動を行う上で必要な個人・家族、集団、地域に対する基本技術とふさわしい態度について説明できる。 4．個別から集団や地域の健康課題への支援につなげる活				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1-10	市町村実習 中田晴美 富塚美和 西村悦子	1 日目 ・施設の概要、実習計画等について ・事前に行った地域診断の発表 など	（実習） 予習：事業概要を読んでおくこと。 復習：担当保健師よりオリエンテーションをうけ、学んだことを記録用紙に整理する。
		2-9 日目 施設毎の保健事業計画にあせて以下の内容を学修する。 ・家庭訪問 指導保健師と同行訪問とし、訪問の計画を事前に立案し、指導保健師及び担当教員に指導・助言を受け、訪問後に実施報告を記録する。 ・健康相談 実習施設において、一般健康相談、乳幼児健康相談、その他保健師が地区活動で実施している健康相談に参加する。 ・健康診査 実習施設において実施されている乳幼児健康診査、特定健診等に参加する。 ・健康教育 臨地実習期間中に、地域住民を対象とした健康教育に参加する。 ・関係機関連携・ネ	（実習） 予習：家庭訪問、健康相談、健康教育は、必要な技術の復習をしておくこと。 復習：実習内容をグループで話し合い、記録用紙に整理する。
		10 日目 ・最終カンファレンス 実習を通して学んだ内容を深め、学びを共有する。	（ディスカッション） 予習：実習記録を読み直しておくこと。 復習：中間カンファレスの内容と学びを記録する。
11-20	保健所実習 中田晴美 富塚美和 西村悦子	11 日目 ・施設の概要、実習計画等について ・事前に行った地域診断の発表 など	（実習） 予習：事業概要を読んでおくこと。 復習：担当保健師よりオリエンテーションをうけ、学んだことを記録用紙に整理する。
		12～19 日 ・保健所における保健活動 保健所の目的、機能を達成するために保健師が担う活動および 保健所保健師の専門性について、具体的事例や事業をもとに説明を受ける。また、 関係者および関係機関との広域的な連携、管内市町村間の連絡、調整方法について説明を受けるとともに、実習期間中に行われる連絡調整会議等に出席をする。 ・健康危機管理について 地域防災計画、虐待、DV、災害時派遣、感染症発生に関して、保健師の役割について説明を受ける。 ・地域ケアシステム 保健福祉連絡調整会議・事例検討会・地域ケ	（実習） 予習：授業の復習をしておくこと。 復習：実習内容をグループで話し合い、記録用紙に整理する。

		20 日目 ・最終カンファレンス 実習を通して学んだ内容を深め、学びを共有する。	（ディスカッション） 予習：実習記録を読み直しておくこと。 復習：カンファレスの内容と学びを記録する。

授業開始前学習	1．市町村や保健所など地域で活動する保健師が所属する機関・組織の役割を説明できる。 2．地域診断における情報収集の視点や方法、地域住民の健康課題の把握方法を学び具体的に述べることができる。 3．家庭訪問や個別支援の実際の場を通じて、特定の健康課題を持つ個人や家族への保健師の支援の特徴と役割を説明できる。 4．特定の健康課題を持つ人々に対する集団・組織・地域支援ネットワークなどの支援方法について列挙できる。 5．個人・家族、集団、住民組織、地域を関連させて捉える保健師の視点と役割を具体的に述べるこ							
授業内課題のフィードバックの方法	実習時に、担当教員がその都度個別に行う。							
テキスト・教材	1．標美奈子 他著：標準保健師講座１ 公衆衛生看護学概論（医学書院） 2．中村裕美子 他著：標準保健師講座２ 公衆衛生看護技術（医学書院） 3．中谷芳美 他著：標準保健師講座３ 対象別公衆衛生看護活動（医学書院）							
参考書	井伊久美子 他：新版 保健師業務要覧（日本看護協会出版会）							
評価の基準と方法	実習評価表に基づいて評価する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	△	○	○	◎
関連科目								
その他	実習は積極的かつ主体的に行い、住民の方々に保健師学生としてふさわしい態度で接してください。							
予習・復習の所要時間	実習時間 180 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-111 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-11 （J）	授業コード	HB1065
科目名称	医療安全学			単位数	1.00 単位
英文名称	Medical safety			授業区分	講義
科目責任者	小林 優子			必修・選択	必修
担当教員	小林 優子			開講時期	1 年後期
オフィスアワー	前期 月曜日 10:00～13:00 後期 月曜日 10:00～13:00			研究室	1-301
授業概要	医療安全管理の基本的な知識を学習し、医療安全に関する考え方、リスクの発生とヒューマンエラーについて理解する。事故事例を通して看護業務上のリスクと対策を学び、さらに安全で信頼される医療を提供すためのシステムや取り組みを理解する。そして、看護職の責務と役割、医療チームの一員としての行動について理解を深める。				
到達目標	1. 医療安全と看護の責務に関する法令や制度の概要について説明できる。 2. 医療事故が起こる要因と看護業務と医療事故の関連性について説明できる。 3. 医療事故の背景にある医療システムやヒューマンエラーについて説明できる。 4. 医療安全のための対策について説明できる。 5. 看護学生の実習と安全について説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	授業ガイダンス 医療安全を学ぶ意義 小林 優子	授業ガイダンス 医療安全・リスクマネジメントの歴史と動向	予習：テキストの 1「医療安全と看護の理念」p.23 までを読む。 復習：授業を振返りながら、テキストの 1「医療安全と看護の理念」p.23 までを読む。 授業は適宜 Think Pair Share を活用する。 授業後に Googleform で課題を提出する。
2	医療安全の基本と医療従事者の責任 小林 優子	医療安全対策 医療事故における医療従事者の責任	予習：テキストの 1「医療安全と看護の理念」p.24～と 2「医療安全への取り組みと医療の質の評価」を読む。 復習：授業を振返りながら、テキストの 1「医療安全と看護の理念」p.24～と 2「医療安全への取り組みと医療の質の評価」を読む。 授業は適宜 Think Pair Share を活用する。 授業後に Googleform で課題を提出する。
3	医療事故発生のメカニズム ヒューマンエラー 小林 優子	医療事故のメカニズムと防止の考え方 医療事故防止のための理論とヒューマンエラー 安全文化の醸成	予習：テキストの 3「事故発生のメカニズムとリスクマネジメント」4「チームで取り組む安全文化の醸成」を読む。 復習：授業を振返りながら、テキストの 3「事故発生のメカニズムとリスクマネジメント」4「チームで取り組む安全文化の醸成」を読む。 授業は適宜 Think Pair Share を活用する。 授業後に Googleform で課題を提出する。復習：ワークブックの内容をまとめる。
4	医療施設における医療安全管理の実際 ゲストスピーカー	医療安全管理室の構成、機能 医療機関における管理と教育	予習：テキストの 2「医療安全への取り組みと医療の質の評価」を読む。 復習：授業を振返りながら、テキストの 2「医療安全への取り組みと医療の質の評価」を読む。 授業後に Googleform で課題を提出する。
5	医療事故事例からみた対策 小林 優子	看護業務に関連する事故と安全対策 在宅看護における医療事故と安全対策	予習：テキストの 5「看護業務に関連する事故と安全対策」6「在宅看護における医療事故と安全対策」を読む。 復習：授業を振返りながら、テキストの 5「看護業務に関連する事故と安全対策」6「在宅看護における医療事故と安全対策」を読む。 授業は適宜 Think Pair Share を活用する。 授業後に Googleform で課題を提出する。
6	リスク分析 1 小林 優子・長嶋 祐子	リスク分析の概要 m-SHEL モデル 根本原因分析（RCA 分析）	予習：テキストの p.93~108 を読む 復習：授業を振返りながら、テキストの p.93~108 を読む 授業は適宜 Think Pair Share を活用する。 授業後に Googleform で課題を提出する。
7	リスク分析 2 小林優子	根本原因分析（RCA 分析）の実際 事例をもとにした分析を行う。	予習：6 回目の授業の復習をし、RCA ができるようにしてくる。 復習：授業を振返りながら、テキストの p.93~108 を読む グループワークでリスク分析を行い、発表する。 授業後に Googleform で課題を提出する。

8	医療従事者のリスク管理 看護学実習と安全 授業のまとめ 小林　優子	医療従事者の安全を脅かすリスクと対策 看護学生の実習と安全	予習：テキストの 7「医療従事者の安全を脅かすリスクと対策」8「看護学生の実習と安全」を読む。 復習：授業を振返りながら、テキストの 7「医療従事者の安全を脅かすリスクと対策」8「看護学生の実習と安全」を読む。 授業は適宜 Think Pair Share を活用する。 授業後に Googleform で課題を提出する。

授業開始前学習	・テキストの該当範囲を読み、わからない言葉を調べておく。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業ごとの課題は翌週の授業の中でフィードバックを行う。							
テキスト・教材	松下由美子他著『 医療安全』（メディカ出版）							
参考書	長野展久著『看護事故の舞台裏』（医学書院） 石川雅彦著『 RCA 実践マニュアル』（医学書院） 河野龍太郎著『医療におけるヒューマンエラー』（医学書院）							
評価の基準と方法	定期試験（70%）、課題の提出物（30%） 課題の提出物は、毎回の授業後の提出レポートとグループワークの提出物による。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎	○		
関連科目								
その他	Think Pair Share やグループワークなどのアクティブラーニングを活用する。 積極的に授業に参加できるよう準備してほしい。							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間＋予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容	医療事故調査委員会の外部委員の経験を生かし、医療事故の背景、患者遺族の状況、医療機関の医療安全管理などについても触れて授業を行う。							

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	310-311-14（J）	授業コード	HB1060
科目名称	医療安全			単位数	1.00 単位
英文名称	Medical safety			授業区分	講義
科目責任者	小林　優子			必修・選択	必修
担当教員	小林　優子			開講時期	4 年後期
オフィスアワー	前期　月曜日 10:00～13:00 後期　月曜日 10:00～13:00			研究室	1-301
授業概要	医療安全管理の基本的な知識を学習し、医療安全に関する考え方、リスクの発生とヒューマンエラーについて理解する。事故事例を通して看護業務上のリスクと対策を学び、さらに安全で信頼される医療を提供すためのシステムや取り組みを理解する。そして、看護職の責務と役割、医療チームの一員としての行動について理解を深める。				
到達目標	1．医療安全と看護の責務に関する法令や制度の概要について説明できる。 2．医療事故が起こる要因と看護業務と医療事故の関連性について説明できる。 3．医療事故の背景にある医療システムやヒューマンエラーについて説明できる。 4．医療安全のための対策について説明できる。 5．看護学生の実習と安全について説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	授業ガイダンス 医療安全を学ぶ意義 小林　優子	授業ガイダンス 医療安全・リスクマネジメントの歴史と動向	予習：テキストの 1「医療安全と看護の理念」p.23 までを読む。 復習：授業を振返りながら、テキストの 1「医療安全と看護の理念」p.23 までを読む。 授業は適宜 Think Pair Share を活用する。 授業後に Googleform で課題を提出する。
2	医療安全の基本と医療従事者の責任 小林　優子	医療安全対策 医療事故における医療従事者の責任	予習：テキストの 1「医療安全と看護の理念」p.24～と 2「医療安全への取り組みと医療の質の評価」を読む。 復習：授業を振返りながら、テキストの 1「医療安全と看護の理念」p.24～と 2「医療安全への取り組みと医療の質の評価」を読む。 授業は適宜 Think Pair Share を活用する。 授業後に Googleform で課題を提出する。
3	医療事故発生のメカニズム　ヒューマンエラー 小林　優子	医療事故のメカニズムと防止の考え方 医療事故防止のための理論とヒューマンエラー 安全文化の醸成	予習：テキストの 3「事故発生のメカニズムとリスクマネジメント」4「チームで取り組む安全文化の醸成」を読む。 復習：授業を振返りながら、テキストの 3「事故発生のメカニズムとリスクマネジメント」4「チームで取り組む安全文化の醸成」を読む。 授業は適宜 Think Pair Share を活用する。 授業後に Googleform で課題を提出する。復習：ワークブックの内容をまとめる。
4	医療施設における医療安全管理の実際 ゲストスピーカー	医療安全管理室の構成、機能 医療機関における管理と教育	予習：テキストの 2「医療安全への取り組みと医療の質の評価」を読む。 復習：授業を振返りながら、テキストの 2「医療安全への取り組みと医療の質の評価」を読む。 授業後に Googleform で課題を提出する。
5	医療事故事例からみた対策 小林　優子	看護業務に関連する事故と安全対策 在宅看護における医療事故と安全対策	予習：テキストの 5「看護業務に関連する事故と安全対策」6「在宅看護における医療事故と安全対策」を読む。 復習：授業を振返りながら、テキストの 5「看護業務に関連する事故と安全対策」6「在宅看護における医療事故と安全対策」を読む。 授業は適宜 Think Pair Share を活用する。 授業後に Googleform で課題を提出する。
6	リスク分析 1 小林　優子・長嶋　祐子	リスク分析の概要 m-SHEL モデル 根本原因分析（RCA 分析）	予習：テキストの p.93~108 を読む 復習：授業を振返りながら、テキストの p.93~108 を読む 授業は適宜 Think Pair Share を活用する。 授業後に Googleform で課題を提出する。
7	リスク分析 2 小林優子	根本原因分析（RCA 分析）の実際 事例をもとにした分析を行う。	予習：6 回目の授業の復習をし、RCA ができるようにしてくる。 復習：授業を振返りながら、テキストの p.93~108 を読む グループワークでリスク分析を行い、発表する。 授業後に Googleform で課題を提出する。

8	医療従事者のリスク管理 看護学実習と安全 授業のまとめ 小林　優子	医療従事者の安全を脅かすリスクと対策 看護学生の実習と安全	予習：テキストの 7「医療従事者の安全を脅かすリスクと対策」8「看護学生の実習と安全」を読む。 復習：授業を振返りながら、テキストの 7「医療従事者の安全を脅かすリスクと対策」8「看護学生の実習と安全」を読む。 授業は適宜 Think Pair Share を活用する。 授業後に Googleform で課題を提出する。

授業開始前学習	・テキストの該当範囲を読み、わからない言葉を調べておく。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業ごとの課題は翌週の授業の中でフィードバックを行う。							
テキスト・教材	松下由美子他著『 医療安全』（メディカ出版）							
参考書	長野展久著『看護事故の舞台裏』（医学書院） 石川雅彦著『 RCA 実践マニュアル』（医学書院） 河野龍太郎著『医療におけるヒューマンエラー』（医学書院）							
評価の基準と方法	定期試験（70%）、課題の提出物（30%） 課題の提出物は、毎回の授業後の提出レポートとグループワークの提出物による。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△				◎	○	○	
関連科目								
その他	Think Pair Share やグループワークなどのアクティブラーニングを活用する。 積極的に授業に参加できるよう準備してほしい。							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間＋予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容	医療事故調査委員会の外部委員の経験を生かし、医療事故の背景、患者遺族の状況、医療機関の医療安全管理などについても触れて授業を行う。							

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	310-311-13	授業コード	HB1052
科目名称	ﾁｰﾑ医療			単位数	1.00 単位
英文名称	Interprofessional Collaboration			授業区分	講義
科目責任者	門脇　淳子			必修・選択	必修
担当教員	門脇　淳子			開講時期	3 年前期
オフィスアワー	前期　金曜日 11:00～14:00 後期　金曜日 11:00～14:00			研究室	9-403
授業概要	医療ケアとチーム医療の概念を知り、チームの構成員が担う役割や他の専門職種への理解を深めることで、職種間のコミュニケーションの重要性を知り、自らの職種の役割、責任を考えることができるようになることを目的とする。チーム医療を担うメディカルスタッフをゲストスピーカーとして招き、チーム医療のシステム・そのあり方、メディカルスタッフ各々の役割を学習し、対象となる人々の健康上の課題および目標を共有することの重要性、メディカルスタッフの緻密な連携・協働の必要性を認識し、チーム医療を実践する基礎的知識を身につける。				
到達目標	１．多職種連携の概念について説明することができる。 ２．医療モデルから生活モデルへの転換の概要について説明することができる。 ３．保健・医療・福祉の専門領域で活動する多（他）職種の専門的役割と協働のあり方を説明することができる。 ４．多（他）職種連携を行う上での看護職の役割を説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	多職種連携とは 門脇淳子	１．講義の進め方と評価 ２．多職種連携とは ①多職種連携の概念 ②多職種連携の必要性 ③多職種連携の要素"	講義・グループワーク 予習：今までの実習経験の中から多職種連携(病院内でのチーム医療も含む)の場面を思い出し参加メンバーおよび役割をまとめてくる 復習：多職種連携の意味、必要性を整理する
2	医療モデルから生活モデルへの転換 （ｹﾞｽﾄｽﾋﾟｰｶｰ：工藤美香）	1．摂食・嚥下、口腔リハビリテーションの実際 2．栄養士の多職種連携における役割	講義・グループワーク 予習：①摂食・嚥下のメカニズムを必ず復習し整理してくる、②栄養士の教育背景および業務内容と、看護師の業務内容の違いを調べておく 復習：多職種連携における栄養士の役割をまとめる
3	看護職の活動領域と専門性 （ｹﾞｽﾄｽﾋﾟｰｶｰ：高波仁子）	地域への連携と保健師活動の実際	講義・グループワーク 予習：地域における保健師の役割を確認しておく 復習：地域連携における看護職の役割をまとめる
4	多職種の活動領域と専門性（1） （ｹﾞｽﾄｽﾋﾟｰｶｰ：横山美佐子）	在宅療養に向けた理学療法士の活動の実際	講義・グループワーク 予習：理学療法士の教育背景および業務内容と、看護師の業務内容の違いを調べておく 復習：看護職と理学療法士の連携と役割についてまとめる
5	多職種の活動領域と専門性（2） （ｹﾞｽﾄｽﾋﾟｰｶｰ：中村美穂子）	在宅療養を支える小児医療ケアの実際	講義・グループワーク 予習：在宅医療支える法律を整理しておく 復習：在宅医療を支えるケアの実際と多職種連携をまとめる
6	多職種の活動領域と専門性（3） （ｹﾞｽﾄｽﾋﾟｰｶｰ：茂木弥生子）	在宅療養における住空間 －医療・福祉の視点から　－	講義・グループワーク 予習：看護学概論で学習したナイチンゲールの『換気と保温』『住居の健康』『陽光』『部屋と壁の清潔』について整理しておく 復習：在宅療養における住環境のあり方、基本的な考え方、重要性についてまとめる
7	多職種の活動領域と専門性（4） （ｹﾞｽﾄｽﾋﾟｰｶｰ：松木勇樹）	在宅療養における薬剤師の役割	講義・グループワーク 予習：薬剤師の教育背景および業務内容と、看護師の業務内容の違いを調べておく 復習：看護師と薬剤師の連携と役割についてまとめる

8	まとめ（多職種連携演習） 門脇淳子	1．事例に基づき多職種連携の必要性と実際の活動を考える 2．事例に基づき多職種連携における看護職の役割を考える 3．まとめ	講義・グループワーク 予習：課題事例を「専門性志向」「患者志向」「職種構成志向」「協働志向」の４つの要素で分析しておく 復習：多職種連携における看護職の役割についてまとめる

授業開始前学習	1．今まで体験した実習の中から多職種連携の場面を想起し、具体的な内容をまとめてくる(評価対象課題レポート)。 2．講義後には必ず復習をして学習内容を十分理解しておく。 3．授業で興味をもった概念についてさらに調べてみるなど積極的な学習を行う。							
授業内課題のフィードバックの方法	ゲストスピーカの先生方の講評等、授業内でフィードバックを行う。							
テキスト・教材	なし その都度配付する							
参考書								
評価の基準と方法	課題レポート 50% 定期試験に相当するレポート 50%							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○	○	△	◎		
関連科目	看護学概論　地域・在宅看護学概論　成人看護学実習　老年看護学実習　精神看護学実習　統合実習							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-311	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-13	授業コード	HB1055
科目名称	多職種連携論			単位数	1.00 単位
英文名称	Interprofessional Collaboration			授業区分	講義
科目責任者	門脇　淳子			必修・選択	必修
担当教員	門脇　淳子			開講時期	3 年前期
オフィスアワー	前期　金曜日 11:00～14:00 後期　金曜日 11:00～14:00			研究室	9-403
授業概要	保健・医療・福祉分野における専門職の連携と協働について学び、専門職としての役割や責務を理解する。また、対象となる人へ質の高いケアを提供するために、異なった専門的背景をもつ専門職が、共有した目標に向けて共に協働することの重要性を理解する。さらに、非専門職者との連携や協働の意義、方法について学び、地域包括ケアにおける重要性について考える。				
到達目標	１．多職種連携の概念について説明することができる。 ２．医療モデルから生活モデルへの転換の概要について説明することができる。 ３．保健・医療・福祉の専門領域で活動する多（他）職種の専門的役割と協働のあり方を説明することができる。 ４．多（他）職種連携を行う上での看護職の役割を説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	多職種連携とは 門脇淳子	１．講義の進め方と評価 ２．多職種連携とは ①多職種連携の概念 ②多職種連携の必要性 ③多職種連携の要素"	講義・グループワーク 予習：今までの実習経験の中から多職種連携(病院内でのチーム医療も含む)の場面を思い出し参加メンバーおよび役割をまとめてくる 復習：多職種連携の意味、必要性を整理する
2	医療モデルから生活モデルへの転換 （ｹﾞｽﾄｽﾋﾟｰｶｰ：工藤美香）	1．摂食・嚥下、口腔リハビリテーションの実際 2．栄養士の多職種連携における役割	講義・グループワーク 予習：①摂食・嚥下のメカニズムを必ず復習し整理してくる、②栄養士の教育背景および業務内容と、看護師の業務内容の違いを調べておく 復習：多職種連携における栄養士の役割をまとめる
3	看護職の活動領域と専門性 （ｹﾞｽﾄｽﾋﾟｰｶｰ：高波仁子）	地域への連携と保健師活動の実際	講義・グループワーク 予習：地域における保健師の役割を確認しておく 復習：地域連携における看護職の役割をまとめる
4	多職種の活動領域と専門性（1） （ｹﾞｽﾄｽﾋﾟｰｶｰ：横山美佐子）	在宅療養に向けた理学療法士の活動の実際	講義・グループワーク 予習：理学療法士の教育背景および業務内容と、看護師の業務内容の違いを調べておく 復習：看護職と理学療法士の連携と役割についてまとめる
5	多職種の活動領域と専門性（2） （ｹﾞｽﾄｽﾋﾟｰｶｰ：中村美穂子）	在宅療養を支える小児医療ケアの実際	講義・グループワーク 予習：在宅医療支える法律を整理しておく 復習：在宅医療を支えるケアの実際と多職種連携をまとめる
6	多職種の活動領域と専門性（3） （ｹﾞｽﾄｽﾋﾟｰｶｰ：茂木弥生子）	在宅療養における住空間 ー医療・福祉の視点から　ー	講義・グループワーク 予習：看護学概論で学習したナイチンゲールの『換気と保温』『住居の健康』『陽光』『部屋と壁の清潔』について整理しておく 復習：在宅療養における住環境のあり方、基本的な考え方、重要性についてまとめる
7	多職種の活動領域と専門性（4） （ｹﾞｽﾄｽﾋﾟｰｶｰ：松木勇樹）	在宅療養における薬剤師の役割	講義・グループワーク 予習：薬剤師の教育背景および業務内容と、看護師の業務内容の違いを調べておく 復習：看護師と薬剤師の連携と役割についてまとめる
8	まとめ（多職種連携演習） 門脇淳子	1．事例に基づき多職種連携の必要性と実際の活動を考える 2．事例に基づき多職種連携における看護職の役割を考える 3．まとめ	講義・グループワーク 予習：課題事例を「専門性志向」「患者志向」「職種構成志向」「協働志向」の４つの要素で分析しておく 復習：多職種連携における看護職の役割についてまとめる

授業開始前学習	１．今まで体験した実習の中から多職種連携の場面を想起し、具体的な内容をまとめてくる(評価対象課題レポート)。 ２．講義後には必ず復習をして学習内容を十分理解しておく。 ３．授業で興味をもった概念についてさらに調べてみるなど積極的な学習を行う。							
授業内課題のフィードバックの方法	ゲストスピーカの先生方の講評等、授業内でフィードバックを行う。							
テキスト・教材	なし その都度配付する							
参考書								
評価の基準と方法	課題レポート 50% 定期試験に相当するレポート 50%							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○	○	△	◎		
関連科目	看護学概論　地域・在宅看護学概論　成人看護学実習　老年看護学実習　精神看護学実習　統合実習							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-311 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-23	授業コード	HB1641
科目名称	看護研究Ⅰ			単位数	1.00 単位
英文名称	Nursing Research Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	飯塚 麻紀			必修・選択	必修
担当教員	飯塚 麻紀			開講時期	3 年後期
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～16:00 後期 水曜日 13:00～16:00			研究室	1-310
授業概要	看護学における研究の意義を理解し、研究に取り組むための基礎的知識を修得する。看護研究の基本的なプロセス、文献の検索法とクリティーク、研究倫理、研究論文の看護実践への活用法などについて学ぶ。				
到達目標	1. 看護における研究の目的と意義を説明することができる。 2. 看護研究のプロセスの概要を説明することができる。 3. 文献の種類を理解し、文献データベースから検索ワードを用いて文献を検索することができる。 4. 看護研究デザインの種類と特徴を説明することができる。 5. 看護研究における倫理的配慮の原則を説明することができる。 6. 研究計画書を作成する目的および記載内容について説明することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	授業ガイダンス 看護研究の目的と意義 飯塚麻紀	1. 本授業の進め方 2. 看護研究の目的と意義	講義 think pair share 【予習】テキスト序章・第 1 章を読んでおく 【復習】授業内容を整理しておく
2	研究プロセスの概要 飯塚麻紀	1. 研究のプロセス：研究計画書の作成から発表まで 2. 看護研究の始め方：リサーチクエスチョンをたてる	講義 think pair share 【予習】テキスト第 2 章を読んでおく 【復習】授業内容を整理しておく
3	文献の種類 飯塚麻紀	1. 情報と文献 2. 文献の種類 3. 文献レビューとは	講義 think pair share 【予習】テキスト第 3 章を読んでおく 【復習】授業内容を整理しておく
4	研究デザインの種類と特徴	1. 研究デザインとは 2. 研究デザインの選択	講義 think pair share 【予習】テキスト第 5 章を読んでおく 【復習】授業内容を整理しておく
5	文献検索の方法 飯塚麻紀	1. 文献検索の方法 2. 文献データベースの種類 3. シソーラス（統制語）とは	講義・演習（文献検索） 【予習】テキスト第 3 章を読んでおく、医中誌 Web へのアクセス方法を確認しておく 【復習】授業内容を整理しておく
6	文献検索の実際 飯塚麻紀	1. 医中誌 web を用いた文献検索 2. 文献の整理：文献カード方式・マトリクス方式	演習 【予習】テキスト第 3 章を読んでおく 【復習】授業内容を整理しておく
7	看護研究における倫理的配慮の原則 飯塚麻紀	1. 研究における倫理 2. 研究者倫理 3. 倫理審査 4. 遵守すべき倫理原則と擁護すべき権利	講義 think pair share 【予習】テキスト第 4 章を読んでおく 【復習】授業内容を整理しておく
8	研究計画書の作成	1. 研究計画書を作成する目的 2. 研究計画書の記載内容 3. 引用文献の提示方法	講義 think pair share 【予習】テキスト第 8 章を読んでおく 【復習】授業内容を整理しておく

授業開始前学習	指定した教科書を読んでおく
授業内課題のフィードバックの方法	授業初回のガイダンスで説明する。
テキスト・教材	坂下玲子他：系統看護学講座 別巻 看護研究、医学書院、最新版
参考書	1.人を対象とする生命科学・医学研究に関する倫理指針（厚生労働省・文部科学省） 2.看護研究における倫理指針（日本看護協会） 3.アメリカ心理学会（APA)著、前田樹海他訳：『APA 論文作成マニュアル 第 3 版 』（医学書院）
評価の基準と方法	授演習課題：60% 小テスト ：40%

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△	△	○		◎	○		
関連科目								
その他	授業中に医中誌 Web を使用できるよう準備しておくこと。 【KOMMAJO ポータル】掲示→図書館→「利用可能なオンラインリソースの紹介」（ID/パス）							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間＋予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容	担当教員は看護師としての実務経験ならびに看護研究実践者としての経験を持つ。							

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	310-311-24	授業コード	HB1651
科目名称	看護研究Ⅱ			単位数	2.00 単位
英文名称	Nursing Research Ⅱ			授業区分	演習
科目責任者	飯塚　麻紀			必修・選択	必修
担当教員	看護専任			開講時期	4 年通年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	看護研究Ⅰでの学修を基に、研究計画書作成までの過程を実践することにより看護研究に取り組むための基礎的能力を養う。看護学に関する文献検討から研究課題を明確にした上で、研究目的に対応する研究デザインや研究方法を選択し、課題を追求する研究的態度を学ぶ。また、作成した研究計画書をもとに発表会を行い、研究への意欲を高める。				
到達目標	1．自らの疑問について、意見交換や文献検討を行うことで研究テーマを絞り込むことができる。 2．研究テーマに関する文献検討を行い、仮の研究疑問（リサーチ・クエスチョン）を設定することができる。 3．文献レビューを行い研究疑問（リサーチ・クエスチョン）を精錬する過程で、研究課題を明確にすることができる。 4．研究目的に対応する研究デザインや研究方法を選択することができる。 5．研究方法に応じた具体的な倫理的配慮の方法を説明することができる。 6．研究計画を他者にわかりやすく伝えるためのポスター資料を				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	授業ガイダンス 飯塚麻紀	1．授業の進め方 2．到達目標の理解に必要な用語の確認 3．研究計画書の作成要領 4．疑問のピックアップ	講義 【予習】自らの疑問について複数ピックアップしておく 【復習】疑問と研究疑問（リサーチ・クエスチョン）の違い、研究テーマ・研究課題について整理する
2	領域別授業ガイダンス 看護専任（各領域）	1．研究計画書完成までの授業の進め方 2．疑問の発表と共有 3．研究テーマの絞り込みへのヒント	講義・グループワーク 【予習】自らの疑問とその理由を文章化しておく 【復習】研究計画書完成までのスケジュールを立てる
3	研究テーマの絞り込み【1】 看護専任（各領域）	1．文献検索・文献検討 2．研究テーマの絞り込み 3．仮の研究疑問（リサーチ・クエスチョン）の設定	個人ワーク・面談 【予習】自らの疑問に関連する文献の検索を行い、精読する 【復習】関心のある研究テーマと仮の研究疑問（リサーチ・クエスチョン）を文章化する
4 5	研究テーマの絞り込み【2】 看護専任（各領域）	1．研究テーマと仮の研究疑問（リサーチ・クエスチョン）の発表 2．ディスカッション	グループワーク 【予習】文献検討を踏まえた研究テーマ・仮の研究疑問（リサーチ・クエスチョン）の発表の準備を行う 【復習】ディスカッションを振り返り、仮の研究疑問（リサーチ・クエスチョン）を修正する
6 7	研究課題の明確化【1】 看護専任（各領域）	1．文献レビュー 2．研究課題の整理	個人ワーク・面談 【予習】検索した文献のリストと文献カードを作成する 【復習】ディスカッションを振り返り、研究課題を明確にする
8 9	研究課題の明確化【2】 看護専任（各領域）	1．研究課題と研究疑問（リサーチ・クエスチョン）の発表 2．ディスカッション	グループワーク 【予習】研究課題と研究疑問（リサーチ・クエスチョン）の発表準備を行う 【復習】研究計画書の研究背景、研究目的を再考する
10	研究課題の明確化【3】 看護専任（各領域）	1．研究背景の文章化 2．研究目的の文章化	個人ワーク・面談 【予習】テキスト第 8 章（研究計画書の作成）を精読する 【復習】研究課題の説明に不足している部分について再度文献レビューを行う
11 12	研究課題の明確化【4】 看護専任（各領域）	1．研究背景・研究目的の発表 2．ディスカッション	グループワーク 【予習】研究背景・研究目的の発表準備を行う 【復習】再度文献レビューを行い、研究計画書の研究背景・研究目的を修正する
13	研究デザイン・研究方法の選択【1】 看護専任（各領域）	1．研究目的に対応する研究デザインの選択 2．研究目的に対応する研究方法の選択	個人ワーク・面談 【予習】テキスト第 5 章（研究デザイン）を精読する 【復習】文献を参考に、研究計画書の研究デザイン・研究方法の箇所を文章化する
14 15	研究デザイン・研究方法の選択【2】 看護専任（各領域）	1．研究デザイン・研究方法の発表 2．ディスカッション	グループワーク 【予習】研究デザイン・研究方法の発表準備を行う 【復習】ディスカッションを振り返り、研究計画書の研究デザイン・研究方法を修正する

16 17	倫理的配慮の検討 看護専任（各領域）	1. 倫理的配慮の原則の確認 2. 研究方法に応じた倫理的配慮の検討	講義・グループワーク 【予習】看護研究Ⅰの倫理的配慮の内容を復習する テキスト第４章を精読する 自身の研究に必要な倫理的配慮の方法を明確にしておく 【復習】研究計画書の倫理的配慮の箇所を文章化する
18 19	研究計画発表の準備 看護専任（各領域）	1. 予演会 2. ディスカッション	演習：領域内発表会 【予習】ポスター発表の準備を行う 【復習】ディスカッションをもとに発表ポスターを修正する
20 21 22	研究計画発表 看護専任	研究計画発表会	演習：発表 【予習】発表ポスターの準備し、他者に伝わりやすい発表方法を考えておく 【復習】他の学生の発表内容や、自身の計画発表時の意見交換を振り返り、研究計画全体について再考する
23	研究計画書の精錬 看護専任（各領域）	1. 作成要領の確認 2. 発表後の研究計画書の修正	個人ワーク・面談 【予習】研究計画書の作成要領の確認を再確認する 【復習】自身の研究計画書を精読して修正し、作成要領に沿って完成させる

授業開始前学習	看護研究Ⅰの内容を復習しておくこと。 文献検索方法を再確認しておくこと。 これまでの看護に関する学習・実習体験をもとに自らの疑問をピックアップしておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	面談およびグループワークの中で、適宜担当教員からフィードバックを行う。							
テキスト・教材	坂下玲子他：系統看護学講座　別巻　看護研究、医学書院、2023.							
参考書	アメリカ心理学会（APA)著、前田樹海・江藤裕之訳：APA 論文作成マニュアル　第 3 版、医学書院、2023.							
評価の基準と方法	研究計画書の作成：80%（作成過程：40 点、研究計画書：40 点） 研究計画発表会　：20%							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△				◎	○		
関連科目	看護研究Ⅰ							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 46 時間＋予習・復習時間 44 時間							
実務経験を活かした教育内容	担当教員は全員、看護職の実務経験を経て自ら看護研究を計画し実践してきた経験を持つ。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-411 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-14（J）	授業コード	HB1610
科目名称	看護管理学			単位数	1.00 単位
英文名称	Nursing Administration and Management			授業区分	講義
科目責任者	本舘　教子			必修・選択	必修
担当教員	本舘　教子			開講時期	4 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	より質の高い看護を提供するために必要な看護管理の重要性を理解するために、人的資源、物的資源、財的資源のマネジメントと管理を学ぶ。また、看護管理のプロセス、看護管理のスキルを学び、施設の経営や医療・看護の質保証との関連から組織の維持・管理について理解を深める。さらに、看護職者のキャリア開発の重要性と自己の専門能力向上について考える。				
到達目標	１．組織の中における看護ケアマネージメントと看護職の機能について説明ができる。 ２．看護職者に求められる役割遂行のための看護管理の理論と方法（特に安全管理について）を具体的に説明できる。 ３．看護サービスのマネージメント（特に人的・労務）について記述できる。 ４．自己の専門能力向上のためのキャリア開発について述べることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	ガイダンス 看護管理 本舘教子	看護管理とは １．用語の定義と看護ケアにおけるマネジメント ２．看護活動の場（患者の権利尊重と安全管理、チーム医療）におけるマネジメント ３．日本の医療の状況	予習：事前に使用するテキストの関連項目を読んで臨むこと。 授業時間内に予習内容についてクイズをし、確認します。 講義ごとに「講義から学んだこと」をテーマとしたレポートを作成、出欠の把握に充てる。
2	看護管理プロセス 本舘教子	組織と看護単位の構成 １．職位と職務内容 ２．看護サービス提供方式 ３．勤務体制 ４．業務計画、各種マニュアル ５．チーム活動とマネジメント	予習：事前に使用するテキストの関連項目を読んで臨むこと。 授業時間内に予習内容についてクイズをし、確認します。 講義ごとに「講義から学んだこと」をテーマとしたレポートを作成、出欠の把握に充てる。
3	看護管理のスキル 本舘教子	人間関係を構築するスキル １．モチベーションマネジメント ２．ストレスマネジメント ３．リーダシップ行動 ４．コミュニケーションと意思決定	予習：事前に使用するテキストの関連項目を読んで臨むこと。 授業時間内に予習内容についてクイズをし、確認します。 講義ごとに「講義から学んだこと」をテーマとしたレポートを作成、出欠の把握に充てる。
4	看護管理と経営 本舘教子	病院組織と看護組織 １．病院の機能別分化 ２．保健制度改革（看護職の法的責任、医療制度など）とサービスの評価	予習：事前に使用するテキストの関連項目を読んで臨むこと。 授業時間内に予習内容についてクイズをし、確認します。 講義ごとに「講義から学んだこと」をテーマとしたレポートを作成、出欠の把握に充てる。
5	医療・看護の質保証 本舘教子	医療の質とは １．第三者評価 ２．臨床指標 ３．看護の質評価 ４．クリテイカル・パス	予習：事前に使用するテキストの関連項目を読んで臨むこと。 授業時間内に予習内容についてクイズをし、確認します。 講義ごとに「講義から学んだこと」をテーマとしたレポートを作成、出欠の把握に充てる。
6	看護とキャリア開発 本舘教子	キャリアとキャリア発達 １．看護師のキャリア開発 ２．キャリア開発プログラム ３．看護継続教育	予習：事前に使用するテキストの関連項目を読んで臨むこと。 授業時間内に予習内容についてクイズをし、確認します。 講義ごとに「講義から学んだこと」をテーマとしたレポートを作成、出欠の把握に充てる。
7	リスクマネジメント 本舘教子	病院の安全対策 1．看護実践に活かす情報のあり方 2．医療安全文化の醸成 3．チーム作り(演習)	予習：事前に使用するテキストの関連項目を読んで臨むこと。 授業時間内に予習内容についてクイズをし、確認します。 講義ごとに「講義から学んだこと」をテーマとしたレポートを作成、出欠の把握に充てる。
8	病院と職員教育 本舘教子	看護部門の目標管理 １．新人看護師の教育計画 ２．支援体制とプリセプターシップ ３．自己のキャリア開発（グループワーク）	予習：事前に使用するテキストの関連項目を読んで臨むこと。 授業時間内に予習内容についてクイズをし、確認します。 講義ごとに「講義から学んだこと」をテーマとしたレポートを作成、出欠の把握に充てる。

授業開始前学習	本科目は看護管理学の基礎となります。履修するにあたって使用するテキストの関連項目を読んで臨むこと。
授業内課題のフィードバックの方法	初回講義時に説明する。
テキスト・教材	系統看護学講座　看護管理　医学書院

参考書	適宜提示							
評価の基準と方法	定期試験(100%)							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△	○		◎	○		
関連科目								
その他	＜学習目標＞ 看護管理学の主要な構成概念、看護管理プロセス、看護の質保証、リスクマネジメント、看護と情報管理などの基本的な考え方や基礎知識を修得する。さらに看護専門職者として自己研鑽を積む力となるキャリアデザインについての基本となる考え方を理解する。							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間＋予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容	本講義担当者は聖マリアンナ医科大学の副院長・看護部長をはじめとする現役看護師が講師となり、看護専門職者として自己研鑽を積む力となるキャリアデザインについて講義を行う。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-411 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-14（J）	授業コード	HB1635
科目名称	災害看護学			単位数	1.00 単位
英文名称	Disaster Nursing			授業区分	講義
科目責任者	長岡 信			必修・選択	必修
担当教員	長岡 信			開講時期	4 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	災害時の看護を理解するために、災害が日常生活や人間の生命に及ぼす影響、トリアージ、初期動作、被災現場の特性に応じた医療や看護活動について学ぶ。また、災害救護に関連する諸制度、支援システム、社会資源等について学び、災害予防、災害時の対応、災害復旧および復興において看護職が果たす役割を学ぶ。				
到達目標	1 災害看護とは何かを説明することができる 2 災害看護の特徴と災害看護の役割を説明することができる 3 災害サイクルに応じて必要になる看護について説明することができる 4 災害における対象の特性に応じた看護について説明することができる 5 災害における多職種連携・協働の必要性について説明することができる 6 地域住民のニーズに合ったかかわりの重要性について説明することができる				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	災害看護の基礎的・基本的な概念	災害看護の基礎的・基本的な概念について	講義・グループワーク 予習：シラバスの内容を確認し災害時の看護について意見をまとめてくる 復習：授業で学んだことをノートに整理する
2	災害看護の特徴、災害看護における看護の役割	災害看護の特徴、災害看護における看護の役割について	講義・グループワーク 予習：災害看護の特徴、災害看護における看護の役割について意見をまとめてくる 復習：授業で学んだことをノートに整理する
3	災害サイクルについて、災害サイクルに応じた看護	災害サイクルについて、 災害サイクルに応じた看護について	講義・グループワーク 予習：災害サイクルについて、 災害サイクルに応じた看護について意見をまとめてくる 復習：授業で学んだことをノートに整理する
4	トリアージのカテゴリーとトリアージの方法、トリアージ評価に応じた看護	トリアージのカテゴリーとトリアージの方法、トリアージ評価に応じた看護について	講義・グループワーク 予習：トリアージのカテゴリーとトリアージの方法、トリアージ評価に応じた看護について意見をまとめてくる 復習：授業で学んだことをノートに整理する
5	対象の特性（発達段階、健康レベル）に応じた看護	対象の特性（発達段階、健康レベル）に応じた看護について	講義・グループワーク （トリアージ演習の実施） 予習：トリアージのカテゴリーとトリアージの方法、トリアージ評価に応じた看護について意見をまとめてくる 復習：授業で学んだことをノートに整理する
6	災害における多職種連携・協働の実際	災害における多職種連携・協働の実際について	講義・グループワーク （トリアージ演習の実施） 予習：トリアージのカテゴリーとトリアージの方法、トリアージ評価に応じた看護について意見をまとめてくる 復習：授業で学んだことをノートに整理する
7	災害における心理的・社会的状態に応じた看護	災害における心理的・社会的状態に応じた看護について	講義・グループワーク （トリアージ演習の実施） 予習：トリアージのカテゴリーとトリアージの方法、トリアージ評価に応じた看護について意見をまとめてくる 復習：授業で学んだことをノートに整理する
8	災害看護の今後の課題	災害看護の今後の課題について	講義・グループワーク （トリアージ演習の実施） 予習：災害看護の今後の課題について意見をまとめてくる 復習：授業で学んだことをノートに整理する

授業開始前学習	1．講義後には必ず復習をして学習内容を十分理解しておく。 2．授業で興味をもった概念についてさらに調べてみるなど積極的な学習を行う。
授業内課題のフィードバックの方法	講評等の資料配布にてフィードバックを行う。

テキスト・教材	辺見弘 監修、山西文子 編；新体系 看護学全書 統合分野 看護の統合と実践 災害看護学／メデイカルフレンド社							
参考書	講義内で適宜紹介する。							
評価の基準と方法	試験 50%及びレポート 50%の結果により総合的に評価する							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎	○		
関連科目								
その他	学習上の留意点：課題には主体的に取り組む。							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容	本科目について実践経験のある者が担当します。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-412	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-24	授業コード	HB1860
科目名称	総合看護演習			単位数	1.00 単位
英文名称	Comprehensive Nursing Seminar			授業区分	演習
科目責任者	渡辺　浩美			必修・選択	必修
担当教員	看護専任			開講時期	4 年後期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	4 年間の集大成として看護専門職に求められる看護実践力の修得状況を自己評価するため、講義・自己学習を通して看護実践の基盤となる知識や技術を再確認する。その上で不足している知識の補足を個人またはグループで補ない、看護職者として自信を持てるよう学生同士及び教員との相互評価をする。また、医療現場における今日的課題を学び、講義やグループワークを通して、自己の見解をもつことができる機会とする。				
到達目標	1．専門基礎科目、専門科目の知識を総合的に理解し、看護実践の場で活用できる水準で説明することができる。 2．医療現場における倫理的課題についてその原因や実態について学び、看護専門職として人々の基本的人権や尊厳を守る重要性と果たすべき役割について自分の考えを述べることができる。 3．看護専門職としてのキャリアのイメージを自分なりに描くことができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	看護実践のための基礎知識の確認① /渡辺浩美　国家試験対策部会協働	看護実践に不可欠な知識の理解度を確認する	全国必修模試受験 予習　過去の必修問題の復習 復習　模試の自己採点
2	看護実践のための基礎知識の確認② /渡辺浩美　国家試験対策部会協働	看護実践に不可欠な知識の理解度を確認する	全国必修模試受験 予習　過去の必修問題の復習 復習　模試の自己採点
3	保健・医療・看護と倫理① /渡辺浩美	ハンセン病隔離政策関連について（ゲストスピーカー）	講義、演習・グループワーク 予習　ハンセン病について調べる 復習　講義・グループワークを通して学んだことをレポートにまとめる
4	保健・医療・看護と倫理② /渡辺浩美	B 型肝炎集団予防接種被害関連について（ゲストスピーカー）	講義、演習・グループワーク 予習　B 型肝炎集団予防接種被害について調べる 復習　講義・グループワークを通して学んだことをレポートにまとめる
5	保健・医療・看護と倫理③ /渡辺浩美	薬害被害関連について（ゲストスピーカー）	講義、演習・グループワーク 予習　薬害被害（サリドマイド薬害事件）について調べる 復習　講義・グループワークを通して学んだことをレポートにまとめる
6	看護実践のための基礎知識の確認③ /基礎看護学領域	医療システムについての基礎知識	講義、演習・グループワーク 予習　該当する既習科目の復習 復習　学習計画に沿った自己学習
7	看護実践のための基礎知識の確認④ /基礎看護学領域	生命維持・日常生活行動を理解するための基礎知識	講義、演習・グループワーク 予習　該当する既習科目の復習 復習　学習計画に沿った自己学習
8	看護実践のための基礎知識の確認⑤ /母性看護学領域	ライフサイクル期における生命維持と生活行動のために基礎知識	講義、演習・グループワーク 予習　該当する既習科目の復習 復習　学習計画に沿った自己学習
9	看護実践のための基礎知識の確認⑥ /小児看護学領域	ライフサイクル期における生命維持と生活行動のために基礎知識	講義、演習・グループワーク 予習　該当する既習科目の復習 復習　学習計画に沿った自己学習
10	看護実践のための基礎知識の確認⑦ /成人看護学領域	各器官および全身の構造・機能と健康障害に対するニーズ分析のための基礎知識	講義、演習・グループワーク 予習　該当する既習科目の復習 復習　学習計画に沿った自己学習
11	看護実践のための基礎知識の確認⑧ /成人看護学領域	各器官および全身の構造・機能と健康障害に対するニーズ分析のための基礎知識	講義、演習・グループワーク 予習　該当する既習科目の復習 復習　学習計画に沿った自己学習
12	看護実践のための基礎知識の確認⑨ /老年看護学領域	健康障害の程度と段階に応じた看護実践のための基礎知識	講義、演習・グループワーク 予習　該当する既習科目の復習 復習　学習計画に沿った自己学習

13	看護実践のための基礎知識の確認⑩ /地域・在宅看護学領域	医療システムについての基礎知識	講義、演習・グループワーク 予習　該当する既習科目の復習 復習　学習計画に沿った自己学習
14	看護実践のための基礎知識の確認⑪ /精神看護学領域	精神系の健康障害に対する看護実践のための基礎知識	講義、演習・グループワーク 予習　該当する既習科目の復習 復習　学習計画に沿った自己学習
15	看護専門職としてのキャリアデザイン/渡辺	キャリアデザイン（ゲストスピーカー）	講義、演習・グループワーク 予習　看護専門職としての自己のキャリアについて考えてみる 復習　講義グループワークを通して考えたことをレポートにまとめる

授業開始前学習	8/4（月）短時間のガイダンスを行う。 4 年前期までの学習方法と成果を振り返り、各自の学習課題を明らかにして学習計画を作成する							
授業内課題のフィードバックの方法	授業時間内に質疑応答の時間を設ける。							
テキスト・教材	テキストは使用しない。講義資料がある場合には当日配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	成績評価は小テスト 80%（各領域の基礎知識の確認）、レポート 20%（ハンセン病隔離政策、B 型肝炎集団予防接種被害、薬害問題、看護専門職としてのキャリア）とし、60%以上をもって単位取得「合格」とする。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△	○		◎	○		
関連科目								
その他	学習の進捗状況によっては、授業計画を変更する可能性がある。 授業時間の変更がある場合には事前にクラスルームよりお知らせする。 また、３０分以上の遅刻は欠席、遅刻３回にて１回欠席とする。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間+予習･復習時間 15 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-413 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-311-34（J）	授業コード	HB1415
科目名称	看護学統合実習			単位数	3.00 単位
英文名称	Comprehensive Nursing Practicum			授業区分	実習
科目責任者	長嶋 祐子			必修・選択	必修
担当教員	看護専任			開講時期	4 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	４年間で修得した知識や技術を統合し、「自己の関心・テーマ」に沿って主体的に看護実践を行うことにより看護職者としての実践能力の向上を図る。また、保健医療チームの一員として多職種との連携・協働について学ぶとともに、チームの一員として看護実践力を高める。さらに、これらの実践を通じて看護の本質を考え、看護専門職としての役割・責務・態度についてて理解を深める。				
到達目標	１． 選択した看護領域において看護や保健の現状と今日的テーマや課題を説明できる。 ２．選択した看護領域における自己の関心・テーマから実習計画を立案することができる。 ３．自己の関心・テーマについて、根拠に基づいた援助方法を創意工夫し、実践することができる。 ４． 保健医療福祉チームの一員として、連携を図りながら自己の役割を果たすことができる。 ５． 実習内容から自己の考えをまとめ、意見交換や報告会を通して看護観を深めることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	学内実習 基礎看護学：門脇淳子、菊地由美、樋口美樹、北條由佳 地域・在宅看護学：沖田亜希恵 成人看護学（急性期）：小林優子、飯塚麻紀、吉野靖代、野村美紀 成人看護学（慢性期）奥井良子、長嶋祐子、髙田幸江 老年看護学：松戸典文、武田藍 小児看護学：秋田由美、橋浦里実 母性看護学：水野真希、高山 奈美、那須野順子 精神看護学：渡辺浩美、岡京子 公衆衛生看護学：中田晴美、富塚美和、西村悦子	実習１日目 ガイダンス・オリエンテーション	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習
2	学内実習 基礎看護学：門脇淳子、菊地由美、樋口美樹、北條由佳 地域・在宅看護学：沖田亜希恵 成人看護学（急性期）：小林優子、飯塚麻紀、吉野靖代、野村美紀 成人看護学（慢性期）奥井良子、長嶋祐子、髙田幸江 老年看護学：松戸典文、武田藍 小児看護学：秋田由美、橋浦里実 母性看護学：水野真希、高山 奈美、那須野順子 精神看護学：渡辺浩美、岡京子 公衆衛生看護学：中田晴美、富塚美和、西村悦子	実習２日目 自己の実習テーマについて目的・目標を明確にし、実習計画を立案する。	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習
3	学内実習 基礎看護学：門脇淳子、菊地由美、樋口美樹、北條由佳 地域・在宅看護学：沖田亜希恵 成人看護学（急性期）：小林優子、飯塚麻紀、吉野靖代、野村美紀 成人看護学（慢性期）奥井良子、長嶋祐子、髙田幸江 老年看護学：松戸典文、武田藍 小児看護学：秋田由美、橋浦里実 母性看護学：水野真希、高山 奈美、那須野順子 精神看護学：渡辺浩美、岡京子 公衆衛生看護学：中田晴美、富塚美和、西村悦子	実習３日目 自己の実習テーマについて目的・目標を明確にし、実習計画を立案する。	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習

4	学内実習 基礎看護学：門脇淳子、菊地由美、樋口美樹、北條由佳 地域・在宅看護学：沖田亜希恵 成人看護学（急性期）：小林優子、飯塚麻紀、吉野靖代、野村美紀 成人看護学（慢性期）奥井良子、長嶋祐子、髙田幸江 老年看護学：松戸典文、武田藍 小児看護学：秋田由美、橋浦里実 母性看護学：水野真希、高山 奈美、那須野順子 精神看護学：渡辺浩美、岡京子 公衆衛生看護学：中田晴美、富塚美和、西村悦子	実習４日目 自己の実習テーマについて目的・目標を明確にし、実習計画を立案する。	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習
5	学内実習 基礎看護学：門脇淳子、菊地由美、樋口美樹、北條由佳 地域・在宅看護学：沖田亜希恵 成人看護学（急性期）：小林優子、飯塚麻紀、吉野靖代、野村美紀 成人看護学（慢性期）奥井良子、長嶋祐子、髙田幸江 老年看護学：松戸典文、武田藍 小児看護学：秋田由美、橋浦里実 母性看護学：水野真希、高山 奈美、那須野順子 精神看護学：渡辺浩美、岡京子 公衆衛生看護学：中田晴美、富塚美和、西村悦子	実習５日目 自己の実習テーマについて目的・目標を明確にし、実習計画を立案する。	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習
6	臨地実習 基礎看護学：門脇淳子、菊地由美、樋口美樹、北條由佳 地域・在宅看護学：沖田亜希恵 成人看護学（急性期）：小林優子、飯塚麻紀、吉野靖代、野村美紀 成人看護学（慢性期）奥井良子、長嶋祐子、髙田幸江 老年看護学：松戸典文、武田藍 小児看護学：秋田由美、橋浦里実 母性看護学：水野真希、高山 奈美、那須野順子 精神看護学：渡辺浩美、岡京子 公衆衛生看護学：中田晴美、富塚美和、西村悦子	実習６日目 施設オリエンテーション 実習計画の調整 看護チームに参加し、自らの実習計画を元に実践を行う。	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習
7	臨地実習 基礎看護学：門脇淳子、菊地由美、樋口美樹、北條由佳 地域・在宅看護学：沖田亜希恵 成人看護学（急性期）：小林優子、飯塚麻紀、吉野靖代、野村美紀 成人看護学（慢性期）奥井良子、長嶋祐子、髙田幸江 老年看護学：松戸典文、武田藍 小児看護学：秋田由美、橋浦里実 母性看護学：水野真希、高山 奈美、那須野順子 精神看護学：渡辺浩美、岡京子 公衆衛生看護学：中田晴美、富塚美和、西村悦子	実習７日目 施設オリエンテーション 実習計画の調整 看護チームに参加し、自らの実習計画を元に実践を行う。	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習
8	臨地実習 基礎看護学：門脇淳子、菊地由美、樋口美樹、北條由佳 地域・在宅看護学：沖田亜希恵 成人看護学（急性期）：小林優子、飯塚麻紀、吉野靖代、野村美紀 成人看護学（慢性期）奥井良子、長嶋祐子、髙田幸江 老年看護学：松戸典文、武田藍 小児看護学：秋田由美、橋浦里実 母性看護学：水野真希、高山 奈美、那須野順子 精神看護学：渡辺浩美、岡京子 公衆衛生看護学：中田晴美、富塚美和、西村悦子	実習８日目 施設オリエンテーション 実習計画の調整 看護チームに参加し、自らの実習計画を元に実践を行う。	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習

9	臨地実習 基礎看護学：門脇淳子、菊地由美、樋口美樹、北條由佳 地域・在宅看護学：沖田亜希恵 成人看護学（急性期）：小林優子、飯塚麻紀、吉野靖代、野村美紀 成人看護学（慢性期）奥井良子、長嶋祐子、髙田幸江 老年看護学：松戸典文、武田藍 小児看護学：秋田由美、橋浦里実 母性看護学：水野真希、高山 奈美、那須野順子 精神看護学：渡辺浩美、岡京子 公衆衛生看護学：中田晴美、富塚美和、西村悦子	実習９日目 施設オリエンテーション 実習計画の調整 看護チームに参加し、自らの実習計画を元に実践を行う。	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習
10	学内実習 基礎看護学：門脇淳子、菊地由美、樋口美樹、北條由佳 地域・在宅看護学：沖田亜希恵 成人看護学（急性期）：小林優子、飯塚麻紀、吉野靖代、野村美紀 成人看護学（慢性期）奥井良子、長嶋祐子、髙田幸江 老年看護学：松戸典文、武田藍 小児看護学：秋田由美、橋浦里実 母性看護学：水野真希、高山 奈美、那須野順子 精神看護学：渡辺浩美、岡京子 公衆衛生看護学：中田晴美、富塚美和、西村悦子	実習 10 日目 カンファレンス 学びの整理、計画の修正	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習
11	臨地実習 基礎看護学：門脇淳子、菊地由美、樋口美樹、北條由佳 地域・在宅看護学：沖田亜希恵 成人看護学（急性期）：小林優子、飯塚麻紀、吉野靖代、野村美紀 成人看護学（慢性期）奥井良子、長嶋祐子、髙田幸江 老年看護学：松戸典文、武田藍 小児看護学：秋田由美、橋浦里実 母性看護学：水野真希、高山 奈美、那須野順子 精神看護学：渡辺浩美、岡京子 公衆衛生看護学：中田晴美、富塚美和、西村悦子	実習 11 日目 各実習施設における実践	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習
12	臨地実習 基礎看護学：門脇淳子、菊地由美、樋口美樹、北條由佳 地域・在宅看護学：沖田亜希恵 成人看護学（急性期）：小林優子、飯塚麻紀、吉野靖代、野村美紀 成人看護学（慢性期）奥井良子、長嶋祐子、髙田幸江 老年看護学：松戸典文、武田藍 小児看護学：秋田由美、橋浦里実 母性看護学：水野真希、高山 奈美、那須野順子 精神看護学：渡辺浩美、岡京子 公衆衛生看護学：中田晴美、富塚美和、西村悦子	実習 12 日目 各実習施設における実践	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習
13	臨地実習 基礎看護学：門脇淳子、菊地由美、樋口美樹、北條由佳 地域・在宅看護学：沖田亜希恵 成人看護学（急性期）：小林優子、飯塚麻紀、吉野靖代、野村美紀 成人看護学（慢性期）奥井良子、長嶋祐子、髙田幸江 老年看護学：松戸典文、武田藍 小児看護学：秋田由美、橋浦里実 母性看護学：水野真希、高山 奈美、那須野順子 精神看護学：渡辺浩美、岡京子 公衆衛生看護学：中田晴美、富塚美和、西村悦子	実習 13 日目 各実習施設における実践	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習

14	臨地実習 基礎看護学：門脇淳子、菊地由美、樋口美樹、北條由佳 地域・在宅看護学：沖田亜希恵 成人看護学（急性期）：小林優子、飯塚麻紀、吉野靖代、野村美紀 成人看護学（慢性期）奥井良子、長嶋祐子、髙田幸江 老年看護学：松戸典文、武田藍 小児看護学：秋田由美、橋浦里実 母性看護学：水野真希、高山 奈美、那須野順子 精神看護学：渡辺浩美、岡京子 公衆衛生看護学：中田晴美、富塚美和、西村悦子	実習 14 日目 各実習施設における実践	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習
15	臨地実習 基礎看護学：門脇淳子、菊地由美、樋口美樹、北條由佳 地域・在宅看護学：沖田亜希恵 成人看護学（急性期）：小林優子、飯塚麻紀、吉野靖代、野村美紀 成人看護学（慢性期）奥井良子、長嶋祐子、髙田幸江 老年看護学：松戸典文、武田藍 小児看護学：秋田由美、橋浦里実 母性看護学：水野真希、高山 奈美、那須野順子 精神看護学：渡辺浩美、岡京子 公衆衛生看護学：中田晴美、富塚美和、西村悦子	実習 15 日目 学びのまとめ・発表準備 発表会	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習

授業開始前学習	・今までの実習を振り返り、関心のある看護領域を選択する。 ・選択した看護領域における看護や保健の現状と今日的テーマや課題を学習し、自己の実習テーマを明確にする。
授業内課題のフィードバックの方法	担当教員から、適宜、指導およびフィードバックを行う。
テキスト・教材	
参考書	
評価の基準と方法	「看護学統合実習評価表（共通）」を基に作成された、各看護領域の看護学統合実習評価表に準ずる。 実習担当領域の教員が評価を行う。

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		○	△	△	◎

関連科目	看護学統合実習までのすべての科目
その他	
予習・復習の所要時間	実習時間 90 時間＋予習・復習時間 45 時間
実務経験を活かした教育内容	本科目は担当者全員が看護師として臨床での実務経験を有しており、その経験を活かし、学生の看護実践能力を高め、看護専門職としての役割、責務、態度を理解し 4 年間の学びの集大成として、医療チームの一員としての看護実践力を高め、看護専門職としての役割、責務、態度について理解を深められるように実習指導を行う。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	310-311-34（J）	授業コード	HB1410
科目名称	看護学統合実習			単位数	2.00 単位
英文名称	Comprehensive Nursing Practicum			授業区分	実習
科目責任者	長嶋　祐子			必修・選択	必修
担当教員	看護専任			開講時期	4 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	臨地実習の集大成として関心のある領域の看護をより深く学ぶために、学生自らが主体的に実習計画を立案し実践する。既習の知識・技術・態度を活用し、より高い看護実践能力を養うために、組織の概要、看護職と多職種の役割と協働・連携の実際を理解し、チーム連携と協働を学ぶ。また、将来のキャリアを見据えるために、看護専門職としての役割、責務、態度について学習を深める。				
到達目標	1.選択した領域において看護や保健の現状と今日的テーマや課題を説明できる。 2.看護の対象となる人々の諸条件を考慮し、根拠に基づいた援助方法を創意工夫し、実践できる。 3.保健・医療・福祉の問題を総合的に分析するとともに、チーム連携と協働の実際と看護の役割を説明できる。 4.保健・医療・福祉における倫理規範を理解し、医療安全・危機管理に配慮した行動をとることができる。 5.看護学統合実習で学び得た専門知識・技術を自己の実習課題に基づいて評価することができる。 6. 自己の振り返りの過程で、看護職				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	実習 基礎看護学：門脇淳子、菊地由美、樋口美樹 母性看護学：水野真希、高山奈美、那須野順子 小児看護学：秋田由美、橋浦里実 成人看護学：小林優子、奥井良子、飯塚麻紀、長嶋祐子、吉野靖代、野村美紀、 老年看護学：松戸典文、武田藍 精神看護学：渡辺浩子、岡京子 在宅看護学：沖田亜希恵 公衆衛生看護学：中田晴美、富塚美和	実習 1 日目 各学生の実習テーマに沿った実習 ・受け持ち患者の看護 ・チーム医療、多職種連携 ・複数患者受け持ち看護 ・夜勤帯を含む実習 ・看護管理	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習
2	実習 基礎看護学：門脇淳子、菊地由美、樋口美樹 母性看護学：水野真希、高山奈美、那須野順子 小児看護学：秋田由美、橋浦里実 成人看護学：小林優子、奥井良子、飯塚麻紀、長嶋祐子、吉野靖代、野村美紀、 老年看護学：松戸典文、武田藍 精神看護学：渡辺浩子、岡京子 在宅看護学：沖田亜希恵 公衆衛生看護学：中田晴美、富塚美和	実習 2 日目 各学生の実習テーマに沿った実習 ・受け持ち患者の看護 ・チーム医療、多職種連携 ・複数患者受け持ち看護 ・夜勤帯を含む実習 ・看護管理	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習
3	実習 基礎看護学：門脇淳子、菊地由美、樋口美樹 母性看護学：水野真希、高山奈美、那須野順子 小児看護学：秋田由美、橋浦里実 成人看護学：小林優子、奥井良子、飯塚麻紀、長嶋祐子、吉野靖代、野村美紀、 老年看護学：松戸典文、武田藍 精神看護学：渡辺浩子、岡京子 在宅看護学：沖田亜希恵 公衆衛生看護学：中田晴美、富塚美和	実習 3 日目 各学生の実習テーマに沿った実習 ・受け持ち患者の看護 ・チーム医療、多職種連携 ・複数患者受け持ち看護 ・夜勤帯を含む実習 ・看護管理	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習

4	実習 基礎看護学：門脇淳子、菊地由美、樋口美樹 母性看護学：水野真希、高山奈美、那須野順子 小児看護学：秋田由美、橋浦里実 成人看護学：小林優子、奥井良子、飯塚麻紀、長嶋祐子、吉野靖代、野村美紀、 老年看護学：松戸典文、武田藍 精神看護学：渡辺浩子、岡京子 在宅看護学：沖田亜希恵 公衆衛生看護学：中田晴美、富塚美和	実習４日目 各学生の実習テーマに沿った実習 ・受け持ち患者の看護 ・チーム医療、多職種連携 ・複数患者受け持ち看護 ・夜勤帯を含む実習 ・看護管理	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習
5	実習 基礎看護学：門脇淳子、菊地由美、樋口美樹 母性看護学：水野真希、高山奈美、那須野順子 小児看護学：秋田由美、橋浦里実 成人看護学：小林優子、奥井良子、飯塚麻紀、長嶋祐子、吉野靖代、野村美紀、 老年看護学：松戸典文、武田藍 精神看護学：渡辺浩子、岡京子 在宅看護学：沖田亜希恵 公衆衛生看護学：中田晴美、富塚美和	実習５日目 各学生の実習テーマに沿った実習 ・受け持ち患者の看護 ・チーム医療、多職種連携 ・複数患者受け持ち看護 ・夜勤帯を含む実習 ・看護管理	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習
6	実習 基礎看護学：門脇淳子、菊地由美、樋口美樹 母性看護学：水野真希、高山奈美、那須野順子 小児看護学：秋田由美、橋浦里実 成人看護学：小林優子、奥井良子、飯塚麻紀、長嶋祐子、吉野靖代、野村美紀、 老年看護学：松戸典文、武田藍 精神看護学：渡辺浩子、岡京子 在宅看護学：沖田亜希恵 公衆衛生看護学：中田晴美、富塚美和	実習６日目 各学生の実習テーマに沿った実習 ・受け持ち患者の看護 ・チーム医療、多職種連携 ・複数患者受け持ち看護 ・夜勤帯を含む実習 ・看護管理	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習
7	実習 基礎看護学：門脇淳子、菊地由美、樋口美樹 母性看護学：水野真希、高山奈美、那須野順子 小児看護学：秋田由美、橋浦里実 成人看護学：小林優子、奥井良子、飯塚麻紀、長嶋祐子、吉野靖代、野村美紀、 老年看護学：松戸典文、武田藍 精神看護学：渡辺浩子、岡京子 在宅看護学：沖田亜希恵 公衆衛生看護学：中田晴美、富塚美和	実習７日目 各学生の実習テーマに沿った実習 ・受け持ち患者の看護 ・チーム医療、多職種連携 ・複数患者受け持ち看護 ・夜勤帯を含む実習 ・看護管理	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習
8	実習 基礎看護学：門脇淳子、菊地由美、樋口美樹 母性看護学：水野真希、高山奈美、那須野順子 小児看護学：秋田由美、橋浦里実 成人看護学：小林優子、奥井良子、飯塚麻紀、長嶋祐子、吉野靖代、野村美紀、 老年看護学：松戸典文、武田藍 精神看護学：渡辺浩子、岡京子 在宅看護学：沖田亜希恵 公衆衛生看護学：中田晴美、富塚美和	実習８日目 各学生の実習テーマに沿った実習 ・受け持ち患者の看護 ・チーム医療、多職種連携 ・複数患者受け持ち看護 ・夜勤帯を含む実習 ・看護管理	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習

9	実習 基礎看護学：門脇淳子、菊地由美、樋口美樹 母性看護学：水野真希、高山奈美、那須野順子 小児看護学：秋田由美、橋浦里実 成人看護学：小林優子、奥井良子、飯塚麻紀、長嶋祐子、吉野靖代、野村美紀、 老年看護学：松戸典文、武田藍 精神看護学：渡辺浩子、岡京子 在宅看護学：沖田亜希恵 公衆衛生看護学：中田晴美、富塚美和	実習 9 日目 各学生の実習テーマに沿った実習 ・受け持ち患者の看護 ・チーム医療、多職種連携 ・複数患者受け持ち看護 ・夜勤帯を含む実習 ・看護管理	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習
10	実習 基礎看護学：門脇淳子、菊地由美、樋口美樹 母性看護学：水野真希、高山奈美、那須野順子 小児看護学：秋田由美、橋浦里実 成人看護学：小林優子、奥井良子、飯塚麻紀、長嶋祐子、吉野靖代、野村美紀、 老年看護学：松戸典文、武田藍 精神看護学：渡辺浩子、岡京子 在宅看護学：沖田亜希恵 公衆衛生看護学：中田晴美、富塚美和	実習 10 日目 各学生の実習テーマに沿った実習 ・受け持ち患者の看護 ・チーム医療、多職種連携 ・複数患者受け持ち看護 ・夜勤帯を含む実習 ・看護管理	最終カンファレンス 実習成果発表会 実習記録整理

授業開始前学習	各自の実習テーマに沿った事前学習、実習計画を立てる。 ・実習前に担当教員から指導を受け、実習可能な行動計画を立てる。 ・自己の課題（実習テーマ）を達成するために必要な学習内容を十分に復習し実習に臨む。
授業内課題のフィードバックの方法	担当教員から、適宜、指導およびフィードバックを行う。
テキスト・教材	
参考書	
評価の基準と方法	「看護学統合実習評価表（共通）」を基に作成された、各看護領域の看護学統合実習評価表に準ずる。 実習担当領域の教員が評価を行う。

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	○	○	◎

関連科目	統合実習までの全ての科目
その他	
予習・復習の所要時間	
実務経験を活かした教育内容	本科目は担当者全員が看護師として臨床での実務経験を有しており、その経験を活かし、学生の看護実践能力を高め、看護専門職としての役割、責務、態度を理解し 4 年間の学びの集大成として、医療チームの一員としての看護実践力を高め、看護専門職としての役割、責務、態度について理解を深められるように実習指導を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-321 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-321-13	授業コード	HB1025
科目名称	家族看護学			単位数	1.00 単位
英文名称	Family Nursing			授業区分	講義
科目責任者	横田 益美			必修・選択	選択
担当教員	横田 益美			開講時期	3 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	家族および家族看護学の基礎理論をもとに、「家族を観ること」を学修し、家族を「主体的に変化する社会システムのひとつの単位」としてとらえ看護することの意義を理解する。そして、様々な状況にある家族のアセスメントと介入方法を学び、家族の持つセルフケア機能の向上を目指す看護師の役割とあり方を学ぶ。この学修により、各看護領域に共通する基本的な「家族の観方」の基礎的な能力を身につける。				
到達目標	1．家族のシステムとしての特徴を述べることができる。 2．システムとして発達する家族、ストレス源に対し主体的に対処する家族について諸理論を基に説明できる。 3.看護対象としての家族像の形成・捉えかたを説明できる。 4.家族看護の介入の 3 つの焦点について、具体的に記述できる。 5.家族看護における看護者の役割と基本姿勢について説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
第 1 回	家族看護学の考え方	ガイダンス家族看護学の概要と位置づけ家族看護学における家族の理解 ・家族とは何か ・システムとしての家族	講義 予習：「自分にとって家族とは誰か」、「自分にとって家族とはどういう存在か」、「家族の中で大切にしているルールは何か」について、考えをまとめる。 基礎実習で担当した事例の家族をどのように捉えていたかを振り返り、授業に臨む。 復習：大事な箇所をノートに追記し、振りかえりを行う。
第 2 回	家族看護学の対象理解	家族看護学における家族の理解 ・システムとしての家族 ・発達する家族（家族発達理論とその活用）	講義・グループワーク 予習：テキストの該当ページを必ず読み、不明な点を整理して授業に臨む。 グループワーク：意見交換を通して「家族」について理解を深める 復習：大事な箇所をノートに追記し、振りかえりを行う。
第 3 回	家族看護学の対象理解	家族看護学における家族の理解 ・対処する家族(家族ストレス対処理論とその活用) ・家族のセルフケア機能	講義・グループワーク 予習：テキストの該当ページを必ず読み、不明な点を整理して授業に臨む。 グループワーク：意見交換を通して「家族」について理解を深める 復習：大事な箇所をノートに追記し、振りかえりを行う。
第 4 回	家族看護の実践に役立つ考え方	家族看護における看護者の役割と援助姿勢 ・家族とのパートナーシップ ・家族看護の焦点	講義・演習 予習：テキストの該当ページを必ず読み、不明な点を整理して授業に臨む。 演習：ロールプレイを通して必要な援助姿勢について考える。 復習：大事な箇所をノートに追記し、振りかえりを行う。
第 5 回	家族看護の実践に役立つ考え方	家族看護アセスメント ・情報収集 ・家族像の形成	講義・グループワーク 予習：テキストの該当ページを必ず読み、不明な点を整理して授業に臨む。 グループワーク：模擬事例において情報収集する必要がある事柄と家族への質問を検討する。
第 6 回	家族看護の実践に役立つ考え方	家族看護アセスメント ・家族像の形成 ・看護計画の立案	講義・演習 演習：模擬事例に対する情報収集をロールプレイで行う。 グループ討議：模擬事例の家族像の形成と必要な援助を考える。 復習：模擬事例のアセスメントシートを完成させる。
第 7 回	家族看護の実践に役立つ考え方	アセスメントモデルを活用した事例展開 （渡辺式アセスメントモデルの活用）	講義・演習 予習：テキストの該当ページを必ず読み、不明な点を整理して授業に臨む。 グループ討議：事例検討を通してシステム的な「家族の観方」を理解する。 復習：自己の模擬事例のアセスメントを振りかえり、自分自身の家族観・看護観について考える。

第８回	家族看護の発展と今後の動向	事例展開のまとめ 多様な臨床における家族看護の展開 家族看護学の発展と動向	講義 予習：事例展開を振り返り、感想や質問を整理して授業に臨む。 復習：授業全体を振り返り、レポートを作成する。

授業開始前学習	◇準備学習 「自分にとって家族とは誰か」、「自分にとって家族とはどういう存在か」、「家族の中で大切にしているルールは何か」について、考えをまとめてください。また、基礎実習で担当した事例の家族をどのように捉えていたかを振り返り、授業に臨んでください。
授業内課題のフィードバックの方法	講義開始時にフィードバックする。
テキスト・教材	鈴木和子　他著；家族看護学　理論と実践，日本看護協会出版会
参考書	山崎あけみ、原玲子編；家族看護学　改訂第２版，南江堂 渡辺裕子監修；家族看護を基盤とした地域・在宅看護論　第５版，日本看護協会出版会 その他　適宜文献紹介または資料を配布する。
評価の基準と方法	課題レポート（４０％） 授業参加度(リアクションペーパー)(４０％) アセスメントシート(２０％)

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	◎	△		

関連科目	
その他	◇学習上の留意点 「家族」に対する考え方に「正解/不正解」はありません。自分自身がもっている「家族観」を意識化し、他者のもつ「家族観」を理解するために、授業では自由に自身の意見を発信し、教員やグループメンバーに対して積極的に質問してください。 ◇提出物 １．課題レポート ・タイトル：「家族看護を実践する上での自己の課題」　※各自サブテーマを設定すること。 ・内容：今後の実習において家族看護を実践する上での自己の課題について、自分のことばで具体的に記述してください。 ・体裁：A4用紙　1
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間
実務経験を活かした教育内容	模擬事例に対する情報収集のロールプレイなど、実践的コミュニケーションを取り入れた演習を行う

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	310-321-13	授業コード	HB1022
科目名称	家族看護学			単位数	1.00 単位
英文名称	Family Nursing			授業区分	講義
科目責任者	横田　益美			必修・選択	選択
担当教員	横田　益美			開講時期	3 年前期
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	家族および家族看護学の基礎理論をもとに、社会システムの中でひとつの単位として家族を理解することを学ぶ。また、家族の主体性を尊重したセルフケア機能の向上を目指す看護の役割について理解する。それらの学習を通して、患者および家族の QOL の向上を目指した支援において、家族を一つの単位としてとらえて看護することの意義を理解する。				
到達目標	1．家族のシステムとしての特徴を述べることができる。 2．システムとして発達する家族、ストレス源に対し主体的に対処する家族について諸理論を基に説明できる。 3.看護対象としての家族像の形成・捉えかたを説明できる。 4.家族看護の介入の 3 つの焦点について、具体的に記述できる。 5.家族看護における看護者の役割と基本姿勢について説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
第 1 回	家族看護学の考え方	ガイダンス家族看護学の概要と位置づけ家族看護学における家族の理解 ・家族とは何か ・システムとしての家族	講義 予習：「自分にとって家族とは誰か」、「自分にとって家族とはどういう存在か」、「家族の中で大切にしているルールは何か」について、考えをまとめる。 基礎実習で担当した事例の家族をどのように捉えていたかを振り返り、授業に臨む。 復習：大事な箇所をノートに追記し、振りかえりを行う。
第 2 回	家族看護学の対象理解	家族看護学における家族の理解 ・システムとしての家族 ・発達する家族（家族発達理論とその活用）	講義・グループワーク 予習：テキストの該当ページを必ず読み、不明な点を整理して授業に臨む。 グループワーク：意見交換を通して「家族」について理解を深める 復習：大事な箇所をノートに追記し、振りかえりを行う。
第 3 回	家族看護学の対象理解	家族看護学における家族の理解 ・対処する家族(家族ストレス対処理論とその活用) ・家族のセルフケア機能	講義・グループワーク 予習：テキストの該当ページを必ず読み、不明な点を整理して授業に臨む。 グループワーク：意見交換を通して「家族」について理解を深める 復習：大事な箇所をノートに追記し、振りかえりを行う。
第 4 回	家族看護の実践に役立つ考え方	家族看護における看護者の役割と援助姿勢 ・家族とのパートナーシップ ・家族看護の焦点	講義・演習 予習：テキストの該当ページを必ず読み、不明な点を整理して授業に臨む。 演習：ロールプレイを通して必要な援助姿勢について考える。 復習：大事な箇所をノートに追記し、振りかえりを行う。
第 5 回	家族看護の実践に役立つ考え方	家族看護アセスメント ・情報収集 ・家族像の形成	講義・グループワーク 予習：テキストの該当ページを必ず読み、不明な点を整理して授業に臨む。 グループワーク：模擬事例において情報収集する必要がある事柄と家族への質問を検討する。
第 6 回	家族看護の実践に役立つ考え方	家族看護アセスメント ・家族像の形成 ・看護計画の立案	講義・演習 演習：模擬事例に対する情報収集をロールプレイで行う。 グループ討議：模擬事例の家族像の形成と必要な援助を考える。 復習：模擬事例のアセスメントシートを完成させる。
第 7 回	家族看護の実践に役立つ考え方	アセスメントモデルを活用した事例展開 （渡辺式アセスメントモデルの活用）	講義・演習 予習：テキストの該当ページを必ず読み、不明な点を整理して授業に臨む。 グループ討議：事例検討を通してシステム的な「家族の観方」を理解する。 復習：自己の模擬事例のアセスメントを振りかえり、自分自身の家族観・看護観について考える。
第 8 回	家族看護の発展と今後の動向	事例展開のまとめ 多様な臨床における家族看護の展開 家族看護学の発展と動向	講義 予習：事例展開を振り返り、感想や質問を整理して授業に臨む。 復習：授業全体を振り返り、レポートを作成する。

授業開始前学習	◇準備学習 「自分にとって家族とは誰か」、「自分にとって家族とはどういう存在か」、「家族の中で大切にしているルールは何か」について、考えをまとめてください。また、基礎実習で担当した事例の家族をどのように捉えていたかを振り返り、授業に臨んでください。							
授業内課題のフィードバックの方法	講義開始時にフィードバックする。							
テキスト・教材	鈴木和子　他著；家族看護学　理論と実践，日本看護協会出版会							
参考書	山崎あけみ、原玲子編；家族看護学　改訂第２版，南江堂 渡辺裕子監修；家族看護を基盤とした地域・在宅看護論　第５版，日本看護協会出版会 その他　適宜文献紹介または資料を配布する。							
評価の基準と方法	課題レポート（４０％） 授業参加度(リアクションペーパー)(４０％) アセスメントシート(２０％)							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	◎	△		
関連科目								
その他	◇学習上の留意点 「家族」に対する考え方に「正解/不正解」はありません。自分自身がもっている「家族観」を意識化し、他者のもつ「家族観」を理解するために、授業では自由に自身の意見を発信し、教員やグループメンバーに対して積極的に質問してください。 ◇提出物 １．課題レポート ・タイトル：「家族看護を実践する上での自己の課題」　※各自サブテーマを設定すること。 ・内容：今後の実習において家族看護を実践する上での自己の課題について、自分のことばで具体的に記述してください。 ・体裁：A4用紙　1							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間＋予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容	模擬事例に対する情報収集のロールプレイなど、実践的コミュニケーションを取り入れた演習を行う							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-421 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-321-14 （J）	授業コード	HB1625
科目名称	国際看護学			単位数	1.00 単位
英文名称	Global Health Nursing			授業区分	講義
科目責任者	水野 真希			必修・選択	選択
担当教員	水野 真希			開講時期	4 年後期
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～16:00 後期 月曜日 10:00～13:00			研究室	1-307
授業概要	人々の健康福祉向上に努める看護専門職として、健康問題を地球規模（グローバル）にとらえ、日本国内の健康課題を考えるだけでなく、国際的視点に立って、世界の健康課題における日本の役割を考える。健康指標を用いて、世界の人々に起こっている健康問題を学び、健康格差を生む社会構造を理解し、地球規模の健康達成のために看護師が担う役割を考える。				
到達目標	１．地球規模で健康を考えた時に、多くの人が抱える健康問題を説明できる。 ２．健康格差を生む要因を挙げることができる。 ３．世界の人々の健康に貢献する看護師の活動について説明できる。 ４．国際保健における看護師の役割について考え、列挙できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	国際保健の概要 水野 真希	グローバルヘルスの基本概念、グローバルに看護を考えるということ １． 健康の定義再考 ２．地球規模での健康課題	講義 予習：配布資料をよく読んでおく。 復習：配布された資料をまとめる。
2	地球規模の健康課題 水野 真希	人々の健康をとりまく世界の保健医療とグローバルヘルスへの国際保健戦略 １． 地球規模課題としての社会的健康格差と健康目標 ２． 世界の保健医療を支える機関と重要な概念 ３． 国際協力活動と看護	講義・グループワーク 予習：配布資料をよく読んでおく。 復習：配布された資料をまとめる。
3	世界の健康課題の背景を考える―１ 水野 真希	貧困、ジェンダー、子どもの健康、多文化共生、平和構築	講義・グループワーク 予習：配布資料をよく読んでおく。ディスカッションのための発表準備を行う 復習：配布された資料をまとめる。
4	世界の健康課題の背景を考える―２ 水野 真希	貧困、ジェンダー、子どもの健康、多文化共生、平和構築	講義・グループワーク 予習：配布資料をよく読んでおく。ディスカッションのための発表準備を行う 復習：配布された資料をまとめる。
5	世界の健康課題の背景を考える―３ 水野 真希	貧困、ジェンダー、子どもの健康、多文化共生、平和構築	講義・グループワーク 予習：配布資料をよく読んでおく。ディスカッションのための発表準備を行う 復習：配布された資料をまとめる。
6	世界で注目されている課題について考える―１ 水野 真希	1．人口問題 ２．生活習慣病 ３．メンタルヘルス ４．感染症 ５．環境	講義・グループワーク 予習：配布資料をよく読んでおく。 復習：配布された資料をまとめる。
7	世界で注目されている課題について考える―２ 水野 真希	１．人口問題 ２．生活習慣病 ３．メンタルヘルス ４．感染症 ５．環境	講義・グループワーク 予習：配布資料をよく読んでおく。ディスカッションのための発表準備を行う 復習：配布された資料をまとめる。
8	国際保健・看護人材開発 水野 真希	１．日本における国際保健・看護人材の現状 ２．健康格差を緩和する看護職の役割 ３．国際保健医療人材を目指したキャリアデザイン	講義 予習：配布資料をよく読んでおく。 復習：配布された資料をまとめる。

授業開始前学習	１．講義後には必ず復習をして学習内容を十分理解しておく。 ２．指定された事前課題をまとめ発表できるように準備をしておく。
授業内課題のフィードバックの方法	グループワークでの発表資料や発表内容、授業内でのレポート課題は課題への取り組み姿勢として評価していく。
テキスト・教材	大橋一友、岩澤和子：国際化と看護（第 1 版第 1 刷）

<table>
<tr><td>参考書</td><td colspan="8">日本国際看護学会：国際看護学入門（第 2 版第 1 刷）医学書院
日本国際保健医療学会：国際保健医療学（第 3 版第 3 刷）杏林書院
田代順子：ワークブック 国際保健･看護基礎論（第 1 版第 1 刷）PILAR PRESS</td></tr>
<tr><td>評価の基準と方法</td><td colspan="8">グループ討議課題への取り組み（予習･事前学習）とグループワークへの参加貢献度
◇評価基準
①ディスカッションでの参加貢献度 40%････相互評価表を用いて評価
②課題への取り組み姿勢 30%･･･ 同上
③最終レポート 30%</td></tr>
<tr><td>ディプロマポリシー</td><td colspan="2">人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成</td><td colspan="2">他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成</td><td colspan="2">チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成</td><td colspan="2">多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成</td></tr>
<tr><td>学修指針</td><td>教養力</td><td>人間性</td><td>コミュニケーション力</td><td>社会性</td><td>専門力</td><td>判断力</td><td>技術力</td><td>実践力</td></tr>
<tr><td>科目の該当</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="8"></td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="8">◇学習上の留意点
講義、グループワーク、ディスカッションで授業を進めていくため、主体的に取り組む。</td></tr>
<tr><td>予習･復習の所要時間</td><td colspan="8">講義時間 15 時間+予習･復習時間 30 時間</td></tr>
<tr><td>実務経験を活かした教育内容</td><td colspan="8">アフリカや東南アジアでの実務経験を活かし、日本と世界で実践できるグローバルな看護を提供するための看護師の役割や必要な能力について講義をする。</td></tr>
</table>

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	310-321-14（J）	授業コード	HB1620
科目名称	国際保健			単位数	2.00 単位
英文名称	Global Health Promotion			授業区分	講義
科目責任者	水野　真希			必修･選択	選択
担当教員	水野　真希			開講時期	4 年後期
オフィスアワー	前期　火曜日 13:00～16:00 後期　月曜日 10:00～13:00			研究室	1-307
授業概要	国際社会と日本社会の違いを知るとともに、日本が可能な国際保健への貢献について考え、国際保健における日本の役割を知る。また、日本との比較による海外の保健医療について検討し、今後の日本の保健医療のあり方について考える。世界ではどのような健康問題が起こっているのか、グローバルな視点と社会傾向に伴って、国内で起こる健康問題にはどのような影響が現れるのかについて考えることで、国際保健の視点を学ぶ。国際看護における異文化理解の重要性、発展途上国の健康問題、看護活動などに対する理解を深める。				
到達目標	＜到達目標＞ １．様々な国や地域の特性と保健政策･保健システムなどを具体的に述べられる。 ２．様々な国や地域住民の健康状態とヘルスケアにおける課題について学際的視野で評価できる。 ３．国際保健における看護師の役割について考え、列挙できる。 ４．様々な地域で生活している住民の健康促進や健康問題の解決に取り組むための実践的知識や技術を考察できる。				
アクティブ･ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目･担当者	学修内容	授業方法（アクティブ･ラーニング）・予習･復習･レポートなどの課題
1	国際保健の現状とケアのあり方 水野	１．国際保健とは ２．国際保健の現状 ３．国際保健のケアのあり方	講義 予習：指定された課題を行う 復習：配布された資料をまとめる。
2	国際保健政策と看護－１ 水野	国際状況と国際保健の変遷 国際保健活動と国際機関、国際協力	講義 予習：指定された課題を行う 復習：配布された資料をまとめる。
3	国際保健政策と看護－2 水野	国際保健活動の範囲と実際	講義 予習：指定された課題を行う 復習：配布された資料をまとめる。
4	国際保健政策と看護－3 水野	グループディスカッション 日本が可能な国際保健への貢献は何か 国際保健における日本の役割は何か	ＧＷＤ 予習：前回までの授業内容を見直しておく。 復習：グループワークの内容を整理しておく。
5	保健医療の格差と不平等－1 水野	各国、地域の保健医療システムの特徴と課題	講義 予習：指定された課題を行う 復習：配布された資料をまとめる。
6	保健医療の格差と不平等－2 水野	グループディスカッション ケースを分析し、どのような支援が必要か、国際保健看護の役割は何かについて検討する	ＧＷＤ 予習：前回までの授業内容を見直しておく。 復習：グループワークの内容を整理しておく。
7	女性の健康－１ 水野	地域特性と女性の健康 女性の地位に対する文化の影響と女性の健康	講義 予習：指定された課題を行う 復習：配布された資料をまとめる。
8	女性の健康－２ 水野	グループディスカッション ケースを分析し、どのような支援が必要か、国際保健看護の役割は何かについて検討する	ＧＷＤ 予習：前回までの授業内容を見直しておく。 復習：グループワークの内容を整理しておく。
9	子どもの健康－１ 水野	地域特性と子どもの健康	講義 予習：指定された課題を行う。 復習：配布された資料をまとめる。
10	子どもの健康－２ 水野	グループディスカッション ケースを分析し、どのような支援が必要か、国際保健看護の役割は何かについて検討する	ＧＷＤ 予習：前回までの授業内容を見直しておく。 復習：グループワークの内容を整理しておく。
11	難民と移民の支援と看護－1 水野	国際情勢と難民、移民の現状 難民、移民の健康課題と支援	講義 予習：指定された課題を行う。 復習：配布された資料をまとめる。
12	難民と移民の支援と看護－2 水野	グループディスカッション ケースを分析し、どのような支援が必要か、国際保健看護の役割は何かについて検討する	ＧＷＤ 予習：前回までの授業内容を見直しておく。 復習：グループワークの内容を整理しておく。
13	感染症と国際保健看護－１ 水野	地域特性と感染症 感染症と国際保健看護の役割	講義 予習：指定された課題を行う。 復習：配布された資料をまとめる。
14	感染症と国際保健看護－２ 水野	ケース発表。グループディスカッション ケースを分析し、どのような支援が必要か、国際保健看護の役割は何かについて検討する	ＧＷＤ 予習：前回までの授業内容を見直しておく。 復習：グループワークの内容を整理しておく。

15	国際保健における看護師の責任と役割 水野	既習した本科目を通して、国際保健における看護師の役割と責任についてＧＷＤし、今後に向けての課題と対策についてまとめ、発表する	ＧＷＤ 予習：前回までの授業内容を見直しておく。 復習：グループワークの内容を整理しておく。

授業開始前学習	講義、グループワーク、ディスカッションで授業を進めていく。 授業前に教科書や配布資料を読み、事前課題をまとめ発表できるように準備をしておく。							
授業内課題のフィードバックの方法	グループワークでの発表資料や発表内容、授業内でのレポート課題は課題への取り組み姿勢として評価していく。							
テキスト・教材								
参考書	日本国際保健医療学会編：実践グローバルヘルス －現場における実践力向上をめざして－　杏林書院　2022 年 日本国際看護学会：国際看護学入門（第 2 版第 1 刷）医学書院							
評価の基準と方法	◇評価内容 グループ討議課題への取り組み（予習・事前学習・最終レポート）とグループワークへの参加貢献度 ◇評価基準 ①ディスカッションでの参加貢献度　40%・・・・相互評価表を用いて評価 ②課題への取り組み姿勢　30%・・・　同上 ③最終レポート　30%							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○		◎	△		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 60 時間							
実務経験を活かした教育内容	発展途上国での実務経験を活かし、日本と世界で実践できるグローバルな看護を提供するための看護師の役割や必要な能力について講義をする。							

科目分類（2025 年～入学者）	NU-M-421 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	310-321-14 （J）	授業コード	HB1870
科目名称	看護教育学			単位数	1.00 単位
英文名称	Nursing Education			授業区分	講義
科目責任者	小林 優子			必修・選択	選択
担当教員	小林 優子			開講時期	4 年後期
オフィスアワー	前期 月曜日 10:00～13:00 後期 月曜日 10:00～13:00			研究室	1-301
授業概要	看護教育の歴史的変遷、看護教育制度、法的基盤を理解した上で、看護学教育のカリキュラム、教育方法、教育評価についての知識を得る。看護基礎教育、卒後教育、継続教育の特徴をふまえ、看護教育の課題について考え、看護職としてのキャリア形成について理解を深める。				
到達目標	1.看護教育学とは何かを理解する。 3.看護教育制度の歴史的変遷と現状を理解する。 3.看護学教育の基盤となる概念・学習理論を理解する。 4.カリキュラムと教育評価について理解する。 5.看護教育の課題と看護職としてキャリア形成について考える。				
アクティブ・ラーニング型授業	有				

授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	授業ガイダンス・看護教育学とは 小林優子	看護教育学とは 専門職とは 実践の学問としての看護学 多職種連携教育	予習：テキスト第Ⅰ章・Ⅱ章を読んでくる。 復習：授業内容を振返りながらテキスト第Ⅰ章・Ⅱ章を読む。 授業は適宜 Think Pair Share を活用する。 授業後の課題を Googleform で提出する。
2	看護教育制度 小林優子	看護制度・看護教育制度の歴史的変遷 看護教育制度の現状 看護基礎教育、看護卒業教育、看護継続教育 准看護師制度	予習：テキスト第Ⅲ章を読んでくる。 復習：授業内容を振返りながらテキスト第Ⅲ章を読む。 授業は適宜 Think Pair Share を活用する。 授業後の課題を Googleform で提出する。
3	看護学教育の基盤となる概念・学習理論① 小林優子	職業アイデンティティ クリティカルシンキング リフレクション	予習：テキスト第Ⅳ章 1～3 を読んでくる。 復習：授業内容を振返りながらテキスト第Ⅳ章 1～3 を読む。 授業は適宜 Think Pair Share を活用する。 授業後の課題を Googleform で提出する。
4	看護学教育の基盤となる概念・学習理論② 小林優子	キャリアマネジメント 自己主導型学習 ダイバーシティとインクルージョン	予習：テキスト第Ⅳ章 4～6 を読んでくる。 復習：授業内容を振返りながらテキスト第Ⅳ章 4～6 を読む。 授業は適宜 Think Pair Share を活用する。 授業後の課題を Googleform で提出する。
5	臨地実習 小林優子	臨地実習の位置づけ 臨地実習における教育	予習：テキスト第Ⅶ章を読んでくる。 復習：授業内容を振返りながらテキスト第Ⅶ章を読む。 授業は適宜 Think Pair Share を活用する。 授業後の課題を Googleform で提出する。
6	学習理論と学習方法 小林優子	学習理論・学習方法 ICT 教育	予習：テキスト第Ⅵ章を読んでくる。 復習：授業内容を振返りながらテキスト第Ⅵ章を読む。 授業は適宜 Think Pair Share を活用する。 授業後の課題を Googleform で提出する。
7	カリキュラムと教育評価 小林優子	カリキュラム開発とカリキュラムデザイン カリキュラム評価 教育評価の考え方	予習：テキスト第Ⅴ章・Ⅷ章を読んでくる。 復習：授業内容を振返りながらテキスト第Ⅴ章・Ⅷ章を読む。 授業は適宜 Think Pair Share を活用する。 授業後の課題を Googleform で提出する。
8	看護学教育の今日的課題・まとめ 小林優子	欧米の看護学教育 看護学教育の課題	予習：テキスト第Ⅸ章を読んでくる。 復習：授業内容を振返りながらテキスト第Ⅸ章を読む。 授業は適宜 Think Pair Share を活用する。 授業後の課題を Googleform で提出する。

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	毎回授業後に課題の提出を求め、課題のフィードバックは翌週の授業内に行う。

テキスト・教材	グレッグ美鈴他著『看護教育学ー看護を学ぶ自分と向き合うー改訂第 3 版』（南江堂）							
参考書	杉森みど里他著『看護教育学第 8 版』（医学書院） 池西静江他著『看護教育へようこそ第 2 版』（医学書院）							
評価の基準と方法	授業ごとの課題 70%　最終課題レポート 30%							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○			◎			
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容	看護学教育の実践を生かして、看護学教育について教授する。							